Canon

# EOS 5D Mark IV

## EOS 5D Mark IV (WG)

**カメラ**

**Wi-Fi（無線通信）機能（基本編）**

使用説明書（PDFファイル）は、キヤノンのホームページ
からダウンロードすることができます（p.4）。

J
使用説明書

Canon

# EOS 5D Mark IV

## EOS 5D Mark IV (WG)

カメラ使用説明書

# はじめに

EOS 5D Mark IVは、有効画素数約3040万画素、約36.0×24.0mmフルサイズCMOSセンサー、DIGIC 6+、常用ISO感度100～32000、視野率約100%ファインダー、高精度・高速61点AF（クロス測距点：最大41点）、最高約7.0コマ/秒連続撮影、3.2型液晶モニター、DPRAW撮影、ライブビュー撮影、4K動画撮影、ハイフレームレート（119.9p/100.0p）HD動画撮影、デュアルピクセルCMOS AF、Wi-Fi/NFC（無線通信）機能、GPS機能を搭載したデジタル一眼レフカメラです。

## はじめに必ずお読みください

撮影の失敗や事故を未然に防ぐため、はじめに『安全上のご注意』（22～24ページ）、および『取り扱い上のご注意』（25～27ページ）をお読みください。また、本書をよく読んで正しくお使いください。

## 操作しながら本書を参照すると理解が深まります

本書を読みながら実際に撮影し、その結果を確認しながら理解を深め、操作に慣れてください。また、必要なときに確認できるように本書を大切に保管してください。

## 試し撮りと撮影内容の補償について

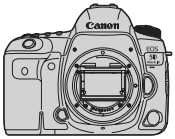
撮影後は画像を再生して、画像が正常に記録されていることを確認してください。万一、カメラ（本機）やメモリーカードなどの不具合により、画像の記録やパソコンへの画像の取り込みができなかった場合の、記録内容の補償についてはご容赦ください。

## 著作権について

あなたがカメラ（本機）で記録した権利者のいる被写体の画像は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示会などの中には、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

# カメラと主な付属品

ご使用前に、以下のものがすべてそろっているかご確認ください。万一、足りないものがあるときは、お買い求めの販売店にご連絡ください。

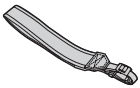


カメラ
（ボディキャップ付き）

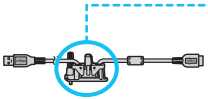
アイカップEg

電池
バッテリーパック
LP-E6N
（保護カバー付き）

充電器
バッテリー
チャージャー
LC-E6



ワイドストラップ



インターフェースケーブル
IFC-150U II

ケーブル
プロテクター

- 使用説明書とCD-ROMについては、次ページを参照してください。
- アイカップEgをファインダー接眼部に取り付けてください。
- レンズキットをお買い上げのときは、レンズが付属しているか確認してください。
- レンズキットの種類により、レンズの使用説明書が入っていることがあります。
- 付属品は、なくさないように注意してください。

レンズの使用説明書が必要なときは、キヤノンのホームページからダウンロードしてください（p.4）。なお、レンズの使用説明書（PDF）は、レンズ単体販売用ですので、レンズキットをご購入いただいた場合、レンズに付属するアクセサリーが、レンズ使用説明書の記載と一部異なることがあります。ご了承ください。

**周辺機器との接続について**

カメラをパソコンなどと接続するときは、付属または純正のインターフェースケーブルを使用してください。なお、インターフェースケーブルを接続するときは、付属のケーブルプロテクターを使用してください（p.38）。

# 使用説明書とCD-ROMについて

**カメラ／Wi-Fi（無線通信）機能（基本編）使用説明書**

冊子は、「カメラ使用説明書（全編）」と「Wi-Fi（無線通信）機能（基本編）使用説明書」で構成されています。

Wi-Fi/NFC（無線通信）機能の詳細な使用説明書（PDFファイル）は、キヤノンのホームページからパソコンなどにダウンロードすることができます。

**EOS DIGITAL Solution Disk**（ソフトウェアCD-ROM）

各種ソフトウェアが収録されています。ソフトウェアの概要やパソコンへのインストール方法については、598～599ページを参照してください。

**ソフトウェア使用説明書CD-ROM**

ソフトウェアの電子マニュアル（PDFファイル）が収録されています。ソフトウェア使用説明書CD-ROMの見かたについては、600ページを参照してください。

使用説明書（PDF ファイル）は、キヤノンのホームページからパソコンなどにダウンロードすることができます。

● **使用説明書（PDFファイル）のダウンロードサイト**

- **カメラ／Wi-Fi（無線通信）機能（基本編）使用説明書**
- **Wi-Fi（無線通信）機能使用説明書**
  - ➡ http://cweb.canon.jp/manual/eosd/index.html
- **レンズ使用説明書**
  - ➡ http://cweb.canon.jp/manual/ef/index.html
- **ソフトウェア使用説明書**
  - ➡ http://cweb.canon.jp/manual/eosd/soft.html

- 使用説明書（PDFファイル）を見るためには、Adobe Acrobat Reader DCなどのAdobe社製PDF閲覧用ソフトウェア（最新版推奨）が必要です。
- Adobe Acrobat Reader DCはインターネット上から無料でダウンロードできます。
- ダウンロードした使用説明書（PDFファイル）をダブルクリックすると、ファイルが開きます。
- PDF閲覧用ソフトウェアの使い方については、そのソフトウェアのヘルプなどを参照してください。
- ソフトウェアのインストール画面から（p.599）、ソフトウェア使用説明書のダウンロードサイトへアクセスすることもできます。

# 使用できるカードについて

カードの容量に関係なく下記のカードが使用できます。なお、**新しく買ったカードや、他のカメラ、パソコンで初期化したカードは、このカメラで初期化（フォーマット）してください**（p.73）。

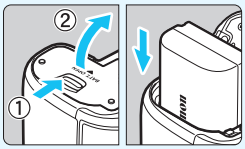
- **CF（コンパクトフラッシュ）カード**
  * タイプI準拠、UDMAモード7対応
- **SD/SDHC*/SDXC*メモリーカード**
  * UHS-I対応

## 動画が記録できるカードについて

動画を撮影するときは、動画記録画質に適応する性能（書き込み/読み取り速度）を備えた、大容量のカードを使用してください。詳しくは356ページを参照してください。

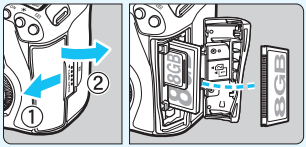
本書では、コンパクトフラッシュカードを「CFカード」、SD/SDHC/SDXCメモリーカードを「SDカード」、メモリーカードの総称を「カード」と表記しています。
※ 画像を記録する**カードは付属していません**。別途購入してください。

# すぐ撮影するには

**1** 

**電池（バッテリー）を入れる**（p.44）

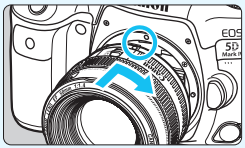
- 電池の充電方法については 42 ページを参照してください。

**2** 

**カードを入れる**（p.45）

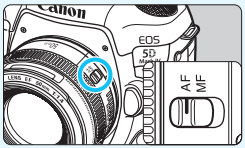
- CFカードはカメラの前面側、SDカードは背面側のスロットに入れます。

* CFカード、またはSDカードのどちらかが入っていれば撮影できます。

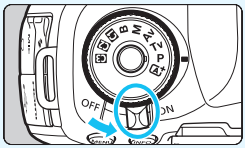
**3** 

**レンズを取り付ける**（p.55）

- レンズとカメラの赤いレンズ取り付け指標を合わせて取り付けます。

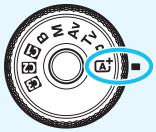
**4** 

**レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする**（p.55）

**5** 

**電源スイッチを〈ON〉にする**（p.49）

## 6



**モードダイヤルの中央を押しながら、〈A+〉（シーンインテリジェントオート）にする**（p.35）

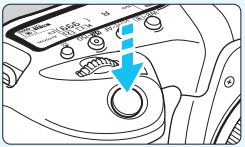
- 撮影に必要な設定がすべて自動設定されます。

## 7

**ピントを合わせる**（p.58）

- ファインダーをのぞき、写したいものを画面中央に配置します。
- シャッターボタンを軽く押すと、ピントが合います。

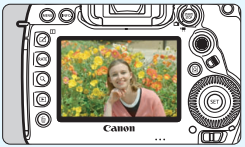
## 8



**撮影する**（p.58）

- さらにシャッターボタンを押して撮影します。

## 9




**撮影した画像を確認する**

- 撮影した画像が液晶モニターに約2秒間表示されます。
- 〈▶〉ボタンを押すと、もう一度画像が表示されます（p.394）。

- 液晶モニターを見ながら撮影するときは、『ライブビュー撮影』（p.297）を参照してください。
- 今までに撮影した画像を確認したいときは、『画像を再生する』（p.394）を参照してください。
- 撮影した画像を消去したいときは、『消去する』（p.439）を参照してください。

# 本使用説明書の表記について

## 本文中の絵文字について

〈 〉　：メイン電子ダイヤルを示しています。
〈 〉　：サブ電子ダイヤルを示しています。
〈〉　：測距エリア選択ボタンを示しています。
〈 〉　：マルチコントローラーを示しています。
〈 〉　：設定ボタンを示しています。
⏱4／⏱6／⏱8／⏱10／⏱16　：操作ボタンから指を離したあと、ボタンを押した状態がそれぞれ約4秒／6秒／8秒／10秒／16秒間保持されることを示しています。

* その他、本文中の操作ボタンや設定位置の説明には、ボタンや液晶モニターの表示など、カメラで使われている絵文字を使用しています。

MENU　：〈MENU〉ボタンを押して設定変更する機能であることを示しています。

応用　：ページタイトル右の応用は、〈**P**〉〈**Tv**〉〈**Av**〉〈**M**〉〈**B**〉モード限定の機能であることを示しています。

(p.***)　：参照ページを示しています。

　：撮影に不都合が生じる恐れのある注意事項を記載しています。

　：補足説明や補足事項を記載しています。

　：上手に使うためのヒントや撮影のポイントを記載しています。

?　：困ったときの手助けになる内容を記載しています。

## 操作説明の前提について

- 電源スイッチが〈**ON**〉、〈LOCK▶〉スイッチが左側（マルチ電子ロック解除）になっていることを前提に説明しています（p.49、62）。
- メニュー機能やカスタム機能などが初期状態になっていることを前提に説明しています。
- 本文中のイラストは、EF50mm F1.4 USMレンズを取り付けた状態で説明しています。

# 章目次


| | | |
|---|---|---|
| | はじめに | 2 |
| 1 | 撮影前の準備と操作の基本 | 41 |
| 2 | かんたん撮影 | 93 |
| 3 | AF／ドライブの設定 | 99 |
| 4 | 画像に関する設定 | 165 |
| 5 | GPS機能の設定 | 227 |
| 6 | 撮影目的にあわせた応用撮影 | 243 |
| 7 | ストロボ撮影 | 285 |
| 8 | 液晶モニターを見ながら撮影する（ライブビュー撮影） | 297 |
| 9 | 動画を撮影する | 333 |
| 10 | 画像の再生 | 393 |
| 11 | 撮影した画像を加工する | 445 |
| 12 | 撮像素子の清掃 | 457 |
| 13 | パソコンへの画像転送と印刷指定 | 465 |
| 14 | カメラをカスタマイズする | 479 |
| 15 | 資料 | 523 |
| 16 | パソコンに画像を取り込む／ソフトウェアについて | 595 |

# 目　次


はじめに　2

カメラと主な付属品 ..... 3
使用説明書と CD-ROM について ..... 4
使用できるカードについて ..... 5
すぐ撮影するには ..... 6
本使用説明書の表記について ..... 8
章目次 ..... 9
機能目次 ..... 18
安全上のご注意 ..... 22
取り扱い上のご注意 ..... 25
各部の名称 ..... 28

1　撮影前の準備と操作の基本　41

電池を充電する ..... 42
電池を入れる／取り出す ..... 44
カードを入れる／取り出す ..... 45
電源を入れる ..... 49
日付／時刻／エリアを設定する ..... 51
表示言語を選ぶ ..... 54
レンズを取り付ける／取り外す ..... 55
撮影の基本操作 ..... 57
Q 撮影機能のクイック設定 ..... 64
MENU メニュー機能の操作と設定 ..... 67
画面にタッチして操作する ..... 70

使い始める前の準備 ..... 73
カードを初期化する ..... 73
電子音が鳴らないようにする ..... 76
電源が切れる時間を設定する／オートパワーオフ ..... 76
撮影直後の画像表示時間を設定する ..... 77
カメラの機能設定を初期状態に戻す ..... 77
ファインダー内にグリッドを表示する ..... 81
水準器を表示する ..... 82
ファインダー内に表示する情報を設定する ..... 84
INFO. ボタンの機能 ..... 86
LOCK▶ マルチ電子ロック機能を設定する ..... 90
ヘルプ機能について ..... 91

2 かんたん撮影 93

全自動で撮る（シーンインテリジェントオート） ..... 94
全自動を使いこなす（シーンインテリジェントオート） ..... 97

3 AF／ドライブの設定 99

AF: AF 動作の選択 ..... 100
測距エリアと AF フレームを選択する ..... 104
測距エリア選択モードの内容 ..... 109
AF センサーについて ..... 113
使用レンズと AF 測距について ..... 115
AI サーボ AF 特性を選ぶ ..... 127
AF 機能のカスタマイズ ..... 136
AF による合焦位置を微調整する ..... 152

AF の苦手な被写体 ..... 158
MF: 手動ピント合わせ（マニュアルフォーカス） ..... 159
ドライブモードの選択 ..... 160
セルフタイマー撮影 ..... 163

**4 画像に関する設定 165**

記録・再生するカードを選択する ..... 166
記録画質を設定する ..... 169
DPRAW 機能の設定 ..... 175
ISO: 静止画の ISO 感度を設定する ..... 177
ピクチャースタイルを選択する ..... 183
ピクチャースタイルを調整する ..... 187
ピクチャースタイルを登録する ..... 190
WB: ホワイトバランスの設定 ..... 192
ホワイトバランスを補正する ..... 198
明るさ・コントラストを自動補正する ..... 201
ノイズ低減機能の設定 ..... 202
高輝度側・階調優先の設定 ..... 206
レンズの光学特性による影響を補正する ..... 207
フリッカーの影響を低減する ..... 215
色空間を設定する ..... 217
フォルダの作成と選択 ..... 218
ファイル名を変更する ..... 220
画像番号の付け方を設定する ..... 223
著作権情報を設定する ..... 225

## 5 GPS 機能の設定 227

GPS 機能でできること ..... 228
GPS 機能に関するご注意 ..... 230
GPS の信号を受信する ..... 231
位置情報の更新間隔を設定する ..... 236
GPS の時刻をカメラに設定する ..... 237
移動ルートを記録する ..... 238

## 6 撮影目的にあわせた応用撮影 243

**P**: プログラム AE 撮影 ..... 244
**Tv**: シャッター速度を決めて撮る ..... 246
**Av**: 絞り数値を決めて撮る ..... 248
**M**: 露出を自分で決めて撮る ..... 251
測光モードの選択 ..... 253
自分の好みに露出を補正する ..... 255
露出を自動的に変えて撮る／ AEB 撮影 ..... 257
露出を固定して撮る／ AE ロック撮影 ..... 259
**B**: 長時間露光（バルブ）撮影 ..... 260
**HDR**: HDR（ハイダイナミックレンジ）撮影 ..... 263
多重露出撮影 ..... 268
ミラーアップ撮影 ..... 276
アイピースカバーの使い方 ..... 278
リモートスイッチ撮影 ..... 279
リモコン撮影 ..... 279
TIMER インターバルタイマー撮影 ..... 281

## 7 ストロボ撮影 285

ストロボを使った撮影 ..... 286
ストロボの機能を設定する ..... 289

## 8 液晶モニターを見ながら撮影する（ライブビュー撮影） 297

液晶モニターを見ながら撮影する ..... 298
撮影機能の設定 ..... 307
メニュー機能の設定 ..... 309
AF 動作の選択 ..... 314
AF でピントを合わせる（AF 方式） ..... 316
タッチシャッターで撮影する ..... 327
MF：手動でピントを合わせる ..... 329

## 9 動画を撮影する 333

動画を撮影する ..... 334
自動露出撮影 ..... 334
シャッター優先 AE 撮影 ..... 335
絞り優先 AE 撮影 ..... 336
マニュアル露出撮影 ..... 340
撮影機能の設定 ..... 349
動画記録画質の設定 ..... 351
録音の設定 ..... 362
タイムコードの設定 ..... 365
HDR 動画を撮影する ..... 369
タイムラプス動画を撮影する ..... 371
メニュー機能の設定 ..... 379

10 画像の再生 393

画像を再生する ..... 394
INFO.: 撮影情報の内容 ..... 397
見たい画像を素早く探す ..... 403
一度に複数の画像を表示する（インデックス表示） ..... 403
画像を飛ばして表示する（ジャンプ表示） ..... 404
拡大する ..... 406
画像を比較する（2 枚表示） ..... 408
画面にタッチして再生する ..... 409
回転させる ..... 411
保護する（プロテクト） ..... 412
レーティングを設定する ..... 415
再生時のクイック設定 ..... 418
撮った動画の楽しみ方 ..... 420
動画を再生する ..... 422
動画の前後部分をカットする ..... 425
4K 動画からフレームを切り出す ..... 427
自動再生する（スライドショー） ..... 429
テレビで見る ..... 432
コピーする ..... 435
消去する ..... 439
再生に関する機能の設定を変更する ..... 442
液晶モニターの明るさを調整する ..... 442
液晶モニターの色あいを設定する ..... 443
縦位置で撮影した画像の自動回転表示の設定 ..... 444

## 11 撮影した画像を加工する 445

RAW 画像をカメラで現像する ..... 446
JPEG 画像をリサイズする ..... 452
JPEG 画像をトリミングする ..... 454

## 12 撮像素子の清掃 457

撮像素子の自動清掃 ..... 458
ゴミ消し情報を画像に付加する ..... 460
手作業で撮像素子を清掃する ..... 463

## 13 パソコンへの画像転送と印刷指定 465

パソコンに画像を送る ..... 466
画像を印刷指定する／ DPOF ..... 471
フォトブックにする画像を指定する ..... 476

## 14 カメラをカスタマイズする 479

カスタム機能一覧 ..... 480
カスタム機能で変更できる内容 ..... 482
C.Fn1：Exposure（露出） ..... 482
C.Fn2：Exposure（露出） ..... 488
C.Fn3：Disp/Operation（表示・操作） ..... 489
C.Fn4：Others（その他） ..... 491
操作ボタンカスタマイズ ..... 495
クイック設定カスタマイズ ..... 510
マイメニューを登録する ..... 515
C1: カスタム撮影モードの登録 ..... 520

15 資料 523

システム図 524
電池情報を確認する 526
家庭用電源を使用する 530
Eye-Fi カードを使う 532
各撮影モードで設定できる機能一覧 536
メニュー機能一覧 540
故障かな？と思ったら 554
エラー表示 573
主な仕様 574

16 パソコンに画像を取り込む／ソフトウェアについて 595

パソコンに画像を取り込む 596
ソフトウェアの概要 598
ソフトウェアのインストール 599
ソフトウェア使用説明書 600
索 引 601

# 機能目次


## 電源

- 電池充電 → p.42
- 電池残量 → p.50
- 電池情報確認 → p.526
- 家庭用電源 → p.530
- オートパワーオフ → p.76

## カード

- カード初期化 → p.73
- 記録機能 → p.166
- カード選択 → p.168
- カードなしレリーズ → p.46

## レンズ

- 取り付け → p.55
- 取り外し → p.56

## 基本設定

- 言語 → p.54
- 日付／時刻／エリア → p.51
- 電子音 → p.76
- 著作権情報 → p.225
- カメラ設定初期化 → p.77

## ファインダー

- 視度調整 → p.57
- アイピースカバー → p.278
- 水準器 → p.83
- グリッド → p.81
- ファインダー内表示設定 → p.84

## 液晶モニター

- タッチ操作 → p.70
- 明るさ → p.442
- 色あい → p.443
- 水準器 → p.82
- ヘルプ機能 → p.91

## AF

- AF動作 → p.100
- 測距エリア選択モード → p.104
- AFフレーム選択 → p.107
- AFフレーム登録 → p.500
- レンズグループ属性 → p.115
- AIサーボAF特性 → p.127
- EOS iTR AF → p.147
- AF機能カスタマイズ → p.136
- ファインダー情報の照明 → p.150
- AFマイクロアジャストメント → p.152
- 手動ピント合わせ → p.159

## 測光

- 測光モード → p.253

## ドライブ

- ドライブモード → p.160
- セルフタイマー → p.163
- 連続撮影可能枚数 → p.174

## 画像記録


- 記録機能 → p.166
- カード選択 → p.168
- フォルダ作成／選択 → p.218
- ファイル名 → p.220
- 画像番号 → p.223


## 画質


- 記録画質 → p.169
- DPRAW撮影 → p.175
- ISO感度（静止画） → p.177
- ピクチャースタイル → p.183
- ホワイトバランス → p.192
- オートライティング オプティマイザ → p.201
- 高感度時ノイズ低減 → p.202
- 長秒時露光ノイズ低減 → p.204
- 高輝度側・階調優先 → p.206
- レンズ光学補正 → p.207
- フリッカー低減 → p.215
- 色空間 → p.217


## 撮影


- 撮影モード → p.35
- HDRモード → p.263
- 多重露出 → p.268
- ミラーアップ → p.276
- バルブタイマー → p.261
- インターバルタイマー → p.281
- 被写界深度確認 → p.250
- リモートスイッチ → p.279
- リモコン → p.279
- クイック設定 → p.64
- マルチ電子ロック → p.90


## 露出


- 露出補正 → p.255
- 露出補正（M+ISOオート） → p.252
- AEB → p.257
- AEロック → p.259
- セイフティシフト → p.485


## GPS


- GPS機能 → p.227
- ロガー機能 → p.238

## ストロボ


- 外部ストロボ → p.286
- ストロボ調光補正 → p.286
- FEロック → p.286
- ストロボ機能設定 → p.289
- ストロボカスタム機能 → p.294


## ライブビュー撮影


- ライブビュー撮影 → p.297
- AF動作 → p.314
- AF方式 → p.316
- タッチシャッター → p.327
- アスペクト比 → p.310
- 拡大表示 → p.325
- 手動ピント合わせ → p.329
- 露出Simulation → p.311
- LVソフト撮影 → p.312


## 動画撮影


- 動画撮影 → p.333
- ISO感度（動画） → p.379
- AF方式 → p.316
- 動画サーボAF → p.380
- 動画サーボAF時のAF速度 → p.383
- 動画サーボAFの被写体追従特性 → p.384
- 動画記録画質 → p.351
- 24.00p → p.357
- ハイフレームレート → p.358
- HDR動画撮影 → p.369
- タイムラプス動画 → p.371
- 録音 → p.362
- マイク → p.363
- ヘッドフォン → p.363
- ウィンドカット → p.363
- アッテネーター → p.363
- タイムコード → p.365
- HDMI出力 → p.387
- リモコン撮影 → p.389

## 再生


- 撮影直後の表示時間 → p.77
- 1枚表示 → p.394
- 撮影情報表示 → p.397
- インデックス表示 → p.403
- 画像送り（ジャンプ表示） → p.404
- 拡大 → p.406
- 比較（2枚表示） → p.408
- 回転 → p.411
- プロテクト（保護） → p.412
- レーティング → p.415
- 動画再生 → p.422
- 動画前後カット → p.425
- フレーム切り出し（4K） → p.427
- スライドショー → p.429
- テレビで見る → p.432
- コピー → p.435
- 消去 → p.439
- クイック設定 → p.418


## 画像加工


- RAW現像 → p.446
- JPEGリサイズ → p.452
- JPEGトリミング → p.454


## 画像転送／印刷指定


- 画像転送（パソコン） → p.466
- 印刷指定（DPOF） → p.471
- フォトブック指定 → p.476


## カスタマイズ


- カスタム機能（C.Fn） → p.480
- 操作ボタンカスタマイズ → p.495
- クイック設定カスタマイズ → p.510
- マイメニュー → p.515
- カスタム撮影モード → p.520


## センサークリーニング／ダスト除去


- センサークリーニング → p.458
- ゴミ消し情報付加 → p.460
- 手作業 → p.463


## インターフェース


- ケーブルプロテクター → p.38


## エラー


- エラー表示 → p.573


## ソフトウェア


- 概要 → p.598
- インストール → p.599
- 使用説明書 → p.600


## Wi-Fi/NFC機能


→ Wi-Fi（無線通信）機能使用説明書

# 安全上のご注意

下記注意事項は、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。内容をよく理解してから製品を正しく安全にお使いください。
**故障、不具合、破損の際は、別紙の修理お問合せ専用窓口または、お買い上げ販売店にご連絡ください。**

**⚠ 警告** 下記の注意を守らないと、死亡または重傷を負う可能性が想定されます。

- 発火、発熱、液漏れ、破裂、感電の原因となりますので次のことはしないでください。
  - 指定以外の電池、電源、付属品、変形または改造した電池、破損した製品の使用。
  - 電池のショート、分解、変形、加熱、ハンダ付け、火中、水中投入、強い衝撃を与えること。
  - 電池の＋－を逆に入れること。
  - 充電（使用）可能温度範囲外での電池の充電。または、指定の充電時間を超える充電。
  - カメラ本体、付属品、接続ケーブル等の接点部に金属を差し込むこと。
- 電池を廃却する時は、接点にテープなどを貼り、絶縁してください。他の金属や電池と混じると発火、破裂の原因となります。
- 電池の充電中、電池が熱くなる、煙が出る、焦げ臭い等、異常状態が起こった場合、直ちに充電器のプラグをコンセントから抜いて充電をやめてください。火災、発熱、感電の原因になります。
- 液漏れ、変色、変形、煙が出る、焦げ臭いなどの異常時は、火傷に十分注意して速やかに電池を抜いてください。そのまま使用すると火災、感電、火傷の原因となります。
- 電池の液が目に入ったり、肌や衣服に付着しないように注意してください。失明や皮膚の障害を起こす恐れがあります。万一、液が目に入ったり肌や衣服についたときは、こすらずにすぐきれいな水で洗った後、ただちに医師の治療を受けてください。
- 電源コードを熱器具に近づけないでください。外装が変形したり、コードの被覆が溶けて、火災、感電の原因となります。
- 長時間、身体の同じ箇所に触れたまま使用しないでください。熱いと感じなくても、皮膚が赤くなったり、水ぶくれができたりするなど、低温やけどの原因になる恐れがあります。気温の高い場所で使用する場合や、血行の悪い方や皮膚感覚の弱い方などが使用する場合は、三脚などをお使いください。
- 車の運転者等にむけてストロボを発光しないでください。事故の原因となります。
- カメラ及び付属品を使用しないときは、電源プラグ及び電池、接続ケーブルを外して保管してください。感電、発熱、発火、汚損の原因となることがあります。

- 可燃性ガスの雰囲気中で使用しないでください。爆発、火災の原因となります。
- 落下等により機器内部が露出した際は、露出部に手を触れないでください。感電の危険があります。
- 分解、改造しないでください。内部には高電圧部があり感電の危険があります。
- カメラで、太陽や強い光源を直接見ないようにしてください。視力障害の原因となります。
- 製品はお子様や幼児の手の届かないところで使用、保管してください。誤ってストラップや電源コードを首に巻きつけて窒息したり、感電、けがの原因になります。また、カメラやアクセサリーの部品を誤って飲み込むと、窒息したり、けがの原因になります。万一飲み込んだ際は、直ちに医師に相談してください。
- 湿気、油煙やほこりの多い場所で使用、保管しないでください。また、電池は、ショートを防ぐため、金属類と一緒の保管を避け、付属の保護カバーを取り付けて保管してください。火災、発熱、感電、火傷の原因となります。
- 飛行機内、病院で使用の際は、航空会社、病院の指示に従ってください。本機器が出す電磁波が計器や医療機器などに影響を与える恐れがあります。
- 火災や感電の原因となることがありますので次のことに注意してください。
  - 電源プラグは確実に奥まで差し込んでください。
  - 濡れた手で電源プラグにさわらないでください。
  - 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。
  - 電源コードを傷つけたり、無理に曲げたり、重いものを載せたりしないでください。また、束ねたり、結んだりして使用しないでください。
  - 二股ソケット等を使ったタコ足配線をしないでください。
  - 断線や被覆のはがれたコードは使用しないでください。
- 電源プラグを定期的に抜き、その周辺およびコンセントに溜まったほこりや汚れを、乾いた布で拭き取ってください。ほこり、湿気、油煙の多いところで、電源プラグを長期間差したままにすると、その周辺に溜まったほこりが湿気を吸って絶縁不良となり、火災の原因になります。
- 電池をコンセントや車のシガーライターソケットなどに直接接続しないでください。電池の液漏れ、発熱、破裂により火災、火傷、けがの原因となります。
- お子様が使用の時は、保護者が正しい使用方法を充分に教えてください。また、使用中にもご注意ください。感電、けがの原因となります。
- レンズやレンズをつけた一眼レフカメラを、レンズキャップを外したまま日光の下に放置しないでください。太陽光が焦点を結び、火災の原因になることがあります。
- 製品を布でおおったり、包んだりして使用しないでください。熱がこもり外装が変形し、火災の原因となることがあります。
- 製品を水に濡らさないでください。万一水に落としたり、内部に水または金属等の異物が入った際は、速やかに電池を抜いてください。火災、感電、火傷の原因となることがあります。
- シンナーやベンジンなどの有機溶剤を製品の清掃に使用しないでください。火災や健康障害の原因となることがあります。

## ⚠注意 下記の注意を守らないと、けがを負う可能性または物的損害の発生が想定されます。

- 直射日光下の車中など、高温の場所で使用、保管しないでください。製品自体が高温になり、触ると火傷の原因になることがあります。また、電池の液漏れ、破裂など、製品の性能や寿命を低下させる原因になることがあります。
- カメラを三脚につけたまま移動しないでください。けがや事故の原因となることがあります。また、三脚はカメラ、レンズに対して十分に強度のあるものをご使用ください。
- 製品を低温状態に放置しないでください。製品自体が低温になり、触れるとけがの原因となることがあります。
- ストロボを目に近付けて発光しないでください。目をいためる恐れがあります。
- 同梱のCD-ROMをCD-ROM対応ドライブ以外では絶対に再生しないでください。音楽用CDプレーヤーで使用した場合は、スピーカーなどを破損する恐れがあります。またヘッドフォンなどをご使用になる場合は、大音量により耳に傷害を負う恐れがあります。
- ヘッドフォンで音声を聴きながら、録音に関する設定を切り換えないでください。突然大きな音が流れて耳を痛める恐れがあります。

# 取り扱い上のご注意

## カメラについて

- カメラは精密機器です。落としたり衝撃を与えたりしないでください。
- このカメラは防水構造になっていませんので、水中では使用できません。
- 防塵・防滴性能を発揮させるため、カメラの端子カバー、電池室ふた、カードスロットカバーなどの開閉部をしっかり閉じてください。
- このカメラは、不用意に降りかかる砂塵や、水滴などのカメラ内部への侵入を抑えることで、防塵性、防滴性に配慮した設計を行っていますが、ゴミやほこり、水、塩分などのカメラ内部への侵入を、完全に防ぐことはできません。ゴミやほこり、水、塩分などが、できるだけカメラに付着しないようにしてください。
- カメラに水が付着したときは、乾いたきれいな布で、ゴミやほこり、塩分などが付着したときは、固くしぼったきれいな布でよくふき取ってください。
- ゴミやほこりが多い場所で使用すると、故障の原因になります。
- 使用後はカメラの清掃をおすすめします。ゴミやほこり、水、塩分などをカメラに付着したままにすると、故障の原因になります。
- 万一、カメラが水に濡れて、内部に浸水（水没）したり、ゴミやほこり、塩分などが内部に侵入した恐れがあるときは、早めに別紙の修理お問合せ専用窓口にご相談ください。
- カメラを磁石やモーターなどの強力な磁気が発生する装置の近くに、絶対に置かないでください。また、電波塔などの強い電波が発生しているところで使用したり、放置したりしないでください。電磁波により、カメラが誤動作したり、記録した画像データが破壊されることがあります。
- 直射日光下の車の中などは予想以上に高温になります。カメラの故障の原因になることがありますので、このような場所にカメラを放置しないでください。
- カメラには精密な回路が内蔵されていますので、絶対に自分で分解しないでください。

- 指などでミラーの動作を阻害しないでください。故障の原因になります。
- レンズ、ファインダー、ミラー、フォーカシングスクリーンなどにゴミが付いているときは、市販のブロアーで吹き飛ばすだけにしてください。カメラボディおよびレンズは、有機溶剤を含むクリーナーなどでふかないでください。特に汚れがひどいときは、別紙の修理お問合せ専用窓口にご相談ください。
- カメラの電気接点は手で触らないでください。腐食の原因になることがあります。腐食が生じるとカメラが作動不良を起こすことがあります。
- カメラを寒いところから、急に暑いところに移すと、カメラの外部や内部に結露（水滴）が発生することがあります。カメラを寒いところから、急に暑いところに移すときは、結露の発生を防ぐために、カメラをビニール袋に入れて袋の口を閉じ、周囲の温度になじませてから、袋から取り出してください。
- 結露が発生したときは、故障の原因になりますので、カメラを使用しないでください。レンズ、カード、電池をカメラから取り外し、水滴が消えるまで待ってから、カメラを使用してください。
- カメラを長期間使用しないときは、カメラから電池を取り出し、風通しが良く、涼しい乾燥した場所に保管してください。保管期間中でも、ときどきシャッターを切るようにして作動することを確認してください。
- カメラの保管場所として、実験室などのような薬品を扱う場所は、さび・腐食などの原因になるため避けてください。
- 長期間使用しなかったカメラは、各部を点検してから使用してください。長期間使用しなかったあとや、海外旅行など大切な撮影の前には、各部の作動を別紙の修理お問合せ専用窓口、またはご自身でチェックしてからご使用ください。
- 連続撮影を長時間繰り返したり、ライブビュー撮影や動画撮影を長時間行うと、カメラの温度が高くなることがあります。これは故障ではありません。
- 明るい光源が撮影画面の内側や外側近くにあると、ゴーストが写り込むことがあります。

## 表示パネルと液晶モニターについて

- 液晶モニターは、非常に精密度の高い技術で作られており99.99%以上の有効画素がありますが、0.01%以下の画素欠けや、黒や赤などの点が現れたままになることがあります。これは故障ではありません。また、記録されている画像には影響ありません。
- 液晶モニターを長時間点灯したままにすると、表示していた内容の像が残ることがあります。この残像は一時的なもので、カメラを数日間使用しないでおくと自然に消えます。
- 液晶の特性で低温下での表示反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されます。

## カードについて

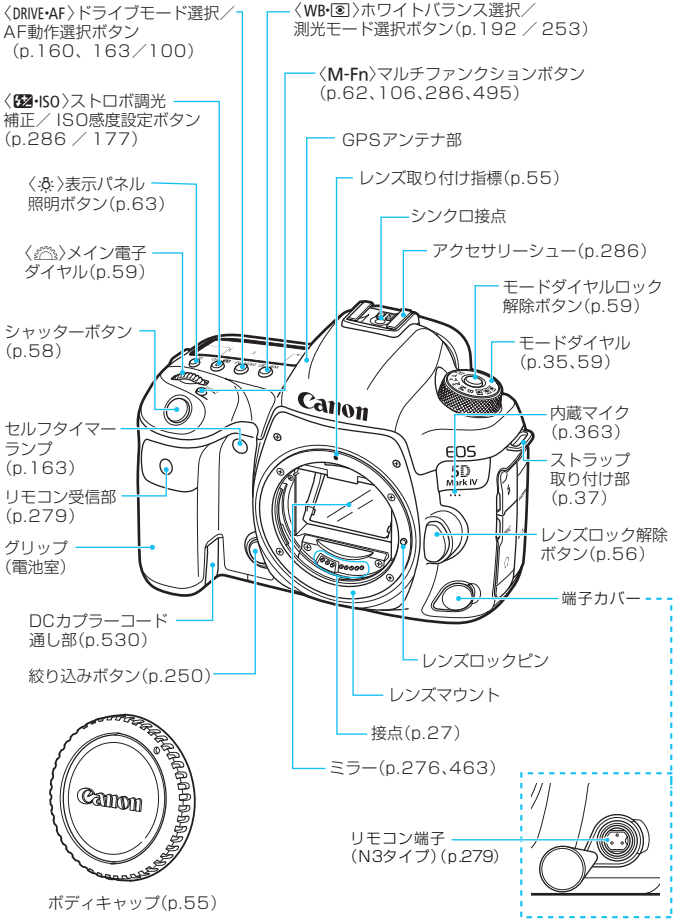
カードとその中に記録されているデータを保護するために、次の点に注意してください。

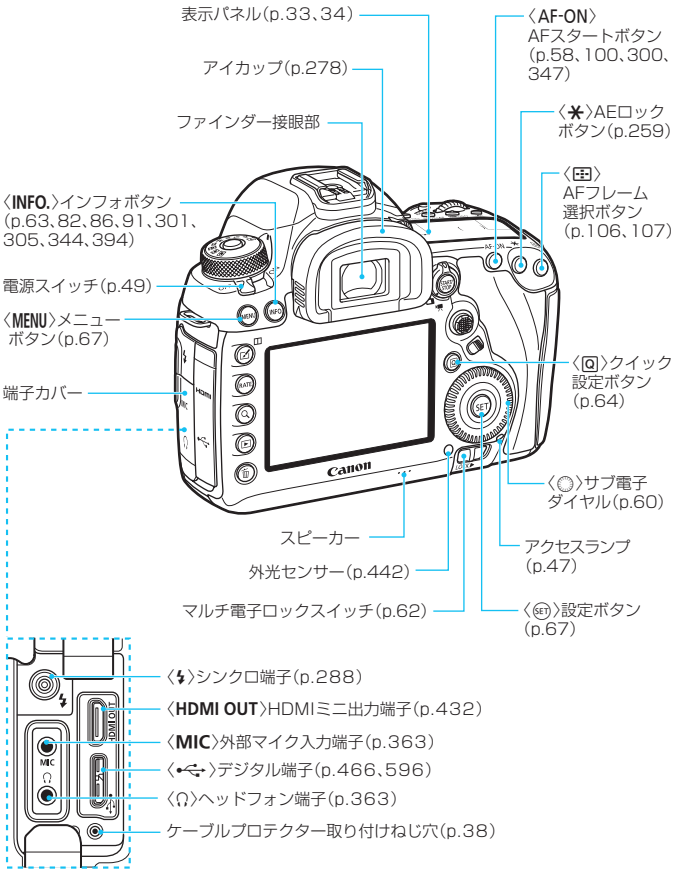
- 「落とさない」、「曲げない」、「強い力や衝撃、振動を加えない」、「濡らさない」。
- カードの接点に指や金属が触れないようにする。
- カード表面にシールなどを貼らない。
- テレビやスピーカー、磁石などの磁気を帯びたものや、静電気の発生しやすいところで保管、使用しない。
- 直射日光のあたる場所や、暖房器具の近くに放置しない。
- ケースなどに入れて保管する。
- 温度の高いところ、ほこりや湿気の多いところに保管しない。

## レンズについて

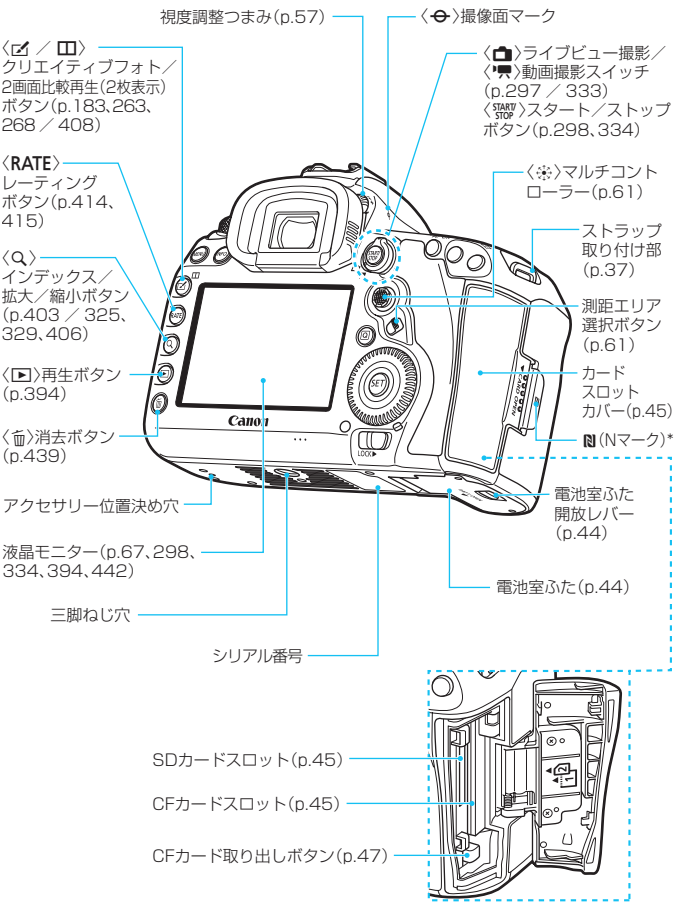
レンズを取り外したときは、接点やレンズ面を傷つけないように、取り付け面を上にして置き、ダストキャップを取り付けてください。

# 各部の名称


〈DRIVE•AF〉ドライブモード選択／
AF動作選択ボタン
（p.160、163／100）
〈WB•⊡〉ホワイトバランス選択／
測光モード選択ボタン（p.192 ／ 253）
〈M-Fn〉マルチファンクションボタン
（p.62、106、286、495）
〈⚡•ISO〉ストロボ調光
補正／ ISO感度設定ボタン
（p.286 ／ 177）
GPSアンテナ部
〈☼〉表示パネル
照明ボタン（p.63）
レンズ取り付け指標（p.55）
シンクロ接点
〈☁〉メイン電子
ダイヤル（p.59）
アクセサリーシュー（p.286）
モードダイヤルロック
解除ボタン（p.59）
シャッターボタン
（p.58）
モードダイヤル
（p.35、59）
内蔵マイク
（p.363）
セルフタイマー
ランプ
（p.163）
ストラップ
取り付け部
（p.37）
リモコン受信部
（p.279）
レンズロック解除
ボタン（p.56）
グリップ
（電池室）
端子カバー
DCカプラーコード
通し部（p.530）
レンズロックピン
絞り込みボタン（p.250）
レンズマウント
接点（p.27）
ミラー（p.276、463）
リモコン端子
（N3タイプ）（p.279）
ボディキャップ（p.55）

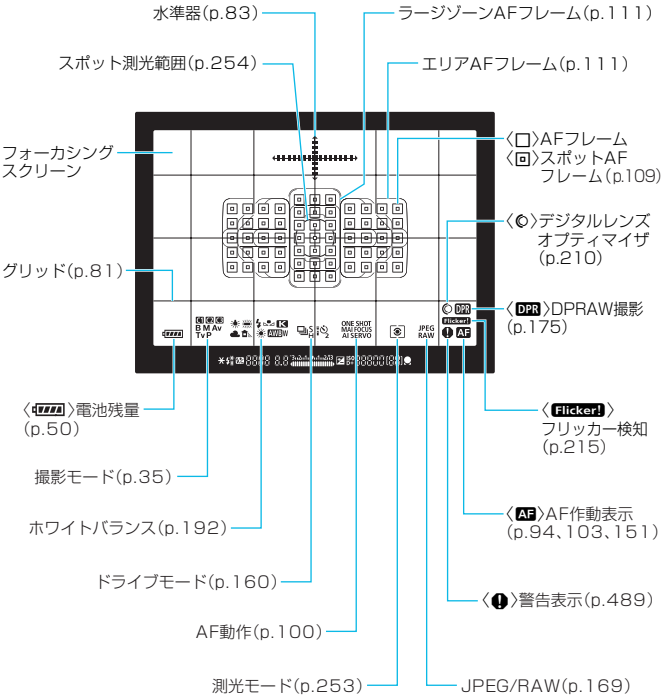



デジタル端子にインターフェースケーブルを接続するときは、付属のケーブルプロテクターを使用してください(p.38)。

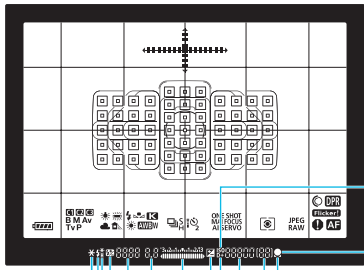



* NFC機能による無線接続時に使用します。

## ファインダー内表示




* 設定に応じた部分のみ表示されます。




〈ISO〉ISO表示
(p.177)

〈●〉合焦マーク
(p.94、101)

〈◣◢〉AF作動表示
(p.103、151)

連続撮影可能枚数(p.174)
多重露出残り枚数(p.270)

ISO感度(p.177)

〈D+〉高輝度側・階調優先
(p.206)

〈✻〉露出補正(p.255)

露出レベル表示
露出補正量(p.255)
AEBレベル(p.257)
ストロボ調光補正量(p.286)

AFフレーム選択表示
(**[ ] AF**, **SEL [ ]**, **SEL AF**)
AFフレーム登録
(**[ ] HP**, **SEL [ ]**, **SEL HP**)
カード警告(**Card 1/2/1,2**)
カードフル警告(**FuLL 1/2/1,2**)

〈✻〉AEロック(p.259)
AEB撮影中(p.257)

〈ϟ〉ストロボ充電完了
(p.286)
FEロック連動範囲外警告

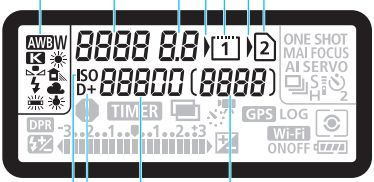
〈ϟ*〉FEロック(p.286)
FEB撮影中(p.293)
〈ϟH〉ハイスピードシンクロ
(p.293)

〈ϟ±〉ストロボ調光補正
(p.286)

シャッター速度(p.246)
バルブ(**buLb**)(p.260)
FEロック(**FEL**)
データ処理中(**buSY**)
マルチ電子ロック警告(**L**)
カード未装填警告(**Card**)
エラー表示(**Err**)

絞り数値(p.248)
ダストデリートデータ取得(**--**)

## 表示パネル




シャッター速度
バルブ(**buLb**)
FEロック(**FEL**)
タイムラプス動画残り撮影回数
データ処理中(**buSY**)
マルチ電子ロック警告(**L**)
撮像素子の清掃中(**CLn**)
カード未装填警告(**Card**)
エラー表示(**Err**)

絞り数値
ダストデリートデータ取得(**--**)

AFフレーム選択表示
(**[ ] AF, SEL [ ], SEL AF**)
AFフレーム登録
(**[ ] HP, SEL [ ], SEL HP**)
カード警告(**Card 1/2/1,2**)
カードフル警告(**FuLL 1/2/1,2**)

〈◗〉CFカード選択マーク

〈1〉CFカード装填表示

〈◗〉SDカード選択マーク

〈2〉SDカード装填表示

ホワイトバランス
(p.192)
AWB オート
(雰囲気優先)
AWBW オート
(ホワイト優先)
☀ 太陽光
日陰
☁ くもり
白熱電球
白色蛍光灯
ストロボ
マニュアル
K 色温度

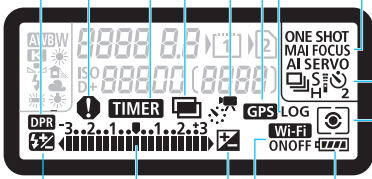
〈**ISO**〉ISO表示(p.177)

〈**D+**〉高輝度側・階調優先
(p.206)

ISO感度(p.177)

撮影可能枚数
セルフタイマー作動表示
バルブ露光時間
カードエラー警告(**Err**)
エラー番号
画像記録中の残り枚数

* 設定に応じた部分のみ表示されます。




〈**LOG**〉ロガー機能(p.238)

〈GPS〉GPS受信状態

〈タイムラプス動画撮影〉(p.371)

〈多重露出撮影〉(p.268)

〈TIMER〉バルブタイマー撮影／インターバルタイマー撮影(p.261／281)

〈警告表示〉(p.489)

〈DPR〉DPRAW撮影(p.175)

〈ストロボ調光補正〉(p.286)

露出レベル表示
- 露出補正量(p.255)
- AEBレベル(p.257)
- ストロボ調光補正量(p.286)

〈露出補正〉(p.255)

AF動作(p.100、314)
- **ONE SHOT** ワンショットAF
- **AI FOCUS** AIフォーカスAF
- **AI SERVO** AIサーボAF
- **SERVO** サーボAF
- **M FOCUS** マニュアルフォーカス

(p.159、329)

ドライブモード(p.160)
- 1枚撮影
- 高速連続撮影
- 低速連続撮影
- ソフト1枚撮影
- ソフト連続撮影
- セルフタイマー：10秒／リモコン
- セルフタイマー：2秒／リモコン

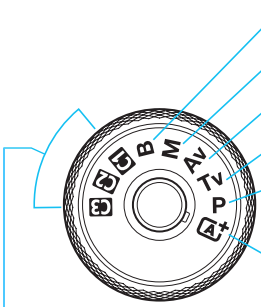
測光モード(p.253)
- 評価測光
- 部分測光
- スポット測光
- 中央部重点平均測光

電池残量(p.50)

〈Wi-Fi〉Wi-Fi機能

### モードダイヤル

撮影モードを設定することができます。モードダイヤルの中央（モードダイヤルロック解除ボタン）を押しながら回します。




**B**：バルブ（p.260）

**M**：マニュアル露出（p.251）

**Av**：絞り優先AE（p.248）

**Tv**：シャッター優先AE（p.246）

**P**：プログラムAE（p.244）

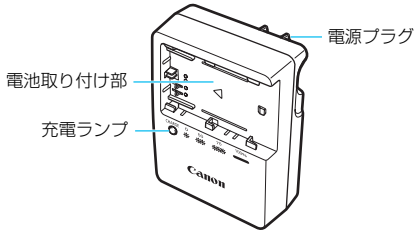
：シーンインテリジェントオート（p.94）

### カスタム撮影モード

撮影モード〈**P**〉〈**Tv**〉〈**Av**〉〈**M**〉〈**B**〉やAF動作、メニュー機能などを、〈C1〉〈C2〉〈C3〉に登録することができます（p.520）。

## バッテリーチャージャー LC-E6

バッテリーパック LP-E6N/LP-E6の充電器です（p.42）。



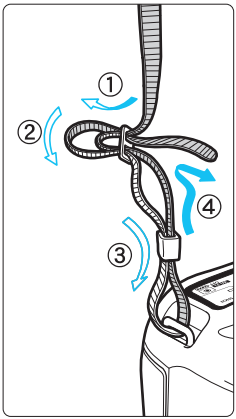

**注意**

指定外の電池を使うと、爆発などの危険があります。
使用済の電池は、各自治体のルールにしたがって処分するか、最寄りの電池リサイクル協力店へお持ちください。

Li-ion

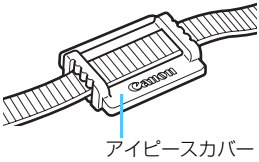
- 不要になった電池は、貴重な資源を守るために廃棄しないで最寄りの電池リサイクル協力店へお持ちください。詳細は、一般社団法人JBRCのホームページをご参照ください。
  ホームページ：http://www.jbrc.com
- プラス端子、マイナス端子をテープ等で絶縁してください。
- 被覆をはがさないでください。
- 分解しないでください。

## ストラップ（吊りひも）の取り付け方




ストラップの先端をストラップ取り付け部の下から通し、さらにストラップに付いている留め具の内側を通します。留め具の部分のたるみを取り、引っぱっても留め具の部分がゆるまないことを確認してください。

- ストラップにはアイピースカバーが付いています（p.278）。



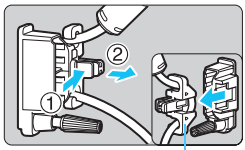
## ケーブルプロテクターの使い方

カメラとパソコン／コネクトステーションを接続するときは、付属または純正（システム図に記載：p.525）のインターフェースケーブルを使用してください。

また、**インターフェースケーブルを接続するときは、付属のケーブルプロテクターを使用してください。**ケーブルプロテクターを使用すると、ケーブルが不用意に抜けることを防止したり、端子の破損を防止することができます。

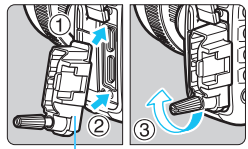
### 付属インターフェースケーブル／純正HDMIケーブル（別売）使用時

1



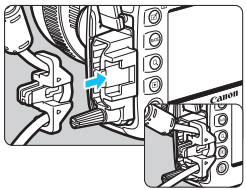

クランパー部

2

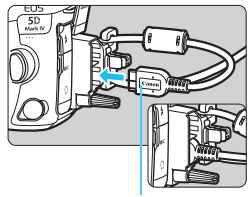



プロテクター本体

3

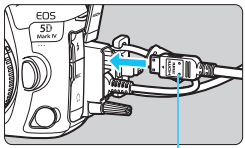


4



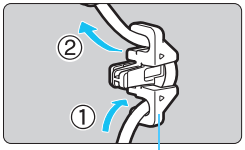

付属インターフェースケーブル

5




HDMIケーブル（別売）

## 別売の純正インターフェースケーブル使用時




別売のキヤノン純正インターフェースケーブルを使用するときは（p.525）、図のようにケーブルをクランパー部に通してからプロテクター本体に取り付けてください。

- ケーブルプロテクターを使用せずにインターフェースケーブルを接続すると、デジタル端子が破損する恐れがあります。
- デジタル端子が破損する恐れがあるため、Micro B端子を備えたUSB2.0ケーブルは使用しないでください。
- 手順4の右下の図のように、インターフェースケーブルがデジタル端子にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

カメラとテレビを接続するときは、HDMIケーブル HTC-100（別売）の使用をおすすめします。HDMIケーブル接続時もケーブルプロテクターの使用をおすすめします。

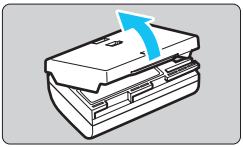
**MEMO**

# 1

# 撮影前の準備と操作の基本

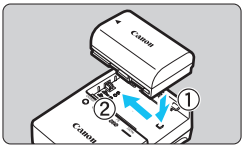
この章では、撮影に入る前にあらかじめ準備しておくことと、操作の基本について説明しています。

# 電池を充電する



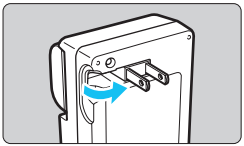
## 1 保護カバーを外す

- 付属の保護カバーを外します。



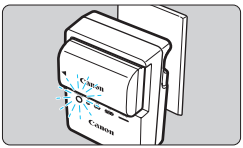

## 2 電池を取り付ける

- 図のようにして、電池を充電器にしっかりと取り付けます。
- 取り外しは逆の手順で行います。



## 3 電源プラグを起こす

- 充電器のプラグを矢印の方向に起こします。



## 4 充電する

- プラグをコンセントに差し込みます。
- ➡ 自動的に充電が始まり、充電ランプがオレンジ色に点滅します。

| 充電状態 | 充電ランプ | |
|---|---|---|
| | 色 | 表示 |
| 0~49% | オレンジ | 1秒ごとに点滅 |
| 50~74% | | 1秒ごとに2回点滅 |
| 75%以上 | | 1秒ごとに3回点滅 |
| 充電完了 | 緑 | 点灯 |

- **使い切った電池の充電に要する時間は、常温（+23℃）で約2時間30分です。**なお、充電時間は周囲の温度や残量によって大きく異なります。
- 安全に充電を行うため、低温下（+5℃～+10℃）では充電時間が長くなります（最長約4時間）。

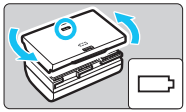
## 電池と充電器の上手な使い方

- **購入時、電池はフル充電されていません**
  充電してからお使いください。

- **充電は使用する当日か前日にする**
  充電して保管していても、自然放電により少しずつ電池の容量が少なくなっていきます。

- **充電が終わったら、電池を取り外し、プラグをコンセントから抜く**

- **保護カバーを取り付ける向きで、充電済みか、使用済みかがわかるようにする**
  充電済みの電池に付属の保護カバーを取り付けるときは、電池の青いシールに保護カバーの窓〈▭〉が重なるようにします。使用済みの電池のときは、180度回して取り付けます。



- **カメラを使わないときは電池を取り出しておく**
  電池を長期間カメラに入れたままにしておくと、微少の電流が流れて過放電状態になり、電池寿命短縮の原因となります。電池の保護カバーを取り付けて保管してください。なお、フル充電して保管すると、性能低下の原因になることがあります。

- **充電器は海外でも使うことができる**
  充電器は、家庭用電源のAC100～240V 50/60Hzに対応しています。お使いになる国や地域に対応した、市販の電源プラグ変換アダプターを使用してください。なお、充電器が故障する恐れがありますので、海外旅行用の電子変圧器などに接続しないでください。

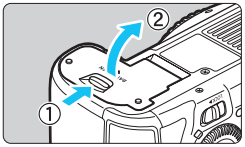
- **フル充電したのにすぐ使えなくなるときは、電池の寿命です**
  電池の劣化度（p.526）を確認した上で、新しい電池をお買い求めください。

- 充電器をコンセントから取り外したときは、10秒程度、充電器のプラグに触れないようにしてください。
- バッテリー残量（p.526）が94%以上のときは、充電は行われません。
- 付属の充電器は、バッテリーパック LP-E6N/LP-E6以外は充電できません。

# 電池を入れる／取り出す

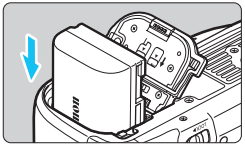
充電したバッテリーパック LP-E6N（またはLP-E6）をカメラに入れます。**このカメラのファインダーは、電池を入れると明るくなり、電池を取り出すと暗くなります。また、電池が入っていないときは、ファインダー像がぼやけた状態になるため、ピント合わせはできません。**

## 入れ方



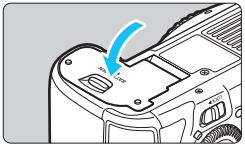

### 1 ふたを開ける

- レバーを矢印の方向にスライドさせて、ふたを開きます。



### 2 電池を入れる

- 電池接点の方から入れます。
- ロック位置までしっかりと入れてください。

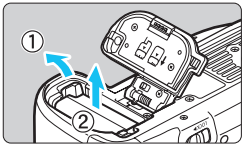


### 3 ふたを閉める

- 「カチッ」と音がするまで、ふたを押して閉じます。

バッテリーパック LP-E6N/LP-E6以外は使用できません。

## 取り出し方




### ふたを開けて、電池を取り出す

- 電池ロックレバーを矢印の方向に押してロックを外し、電池を取り出します。
- ショート防止のため、必ず電池に付属の保護カバー（p.42）を取り付けてください。

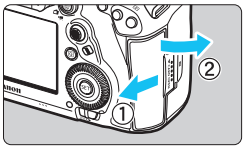
# カードを入れる／取り出す

このカメラは、CFカードとSDカードが使用できます。**どちらかのスロットにカードが入っていれば、撮影した画像を記録することができます。**

両方のカードを入れたときは、どちらのカードを使用するか選択したり、両方のカードに同時に画像を記録することができます（p.166～168）。

**SDカード使用時は、カードの書き込み禁止スイッチが上側（書き込み／消去可能位置）にセットされていることを確認してください。**

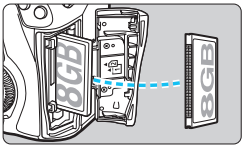
## 入れ方




### 1 カバーを開ける

- カバーを矢印の方向にスライドさせてから開きます。

CFカード（カード1）

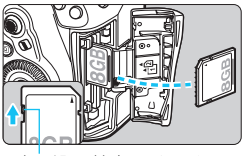



### 2 カードを入れる

- CFカードはカメラの前面側、SDカードは背面側のスロットに入れます。
- CFカードが［1］（カード1）、SDカードが［2］（カード2）です。
- **CFカードは、カードの表を手前にして、小さい穴が並んでいる方を奥にして差し込みます。入れる向きを間違えると、カメラが壊れることがあります。**

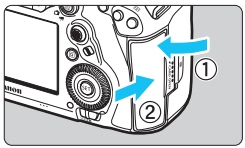
➡ CFカード取り出しボタン（灰色）がせり出します。

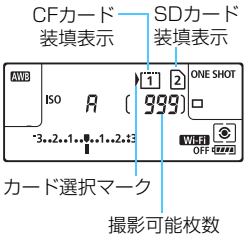
SDカード（カード2）




書き込み禁止スイッチ

- **SDカードは、カードの表を手前にして、「カチッ」と音がするまで差し込みます。**




## 3 カバーを閉じる

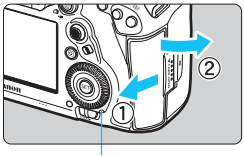
- カバーを閉じてから、矢印の方向に「カチッ」と音がするまでしっかりとスライドさせます。

➡ 電源スイッチを〈**ON**〉にすると（p.49）、表示パネルに撮影可能枚数と装填したカードが表示されます。
**〈▮〉マークが付いているカードに画像が記録されます。**

- **Type II のCFカードとハードディスクタイプのカード、およびCFastカードは使用できません。**
- マルチメディアカード（MMC）は使用できません（カードエラー表示）。

- CFカードは、Ultra DMA（UDMA）対応のカードも使用できます。UDMA対応のカードを使用すると、より高速なデータ書き込み処理が行われます。
- SD/SDHC/SDXCメモリーカードが使用できます。また、UHS-I 対応のSDHC/SDXCメモリーカードも使用できます。
- 撮影可能枚数は、使用するカードの空き容量や、記録画質、ISO感度などの設定により変わります。
- [📷1：**カードなしレリーズ**]を[**しない**]に設定すると、カードの入れ忘れを防止することができます（p.540）。

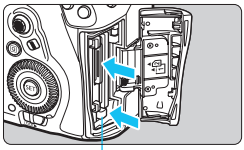
## 取り出し方




アクセスランプ

### 1 カバーを開ける

- 電源スイッチを〈**OFF**〉にします。
- **アクセスランプが消えていることを確認して、カバーを開きます。**
- 液晶モニターに［**書き込み中...**］と表示されたときは、カバーを閉じてください。



CFカード取り出しボタン

### 2 カードを取り出す

- CFカードは、取り出しボタンを押し込むと出てきます。
- SDカードは、カードを軽く押し込んで離すと出てきます。
- カードをまっすぐに取り出して、カバーを閉じます。

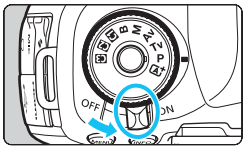
**注意**

**ライブビュー撮影／動画撮影時に画面に赤い🔥が表示されたときは、カードをすぐに取り出さないでください。**カメラ内部の発熱により、カードが熱くなっていることがあります。電源スイッチを〈**OFF**〉にして撮影を休止し、しばらく経ってからカードを取り出してください。撮影直後に熱くなっているカードを取り出すと、カードを落下させてカードが破損する恐れがあります。カードを取り出すときは十分注意してください。

- **アクセスランプが点灯／点滅しているときは、カードへの記録／読み出し中や、消去中、データ転送中です。カードスロットカバーを開けないでください。また、アクセスランプが点灯／点滅しているときに次のことを行うと、画像データが壊れたり、カードやカメラ本体が損傷する原因になるため、絶対に行わないでください。**
  - **・カードを取り出す**
  - **・電池を取り出す**
  - **・カメラ本体に振動や衝撃を与える**
  - **・電源コードの抜き差しを行う**
    （家庭用電源アクセサリー（別売）使用時／p.530）
- 画像が記録されているカードを使用すると、撮影した画像の番号が 0001 から始まらないことがあります（p.223）。
- 液晶モニターにカードのトラブルに関するメッセージが表示されたときは、カードの抜き差しを行ってください。それでも改善しないときは、別のカードに交換してください。
  なお、パソコンでカードの内容が読み取れるときは、カード内のデータをすべてパソコンに保存したあと、カメラでカードを初期化してください(p.73)。正常な状態に戻ることがあります。
- SDカードの端子部分に指や金属が触れないようにしてください。また、ゴミや水などを付着させないでください。端子部分に汚れが付着すると、接触不良の原因になります。

# 電源を入れる

電源スイッチを入れたときに、**日付/時刻/エリアの設定画面が表示されたときは、51ページを参照して日付/時刻/エリアを設定してください。**




〈**ON**〉：カメラが作動します。
〈**OFF**〉：カメラは作動しません。カメラを使用しないときはこの位置にします。

## 撮像素子の自動清掃について

- 電源スイッチを〈**ON**〉にしたときと、〈**OFF**〉にしたときに、撮像素子の自動清掃が行われます（小さな音が鳴ることがあります）。清掃中は、液晶モニターに〈 〉が表示されます。

- 清掃中でもシャッターボタンを半押しすると（p.58）、清掃作業が中止され、すぐに撮影することができます。
- 電源スイッチの〈**ON**〉〈**OFF**〉を短い時間で繰り返すと、〈 〉が表示されないことがありますが、故障ではありません。

## MENU オートパワーオフについて

- 電池の消耗を防ぐため、約1分間何も操作しないと自動的に電源が切れます。シャッターボタンを半押しすると（p.58）、もう一度電源が入ります。
- 電源が切れるまでの時間を［**2：オートパワーオフ**］で変更することができます（p.76）。

カードへの画像記録中に電源スイッチを〈**OFF**〉にすると、［**書き込み中...**］が表示され、画像記録が終了してから電源が切れます。

## 電池残量表示について

電池の残量は、電源スイッチを〈**ON**〉にしたときに、6段階で表示されます。電池マークが点滅〈 〉したときは、もうすぐ電池切れになります。

| 表示 | | | |
|---|---|---|---|
| 残量（%） | 100～70 | 69～50 | 49～20 |

| 表示 | | | |
|---|---|---|---|
| 残量（%） | 19～10 | 9～1 | 0 |

### ファインダー撮影時の撮影可能枚数の目安

（約・枚）

| 温度 | 常温（+23℃） | 低温（0℃） |
|---|---|---|
| 撮影可能枚数 | 900 | 850 |

- フル充電のバッテリーパック LP-E6N使用、ライブビュー撮影なし、CIPA（カメラ映像機器工業会）の試験基準によります。
- バッテリーグリップ BG-E20（別売）使用時に、バッテリーパック LP-E6Nを2個使用したときは、撮影可能枚数が約2倍になります。

- 下記の操作を行うと電池が早く消耗します。
  - ・シャッターボタン半押し状態を長く続ける
  - ・AF動作だけを行って撮影しない操作を頻繁に行う
  - ・レンズの手ブレ補正機能を使用する
  - ・液晶モニターを頻繁に使用する
- 実際の撮影条件により、撮影可能枚数が少なくなることがあります。
- レンズの動作にはカメラ本体の電源を使用します。使用するレンズにより、電池が早く消耗することがあります。
- 低温下では電池の残量があっても撮影できないことがあります。

- ライブビュー撮影時の撮影可能枚数については、299ページを参照してください。
- ［**3：バッテリー情報**］で電池の状態を確認することができます（p.526）。

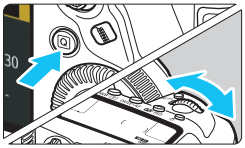
# MENU 日付／時刻／エリアを設定する

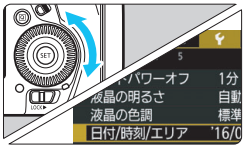
初めて電源を入れたときや、日付/時刻/エリアの設定が解除されているときは、電源を入れると、日付/時刻/エリアの設定画面が表示されます。以下の操作手順に従ってエリア（地域）から設定してください。住んでいるエリアを設定しておくと、他の地域に旅行したときにエリア設定を変更するだけで、そのエリアの日付/時刻に変更されます。

**撮影画像には、ここで設定した日付/時刻を起点にした撮影日時の情報が付加されますので、必ず設定してください。**

## 1 メニューを表示する

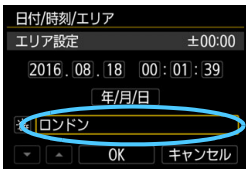
- 〈MENU〉ボタンを押すと表示されます。





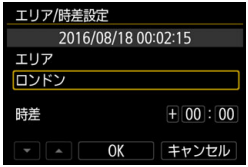

## 2 ［🔧2］タブの［日付/時刻/エリア］を選ぶ

- 〈Q〉ボタンを押して［🔧］タブを選びます。
- 〈⚙〉を回して［🔧2］タブを選びます。
- 〈◎〉を回して［**日付/時刻/エリア**］を選び、〈SET〉を押します。

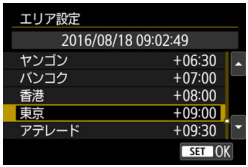



## 3 エリアを設定する

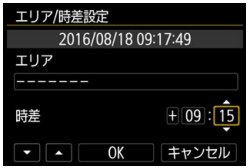
- **初期状態では［ロンドン］に設定されています。**
- 〈◎〉を回して［**エリア設定**］を選び、〈SET〉を押します。




- 〈◎〉を回して［**エリア**］の下の枠を選び、〈SET〉を押します。




- 〈◎〉を回して設定するエリアを選び、〈SET〉を押します。
- 設定したいエリアがないときは、〈MENU〉ボタンを押したあと、次の操作（協定世界時との時差）で設定します。



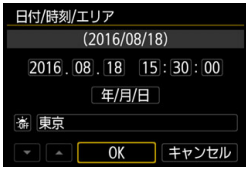

- 「協定世界時との時差」で設定するときは、〈◎〉を回して［**時差**］の項目（＋－/時/分）を選びます。
- 〈SET〉を押して〈⇕〉の状態にします。
- 〈◎〉を回して設定し、〈SET〉を押します（〈□〉の状態に戻ります）。
- エリア/時差の設定が終わったら、〈◎〉を回して［OK］を選び、〈SET〉を押します。

## 4 日付/時刻を設定する

- 〈◎〉を回して項目を選びます。
- 〈SET〉を押して〈⇕〉の状態にします。
- 〈◎〉を回して設定し、〈SET〉を押します（〈□〉の状態に戻ります）。

## 5 サマータイムを設定する

- 必要に応じて設定します。
- 〈◯〉を回して［☀］を選びます。
- 〈(SET)〉を押して〈◇〉の状態にします。
- 〈◯〉を回して［☀］を選び、〈(SET)〉を押します。
- サマータイムを［☀］にすると、手順4で設定した時刻が1時間進みます。［☀］にするとサマータイムが解除され、1時間戻ります。




## 6 設定を終了する

- 〈◯〉を回して［OK］を選び、〈(SET)〉を押します。
- ➡ 日付/時刻/エリア、サマータイムが設定され、メニューに戻ります。

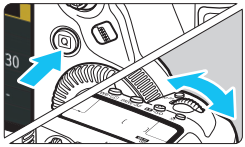
- カメラから電池を取り出して保管したときや、カメラの電池残量がなくなったとき、カメラを氷点下に長時間放置したときは、日付/時刻/エリアの設定が解除されることがあります。そのときは再度設定してください。
- ［**エリア/時差設定**］を変更したときは、日付/時刻が正しく設定されているか確認してください。

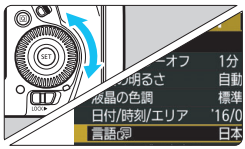
- 設定した日付/時刻のカウントは、手順6で［OK］を選んだときに始まります。
- 手順3の［**エリア設定**］に表示される時間は、協定世界時との時差です。
- ［**ϟ2：オートパワーオフ**］を［**1分**］［**2分**］［**4分**］に設定していても、［**ϟ2：日付/時刻/エリア**］の設定画面を表示しているときは、オートパワーオフまでの時間が約6分になります。
- GPS機能による自動時刻設定を行うことができます（p.237）。

# MENU 表示言語を選ぶ

## 1 メニューを表示する

- 〈MENU〉ボタンを押すと表示されます。






## 2 ［🔧2］タブの［言語］を選ぶ

- 〈Q〉ボタンを押して［🔧］タブを選びます。
- 〈⚙〉を回して［🔧2］タブを選びます。
- 〈◎〉を回して［言語］を選び、〈SET〉を押します。

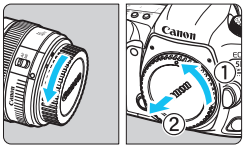
## 3 言語を設定する

- 〈◎〉を回して言語を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 表示言語が切り換わります。

# レンズを取り付ける／取り外す

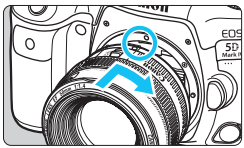
すべてのEFレンズを使用することができます。**なお、EF-S、EF-Mレンズは使用できません。**

## 取り付け方



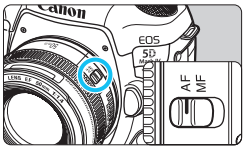

### 1 キャップを外す

- レンズのダストキャップとボディキャップを矢印の方向に回して外します。




### 2 レンズを取り付ける

- レンズとカメラの赤いレンズ取り付け指標を合わせ、レンズを矢印方向に「カチッ」と音がするまで回します。

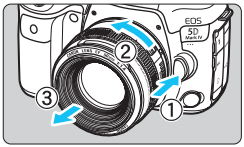



### 3 レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする

- 〈**AF**〉はAuto Focus：自動ピント合わせのことです。
- 〈**MF**〉はManual Focus：手動ピント合わせのことです。自動ピント合わせはできません。

### 4 レンズキャップを外す

## 取り外し方




**レンズロック解除ボタンを押しながら、レンズを矢印の方向に回す**

- 回転が止まるまで回してから、取り外します。
- 取り外したレンズにダストキャップを取り付けます。

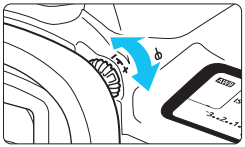
- レンズで太陽を直接見ないでください。失明の原因になります。
- レンズの取り付け／取り外しを行うときは、カメラの電源スイッチを〈**OFF**〉にしてください。
- 自動ピント合わせのときに、レンズの先端（フォーカスリング）が動くレンズは、動いている部分に触れないでください。

**ゴミやほこりについて、普段から以下のことに注意してください**

- レンズの交換は、ほこりの少ない場所で素早く行う
- レンズを取り外してカメラを保管するときは、ボディキャップを必ずカメラに取り付ける
- ボディキャップは、ゴミやほこりを落としてからカメラに取り付ける

# 撮影の基本操作

## ファインダーが鮮明に見えるように調整する



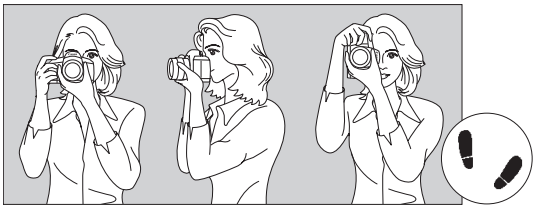
**視度調整つまみを回す**

- ファインダー内のAFフレームが最も鮮明に見えるように、つまみを右または左に回します。
- つまみが回しにくいときは、アイカップを取り外します（p.278）。

視度調整を行ってもファインダーが鮮明に見えないときは、視度補正レンズEg（別売）の使用をおすすめします。

## カメラの構え方

手ブレのない鮮明な画像を撮るため、カメラが動かないようにしっかり構えて撮影します。



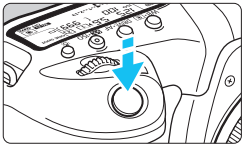
横位置　　縦位置

①右手でグリップを包むようにしっかりと握ります。
②左手でレンズを下から支えるように持ちます。
③右手人差し指の腹をシャッターボタンに軽くのせます。
④脇をしっかり締め、両ひじを軽く体の前に付けます。
⑤片足を軽く踏み出して、体を安定させます。
⑥カメラを額に付けるようにして、ファインダーをのぞきます。

液晶モニターを見ながら撮影するときは、297ページを参照してください。

## シャッターボタン

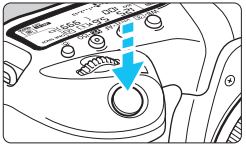
シャッターボタンは二段階になっています。シャッターボタンを一段目まで浅く押すことを「半押し」といいます。半押しからさらに二段目まで深く押すことを「全押し」といいます。



### 半押し

自動ピント合わせと、自動露出機構によるシャッター速度と絞り数値の設定が行われます。

露出値（シャッター速度と絞り数値）が、ファインダー内と表示パネルに約４秒間表示されます（測光タイマー／⏱4）。



### 全押し

シャッターが切れて撮影されます。

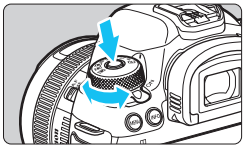
● **手ブレしにくい撮影のしかた**

手にしたカメラが撮影の瞬間に動くことを「手ブレ」といい、全体がぼやけたような写真になります。鮮明な写真を撮るために、次の点に注意してください。

・前ページの『カメラの構え方』のように、カメラが動かないようしっかり構える。
・シャッターボタンを半押ししてピントを合わせたあと、ゆっくりシャッターボタンを全押しする。

● 撮影モードが〈**P**〉〈**Tv**〉〈**Av**〉〈**M**〉〈**B**〉のときは、〈AF-ON〉ボタンで半押しと同じ操作ができます。
● シャッターボタンを一気に全押ししたり、半押し後すぐに全押しすると、一瞬の間を置いてから撮影されます。
● メニュー画面表示中、画像再生中でも、シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

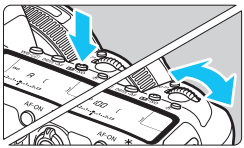
## モードダイヤル



**ダイヤル中央のロック解除ボタンを押しながら回す**

撮影モードの設定に使用します。

## メイン電子ダイヤル

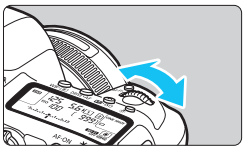


**(1) ボタンを押したあと〈 〉を回す**

〈WB・◉〉〈DRIVE・AF〉〈⚡・ISO〉ボタンなどを押すと、その機能の選択状態がタイマーで約6秒間保持されます（⏲6）。その間に〈 〉を回します。

タイマーが終了するか、シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

- 測光モード、AF動作、ISO感度、AFフレームの選択などに使用します。



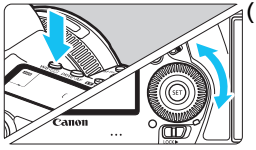
**(2) 〈 〉のみを回す**

ファインダー内表示や表示パネルを見ながら〈 〉を回します。

- シャッター速度や絞り数値の設定などに使用します。

（1）の操作は、〈LOCK▶〉スイッチが右側（マルチ電子ロック／p.62）でも行うことができます。

## ◯ サブ電子ダイヤル

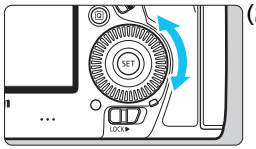



### (1) ボタンを押したあと〈◯〉を回す

〈WB•⊡〉〈DRIVE•AF〉〈⚡•ISO〉ボタンなどを押すと、その機能の選択状態がタイマーで約6秒間保持されます（⏱6）。その間に〈◯〉を回します。

タイマーが終了するか、シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

- ホワイトバランス、ドライブモード、ストロボ調光補正、AFフレームの選択などに使用します。




### (2) 〈◯〉のみを回す

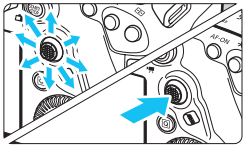
ファインダー内表示や表示パネルを見ながら〈◯〉を回します。

- 露出補正やマニュアル露出時の絞り数値の設定などに使用します。

（1）の操作は、〈LOCK▶〉スイッチが右側（マルチ電子ロック／p.62）でも行うことができます。

## マルチコントローラー

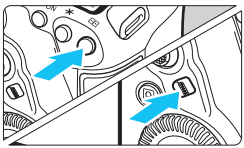
〈✣〉は8方向キーと中央押しボタンの構造になっています。〈✣〉に親指の腹を軽くあてて操作します。



- AFフレーム選択、ホワイトバランス補正、ライブビュー撮影／動画撮影時におけるAFフレーム／拡大表示枠の移動、再生時における拡大表示位置の移動、クイック設定などに使用します。
- メニューの選択・設定を行うこともできます。

## 測距エリア選択ボタン

測距エリアを選ぶときに使用します（p.106）。

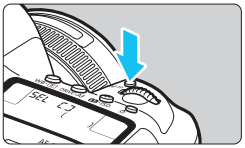


### 〈⊡〉ボタンを押したあと〈◆〉ボタンを押す

- 〈⊡〉ボタンを押すと、測距エリア選択モード／AFフレームの選択状態がタイマーで約6秒間保持されます（⏱6）。その間に〈◆〉（測距エリア選択）ボタンを押すと、測距エリア選択モードが切り換わります。

〈⊡〉ボタンを押したあと、〈M-Fn〉ボタンを押して測距エリア選択モードを選ぶこともできます。

## M-Fn マルチファンクションボタン



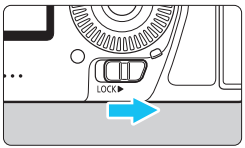
〈M-Fn〉ボタンは測距エリア選択モードの選択（p.106）、FEロック（p.286）などに使用します。

測距エリア選択モードを選ぶときは、〈⊡〉ボタンを押したあと（⏱6）、〈M-Fn〉ボタンを押します。

## LOCK▶ マルチ電子ロック

［**5：マルチ電子ロック**］を設定し、〈LOCK▶〉スイッチを右側にすると、メイン電子ダイヤル、サブ電子ダイヤル、マルチコントローラーが不用意に動いたり、測距エリア選択ボタンを不用意に押したり、タッチパネルに意図せずに触れたりして、設定が変わることを防止することができます。

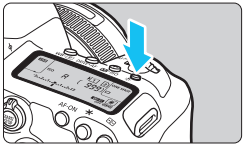
なお、［**5：マルチ電子ロック**］については、90ページを参照してください。




〈LOCK▶〉スイッチ左側：ロック解除
〈LOCK▶〉スイッチ右側：ロック

初期状態でロックしたときは〈◯〉がロックされます。

## 表示パネル照明



〈☼〉ボタンを押すと、表示パネルを照明することができます。〈☼〉ボタンを押すたびに点灯（⏱6）／消灯します。

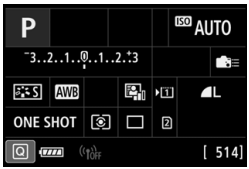
バルブ撮影時は、シャッターボタンを全押しすると照明が消えます。

## クイック設定画面を表示する

〈**INFO.**〉ボタンを何回か押すと（p.86）、クイック設定画面（p.88）、またはクイック設定カスタマイズ画面（p.510）が表示され、撮影機能の設定状態を確認することができます。

〈Q〉ボタンを押すと、撮影機能をクイック設定することができます（p.64）。

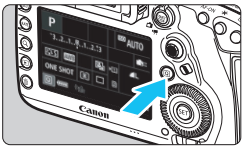
さらに〈**INFO.**〉ボタンを押すと、表示を消すことができます（p.86）。



# Q 撮影機能のクイック設定

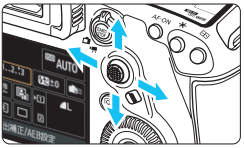
液晶モニターに表示されている撮影機能を直接選択して、直感的な操作で機能の設定を行うことができます。この操作を「クイック設定」といいます。

なお、クイック設定の基本操作は、「クイック設定画面」(p.88)、「クイック設定カスタマイズ画面」(p.510)で共通です。



## 1 〈Q〉ボタンを押す（⏱10）

➡ クイック設定の状態になります。

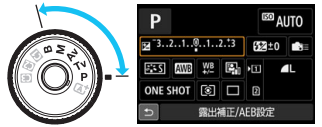


## 2 機能を設定する

- 〈✥〉で機能を選びます。
- ➡ 選んだ機能の内容が画面に表示されます。
- 〈◎〉または〈⚙〉を回して設定を変更します。

- 〈A+〉モード

- 〈P〉〈Tv〉〈Av〉〈M〉〈B〉モード

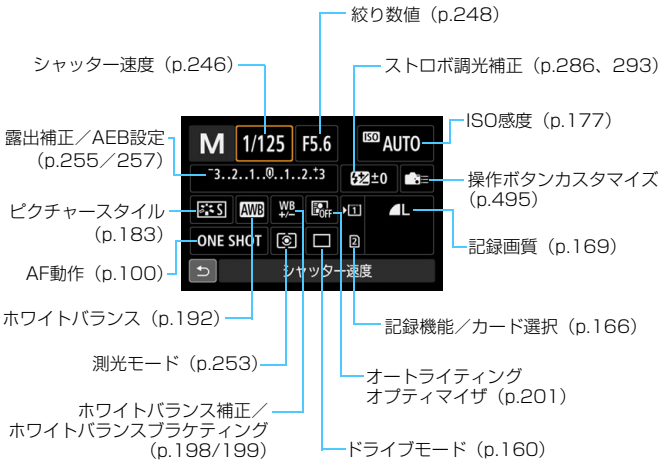



## 3 撮影する

- シャッターボタンを押して撮影します。
- ➡ 撮影した画像が表示されます。

- 〈A+〉モードで「クイック設定画面」を表示しているときは、［**記録機能とカード選択**］［**記録画質**］［**ドライブモード**］のみ設定できます。
- 画面にタッチしてクイック設定を行うこともできます（p.70）。

## クイック設定できる機能




クイック設定画面については、88ページを参照してください。

## クイック設定について

〈SET〉

- 機能を選び〈SET〉を押すと、その機能の設定画面が表示されます。
- 〈◯〉または〈◯〉を回して設定を変更します。さらにボタンを押して設定する項目もあります。
- 〈SET〉を押すと設定され、元の画面に戻ります。
- 〈MENU〉（p.495）を選んだときは、〈MENU〉ボタンを押すと、元の画面に戻ります。

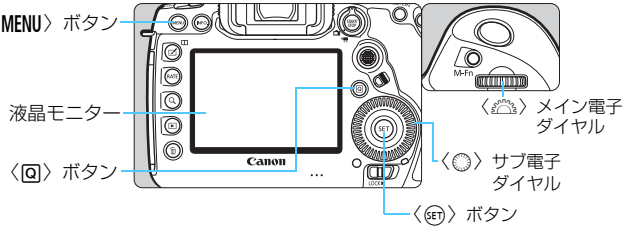
## クイック設定カスタマイズについて

画面に表示したい撮影機能の項目を任意に選んでレイアウトすることができます。この機能を「クイック設定カスタマイズ（画面）」といいます。クイック設定カスタマイズについては、510ページを参照してください。

クイック設定カスタマイズ画面で〈Q〉ボタンを押したときに、クイック設定できる項目がないときは、画面左下に表示されるクイック設定マークがオレンジ色で表示されます。

# MENU メニュー機能の操作と設定

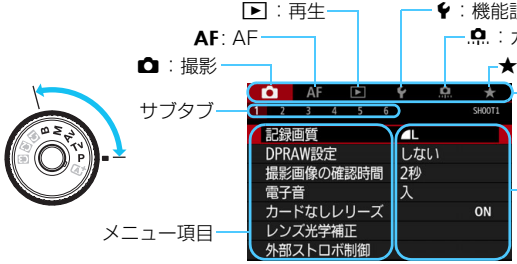
このカメラでは、記録画質や日付/時刻など、さまざまな設定をメニュー機能で行います。




## 〈A+〉モードのメニュー画面

* 〈A+〉モードのときは表示されないタブやメニュー項目があります。

## 〈P〉〈Tv〉〈Av〉〈M〉〈B〉モードのメニュー画面



## メニュー機能の設定操作

### 1 メニューを表示する

- 〈MENU〉ボタンを押すと表示されます。

### 2 タブを選ぶ

- 〈Q〉ボタンを押すと、メインタブ（系統）が切り換わります。
- 〈⟳〉を回してサブタブを選びます。
- 例えば、本文中の［📷5］タブは、📷（撮影）タブの左から5番目の「5」を選んでいる画面のことです。

### 3 項目を選ぶ

- 〈◯〉を回して項目を選び、〈SET〉を押します。

### 4 内容を選ぶ

- 〈◯〉を回して内容を選びます。
- 現在設定されている内容は青色で表示されます。

### 5 内容を設定する

- 〈SET〉を押すと設定されます。

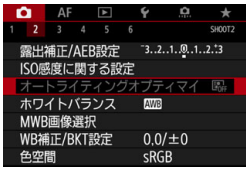
### 6 設定を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押すと表示が消え、撮影準備状態に戻ります。

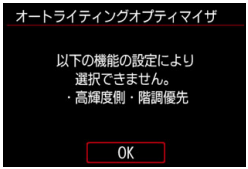
- これ以降のメニュー機能の説明は、〈MENU〉ボタンを押して、メニュー画面が表示されていることを前提に説明しています。
- 〈☆〉でメニュー機能の選択と設定を行うこともできます（［▶1：画像消去］［4▶1：カード初期化］を除く）。
- 操作の途中でキャンセルするときは、〈MENU〉ボタンを押します。
- メニュー機能の内容は、540ページを参照してください。

## メニュー項目の灰色表示について

例：高輝度側・階調優先設定時




灰色で表示されている項目は設定できません。すでに設定されている他の機能が優先されるためです。




灰色で表示されている項目を選び〈SET〉を押すと、優先されている機能を確認することができます。

優先されている機能の設定を解除すると、灰色で表示されていた項目が設定できるようになります。

項目によっては、優先されている機能を確認できないことがあります。

［4▶5：カメラ設定初期化］でメニュー機能の設定を初期状態に戻すことができます（p.77）。

# 画面にタッチして操作する

液晶モニター（タッチパネル）に指で触れて操作することができます。

## タッチ

**画面例（クイック設定）**

- 液晶モニターに指を触れて、指を離します。
- 液晶モニターに表示されるメニューやアイコンなどを選択するときに使います。
- タッチ操作ができるときは、アイコンの外側に枠が付いた状態で表示されます（メニュー画面を除く）。
  例えば［Q］をタッチすると、クイック設定の状態になります。［↩］をタッチすると、元の画面に戻ります。

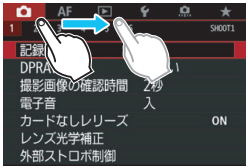
**タッチでできる操作**

- 〈MENU〉ボタンを押したあとのメニュー機能の設定
- クイック設定
- 〈WB･◉〉〈DRIVE･AF〉〈⚡･ISO〉〈▦〉ボタンを押したあとの機能設定
- ライブビュー撮影／動画撮影時のタッチAF
- ライブビュー撮影時のタッチシャッター
- ライブビュー撮影／動画撮影時の機能設定
- 再生操作

［**📷1：電子音**］を［**タッチ音切**］に設定すると、タッチ操作時に電子音が鳴らないようになります（p.76）。

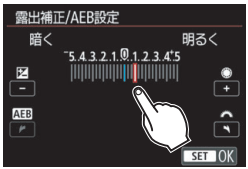
## ドラッグ

**画面例（メニュー画面）**




- 液晶モニターに指を触れたまま動かします。

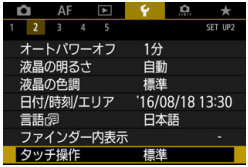
**画面例（目盛り表示）**




**ドラッグでできる操作**

- 〈MENU〉ボタンを押したあとのメニュー画面のタブや項目の選択
- 目盛り表示の設定
- クイック設定
- AFフレームの選択
- 再生操作

## MENU タッチしたときの反応を設定する




### 1 [タッチ操作] を選ぶ

- [2] タブの [**タッチ操作**] を選び、〈(SET)〉を押します。

### 2 タッチしたときの反応を設定する

- 内容を選び〈(SET)〉を押します。
- 通常は [**標準**] を選びます。
- [**敏感**] に設定すると、[**標準**] に比べて画面に触れたときの反応がよくなります。操作して使いやすい方を選んでください。
- タッチ操作を禁止するときは、[**しない**] を選びます。

**タッチパネル操作時の注意事項**

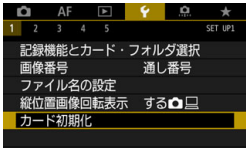
- 感圧式ではありませんので、爪やボールペンなど、先のとがったもので操作しないでください。
- 濡れた指で操作しないでください。
- 液晶モニターに水滴がついていたり、濡れた指で操作すると、反応しなくなったり、誤動作することがあります。カメラの電源を一旦切ってから、布などでふき取ってください。
- 液晶モニターに市販の保護シートやシールを貼ると、タッチの反応が悪くなることがあります。
- [**敏感**] 設定時に素早いタッチ操作を行うと、反応しづらいことがあります。

# 使い始める前の準備

## MENU カードを初期化する

新しく買ったカードや、他のカメラ、パソコンで初期化したカードは、このカメラで正しく記録できるように、初期化（フォーマット）してください。

**カードを初期化すると、カードに記録されている内容は、画像だけでなくすべて消去されます。プロテクトをかけた画像も消去されますので、記録内容を十分に確認してから初期化してください。必要なデータは、初期化する前に必ずパソコンなどに保存してください。**

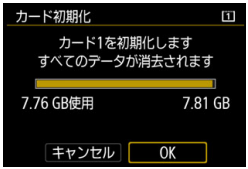



### 1 ［カード初期化］を選ぶ

- ［1］タブの［**カード初期化**］を選び、〈(SET)〉を押します。

### 2 カードを選ぶ

- ［1］はCFカード、［2］はSDカードです。
- カードを選び〈(SET)〉を押します。




### 3 初期化する

- ［OK］を選び〈(SET)〉を押します。

➡ カードが初期化されます。

- ［2］選択時は、物理フォーマットを行うことができます（p.74）。
〈🗑〉ボタンを押して、［**物理フォーマット**］の横に［✓］が付いた状態で［OK］を選びます。

## こんなときにカードを初期化します

- 新しく買ってきたカードを使うとき
- 他のカメラやパソコンで初期化したカードを使うとき
- 画像やデータでカードがいっぱいになったとき
- カードに関するエラーが表示されたとき（p.573）

**物理フォーマットについて**

- 物理フォーマットは、SDカードへの書き込み／読み取り速度が遅くなったと感じたときや、データを完全に消去するときなどに行います。
- 物理フォーマットは、SDカード内の全記憶領域に渡って初期化を行うため、通常のカード初期化よりも時間がかかります。
- 物理フォーマット中に［**キャンセル**］を選ぶと、初期化を中止することができます。中止した場合でも、通常の初期化は完了しているため、SDカードはそのまま問題なく使用できます。

### ● カード初期化時のファイルフォーマットについて

容量が128GBまでのCFカード、およびSD/SDHCカードはFAT32形式、128GBを超えるCFカード、およびSDXCカードはexFAT形式でフォーマットされます。

なお、exFAT形式でフォーマットされたカードを使用して動画撮影を行ったときは、1回の撮影でファイルサイズが4GBを超える場合でも、（ファイルが分割されず）1つの動画ファイルに記録されます（4GBを超える動画ファイルが作成されます）。

- このカメラで初期化した128GBを超えるCFカードや、SDXCカードを他のカメラに入れると、エラーが表示され、使用できないことがあります。また、exFAT形式でフォーマットされたカードは、パソコンのOSやカードリーダーにより、正しく認識されないことがあります。
- カード内のデータは、初期化や削除をしても、ファイルの管理情報が変更されるだけで完全には消去されません。譲渡・廃棄するときは、注意してください。カードを廃棄するときは、物理フォーマットを行ったり、カードを破壊するなどして個人情報の流出を防いでください。

- カード初期化画面に表示されるカードの総容量は、カードに表記されている容量よりも少なくなることがあります。
- 本機器はMicrosoftからライセンスされたexFAT技術を搭載しています。

## MENU 電子音が鳴らないようにする

ピントが合ったときや、セルフタイマー撮影時、画面にタッチして操作したときに、電子音が鳴らないようにすることができます。

**1 [電子音] を選ぶ**

- [📷1] タブの [**電子音**] を選び、〈SET〉を押します。

**2 [切] を選ぶ**

- [**切**] を選び〈SET〉を押します。
- ➡ 電子音が鳴らないようになります。
- [**タッチ音切**] を選んだときは、タッチ操作時のみ、電子音が鳴らないようになります。

## MENU 電源が切れる時間を設定する／オートパワーオフ

カメラを操作しない状態で放置すると、節電のため設定されている時間で電源が自動的に切れます。初期状態では1分に設定されていますが、この時間を変更することができます。自動的に切れないようにするときは、[**しない**] に設定します。なお、電源が切れたときは、シャッターボタンなどを押すと電源が入ります。

**1 [オートパワーオフ] を選ぶ**

- [🔧2] タブの [**オートパワーオフ**] を選び、〈SET〉を押します。

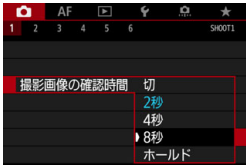
**2 時間を設定する**

- 内容を選び〈SET〉を押します。

[**しない**] に設定しても、節電のため約30分で液晶モニターの表示が消えます（カメラの電源は切れません）。

## MENU 撮影直後の画像表示時間を設定する

撮影直後に液晶モニターに表示される画像の表示時間を設定することができます。撮影画像を表示したままにするときは［**ホールド**］、撮影画像を表示しないようにするときは［**切**］に設定します。




**1 ［撮影画像の確認時間］を選ぶ**

- ［📷1］タブの［**撮影画像の確認時間**］を選び、〈(SET)〉を押します。

**2 時間を設定する**

- 内容を選び〈(SET)〉を押します。

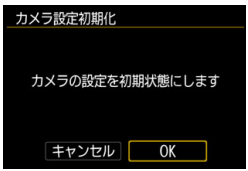
［**ホールド**］に設定すると、オートパワーオフの設定時間まで画像が表示されます。

## MENU カメラの機能設定を初期状態に戻す 応用

撮影機能やメニュー機能の設定を初期状態に戻すことができます。

**1 ［カメラ設定初期化］を選ぶ**

- ［🔧5］タブの［**カメラ設定初期化**］を選び、〈(SET)〉を押します。




**2 ［OK］を選ぶ**

➡ カメラ設定初期化を行うと、カメラの設定が78～80ページのようになります。

カスタム機能の一括解除については、481ページを参照してください。

### 撮影機能

| | |
|---|---|
| AF動作 | ワンショットAF |
| 測距エリア選択モード | 1点AF（任意選択） |
| AFフレーム選択 | 中央 |
| 登録AFフレーム | 解除 |
| 測光モード | ⊙（評価測光） |
| ISO感度に関する設定 | |
| ISO感度設定 | 自動設定（オート） |
| 静止画撮影の範囲 | 下限値：100<br>上限値：32000 |
| オートの範囲 | 下限値：100<br>上限値：12800 |
| オートの低速限界 | 自動設定 |
| ドライブモード | □（1枚撮影） |
| 露出補正／AEB | 解除 |
| ストロボ調光補正 | 解除 |
| 多重露出 | しない |
| HDRモード | HDRオフ |
| インターバルタイマー | しない |
| バルブタイマー | しない |
| フリッカーレス撮影 | しない |
| ミラーアップ撮影 | しない |
| ファインダー内表示 | |
| 水準器 | 表示しない |
| グリッド | 表示しない |
| ファインダー内表示設定 | フリッカー検知のみ選択 |
| カスタム機能 | そのまま |
| 外部ストロボ制御 | |
| ストロボの発光 | する |
| E-TTL II調光方式 | 評価調光 |
| Avモード時のストロボ同調速度 | 自動 |

### AF

| | |
|---|---|
| Case1～6 | Case1／各ケースの設定内容解除 |
| AIサーボAF 1コマ目レリーズ | バランス重視 |
| AIサーボAF連続撮影中レリーズ | バランス重視 |
| レンズの電子式手動フォーカス | ワンショットAF作動後・可能 |
| AF補助光の投光 | する |
| ワンショットAF時のレリーズ | ピント優先 |
| AF測距不能時のレンズ動作 | サーチ駆動する |
| 任意選択可能なAFフレーム | 全点 |
| 測距エリア選択モードの限定 | 全項目選択 |
| 測距エリア選択モードの切換 | M-Fnボタン |
| 縦位置/横位置のAFフレーム設定 | 同じ |
| ◌時のAIサーボAF開始測距点 | 自動 |
| 自動選択：EOS iTR AF | する（顔優先） |
| AFフレーム選択時の循環 | しない（端で突き当たり） |
| 測距時のAFフレーム表示 | 選択AFフレーム（常時表示） |
| ファインダー情報の照明 | 自動 |
| AIサーボAF時の照明 | しない |
| ファインダー内のAF作動表示 | 視野内に表示 |
| AFマイクロアジャストメント | しない／調整値保持 |

### 画像記録

| | |
|---|---|
| 記録画質 | L |
| DPRAW設定 | しない |
| ピクチャースタイル | スタンダード |
| オートライティング オプティマイザ | 標準 |
| レンズ光学補正 | |
| 周辺光量補正 | する |
| 歪曲収差補正 | しない |
| デジタルレンズ オプティマイザ | しない |
| 色収差補正 | する |
| 回折補正 | する |
| ホワイトバランス | AWB（雰囲気優先） |
| MWB画像選択 | 解除 |
| WB補正 | 解除 |
| WB-BKT | 解除 |
| 色空間 | sRGB |
| 長秒時露光のノイズ低減 | しない |
| 高感度撮影時のノイズ低減 | 標準 |
| 高輝度側・階調優先 | しない |
| 記録機能とカード・フォルダ選択 | |
| 記録機能 | 標準 |
| 記録・再生 | そのまま |
| 画像番号 | 通し番号 |
| ファイル名の設定 | カメラ固有設定 |
| ダストデリートデータ | 消去 |

### カメラ設定

| | |
|---|---|
| 撮影画像の確認時間 | 2秒 |
| 電子音 | 入 |
| カードなしレリーズ | する |
| での画像送り | （10枚） |
| ハイライト警告表示 | しない |
| AFフレーム表示 | しない |
| 再生時のグリッド | 表示しない |
| ヒストグラム | 輝度 |
| 動画再生カウント | そのまま |
| 拡大倍率設定（約） | 2倍（中央から） |
| HDMI機器制御 | 切 |
| 縦位置画像回転表示 | する |
| オートパワーオフ | 1分 |
| 液晶の明るさ | 自動 |
| 液晶の色調 | 2：標準 |
| 日付/時刻/エリア | そのまま |
| 言語 | そのまま |
| タッチ操作 | 標準 |
| ビデオ方式 | そのまま |
| 自動クリーニング | する |
| INFOボタンで表示する内容 | 全項目選択 |
| クイック設定カスタマイズ | そのまま |
| LV時にINFOボタンで表示する内容 | そのまま |
| RATEボタンの機能 | レーティング |
| GPS | 使わない |
| 内蔵無線通信の設定 | |
| Wi-Fi/NFC | 使わない |
| FTP転送の設定 | |
| 撮影時自動転送 | しない |
| マルチ電子ロック | ◎のみ選択 |
| カスタム撮影モード | そのまま |
| 著作権情報 | そのまま |
| 設定：MY MENU | そのまま |
| メニュー表示 | 通常表示 |

### ライブビュー撮影

| | |
|---|---|
| ライブビュー撮影 | する |
| AF方式 | +追尾優先AF |
| タッチシャッター | しない |
| グリッド | 表示しない |
| アスペクト比 | 3：2 |
| 露出Simulation | する |
| LVソフト撮影 | モード1 |
| 測光タイマー | 8秒 |

### 動画撮影

| ISO感度に関する設定 | |
|---|---|
| ISO感度設定 | 自動設定（オート） |
| 動画撮影の範囲 | 下限値：100<br>上限値：25600 |
| 4Kの範囲 | 下限値：100<br>上限値：12800 |
| 動画サーボAF | する |
| AF方式 | +追尾優先AF |
| グリッド | 表示しない |
| 動画記録画質 | |
| MOV/MP4 | MOV |
| 動画記録サイズ | NTSC：FHD 29.97P IPB<br>PAL：FHD 25.00P IPB |
| 24.00P | 切 |
| ハイフレームレート | 切 |
| 録音 | オート |
| ウィンドカット | 切 |
| アッテネーター | 切 |

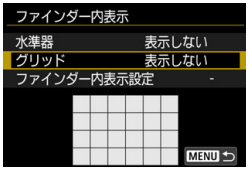
| 動画サーボAF時のAF速度 | |
|---|---|
| 作動条件 | 常時 |
| AF速度 | 0（標準） |
| 動画サーボAFの被写体追従特性 | 0 |
| 測光タイマー | 8秒 |
| タイムコード | |
| カウントアップ | そのまま |
| スタート時間設定 | そのまま |
| 動画記録カウント | そのまま |
| 動画再生カウント | そのまま |
| HDMI | そのまま |
| ドロップフレーム | そのまま |
| ボタンの機能 | AF/– |
| タイムラプス動画 | しない |
| HDMI接続時の表示 | □ |
| HDMI出力フレームレート | 自動 |
| リモコン撮影 | しない |

# ファインダー内にグリッドを表示する

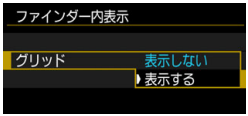
カメラの傾き確認や構図確認に有効なグリッドを、ファインダー内に表示することができます。

## 1 ［ファインダー内表示］を選ぶ

- ［2］タブの［**ファインダー内表示**］を選び、〈(SET)〉を押します。

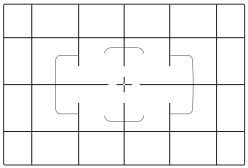



## 2 ［グリッド］を選ぶ




## 3 ［表示する］を選ぶ

➡ メニューを終了すると、ファインダー内にグリッドが表示されます。

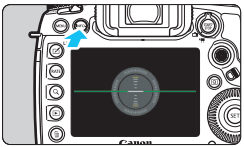


ライブビュー撮影時、および動画撮影開始前に、液晶モニターにグリッドを表示することができます（p.309、382）。

# 水準器を表示する

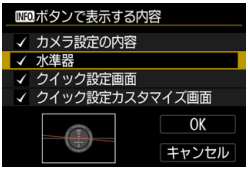
カメラの傾き補正に有効な水準器を、液晶モニターとファインダー内に表示することができます。

## 液晶モニターに水準器を表示する

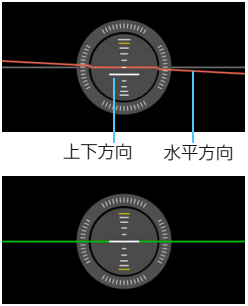


### 1 〈INFO.〉ボタンを押す

- 〈**INFO.**〉ボタンを押すたびに表示が変わります。
- 水準器を表示します。




- 水準器が表示されないときは、[**3**: **INFO. ボタンで表示する内容**]で、水準器が表示されるように設定します（p.86）。




### 2 カメラの傾きを確認する

- 水平方向と上下方向の傾きが1°きざみで表示されます。
- 赤い線が緑色に変わると、傾きがほぼ補正された状態です。

- 傾きが補正された状態でも±1°程度の誤差が生じることがあります。
- カメラが大きく傾いているときは誤差が大きくなります。

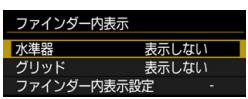
ライブビュー撮影時、動画撮影開始前に、同じ操作で水準器を表示することができます（+追尾優先AF時を除く）。

## MENU ファインダー内に水準器を表示する

ファインダー内の上部に水準器を表示することができます。この機能は撮影時に表示されるため、傾きを確認しながら撮影することができます。

**1 [ファインダー内表示] を選ぶ**

- [2] タブの [**ファインダー内表示**] を選び、〈SET〉を押します。



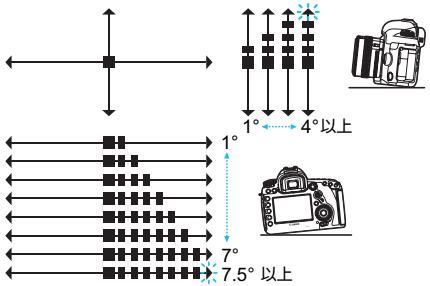

**2 [水準器] を選ぶ**

**3 [表示する] を選ぶ**

**4 シャッターボタンを半押しする**

➡ ファインダー内の上部に水準器が表示されます。

- 縦位置撮影時も機能します。




傾きが補正された状態でも±1°程度の誤差が生じることがあります。

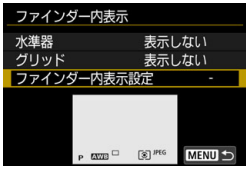
# MENU ファインダー内に表示する情報を設定する 応用

撮影に関する機能（バッテリー（電池残量）、撮影モード、ホワイトバランス、ドライブモード、AF動作、測光モード、記録画質（画像タイプ）、デジタルレンズオプティマイザ、DPRAW設定（撮影）、フリッカー検知）の設定情報をファインダー視野内に表示することができます。

なお、初期状態ではフリッカー検知のみ［✓］が設定されています。

## 1 ［ファインダー内表示］を選ぶ

- ［2］タブの［**ファインダー内表示**］を選び、〈(SET)〉を押します。




## 2 ［ファインダー内表示設定］を選ぶ

## 3 表示する項目に［✓］を付ける

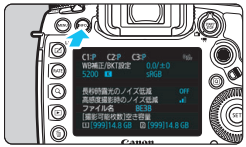
- 表示する項目を選び〈(SET)〉を押すと、［✓］が表示されます。
- この手順を繰り返して、表示する項目に［✓］を付け、［OK］を選びます。

➡ メニューを終了すると、ファインダー内に設定情報が表示されます（p.31）。

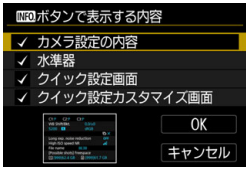
カメラにカードが入っていないときは、記録画質（画像タイプ：JPEG/RAW）は表示されません。

- 〈WB･〉〈DRIVE･AF〉ボタンを押したときや、レンズのフォーカスモードスイッチを操作したとき、電子式手動フォーカス機能を備えたレンズ使用時にレンズのフォーカスリングを回してAF/MFが切り換わったときは（p.138）、［✓］の設定に関わらず、ファインダー内に設定情報が表示されます。
- ［**バッテリー**］に［✓］を付けていなくても、電池残量が少なくなると、ファインダー内に電池残量（ / ）が表示されます。

# INFO.ボタンの機能

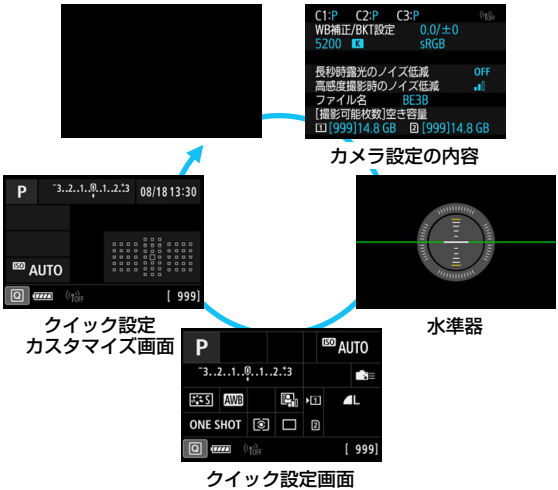


撮影準備状態で〈**INFO.**〉ボタンを押すと、「カメラ設定の内容」(p.87)、「水準器」(p.82)、「クイック設定画面」(p.88)、「クイック設定カスタマイズ画面」(p.510) を切り換えて表示することができます。



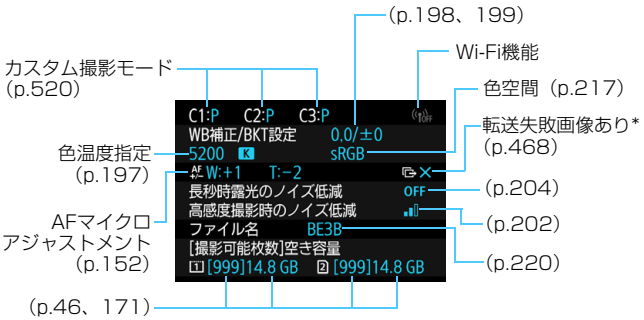

［**4**3］タブの［**INFO. ボタンで表示する内容**］で、〈**INFO.**〉ボタンを押したときに表示する項目を選ぶことができます。

- 使用する項目を選び、〈(SET)〉を押して［✓］を付けます。
- ［**OK**］を選ぶと設定されます。



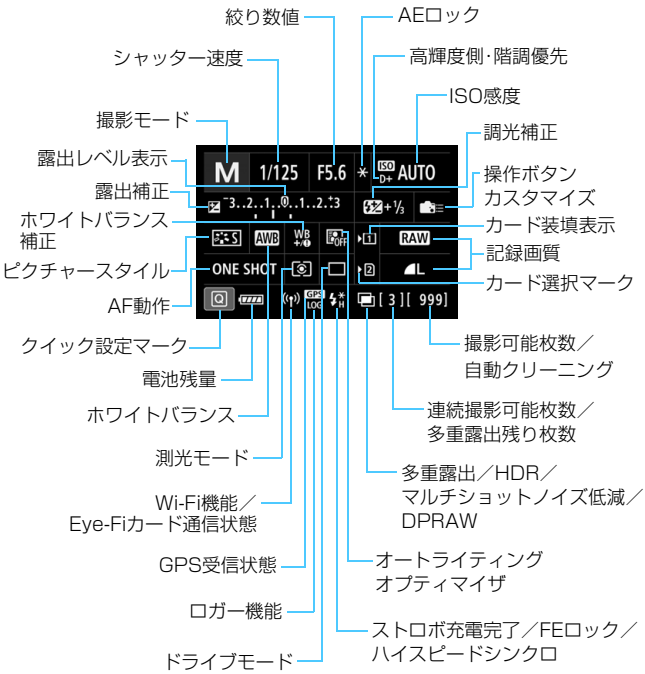
- 「水準器」「クイック設定」「クイック設定カスタマイズ」画面が表示された状態で電源を切ると、次に電源を入れたときに同じ画面が表示されます。解除するときは、〈**INFO.**〉ボタンを押して画面が表示されていない状態で電源を切ります。
- 4項目すべての［✓］を外すことはできません。
- ［**カメラ設定の内容**］のサンプル画面は、どの言語でも英語で表示されます。
- ［**水準器**］を表示しない設定にしても、ライブビュー撮影時、動画撮影時に〈**INFO.**〉ボタンを押すと、水準器が表示されることがあります。
- 「クイック設定画面」「クイック設定カスタマイズ画面」を表示しているときに〈Q〉ボタンを押すと、クイック設定を行うことができます（p.64）。

## カメラ設定の内容




* 転送失敗画像があるときに表示されます。

## クイック設定画面




* 設定に応じた部分のみ表示されます。

## クイック設定カスタマイズ画面

クイック設定カスタマイズについては、510 ページを参照してください。

## クイック設定画面／クイック設定カスタマイズ画面表示中のボタン操作について

〈WB•⊡〉〈DRIVE•AF〉〈⚡±•ISO〉〈⊞〉ボタンを押すと、設定画面が表示され、〈⚙〉〈◎〉〈✥〉〈◆〉〈M-Fn〉で設定することができます。

測光モード／ホワイトバランス

AF動作／ドライブモード

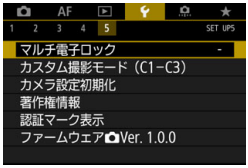
ISO感度／調光補正

測距エリア／AFフレーム選択

# LOCK▶ マルチ電子ロック機能を設定する

〈LOCK▶〉スイッチを右側にすると、メイン電子ダイヤル、サブ電子ダイヤル、マルチコントローラーが不用意に動いたり、測距エリア選択ボタンを不用意に押したり、タッチパネルに意図せずに触れたりして、設定が変わることを防止することができます。

なお、マルチ電子ロックスイッチについては、62ページを参照してください。




## 1 ［マルチ電子ロック］を選ぶ

- ［5］タブの［**マルチ電子ロック**］を選び、〈(SET)〉を押します。

## 2 操作を禁止する操作部材に［✓］を付ける

- 操作部材を選び〈(SET)〉を押すと、［✓］が表示されます。
- ［OK］を選びます。

➡ 〈LOCK▶〉スイッチを右側にしたときに、［✓］を付けた操作部材がロックされます。

- 〈LOCK▶〉スイッチが右側の状態で、禁止した操作部材を操作すると（［**タッチ操作**］設定時を除く）、ファインダー内と表示パネルに〈**L**〉、クイック設定画面（p.64）に［**LOCK**］が表示されます。ライブビュー撮影／動画撮影時は撮影画面に［**LOCK**］が表示されます。
- 初期状態でロックしたときは〈◌〉がロックされます。
- 〈A+〉モードのときは、［**タッチ操作**］のみ設定できます。
- クイック設定時（p.64）は、マルチ電子ロックの設定に関わらず、操作することができます。

# ヘルプ機能について

メニュー画面の下に［INFO.ヘルプ］が表示されているときは、機能の説明（ヘルプ）を表示することができます。〈INFO.〉ボタンを押すとヘルプが表示され、もう一度押すとヘルプ表示が終了します。なお、説明が1ページを超えるときは、画面の右側にスクロールバーが表示されます。そのときは〈◯〉を回します。

● ［AF1：Case2］の例

● ［AF4：縦位置/横位置のAFフレーム設定］の例

● ［5：マルチ電子ロック］の例

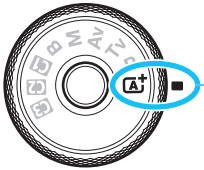
**MEMO**

# 2

# かんたん撮影

この章では、モードダイヤルの〈A+〉（シーンインテリジェントオート）モードで簡単に撮影する方法を説明しています。

〈A+〉モードのときは、シャッターボタンを押すだけでカメラまかせの撮影ができるように、各種機能が自動設定されます（p.536）。また、誤操作による失敗を防ぐため、複雑な撮影機能の設定変更はできないようになっていますので、安心して撮影してください。



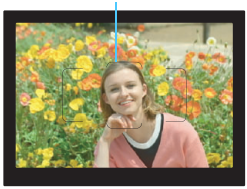

**オートライティングオプティマイザ機能について**
〈A+〉モードのときは、撮影結果に応じて画像を好ましい明るさ、コントラストに自動補正する「オートライティングオプティマイザ」機能（p.201）が働きます。

# 全自動で撮る（シーンインテリジェントオート）

**〈A+〉はカメラまかせの全自動撮影ができるモードです。カメラが撮影シーンを解析し、シーンに適した設定を自動的に行います。**また、被写体の動きを検知して、止まっている被写体や動いている被写体に、自動でピントを合わせることができます（p.97）。

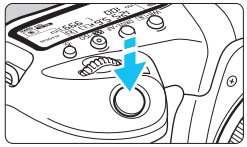
## 1 モードダイヤルを〈A+〉にする

- モードダイヤルの中央を押しながら回します。



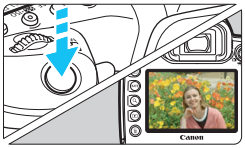

## 2 被写体（写したいもの）にエリアAFフレームを合わせる

- すべてのAFフレームを使ってピント合わせが行われ、基本的に一番近くにある被写体にピントが合います。
- エリアAFフレームの中央を被写体に重ね合わせると、ピントが合いやすくなります。



## 3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しすると、レンズが動いてピント合わせが行われます。
  - ➡ AF作動中は〈AF〉が表示されます。
  - ➡ ピントが合うと、ピントを合わせた AF フレームが表示されます。同時に「ピピッ」と電子音が鳴り、合焦マーク〈●〉が点灯します。
  - ➡ 暗い場所では、AFフレームが一瞬赤く光ります。



## 4 撮影する

- シャッターボタンを全押しすると撮影されます。
- ➡ 液晶モニターに撮影した画像が約2秒間表示されます。

〈📷+〉モードで、自然や屋外シーン、または夕景シーンを撮ると、より印象的な色あいの写真になります。なお、好みの色あいにならなかったときは、〈**P**〉〈**Tv**〉〈**Av**〉〈**M**〉モードにして、〈🎨〉以外のピクチャースタイルを選んで撮影してください（p.183）。

## ? こんなときは

- **合焦マーク〈●〉が点滅してピントが合わない**
  明暗差（コントラスト）のある部分にエリアAFフレームを合わせてシャッターボタンを半押ししてください（p.58）。また、被写体に近づきすぎているときは、離れて撮影してください。
- **ピントが合ったのにAFフレームが赤く照明されない**
  AFフレームは、暗い場所や、暗い被写体にピントが合ったときに赤く照明されます。
- **複数のAFフレームが同時に表示される**
  表示されているすべての位置にピントが合っています。被写体に合わせたAFフレームも表示されているときは、そのまま撮影してください。
- **電子音が小さく鳴り続ける（合焦マーク〈●〉も点灯しない）**
  動いている被写体に、カメラがピントを合わせ続けている状態です（AF作動表示〈AF〉は点灯しますが、合焦マーク〈●〉は点灯しません）。動いている被写体にピントが合った写真を撮ることができます。
  なお、この状態のときは、フォーカスロック撮影（p.97）はできません。

● **シャッターボタンを半押ししてもピント合わせをしない**
　レンズのフォーカスモードスイッチが〈**MF**〉（手動ピント合わせ）になっているときは、〈**AF**〉（自動ピント合わせ）にしてください。

● **シャッター速度（数字）が点滅している**
　光が不足している（暗い）ため、そのまま撮影すると手ブレによって被写体が鮮明に写らないことがあります。三脚を使用するか、EXスピードライト（別売／p.286）を使用して撮影することをおすすめします。

● **外部ストロボを使用したのに、画面の下側が不自然に暗くなった**
　レンズにフードが付いていると、ストロボの光がフードで遮られることがあります。写したいものが近くにあるときは、フードを取り外してストロボ撮影を行ってください。

## ブレの少ない画像を撮影するには

● ソフト1枚撮影（p.161）、ライブビュー撮影時の1枚撮影などが効果的です。撮影モードが〈**A+**〉以外のときは、ミラーアップ撮影（p.276）も効果的です。
● 連続撮影を行うときは、ソフト連続撮影（p.161）、ライブビュー撮影時の連続撮影が効果的です。
● （撮影機材の重さに耐えられる）しっかりした三脚を使用してください。また、カメラを三脚にしっかり固定してください。
● リモートスイッチ、リモートコントローラーなどの使用をおすすめします（p.279）。

# 全自動を使いこなす（シーンインテリジェントオート）

## 構図を変えて撮影する

シーンによっては、被写体を左右どちらかに配置して、背景もバランス良く入れた方が、奥行きのある写真に仕上がります。

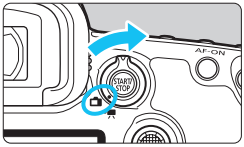
〈A+〉モードのときは止まっている被写体にピントを合わせると、シャッターボタンを半押ししている間、ピントが固定されます。そのまま構図を変え、シャッターボタンを全押しして撮影します。これを「フォーカスロック撮影」といいます。

## 動いているものを撮影する

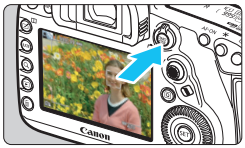
〈A+〉モードでは、ピントを合わせるときや、ピントを合わせたあとに被写体が動く（距離が変わる）と、被写体に対して連続的にピントを合わせ続ける機能（AIサーボAF）が働きます（電子音が小さく鳴り続けます）。被写体がエリアAFフレームから外れないようにして、シャッターボタンを半押しし続けると、ピントを合わせ続けます。シャッターチャンスがきたらシャッターボタンを全押しします。

## ライブビュー撮影について

液晶モニターに表示される映像を見ながら撮影することができます。この撮影方法を「ライブビュー撮影」といいます。詳しくは、297ページを参照してください。




### 1 ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈📷〉にする

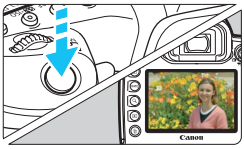



### 2 液晶モニターに映像を表示する

- 〈START/STOP〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに映像が表示されます。

### 3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせが行われます。
- ➡ ピントが合うとAFフレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。

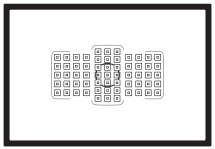



### 4 撮影する

- シャッターボタンを全押しします。
- ➡ 撮影が行われ、液晶モニターに撮影した画像が表示されます。
- ➡ 表示が終わると、自動的にライブビュー撮影に戻ります。
- 〈START/STOP〉ボタンを押すと、ライブビュー撮影が終了します。

# 3

# AF／ドライブの設定



ファインダー内に配置されたAFフレームを使用して、さまざまな撮影シーンに対応したAF撮影を行うことができます。

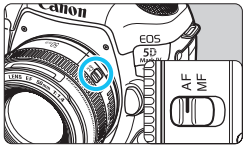
また、撮影状況や被写体にあわせて、オートフォーカスの作動特性を選択したり、最適なドライブモードを選択することができます。

- ページタイトル右の 応用 は、〈**P**〉〈**Tv**〉〈**Av**〉〈**M**〉〈**B**〉モード限定の機能であることを示しています。
- 〈A+〉モードのときはAF動作、測距エリア選択モードが自動設定されます。

〈**AF**〉はAuto Focus（オートフォーカス）の略で自動ピント合わせのことです。〈**MF**〉はManual Focus（マニュアルフォーカス）の略で手動ピント合わせのことです。

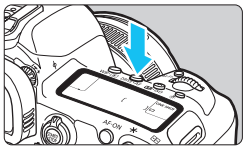
# AF: AF動作の選択 応用

撮影状況や被写体にあわせて、AFの作動特性を選ぶことができます。なお、〈A+〉モードのときは「AIフォーカスAF」に自動設定されます。

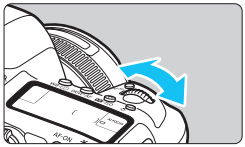


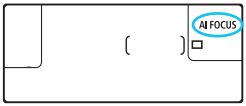

**1** **レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする**

**2** **〈P〉〈Tv〉〈Av〉〈M〉〈B〉モードのいずれかにする**




**3** **〈DRIVE•AF〉ボタンを押す**（⏱6）




**4** **AF動作を選ぶ**

- 表示パネルまたはファインダー内を見ながら〈◌〉を回します。

**ONE SHOT**：ワンショットAF
**AI FOCUS**：AIフォーカスAF
**AI SERVO**：AIサーボAF

- 測距エリア選択モード（p.109）が、ゾーンAF、ラージゾーンAF、自動選択AFのときに、人の顔や被写体の色の情報を利用したAFを行うことができます（p.147）。
- 〈**P**〉〈**Tv**〉〈**Av**〉〈**M**〉〈**B**〉モードのときは、〈**AF-ON**〉ボタンでAFを行うこともできます。

## 止まっている被写体を撮る：ワンショットAF

**止まっている被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しすると、1回だけピント合わせを行います。**

- 被写体にピントが合うと、ピント合わせを行ったAFフレームが表示され、ファインダー内に合焦マーク〈●〉が点灯します。
- 評価測光（p.253）のときは、ピントが合うと同時に露出値が決まります。
- シャッターボタンを半押ししている間、ピントが固定され、構図を変えて撮影することができます。

- ピントが合わないときは、ファインダー内の合焦マーク〈●〉が点滅します。このときはシャッターボタンを全押ししても撮影できません。構図を変えて再度ピント合わせを行うか、『AFの苦手な被写体』（p.158）を参照してください。
- ［**📷1：電子音**］を［**切**］に設定すると、ピントが合ったときに電子音が鳴らないようになります。
- ワンショットAFでピントを合わせたあと、ピントを固定したまま構図を変えて撮影する方法を「フォーカスロック撮影」といいます。エリアAFフレームに入らない、画面の端に被写体があるときなどに有効です。
- 電子式手動フォーカス機能を備えたレンズ使用時は、ピントを合わせたあと、シャッターボタンを半押ししたままフォーカスリングを回すと、手動でピント合わせができます（p.159）。

## 動いている被写体を撮る：AIサーボAF

**撮影距離がたえず変化する（動いている）被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押ししている間、被写体にピントを合わせ続けます。**

- 露出は撮影の瞬間に決まります。
- 測距エリア選択モード（p.109）が、自動選択AFのときは、エリアAFフレームで被写体を捉えていれば、継続してピント合わせが行われます。

AIサーボAFのときは、ピントが合っても電子音は鳴りません。また、ファインダー内の合焦マーク〈●〉も点灯しません。

## AF動作を自動的に切り換える：AIフォーカスAF

**被写体の状態に応じて、「ワンショットAF」から「AIサーボAF」へと作動特性が自動的に切り換わります。**

- ワンショットAFで被写体にピントを合わせたあと、被写体が連続して移動を始めると、その移動をカメラが検知して自動的にAIサーボAFに切り換わり、被写体の動きに追従してピントを合わせ続けます。

AIフォーカスAFのサーボ状態でピントが合うと、合焦音が小さく鳴り続けます。ただし、ファインダー内の合焦マーク〈●〉は点灯しません。なお、この状態のときは、フォーカスロック撮影はできません。

## AF作動表示について

シャッターボタンを半押しして、AFでピント合わせを行っているとき（AF作動中）は、ファインダー視野内の右下に〈AF〉が表示されます。

なお、ワンショットAF時は、ピントが合ったあと、シャッターボタンを半押ししている間も表示されます。

AF作動表示の表示位置を、ファインダーの視野外に変更することができます（p.151）。

## AFフレームの赤色照明について

初期状態では、暗い場所や、暗い被写体にピントが合ったときにAFフレームが赤く照明されます。なお、〈**P**〉〈**Tv**〉〈**Av**〉〈**M**〉〈**B**〉モードのときは、ピントが合ったときに、AFフレームを赤く照明するかどうかを設定することができます（p.150）。

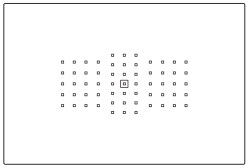
# 測距エリアとAFフレームを選択する 応用

このカメラは自動ピント合わせを行うためのAFフレーム（測距点）を61点備えています。撮影シーンや被写体に応じて、測距エリア選択モードとAFフレームを選ぶことができます。

**使用するレンズにより、使用可能な測距点の数や、測距パターン、エリアAFフレームの形などが異なります。詳しくは115ページ『使用レンズとAF測距について』を参照してください。**

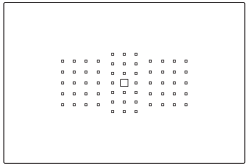
## 測距エリア選択モード

測距エリア選択モードを7種類の中から選ぶことができます。選択方法は106ページを参照してください。



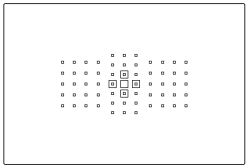
**回 スポット1点AF（任意選択）**

狭い部分にピントを合わせることができます。



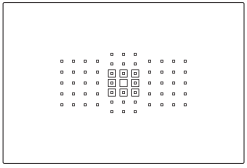
**□ 1点AF（任意選択）**

ピント合わせに使うAFフレーム1点を選択します。



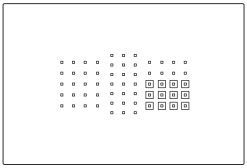
**領域拡大AF（任意選択）**

任意に選択した1点〈□〉と、隣接する上下左右のAFフレーム〈▫〉でピント合わせを行います。



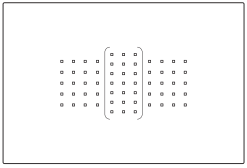
### 領域拡大AF（任意選択周囲）

任意に選択した1点〈□〉と、隣接する周囲のAFフレーム〈▫〉でピント合わせを行います。



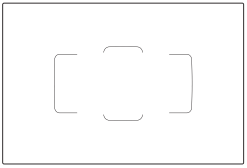
### ゾーンAF（ゾーン任意選択）

AF領域を9つの測距ゾーンに分けてピント合わせを行います。



### 〔 〕ラージゾーンAF（ゾーン任意選択）

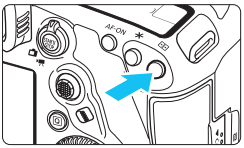
AF領域を左/中/右の3つの測距ゾーンに分けてピント合わせを行います。



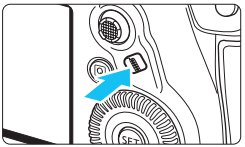
### 〔〕自動選択AF

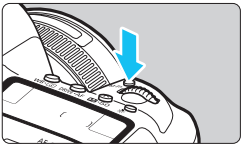
エリアAFフレーム（AF領域全体）でピント合わせを行います。

## 測距エリア選択モードを選ぶ



**1** **〈⊡〉ボタンを押す**（⏱6）





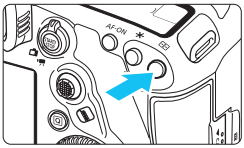
**2** **〈◈〉ボタンまたは〈M-Fn〉ボタンを押す**

- ファインダーをのぞきながら、〈◈〉（測距エリア選択）ボタンまたは〈M-Fn〉ボタンを押します。
- 〈◈〉ボタン、または〈M-Fn〉ボタンを押すたびに、測距エリア選択モードが切り換わります。

- ［**AF4：測距エリア選択モードの限定**］で、使用する測距エリア選択モードだけに限定することができます（p.143）。
- ［**AF4：測距エリア選択モードの切換**］を［⊡ **→メイン電子ダイヤル**］に設定すると、〈⊡〉ボタンを押したあと〈☁〉で測距エリア選択モードを選ぶことができます（p.144）。

## AFフレームを任意選択する

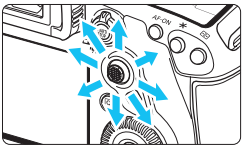
AFフレーム、またはゾーンを任意選択することができます。



### 1 〈⊡〉ボタンを押す（⏱6）

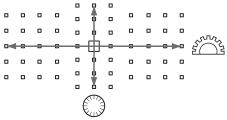
➡ ファインダー内に AF フレームが表示されます。

- 領域拡大AFのときは、隣接するAFフレームも表示されます。
- ゾーンAF、ラージゾーンAFのときは、選択されているゾーンが表示されます。



### 2 AFフレームを選択する

- 〈✣〉を操作すると、押した方向のAFフレームが選択されます。〈✣〉をまっすぐに押すと、中央のAFフレーム（または中央のゾーン）が選択されます。



- 〈⌓〉で横方向、〈◯〉で縦方向の AF フレームを選択することもできます。
- ゾーンAF、ラージゾーンAFのときは、〈⌓〉または〈◯〉を回すと、ゾーンが切り換わります（ゾーンAF時は循環）。

- ［**AF4：◯時のAIサーボAF開始測距点**］を［◯**時に選択した開始測距点**］に設定したときは（p.146）、この方法でAIサーボAFの開始位置を任意選択することができます。
- 〈⊡〉ボタンを押したときに、表示パネルに表示される内容は、次のとおりです。
  ·ゾーンAF、ラージゾーンAF、自動選択AF：**[ ⋯ ] AF**
  ·スポット1点AF、1点AF、領域拡大AF：**SEL [ ]**（中央）／**SEL AF**（中央以外）

## AFフレームの点灯／点滅について

〈⊡〉ボタンを押したときに、「点灯」しているAFフレームは、高精度なピント合わせができる「クロス測距点」です。「点滅」しているAFフレームは、横線または縦線を検出できる測距点です。詳しくは113～121ページを参照してください。

## AFフレームの登録について

使用頻度が高いAFフレームをカメラに登録することができます。

［.3：**操作ボタンカスタマイズ**］（p.495）の［**測光・AF開始**］［**登録AFフレームに切り換え**］［**AFフレームダイレクト選択**］［**選択⇄中央/登録AFフレーム切り換え**］［**撮影機能の登録と呼出**］の詳細設定画面で設定したボタンを操作すると、そのとき使用しているAFフレームから登録したAFフレームに瞬時に切り換えることができます。

なお、AFフレームの登録方法については、500ページを参照してください。

# 測距エリア選択モードの内容 応用

## ⊡ スポット1点AF（任意選択）

1点AFよりも狭い範囲にピントを合わせることができます。ピント合わせに使うAFフレーム1点〈⊡〉を選択します。

ピンポイントでピントを合わせたいときや、おりの中の動物などを撮影するときなどに効果的です。

なお、スポット1点AFは測距範囲が狭いため、手持ち撮影のときや動きのある被写体に対しては、ピントが合いにくいことがあります。

## □ 1点AF（任意選択）

ピント合わせに使うAFフレーム1点〈□〉を選択します。

## ⁘ 領域拡大AF（任意選択⁘）

任意に選択したAFフレーム〈□〉と、隣接する上下左右のAFフレーム〈▫〉でピント合わせを行います。1点AFでは被写体の追従が難しい、動きのある被写体を撮影するときに有効です。

AIサーボAFのときは、初めに任意選択したAFフレーム〈□〉で被写体を捉える必要がありますが、ゾーンAFよりも狙った被写体にピントを合わせやすい特性をもっています。

ワンショットAFのときは、領域拡大したAFフレームでピントが合うと、任意選択したAFフレーム〈□〉に加えて、そのAFフレームも〈□〉で表示されます。

## 領域拡大AF（任意選択周囲）

任意に選択したAFフレーム〈□〉と、隣接する周囲のAFフレーム〈▫〉でピント合わせを行います。領域拡大AF（任意選択▫）より、さらに広い範囲でピント合わせを行います。1点AFでは被写体の追従が難しい、動きのある被写体を撮影するときに有効です。

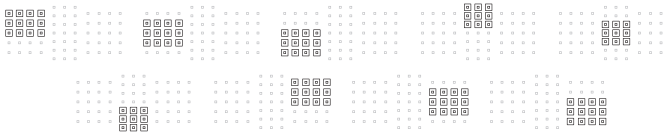
AIサーボAF、ワンショットAF時の動作は、領域拡大AF（任意選択▫）と同じです（p.109）。

## ゾーンAF（ゾーン任意選択）

AF領域を9つの測距ゾーンに分けてピント合わせを行います。選択したゾーンの全AFフレームで自動選択AFを行うため、1点AFや領域拡大AFよりも被写体を捉えやすく、動きのある被写体を撮影するときにも有効です。

ただし、基本的に最も近距離にある被写体にピントを合わせるため、狙った位置にピントが合いにくいことがあります。

ピントが合ったAFフレームは〈□〉で表示されます。



## 〔 〕ラージゾーンAF（ゾーン任意選択）

AF領域を左/中/右の3つの測距ゾーンに分けてピント合わせを行います。ゾーンAFよりも範囲が広く、選択したゾーンの全AFフレームで自動選択AFを行うため、1点AFや領域拡大AFよりも被写体を捉えやすく、動きのある被写体を撮影するときに有効です。

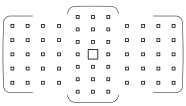
ただし、基本的に最も近距離にある被写体にピントを合わせるため、狙った位置にピントが合いにくいことがあります。

ピントが合ったAFフレームは〈□〉で表示されます。

## 〔〕自動選択AF

エリアAFフレーム（AF領域全体）でピント合わせを行います。ピントが合ったAFフレームは、〈□〉で表示されます。

ワンショットAFのときは、シャッターボタンを半押しすると、ピントの合ったAFフレーム〈□〉が表示されます。複数のAFフレームが表示されるときは、そのすべてにピントが合っています。基本的に最も近距離にある被写体にピントを合わせます。



AIサーボAFのときは、［**AF4**：〔〕**時のAIサーボAF開始測距点**］（p.146）で、AIサーボAFを開始する位置を設定することができます。撮影中はエリアAFフレームで被写体を捉えていれば、継続してピント合わせが行われます。

- ゾーンAF、ラージゾーンAF、自動選択AFで、AIサーボAFに設定したときは、ピント合わせを行うAFフレーム〈□〉が被写体に追従して移動しますが、被写体が小さいときなど、撮影条件によっては追従しないことがあります。
- スポット1点AF設定時は、EOS用外部ストロボのAF補助光でピントが合いにくいことがあります。
- 外側寄りのAFフレームを選択しているときや、広角／望遠レンズを使用しているときは、EOS用外部ストロボのAF補助光でピントが合いにくいことがあります。そのときは、中央AFフレーム、または中央寄りのAFフレームを選択してください。
- 低温下では、AFフレーム表示装置（液晶）の特性上、AFフレームの表示が見えにくくなることがあります。

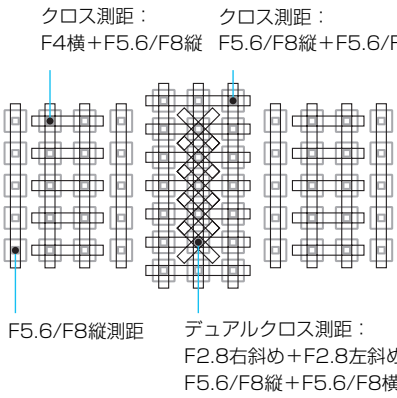
- ［**AF4：縦位置/横位置のAFフレーム設定**］で、測距エリア選択モード＋AFフレーム、またはAFフレームを、縦位置撮影と横位置撮影で別々に設定することができます（p.144）。
- ［**AF4：任意選択可能なAFフレーム**］で、任意選択できるAFフレームの数を変更することができます（p.142）。

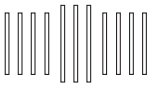
# AFセンサーについて

このカメラのAFセンサーは、測距点を61点備えています。各測距点に対する測距センサーのパターンは、図に示すとおりです。開放絞り数値がF2.8までの明るいレンズを使用すると、ファインダー中央部で高精度なAF測距を行うことができます。

**使用するレンズにより、使用可能な測距点の数や、測距パターン、エリアAFフレームの形などが異なります。詳しくは115ページの『使用レンズとAF測距について』を参照してください。**

**概念図**



| | |
|---|---|
| | 開放絞り数値がF2.8までのレンズに対応した、より高精度なピント合わせを行うことができる測距センサーです。斜め配列でクロスしているため、ピントが合いにくい被写体が少なくなっています。ファインダー中央部の縦5点をカバーしています。 |
| | 開放絞り数値がF4までのレンズに対応した、高精度なピント合わせを行うことができる測距センサーです。横配列になっているため、縦線を検出することができます。 |
| | 開放絞り数値がF5.6まで（エクステンダー使用時はF5.6超～F8まで）のレンズに対応した測距センサーです。横配列になっているため、縦線を検出することができます。ファインダー中央部の縦3列の測距点をカバーしています。 |
|  | 開放絞り数値がF5.6まで（エクステンダー使用時はF5.6超～F8まで）のレンズに対応した測距センサーです。縦配列になっているため、横線を検出することができます。61点すべての測距点をカバーしています。 |

# 使用レンズとAF測距について

- このカメラは61点のAFフレーム（測距点）を備えていますが、**使用するレンズにより、使用可能な測距点の数や、測距パターン、エリアAFフレームの形などが異なり、A～Kの11グループに分類されます。**
- **G～Kグループのレンズを使用したときは、測距点が少なくなります。**
- **レンズのグループ属性を122～126ページに記載しています。使用するレンズのグループ属性を確認してください。**

- 〈⊡〉ボタンを押したときに、「□」で示した位置のAFフレームが点滅します（「■/■/□」は点灯）。AFフレームの点灯／点滅については、108ページを参照してください。
- EOS 5D Mark IV（2016年下期）以降に発売された、新しいレンズのグループ属性については、キヤノンのホームページなどで確認してください。
- 国や地域によって販売されているレンズは異なります。

## Aグループ

61点でAF測距を行うことができます。すべての測距エリア選択モードを選ぶことができます。

■：デュアルクロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、他の測距点よりも高精度なピント合わせを行うことができます。

■：クロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、高精度なピント合わせを行うことができます。

□：横線を検出できる測距点です。

## Bグループ

61点でAF測距を行うことができます。すべての測距エリア選択モードを選ぶことができます。

■：デュアルクロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、他の測距点よりも高精度なピント合わせを行うことができます。
■：クロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、高精度なピント合わせを行うことができます。
□：横線を検出できる測距点です。

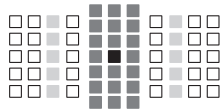
## Cグループ

61点でAF測距を行うことができます。すべての測距エリア選択モードを選ぶことができます。

■：クロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、高精度なピント合わせを行うことができます。
□：横線を検出できる測距点です。

## Dグループ

61点でAF測距を行うことができます。すべての測距エリア選択モードを選ぶことができます。



■：デュアルクロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、他の測距点よりも高精度なピント合わせを行うことができます。
■：クロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、高精度なピント合わせを行うことができます。
□：横線を検出できる測距点です。

## Eグループ

61点でAF測距を行うことができます。すべての測距エリア選択モードを選ぶことができます。

■：クロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、高精度なピント合わせを行うことができます。
□：横線を検出できる測距点です。

## Fグループ

61点でAF測距を行うことができます。すべての測距エリア選択モードを選ぶことができます。

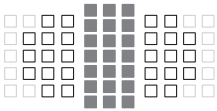
なお、レンズにエクステンダーを装着したときに（エクステンダー装着可能レンズのみ）、開放絞り数値がF8（F5.6超～F8まで）のときは、AFを行うことができます。

■：クロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、高精度なピント合わせを行うことができます。
□：横線を検出できる測距点です。

- 開放絞り数値がF5.6よりも暗い（F5.6超～F8までの）ときは、コントラストの低い被写体や低輝度な被写体を撮影するときに、AFでピントが合わないことがあります。
- 開放絞り数値がF8よりも暗い（F8超の）ときは、ファインダー撮影時にAFを行うことはできません。

## Gグループ

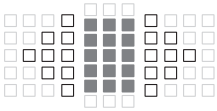
図に示す47点でAF測距を行うことができます（61点測距はできません）。すべての測距エリア選択モードを選ぶことができます。なお、自動選択AF時のAF領域を表す外側の枠（エリアAFフレーム）は、61点自動選択AF時と異なります。



■：クロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、高精度なピント合わせを行うことができます。
□：横線を検出できる測距点です。
□：使用できません（非表示）。

## Hグループ

図に示す33点でAF測距を行うことができます（61点測距はできません）。すべての測距エリア選択モードを選ぶことができます。なお、自動選択AF時のAF領域を表す外側の枠（エリアAFフレーム）は、61点自動選択AF時と異なります。



■：クロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、高精度なピント合わせを行うことができます。
□：横線を検出できる測距点です。
□：使用できません（非表示）。

## Iグループ

図に示す13点でAF測距を行うことができます。測距エリア選択モードは、スポット1点AF、1点AF、領域拡大AF（任意選択）、ゾーンAF（ゾーン任意選択）、13点自動選択AFから選ぶことができます。

なお、レンズにエクステンダーを装着したときに（エクステンダー装着可能レンズのみ）、開放絞り数値がF8（F5.6超～F8まで）のときは、AFを行うことができます。

■：クロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、高精度なピント合わせを行うことができます。
□：横線（中央横方向の測距点）、または縦線（中央の上下測距点）を検出できる測距点です。
□：使用できません（非表示）。

- 領域拡大AF（任意選択）設定時も13点の中で領域拡大が行われます。任意選択した測距点の上下左右に測距点がないときは、隣接する有効な測距点のみ領域拡大されます。
- 開放絞り数値がF5.6よりも暗い（F5.6超～F8までの）ときは、コントラストの低い被写体や低輝度な被写体を撮影するときに、AFでピントが合わないことがあります。
- 開放絞り数値がF8よりも暗い（F8超の）ときは、ファインダー撮影時にAFを行うことはできません。

## Jグループ

図に示す9点でAF測距を行うことができます。測距エリア選択モードは、スポット1点AF、1点AF、領域拡大AF（任意選択▫▫）、9点自動選択AFから選ぶことができます。

なお、レンズにエクステンダーを装着したときに（エクステンダー装着可能レンズのみ）、開放絞り数値がF8（F5.6超～F8まで）のときは、AFを行うことができます。

■：クロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、高精度なピント合わせを行うことができます。
□：横線（中央横方向の測距点）、または縦線（中央の上下測距点）を検出できる測距点です。
□：使用できません（非表示）。

- 領域拡大AF（任意選択▫▫）設定時も9点の中で領域拡大が行われます。任意選択した測距点の上下左右に測距点がないときは、隣接する有効な測距点のみ領域拡大されます。
- 開放絞り数値がF5.6よりも暗い（F5.6超～F8までの）ときは、コントラストの低い被写体や低輝度な被写体を撮影するときに、AFでピントが合わないことがあります。
- 開放絞り数値がF8よりも暗い（F8超の）ときは、ファインダー撮影時にAFを行うことはできません。

## Kグループ

中央測距点、およびその上下左右の測距点でAF測距を行うことができます。測距エリア選択モードは、スポット1点AF、1点AF、領域拡大AF（任意選択）のみ選ぶことができます。

■：クロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、高精度なピント合わせを行うことができます。

□：横線（中央の左右測距点）、または縦線（中央の上下測距点）を検出できる測距点です。任意選択はできません。領域拡大AF（任意選択）選択時のみ機能します。

□：使用できません（非表示）。

## レンズのグループ属性

| | |
|---|---|
| EF14mm F2.8L USM | B |
| EF14mm F2.8L II USM | B |
| EF15mm F2.8 Fisheye | B |
| EF20mm F2.8 USM | B |
| EF24mm F1.4L USM | A |
| EF24mm F1.4L II USM | A |
| EF24mm F2.8 | B |
| EF24mm F2.8 IS USM | B |
| EF28mm F1.8 USM | A |
| EF28mm F2.8 | D |
| EF28mm F2.8 IS USM | B |
| EF35mm F1.4L USM | A |
| EF35mm F1.4L II USM | A |
| EF35mm F2 | A |
| EF35mm F2 IS USM | A |
| EF40mm F2.8 STM | D |
| EF50mm F1.0L USM | A |
| EF50mm F1.2L USM | A |
| EF50mm F1.4 USM | A |
| EF50mm F1.8 | A |
| EF50mm F1.8 II | A |
| EF50mm F1.8 STM | A |
| EF50mm F2.5 Compact Macro | C |
| EF50mm F2.5 Compact Macro + LIFE SIZE Converter | F |
| EF85mm F1.2L USM | A |
| EF85mm F1.2L II USM | A |
| EF85mm F1.4L IS USM | A |
| EF85mm F1.8 USM | A |
| EF100mm F2 USM | A |
| EF100mm F2.8 Macro | C |
| EF100mm F2.8 Macro USM | F |
| EF100mm F2.8L Macro IS USM | C |
| EF135mm F2L USM | A |
| EF135mm F2L USM + Extender EF1.4x I/II/III | A |
| EF135mm F2L USM + Extender EF2x I/II/III | C |
| EF135mm F2.8 (Softfocus) | A |
| EF180mm F3.5L Macro USM | H |
| EF180mm F3.5L Macro USM + Extender EF1.4x I/II/III | H |
| EF200mm F1.8L USM | A |
| EF200mm F1.8L USM + Extender EF1.4x I/II/III | A※ |
| EF200mm F1.8L USM + Extender EF2x I/II/III | C※ |
| EF200mm F2L IS USM | A |
| EF200mm F2L IS USM + Extender EF1.4x I/II/III | A |
| EF200mm F2L IS USM + Extender EF2x I/II/III | C |
| EF200mm F2.8L USM | A |
| EF200mm F2.8L USM + Extender EF1.4x I/II/III | C |
| EF200mm F2.8L USM + Extender EF2x I/II/III | F |
| EF200mm F2.8L II USM | A |
| EF200mm F2.8L II USM + Extender EF1.4x I/II/III | C |
| EF200mm F2.8L II USM + Extender EF2x I/II/III | F |
| EF300mm F2.8L USM | A |
| EF300mm F2.8L USM + Extender EF1.4x I/II/III | C※ |
| EF300mm F2.8L USM + Extender EF2x I/II/III | F※ |
| EF300mm F2.8L IS USM | A |
| EF300mm F2.8L IS USM + Extender EF1.4x I/II/III | C |
| EF300mm F2.8L IS USM + Extender EF2x I/II/III | F |
| EF300mm F2.8L IS II USM | A |
| EF300mm F2.8L IS II USM + Extender EF1.4x I/II/III | C |
| EF300mm F2.8L IS II USM + Extender EF2x I/II/III | F |
| EF300mm F4L USM | C |
| EF300mm F4L USM + Extender EF1.4x I/II/III | F |
| EF300mm F4L USM + Extender EF2x I/II | J (F8) |

| | |
|---|---|
| EF300mm F4L USM + Extender EF2x III | I (F8) |
| EF300mm F4L IS USM | C |
| EF300mm F4L IS USM + Extender EF1.4x I/II/III | F |
| EF300mm F4L IS USM + Extender EF2x I/II | J (F8) |
| EF300mm F4L IS USM + Extender EF2x III | I (F8) |
| EF400mm F2.8L USM | A |
| EF400mm F2.8L USM + Extender EF1.4x I/II/III | C※ |
| EF400mm F2.8L USM + Extender EF2x I/II/III | F※ |
| EF400mm F2.8L II USM | A |
| EF400mm F2.8L II USM + Extender EF1.4x I/II/III | C※ |
| EF400mm F2.8L II USM + Extender EF2x I/II/III | F※ |
| EF400mm F2.8L IS USM | A |
| EF400mm F2.8L IS USM + Extender EF1.4x I/II/III | C |
| EF400mm F2.8L IS USM + Extender EF2x I/II/III | F |
| EF400mm F2.8L IS II USM | A |
| EF400mm F2.8L IS II USM + Extender EF1.4x I/II/III | C |
| EF400mm F2.8L IS II USM + Extender EF2x I/II/III | F |
| EF400mm F4 DO IS USM | C |
| EF400mm F4 DO IS USM + Extender EF1.4x I/II/III | F |
| EF400mm F4 DO IS USM + Extender EF2x I/II | J (F8) |
| EF400mm F4 DO IS USM + Extender EF2x III | F (F8) |
| EF400mm F4 DO IS II USM | C |
| EF400mm F4 DO IS II USM + Extender EF1.4x I/II/III | F |
| EF400mm F4 DO IS II USM + Extender EF2x I/II | J (F8) |
| EF400mm F4 DO IS II USM + Extender EF2x III | F (F8) |
| EF400mm F5.6L USM | F |
| EF400mm F5.6L USM + Extender EF1.4x I/II | J (F8) |
| EF400mm F5.6L USM + Extender EF1.4x III | F (F8) |
| EF500mm F4L IS USM | C |
| EF500mm F4L IS USM + Extender EF1.4x I/II/III | F |
| EF500mm F4L IS USM + Extender EF2x I/II | J (F8) |
| EF500mm F4L IS USM + Extender EF2x III | F (F8) |
| EF500mm F4L IS II USM | C |
| EF500mm F4L IS II USM + Extender EF1.4x I/II/III | F |
| EF500mm F4L IS II USM + Extender EF2x I/II | J (F8) |
| EF500mm F4L IS II USM + Extender EF2x III | F (F8) |
| EF500mm F4.5L USM | F |
| EF500mm F4.5L USM + Extender EF1.4x I/II | J (F8) |
| EF500mm F4.5L USM + Extender EF1.4x III | F (F8)※ |
| EF600mm F4L USM | C |
| EF600mm F4L USM + Extender EF1.4x I/II/III | F※ |
| EF600mm F4L USM + Extender EF2x I/II | J (F8) |
| EF600mm F4L USM + Extender EF2x III | F (F8)※ |
| EF600mm F4L IS USM | C |
| EF600mm F4L IS USM + Extender EF1.4x I/II/III | F |
| EF600mm F4L IS USM + Extender EF2x I/II | J (F8) |
| EF600mm F4L IS USM + Extender EF2x III | F (F8) |
| EF600mm F4L IS II USM | C |
| EF600mm F4L IS II USM + Extender EF1.4x I/II/III | F |
| EF600mm F4L IS II USM + Extender EF2x I/II | J (F8) |
| EF600mm F4L IS II USM + Extender EF2x III | F (F8) |
| EF800mm F5.6L IS USM | G |
| EF800mm F5.6L IS USM + Extender EF1.4x I/II/III | J (F8) |
| EF1200mm F5.6L USM | H |

| | |
|---|---|
| EF1200mm F5.6L USM + Extender EF1.4x I/II/III | J (F8)※ |
| EF8-15mm F4L Fisheye USM | C |
| EF11-24mm F4L USM | E |
| EF16-35mm F2.8L USM | A |
| EF16-35mm F2.8L II USM | A |
| EF16-35mm F2.8L III USM | A |
| EF16-35mm F4L IS USM | C |
| EF17-35mm F2.8L USM | A |
| EF17-40mm F4L USM | C |
| EF20-35mm F2.8L | A |
| EF20-35mm F3.5-4.5 USM | F |
| EF22-55mm F4-5.6 USM | G |
| EF24-70mm F2.8L USM | B |
| EF24-70mm F2.8L II USM | A |
| EF24-70mm F4L IS USM | C |
| EF24-85mm F3.5-4.5 USM | F |
| EF24-105mm F3.5-5.6 IS STM | F |
| EF24-105mm F4L IS USM | C |
| EF24-105mm F4L IS II USM | C |
| EF28-70mm F2.8L USM | A |
| EF28-70mm F3.5-4.5 | G |
| EF28-70mm F3.5-4.5 II | G |
| EF28-80mm F2.8-4L USM | C |
| EF28-80mm F3.5-5.6 | G |
| EF28-80mm F3.5-5.6 USM | G |
| EF28-80mm F3.5-5.6 II | G |
| EF28-80mm F3.5-5.6 II USM | G |
| EF28-80mm F3.5-5.6 III USM | G |
| EF28-80mm F3.5-5.6 IV USM | G |
| EF28-80mm F3.5-5.6 V USM | G |
| EF28-90mm F4-5.6 | F |
| EF28-90mm F4-5.6 USM | F |
| EF28-90mm F4-5.6 II | F |
| EF28-90mm F4-5.6 II USM | F |
| EF28-90mm F4-5.6 III | F |
| EF28-105mm F3.5-4.5 USM | F |
| EF28-105mm F3.5-4.5 II USM | F |
| EF28-105mm F4-5.6 | G |
| EF28-105mm F4-5.6 USM | G |
| EF28-135mm F3.5-5.6 IS USM | F |
| EF28-200mm F3.5-5.6 | F |
| EF28-200mm F3.5-5.6 USM | F |
| EF28-300mm F3.5-5.6L IS USM | F |
| EF35-70mm F3.5-4.5 | G |
| EF35-70mm F3.5-4.5A | G |
| EF35-80mm F4-5.6 | G |
| EF35-80mm F4-5.6 PZ | G |
| EF35-80mm F4-5.6 USM | G |
| EF35-80mm F4-5.6 II | G |
| EF35-80mm F4-5.6 III | G |
| EF35-105mm F3.5-4.5 | F |
| EF35-105mm F4.5-5.6 | K |
| EF35-105mm F4.5-5.6 USM | K |
| EF35-135mm F3.5-4.5 | F |
| EF35-135mm F4-5.6 USM | F |
| EF35-350mm F3.5-5.6L USM | G |
| EF38-76mm F4.5-5.6 | F |
| EF50-200mm F3.5-4.5 | F |
| EF50-200mm F3.5-4.5L | F |
| EF55-200mm F4.5-5.6 USM | F |
| EF55-200mm F4.5-5.6 II USM | F |
| EF70-200mm F2.8L USM | A |
| EF70-200mm F2.8L USM + Extender EF1.4x I/II/III | C※※ |
| EF70-200mm F2.8L USM + Extender EF2x I/II/III | F※※ |
| EF70-200mm F2.8L IS USM | A |
| EF70-200mm F2.8L IS USM + Extender EF1.4x I/II/III | C |
| EF70-200mm F2.8L IS USM + Extender EF2x I/II/III | F |
| EF70-200mm F2.8L IS II USM | A |
| EF70-200mm F2.8L IS II USM + Extender EF1.4x I/II/III | C |
| EF70-200mm F2.8L IS II USM + Extender EF2x I/II/III | F |
| EF70-200mm F4L USM | C |
| EF70-200mm F4L USM + Extender EF1.4x I/II/III | F |
| EF70-200mm F4L USM + Extender EF2x I/II | J (F8) |
| EF70-200mm F4L USM + Extender EF2x III | I (F8) |
| EF70-200mm F4L IS USM | C |

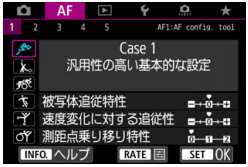
| | |
|---|---|
| EF70-200mm F4L IS USM + Extender EF1.4x I/II/III | F |
| EF70-200mm F4L IS USM + Extender EF2x I/II | J (F8) |
| EF70-200mm F4L IS USM + Extender EF2x III | I (F8) |
| EF70-210mm F3.5-4.5 USM | F |
| EF70-210mm F4 | C |
| EF70-300mm F4-5.6 IS USM | F |
| EF70-300mm F4-5.6 IS II USM | F |
| EF70-300mm F4-5.6L IS USM | F |
| EF70-300mm F4.5-5.6 DO IS USM | F |
| EF75-300mm F4-5.6 | F |
| EF75-300mm F4-5.6 USM | F |
| EF75-300mm F4-5.6 II | F |
| EF75-300mm F4-5.6 II USM | F |
| EF75-300mm F4-5.6 III | F |
| EF75-300mm F4-5.6 III USM | F |
| EF75-300mm F4-5.6 IS USM | F |
| EF80-200mm F2.8L | A |
| EF80-200mm F4.5-5.6 | F |
| EF80-200mm F4.5-5.6 USM | G |
| EF80-200mm F4.5-5.6 II | G |
| EF90-300mm F4.5-5.6 | F |
| EF90-300mm F4.5-5.6 USM | F |
| EF100-200mm F4.5A | F |
| EF100-300mm F4.5-5.6 USM | F |
| EF100-300mm F5.6 | F |
| EF100-300mm F5.6L | F |
| EF100-400mm F4.5-5.6L IS USM | F |
| EF100-400mm F4.5-5.6L IS USM + Extender EF1.4x I/II | J (F8) |
| EF100-400mm F4.5-5.6L IS USM + Extender EF1.4x III | F (F8) |
| EF100-400mm F4.5-5.6L IS II USM | F |
| EF100-400mm F4.5-5.6L IS II USM + Extender EF1.4x I/II | J (F8) |
| EF100-400mm F4.5-5.6L IS II USM + Extender EF1.4x III | F (F8) |
| EF200-400mm F4L IS USM Extender 1.4x | E |
| EF200-400mm F4L IS USM Extender 1.4x: 内蔵Ext.1.4x使用 | F |
| EF200-400mm F4L IS USM Extender 1.4x + Extender EF1.4x I/II/III | F |
| EF200-400mm F4L IS USM Extender 1.4x: 内蔵Ext.1.4x使用 + Extender EF1.4x I/II | J (F8) |
| EF200-400mm F4L IS USM Extender 1.4x: 内蔵Ext.1.4x使用 + Extender EF1.4x III | F (F8) |
| EF200-400mm F4L IS USM Extender 1.4x + Extender EF2x I/II | J (F8) |
| EF200-400mm F4L IS USM Extender 1.4x + Extender EF2x III | F (F8) |
| TS-E17mm F4L | C |
| TS-E24mm F3.5L | C |
| TS-E24mm F3.5L II | C |
| TS-E45mm F2.8 | A |
| TS-E50mm F2.8L Macro | C |
| TS-E90mm F2.8 | A |
| TS-E90mm F2.8L Macro | C |
| TS-E135mm F4L Macro | C |

- EF180mm F3.5L Macro USMにExtender EF2x（I/II/III型）を装着したときは、AFを行うことはできません。
- 表内に「※」が付いたレンズとExtender EF1.4x III／EF2x IIIの組み合わせのときや、「※※」が付いたレンズとエクステンダーの組み合わせのときは、AFでピントが正確に合わないことがあります。そのときは、使用するレンズやエクステンダーの使用説明書を参照してください。

TS-Eレンズ使用時は手動ピント合わせになります。グループ分類はティルト/シフトなしの条件です。

# MENU AIサーボAF特性を選ぶ 応用

撮影する被写体や撮影シーンにあわせて「Case1」～「Case6」を選ぶだけで、被写体や撮影シーンに適したAIサーボAF撮影を簡単に行うことができます。この機能を「AFカスタム設定ガイド機能」といいます。




**1 ［AF1］タブを選ぶ**

**2 ケースを選ぶ**

- 〈◯〉を回してケース（マーク）を選び、〈(SET)〉を押します。

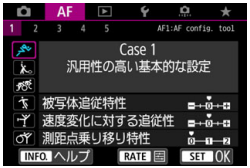
➡ 選択したケースに設定されます。選択したケースは青色で表示されます。

## 各ケースの内容について

「Case1」～「Case6」は、132～134ページで説明する「被写体追従特性」「速度変化に対する追従性」「測距点乗り移り特性」の組み合わせを6種類用意したものです。表の内容から、被写体や撮影シーンに適したケースを選びます。

| ケース | マーク | 内容 | 撮影シーン例 | ページ |
|---|---|---|---|---|
| Case1 | | 汎用性の高い基本的な設定 | 動きのある被写体全般 | 128 |
| Case2 | | 障害物が入るときや、被写体がAFフレームから外れやすいとき | テニス、水泳のバタフライ、フリースタイルスキーなど | 128 |
| Case3 | | 急に現れた被写体に素早くピントを合わせたいとき | 自転車ロードレースのスタート、アルペン滑降スキーなど | 129 |
| Case4 | | 被写体が急加速/急減速するとき | サッカー、モータースポーツ、バスケットボールなど | 129 |
| Case5 | | 被写体の上下左右の動きが大きいとき | フィギュアスケートなど | 130 |
| Case6 | | 被写体の速度変化と上下左右の動きが大きいとき | 新体操など | 131 |

## Case1：汎用性の高い基本的な設定



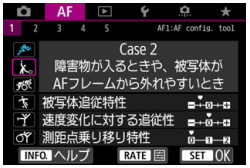

**初期設定**

・被写体追従特性：0
・速度変化に対する追従性：0
・測距点乗り移り特性：0

動きのある被写体全般に適応する、標準的な設定です。多くの被写体、撮影シーンに対応しています。

障害物がAFフレームを横切るときやAFフレームが被写体から外れやすいとき、急に現れた被写体にピントを合わせたいとき、被写体の速度が急激に変わるとき、被写体が上下左右に大きく移動するときは、［**Case2**］～［**Case6**］を選んでください。

## Case2：障害物が入るときや、被写体がAFフレームから外れやすいとき



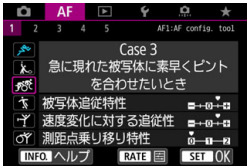

**初期設定**

・被写体追従特性：粘る：－1
・速度変化に対する追従性：0
・測距点乗り移り特性：0

障害物がAFフレームを横切ったときや、AFフレームが被写体から外れたときでも、できるだけ狙っている被写体にピントを合わせ続けようとする設定です。障害物や（ピント抜けで）背景にピントを合わせたくないときに有効です。

障害物がAFフレームに入り込んでいる時間、またはAFフレームが被写体から外れている時間が長く、初期設定では狙った被写体からピントが外れてしまうときは、［**被写体追従特性**］を［**−2**］に設定すると、改善することがあります（p.132）。

## Case3：急に現れた被写体に素早くピントを合わせたいとき



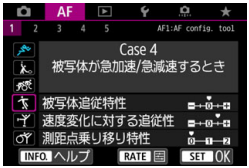

AFフレームで捉えた、距離の異なる被写体に、次々にピントを合わせることができる設定です。狙っていた被写体の手前に、新たな被写体が入り込んだときは、新たな被写体にピントを合わせます。最も近い被写体にピントを合わせたいときにも有効です。

**初期設定**

・被写体追従特性：俊敏：+1
・速度変化に対する追従性：+1
・測距点乗り移り特性：0

急に現れた被写体により素早くピントを合わせたいときは、［**被写体追従特性**］を［**+2**］に設定すると、改善することがあります（p.132）。

## Case4：被写体が急加速/急減速するとき




被写体の動く速さが瞬時に大きく変化しても、その速度変化に追従してピントを合わせようとする設定です。

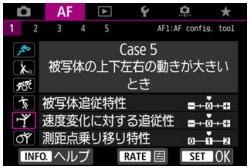
急な動き出しや、急加速、急減速、急停止する被写体に適しています。

**初期設定**

・被写体追従特性：0
・速度変化に対する追従性：+1
・測距点乗り移り特性：0

瞬時に速さが大きく変化するときは、［**速度変化に対する追従性**］を［**+2**］に設定すると、改善することがあります（p.133）。

## Case5：被写体の上下左右の動きが大きいとき




**初期設定**

・被写体追従特性：0
・速度変化に対する追従性：0
・測距点乗り移り特性：+1

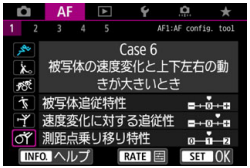
狙っている被写体の上下左右の動きが大きくても、被写体の移動に合わせて、AFフレームを自動的に切り換えて、ピントを追従させる設定です。上下左右の動きが大きい被写体を撮影するときに有効です。

この設定は、領域拡大AF（任意選択）、領域拡大AF（任意選択周囲）、ゾーンAF、ラージゾーンAF、自動選択AFで使用することをおすすめします。

スポット1点AF、1点AF時は、Case1と同じ動作になります。

被写体の上下左右の動きが激しいときは、［**測距点乗り移り特性**］を［**+2**］に設定すると、改善することがあります（p.134）。

## Case6：被写体の速度変化と上下左右の動きが大きいとき




**初期設定**

- 被写体追従特性：0
- 速度変化に対する追従性：+1
- 測距点乗り移り特性：+1

被写体の動く速さが瞬時に大きく変化しても、その速度変化に追従してピントを合わせようとする設定です。また、狙っている被写体の上下左右の動きが大きく、ピントが合わせにくいときは、被写体の移動に合わせて、AFフレームを自動的に切り換えながら、ピントを合わせ続けます。

この設定は、領域拡大AF（任意選択）、領域拡大AF（任意選択周囲）、ゾーンAF、ラージゾーンAF、自動選択AFで使用することをおすすめします。

スポット1点AF、1点AF時は、Case4と同じ動作になります。

- 瞬時に速さが大きく変化するときは、［**速度変化に対する追従性**］を［**+2**］に設定すると、改善することがあります（p.133）。
- 被写体の上下左右の動きが激しいときは、［**測距点乗り移り特性**］を［**+2**］に設定すると、改善することがあります（p.134）。

## 各特性について

### ● 被写体追従特性

AIサーボAF時の測距中に、障害物がAFフレームを横切ったときや、AFフレームが被写体から外れたときの、被写体に対する追従性の設定です。

**0**

標準的な設定です。動いている一般的な被写体に適しています。

**粘る：−2／粘る：−1**

障害物がAFフレームを横切ったときや、AFフレームが被写体から外れたときでも、できるだけ狙っている被写体にピントを合わせ続けようとします。−1よりも−2のほうが、狙っている被写体を長く捉え続けようとします。

その反面、意図しない被写体にピントが合ったときは、狙っている被写体に対するピント合わせに、やや時間がかかることがあります。

**俊敏：+2／俊敏：+1**

AFフレームで捉えた、距離の異なる被写体に、次々にピントを合わせることができます。最も近い被写体にピントを合わせたいときにも有効です。+1よりも+2のほうが、異なる被写体にレスポンス良く反応します。

その反面、意図しない被写体にピントが合いやすくなります。

［**被写体追従特性**］は、EOS-1D Mark III/IV、EOS-1Ds Mark III、EOS 7Dの［**AIサーボ時の被写体追従敏感度**］と同じ機能です。

### ● 速度変化に対する追従性

被写体が急に動き出したときや、急に止まったときなど、速さが瞬時に大きく変化したときの、被写体に対する追従性の設定です。

**0**

移動速度がほぼ一定の（速度変化が少ない）被写体に適しています。

**−2／−1**

移動速度がほぼ一定の（速度変化が少ない）被写体に適しています。0の設定でも被写体のわずかな動きや手前の障害物に影響されてピントが不安定なときに効果的です。

**+2／+1**

急な動き出し、急加速、急減速、急停止する被写体に適しています。被写体の速さが瞬時に大きく変化しても、狙っている被写体にピントを合わせ続けます。例として、向かってくる被写体の急な動き出しに対しては「後ピン」、急な停止に対しては「前ピン」になりにくくなります。+1よりも+2のほうが、大きい速度変化に追従することができます。

その反面、被写体のわずかな動きに影響されやすくなり、ピントが一時的に不安定になることがあります。

### ● 測距点乗り移り特性

被写体が上下左右に大きく移動したときの、被写体に対する測距点（AFフレーム）の乗り移り（切り換わり）による、追従性の設定です。

測距エリア選択モードが、領域拡大AF（任意選択）、領域拡大AF（任意選択周囲）、ゾーンAF、ラージゾーンAF、自動選択AFのときに機能します。

**0**

測距点の乗り移りが緩やかな、標準的な設定です。

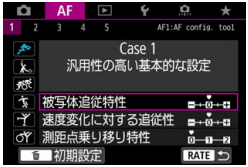
**+2／+1**

狙っている被写体が上下左右に大きく移動して、被写体が測距点から外れても、周囲の測距点に乗り移って、被写体にピントを合わせ続けます。被写体移動の連続性と、コントラストなどを判断し、信頼性の高い測距点を選んで乗り移りが行われます。+1よりも+2のほうが、測距点が乗り移りやすくなります。

その反面、広角レンズなど被写界深度の深いレンズを使用したときや、遠くにある小さい被写体を撮影すると、意図しない測距点でピント合わせが行われることがあります。

## 各ケースの設定内容を変更する

「Case1」～「Case6」に設定されている、「①被写体追従特性」、「②速度変化に対する追従性」、「③測距点乗り移り特性」を、任意に調整することができます。

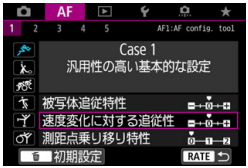



### 1 ケースを選ぶ

- 〈◯〉を回して調整したいケース（マーク）を選びます。

### 2 〈RATE〉ボタンを押す

- 項目に紫色の枠が付きます。




### 3 項目を選ぶ

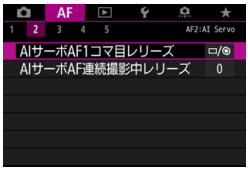
- 調整したい項目を選び、〈(SET)〉を押します。

### 4 調整する

- 内容を設定し〈(SET)〉を押します。
- ➡ 調整した内容が保存されます。
- 初期設定は［■］の薄い灰色で表示されます。
- 〈**RATE**〉ボタンを押すと、手順1の状態に戻ります。

- 手順2で〈**RATE**〉ボタンを押したあと、〈🗑〉ボタンを押すと、ケースごとに①②③の設定を初期状態に戻すことができます。
- マイメニューに①②③を登録することもできます（p.515）。そのときは、選択しているケースの設定変更になります。
- 調整したケースで撮影するときは、調整したケースを選択してから撮影します。

# MENU AF機能のカスタマイズ 応用




撮影スタイルや被写体に応じて、［**AF2**］～［**AF5**］タブで、AFに関連する機能を細かく設定することができます。

## AF2：AI Servo

### AIサーボAF1コマ目レリーズ AF2

AIサーボAFで1コマ目を撮影するときの、AFの作動特性とレリーズタイミングを設定することができます。

**ロ/◉：バランス重視**

ピントとレリーズタイミングのバランスをとった設定です。

**ロ：レリーズ優先**

シャッターボタンを押すと、ピントが合っていなくてもすぐに撮影されます。ピントよりも一瞬の撮影チャンスを優先したいときに有効です。

**◉：ピント優先**

シャッターボタンを押しても、ピントが合うまで撮影されません。被写体にピントを合わせてから撮影したいときに有効です。

## AIサーボAF連続撮影中レリーズ AF2

AIサーボAF＋連続撮影で1コマ目を撮影したあと、連続撮影を続けているときの、AFの作動特性とレリーズタイミングを設定することができます。

### 0：バランス重視

ピントと連続撮影速度のバランスをとった設定です。暗いときや被写体のコントラストが低いときは、連続撮影速度が遅くなることがあります。

### −2／−1：連続撮影速度優先

ピントよりも連続撮影速度を優先します。−1よりも−2のほうが連続撮影速度が低下しにくくなります。

### +2／+1：ピント優先

連続撮影速度よりもピントを優先します。ピントが合うまで撮影されません。+1よりも+2のほうが暗い場所でピントが合いやすくなりますが、連続撮影速度が遅くなることがあります。

**[連続撮影速度優先]**：[-1]［-2］に設定しても、フリッカー低減処理が行われる撮影条件のときは（p.215）、連続撮影速度が遅くなったり、連続撮影間隔にばらつきが生じることがあります。

［**0：バランス重視**］設定時に暗い場所でピントが合わないときは、［**ピント優先**］：［+1］［+2］に設定すると改善することがあります。

## AF3：One Shot

### レンズの電子式手動フォーカス　AF3

電子式の手動フォーカス機能を備えた以下のUSMレンズ、STMレンズを使用したときに、電子式手動フォーカスを行うかどうかを設定することができます。

| | | |
|---|---|---|
| EF50mm F1.0L USM | EF300mm F2.8L USM | EF600mm F4L USM |
| EF85mm F1.2L USM | EF400mm F2.8L USM | EF1200mm F5.6L USM |
| EF85mm F1.2L II USM | EF400mm F2.8L II USM | EF28-80mm F2.8-4L USM |
| EF200mm F1.8L USM | EF500mm F4.5L USM | EF70-300mm F4-5.6 IS II USM |

| | | |
|---|---|---|
| EF40mm F2.8 STM | EF50mm F1.8 STM | EF24-105mm F3.5-5.6 IS STM |

**ON：ワンショットAF作動後・可能**

AF動作を行ったあと、シャッターボタン半押しを続けていれば、手動でピント調整ができます。

**OFF：ワンショットAF作動後・不可**

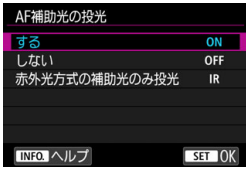
AF動作を行ったあとの、手動ピント調整を禁止します。

**OFF：AF時すべて不可**

レンズのフォーカスモードスイッチが〈AF〉に設定されているときは、手動ピント合わせを禁止します。

## AF補助光の投光 AF3

EOS用の外部ストロボから、AF補助光の投光を行うかどうかを設定することができます。




**ON：する**

必要に応じて外部ストロボからAF補助光が投光されます。

**OFF：しない**

外部ストロボからAF補助光は投光されません。「AF補助光が他の人の迷惑になるとき」などに設定します。

**IR：赤外光方式の補助光のみ投光**

外部ストロボのAF補助光の中で、「赤外光方式」のAF補助光だけを投光します。「ストロボ間欠発光方式のAF補助光は投光したくない」というときに設定します。

なお、LEDライト付きEXスピードライト使用時も、AF補助光としてのライトは自動点灯しません。

外部ストロボのカスタム機能の［**AF補助光の投光**］が［**しない**］に設定されているときは、この設定内容に関わらず、外部ストロボからAF補助光は投光されません。

## ワンショットAF時のレリーズ AF3

ワンショットAFで撮影するときの、AFの作動特性とレリーズタイミングを設定することができます。

**◉：ピント優先**

ピントが合うまで撮影されません。被写体にピントを合わせてから撮影したいときに有効です。

**□：レリーズ優先**

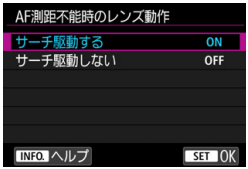
ピントよりも撮影タイミングを優先します。一瞬の撮影チャンスを優先したいときに有効です。

**ピントが合っていなくても撮影されますので、注意してください。**

## AF4

### AF測距不能時のレンズ動作 AF4

AFでピントが合わせられなかったときに、続けてAF動作を行うかどうかを設定することができます。




**ON：サーチ駆動する**

AFでピントが合わせられないときは、レンズを駆動させて、ピントの合う位置を探します。

**OFF：サーチ駆動しない**

AFを開始するときにピントが大きくボケているときや、AFでピントが合わせられないときは、レンズの駆動を行いません。サーチ駆動により、ピントが大きくボケることを防止します。

超望遠レンズなど、ピント駆動範囲が大きいレンズを使用したときにサーチ駆動を行うと、ピントが大きくボケて次のピント合わせに時間がかかることがあるため、［**サーチ駆動しない**］に設定することをおすすめします。

## 任意選択可能なAFフレーム AF4

任意選択できるAFフレームの数を変更することができます。なお、ゾーンAF、ラージゾーンAF、自動選択AF設定時は、[**任意選択可能なAFフレーム**]の設定に関わらず、選択した測距エリア選択モード（ゾーンAF、ラージゾーンAF、自動選択AF）でAFが行われます。

**：全点**

すべてのAFフレームが任意選択できます。

**：クロス測距点のみ**

クロス測距点のみ任意選択できます。AFフレームの数は、使用するレンズにより異なります。

**：15点**

主要な15点の任意選択ができます。

**：9点**

主要な9点の任意選択ができます。

使用レンズがG～Kグループのときは（p.118～121）、任意選択できるAFフレームの数が少なくなります。

- [**全点**] 以外に設定しても、領域拡大AF（任意選択）、領域拡大AF（任意選択周囲）、ゾーンAF、ラージゾーンAFを行うことができます。
- 〈⊞〉ボタンを押したときに、任意選択できないAFフレームはファインダー内に表示されません。

## 測距エリア選択モードの限定 AF4

測距エリア選択モードを、使用するモードだけに限定することができます。項目を選び〈SET〉を押して[✓]を付けます。[OK]を選ぶと設定されます。

なお、測距エリア選択モードについては、109～111ページを参照してください。

- ：スポット1点AF（任意選択）
- ：1点AF（任意選択）
- ：領域拡大AF（任意選択）
- ：領域拡大AF（任意選択周囲）
- ：ゾーンAF（ゾーン任意選択）
- ：ラージゾーンAF（ゾーン任意選択）
- ：自動選択AF

- [1点AF（任意選択）]の[✓]を外すことはできません。
- 使用レンズがI, J, Kグループの時は、[測距エリア選択モードの限定]で[✓]を付けても、使用できない測距エリア選択モードがあります（p.119～121）。

## 測距エリア選択モードの切換 AF4

測距エリア選択モードの切り換え方法を設定することができます。

### /M-Fn：→ M-Fnボタン

〈〉ボタンを押したあと、〈〉（測距エリア選択）ボタン、または〈**M-Fn**〉ボタンを押すと、測距エリア選択モードが切り換わります。

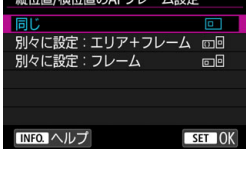
### / ：→ メイン電子ダイヤル

〈〉ボタンを押したあと、〈〉（測距エリア選択）ボタンを押すか、〈〉を回すと、測距エリア選択モードが切り換わります。

［**→メイン電子ダイヤル**］設定時に、AFフレームを横方向へ移動するときは、〈〉を操作してください。

## 縦位置/横位置のAFフレーム設定 AF4

縦位置撮影と横位置撮影で、測距エリア選択モード＋AFフレーム、またはAFフレームを別々に設定することができます。




### □：同じ

縦位置撮影、横位置撮影とも、同じ測距エリア選択モードと任意選択AFフレーム（またはゾーン）になります。

### : 別々に設定：エリア+フレーム

カメラの姿勢（①横位置状態、②グリップを上にした縦位置状態、③グリップを下にした縦位置状態）ごとに、測距エリア選択モードとAFフレーム（またはゾーン）を設定することができます。

①②③のそれぞれの姿勢で、測距エリア選択モードとAFフレーム（またはゾーン）を任意選択すると記憶されます。撮影時はカメラの姿勢に応じて、設定した測距エリア選択モードと任意選択したAFフレーム（またはゾーン）に切り換わります。

### : 別々に設定：フレーム

カメラの姿勢（①横位置状態、②グリップを上にした縦位置状態、③グリップを下にした縦位置状態）ごとに、AFフレームを設定することができます。同じ測距エリア選択モードで、姿勢に応じて自動的にAFフレームを切り換えたいときに有効です。

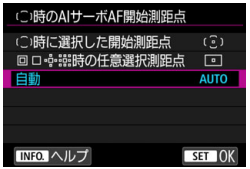
①②③のそれぞれの姿勢で、AFフレームを任意選択すると記憶されます。撮影時はカメラの姿勢に応じて、任意選択したAFフレームに切り換わります。測距エリア選択モードをスポット1点AF、1点AF、領域拡大AF（任意選択）、領域拡大AF（任意選択周囲）のいずれかに変更したときは、各姿勢で設定したAFフレームは保持されます。

測距エリア選択モードをゾーンAF、ラージゾーンAFに変更したときは、各姿勢で任意選択していたゾーンに切り換わります。

- カメラ設定初期化を行うと（p.77）、設定が［**同じ**］になります。また、①②③の姿勢で設定した内容が解除され、1点AFで中央のAFフレームが選択された状態になります。
- 設定後に異なるAFグループ（p.115～121／特にI, J, Kグループ）のレンズを装着したときは、設定した内容が解除されることがあります。

## 〔〕時のAIサーボAF開始測距点 AF4

測距エリア選択モードを自動選択AFに設定したときに、AIサーボAFをどのAFフレーム（測距点）から開始するかを設定することができます。




### 〔〕：〔〕時に選択した開始測距点

AF動作がAIサーボAF、測距エリア選択モードが自動選択AFに設定されているときに、任意選択したAFフレームからAIサーボAFが始まります。

### ：時の任意選択測距点

スポット1点AF、1点AF、領域拡大AF（任意選択）、領域拡大AF（任意選択周囲）から、自動選択AFに切り換えたときに、それまで任意選択していたAFフレームからAIサーボAFが始まります。自動選択AFに切り換える前に選択していたAFフレームからAIサーボAFを開始したいときに有効です。

なお、［3：**操作ボタンカスタマイズ**］の［**測光・AF開始**］（p.500）、［**登録AF機能に切り換え**］（p.502）、［**撮影機能の登録と呼出**］（p.508）で、測距エリア選択モードを自動選択AFに設定したあと、スポット1点AF、1点AF、領域拡大AF（任意選択）、領域拡大AF（任意選択周囲）で撮影しているときに、機能を割り当てたボタンを押すと、直前に使用していたAFフレームから自動選択AFによるAIサーボAF撮影を行うことができます。

### AUTO：自動

撮影状況に応じてAIサーボAFを開始するAFフレームが自動的に決まります。

［**時の任意選択測距点**］設定時に、測距エリア選択モードをゾーンAF、ラージゾーンAFに切り換えたときも、それまで任意選択していたAFフレームに対応するゾーンからAIサーボAFが始まります。

## 自動選択：EOS iTR AF　AF4

EOS iTR* AFは、人の顔や被写体の色を認識してAFを行う機能です。測距エリア選択モードが、ゾーンAF、ラージゾーンAF、自動選択AFのときに機能します。

* intelligent Tracking and Recognition：測光センサーで被写体を認識して測距点を追従させる機能

**：する（顔優先）**

AF情報だけでなく、人の顔や被写体の色の情報を加味して、測距点の自動選択が行われます。

AIサーボAF時は、［**する**］に設定したときよりも、人の顔の情報を優先的に活用しながら被写体追尾が行われます。そのため、AF情報だけのときよりも被写体を捉え続けやすくなります。

ワンショットAF時は、人の顔にピントが合いやすくなるため、構図を優先した撮影を行うことができます。

**ON：する**

AF情報だけでなく、人の顔や被写体の色の情報を加味して、測距点の自動選択が行われます。AIサーボAF時は、人の顔の情報だけでなく、初めにピントを合わせた位置（測距点）の情報も重視して被写体追尾が行われます。なお、ワンショットAF時の動作は［**する（顔優先）**］と同じです。

**OFF：しない**

AF情報だけで測距点の自動選択が行われます（人の顔や被写体の色の情報を活用したAFは行われません）。

- ［**する（顔優先）**］［**する**］に設定したときは、［**しない**］に設定したときよりも、ピント合わせにやや時間がかかることがあります。
- ［**する（顔優先）**］［**する**］に設定しても、撮影条件や被写体によっては効果が得られないことがあります。
- EOS用外部ストロボからAF補助光が自動的に投光されるような暗い場所では、AF情報だけで測距点の自動選択が行われます。
- 人の顔が小さいときや暗い場所では、顔を検知できないことがあります。

## AF5

### AFフレーム選択時の循環　AF5

AFフレーム選択時に、一番端のAFフレームで選択を止めるか、循環して反対側のAFフレームが選択できるようにするかを設定することができます。

**：しない（端で突き当たり）**

一番端のAFフレームを頻繁に使用するときに有効です。

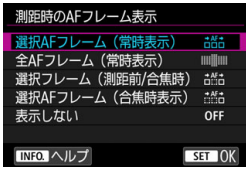
**：する**

一番端のAFフレームで止まらずに反対側のAFフレームが選択できます。

［**AF4：〔〕時のAIサーボAF開始測距点**］が［**〔〕時に選択した開始測距点**］に設定されているときは、AIサーボAFの開始測距点を選択するときにも機能します。

## 測距時のAFフレーム表示 AF5

AF開始時、AF中、合焦時、合焦後の測光タイマー作動中にAFフレームを表示するかどうかを設定することができます。




：選択AFフレーム（常時表示）
：全AFフレーム（常時表示）
：選択フレーム（測距前/合焦時）
：選択AFフレーム（合焦時表示）
**OFF**：表示しない

○：表示／×：非表示

| 測距時のAFフレーム表示 | AFフレーム選択時 | AF開始前（撮影準備状態） | AF開始時 |
|---|---|---|---|
| 選択AFフレーム（常時表示） | ○ | ○ | ○ |
| 全AFフレーム（常時表示） | ○ | ○ | ○ |
| 選択フレーム（測距前/合焦時） | ○ | ○ | ○ |
| 選択AFフレーム（合焦時表示） | ○ | × | ○ |
| 表示しない | ○ | × | × |

| 測距時のAFフレーム表示 | AF中 | 合焦時 | 合焦後の測光タイマー作動中 |
|---|---|---|---|
| 選択AFフレーム（常時表示） | ○ | ○ | ○ |
| 全AFフレーム（常時表示） | ○ | ○ | ○ |
| 選択フレーム（測距前/合焦時） | × | ○ | ○ |
| 選択AFフレーム（合焦時表示） | × | ○ | × |
| 表示しない | × | × | × |

## ファインダー情報の照明 AF5

ピントが合ったときに、ファインダー内に表示されるAFフレームを赤く照明するかどうかを設定することができます。

**AUTO：自動**

暗い場所や、暗い被写体にピントが合ったときに、自動的に赤く照明されます。

**ON：する**

周囲の明るさに関わらず、赤く照明されます。

**OFF：しない**

赤い照明は行われません。

［**自動**］［**する**］設定時に〈Q〉ボタンを押すと、AIサーボAF時にAFフレームを赤く照明するかどうかを設定することができます。

**OFF：しない**

AIサーボAF時に赤い照明は行われません。

**ON：する**

AIサーボAF時にピントを合わせているAFフレームが赤く照明されます。連続撮影中も照明が行われます。

なお、［**ファインダー情報の照明**］を［**しない**］に設定したときは機能しません。

- 〈⊞〉ボタンを押したときは、この設定に関わらず赤く照明されます。
- ファインダー内に表示される水準器やグリッド、［**ファインダー内表示設定**］（p.84）で設定した情報なども赤く照明されます。

## ファインダー内のAF作動表示 AF5

AFが作動していることを示すマーク（AF作動表示）を、ファインダーの視野内に表示するか、視野外に表示するかを選ぶことができます。

**：視野内に表示**

ファインダー視野内の右下に〈AF〉が表示されます。

**：視野外に表示**

ファインダー視野外の合焦マーク〈●〉の下に〈◣◢〉が表示されます。

AF作動表示については、103ページを参照してください。

## AFマイクロアジャストメント AF5

AFでピントが合う位置を微調整することができます。詳しくは、次ページの『AFによる合焦位置を微調整する』を参照してください。

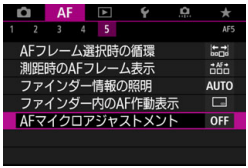
# MENU AFによる合焦位置を微調整する 応用

ファインダー撮影でAFを行ったときの、ピントの合う位置を微調整することができます。この機能を「AFマイクロアジャストメント」といいます。調整を行う前に、157ページの『AFマイクロアジャストメント全般の注意事項』『AFマイクロアジャストメント共通事項』をあわせてお読みください。

**通常はこの機能でピント合焦位置を調整する必要はありません。必要な場合のみ、調整を行ってください。なお、調整により適切なピントで撮影できなくなる恐れがありますので、十分に注意してください。**

## 全レンズ一律調整

「調整→撮影→確認」を繰り返して、調整値を手動で設定します。AF撮影のときは、使用するレンズに関わらず、常に調整値分、ピント合焦位置がシフトします。




**1 [AFマイクロアジャストメント]を選ぶ**

● [**AF5**]タブの[**AFマイクロアジャストメント**]を選び、〈(SET)〉を押します。

**2 [全レンズ一律調整]を選ぶ**

**3 〈INFO.〉ボタンを押す**

➡ [**全レンズ一律調整**]画面が表示されます。

## 4 調整する

- 調整値を設定します。調整範囲は±20ステップです。
- 「－：」側に設定すると、合焦位置が基準から手前側（前方）に調整されます。
- 「＋：」側に設定すると、合焦位置が基準から奥側（後方）に調整されます。
- 調整が終わったら〈SET〉を押します。
- [**全レンズ一律調整**]を選び〈SET〉を押します。

## 5 調整結果を確認する

- 撮影を行い、画像を再生して（p.394）、調整結果を確認します。
- 撮影結果が狙った位置よりも手前にピントが合っているときは「＋：」側、奥側にピントが合っているときは「－：」側に調整します。
- 必要に応じて調整を繰り返します。

[**全レンズ一律調整**]のときは、ズームレンズの広角側と望遠側で、別々にAF調整を行うことはできません。

## レンズごとに調整

レンズごとに調整を行い、調整結果をカメラに登録することができます。登録できるレンズ本数は最大40本です。登録したレンズを使用してAF撮影を行うと、常に調整値分、ピント合焦位置がシフトします。

「調整→撮影→確認」を繰り返して、調整値を手動で設定します。使用レンズがズームレンズのときは、広角側（W）、望遠側（T）の調整値を設定します。

### 1 ［レンズごとに調整］を選ぶ

### 2 〈INFO.〉ボタンを押す

➡ ［レンズごとに調整］画面が表示されます。

### 3 レンズ情報を確認／変更する

**レンズ情報表示**

- 〈Q〉ボタンを押します。
- ➡ 画面にレンズ名と10桁のシリアル番号が表示されます。シリアル番号が表示されているときは、［OK］を選び手順4に進みます。
- レンズのシリアル番号が認識できないときは、「0000000000」と表示されますので、次ページの操作で番号を入力します。
- 番号の先頭に表示される「*」については次ページを参照してください。

**シリアル番号の入力**

- 入力する桁を選び〈SET〉を押して〈▲〉の状態にします。
- 数値を入力し〈SET〉を押します。
- すべての桁の入力が終わったら［**OK**］を選びます。

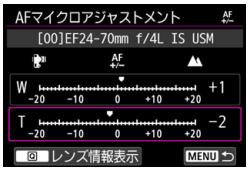
## レンズのシリアル番号について

- **手順3で10桁の番号の先頭に「*」が表示されたレンズは、同じ種類のレンズを複数登録することはできません。なお、番号を入力しても「*」の表示は消えません。**
- **レンズに記載されているシリアル番号と、手順3で表示されるシリアル番号が異なることがありますが、故障ではありません。**
- レンズのシリアル番号にアルファベットが含まれているときは、アルファベットを除く数字を入力してください。
- レンズのシリアル番号が11桁以上のときは、「下10桁」の番号を入力してください。
- シリアル番号が記載されている位置は、レンズによって異なります。
- レンズによっては、シリアル番号がレンズに記載されていないことがあります。番号の記載がないレンズを登録するときは、任意の番号を入力してください。

- ［**レンズごとに調整**］を選んだときに、エクステンダーを使用しているときは、「レンズ+エクステンダー」の組み合わせで登録されます。
- すでに40本登録されているときは、メッセージが表示されます。上書き消去するレンズを選ぶと、登録することができます。

単焦点レンズ

ズームレンズ



## 4 調整する

- ズームレンズのときは、広角側（W）または望遠側（T）を選びます。〈SET〉を押すと紫色の枠が消え、調整ができるようになります。
- 調整値を設定し〈SET〉を押します。調整範囲は±20ステップです。
- 「−：」側に設定すると、合焦位置が基準から手前側（前方）に調整されます。
- 「＋：」側に設定すると、合焦位置が基準から奥側（後方）に調整されます。
- ズームレンズのときは、この手順を繰り返して、広角側（W）、望遠側（T）の調整値をそれぞれ設定します。
- 調整が終わったら、〈MENU〉ボタンを押して手順1の画面に戻ります。
- [**レンズごとに調整**] を選び〈SET〉を押します。

## 5 調整結果を確認する

- 撮影を行い、画像を再生して（p.394）、調整結果を確認します。
- 撮影結果が狙った位置よりも手前にピントが合っているときは「＋：」側、奥側にピントが合っているときは「−：」側に調整します。
- 必要に応じて調整を繰り返します。

ズームの中間（焦点距離）位置で撮影を行ったときは、広角側と望遠側の調整結果に基づいて自動的に補正されます。なお、片側だけ調整を行ったときも、中間位置に対して自動補正が行われます。

## AFマイクロアジャストメントの一括解除

画面の下に［**一括解除**］が表示されているときに、〈🗑〉ボタンを押すと、［**全レンズ一律調整**］［**レンズごとに調整**］で調整した内容をすべて解除することができます。

### AFマイクロアジャストメント全般の注意事項

- AFによる合焦位置は、被写体条件や明るさ、ズーム位置などの撮影条件により、わずかに変動します。そのため、この機能で調整を行っても、適切な位置でピントが合わないことがあります。
- 1ステップあたりの調整幅は、使用するレンズの開放絞り数値によって異なります。「調整→撮影→確認」を繰り返してピント調整を行ってください。
- 調整した内容は、ライブビュー撮影時、動画撮影時のAFには反映されません。
- カメラ設定初期化を行っても（p.77）、調整した内容は保持されますが、設定は［**しない**］になります。

### AFマイクロアジャストメント共通事項

- 実際に撮影する環境下で調整を行うことをおすすめします。より適確なピント調整を行うことができます。
- 調整を行うときは三脚の使用をおすすめします。
- 調整を行うときは、記録画質**L**で撮影することをおすすめします。

# AFの苦手な被写体

次のような特殊な被写体に対してはピント合わせができない（ファインダー内の合焦マーク〈●〉が点滅する）ことがあります。

## ピントが合いにくい被写体

- 明暗差（コントラスト）が極端に低い被写体
  （例：青空、単色の平面など）
- 非常に暗い場所にある被写体
- 強い逆光状態、または光の反射が強い被写体
  （例：反射光の強い車のボディなど）
- 遠いところと近いところにある被写体がAFフレームの近くにある場合
  （例：おりの中の動物など）
- 点状の光源などがAFフレームの近くにある場合
  （例：夜景など）
- 繰り返し模様の被写体
  （例：ビルの窓やパソコンのキーボードなど）
- AFフレームに対してパターンが細かい被写体
  （例：AFフレームと同じ、または小さいサイズの顔や花など）

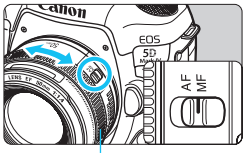
これらの場合は、次のいずれかの方法でピントを合わせます。

（1）ワンショットAFのときは、被写体とほぼ同じ距離にあるものにピントを固定し、構図を決めなおして撮影する（p.101）。

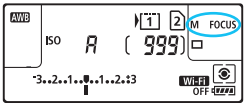
（2）レンズのフォーカスモードスイッチを〈**MF**〉にして手動ピント合わせを行う（p.159）。

- 被写体によっては、構図をわずかにずらして再度AFを行うと、ピント合わせができることがあります。
- ライブビュー撮影、動画撮影時にAFでピントが合いにくい撮影条件については、324ページを参照してください。

## MF: 手動ピント合わせ（マニュアルフォーカス）




フォーカスリング




**1** **レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にする**

➡ 表示パネルに〈**M FOCUS**〉が表示されます。

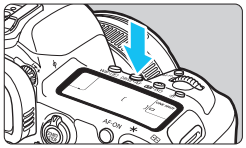
**2** **ピントを合わせる**

● ファインダー内の被写体がはっきり見えるまで、レンズのフォーカスリングを回します。

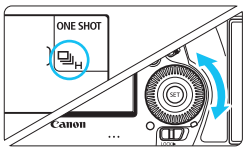
● シャッターボタンを半押ししながら手動ピント合わせを行うと、ピントが合ったときに合焦マーク〈●〉が点灯します。
● 自動選択AF時は、中央のAFフレームでピントが合ったときに合焦マーク〈●〉が点灯します。

# ドライブモードの選択

ドライブモードには1枚撮影と連続撮影があります。撮影シーンや被写体に応じてドライブモードを選びます。



**1** **〈DRIVE•AF〉ボタンを押す**（⏱6）




**2** **ドライブモードを選ぶ**

- 表示パネルまたはファインダー内を見ながら〈◯〉を回します。

**□**：**1枚撮影**

シャッターボタンを全押しすると、1枚だけ撮影します。

**□H**（□H）：**高速連続撮影**

シャッターボタンを全押しすると、押している間、**最高約7.0コマ/秒**の連続撮影を行うことができます。

ただし、以下の撮影条件では最高連続撮影速度が遅くなります。

- **フリッカー低減撮影時**

  **最高約6.6コマ/秒**になります。
- **DPRAW撮影時**

  **最高約5.0コマ/秒**になります。
- **ライブビュー撮影時**

  ［**AF動作**］を［**ワンショットAF**］、［**LVソフト撮影**］を［**しない**］に設定すると、**最高約7.0コマ/秒**の連続撮影を行うことができます。［**モード1**］に設定したときは、最高連続撮影速度がわずかに遅くなります。

  なお、［**AF動作**］が［**サーボAF**］に設定されているときは、**最高約4.3コマ/秒**で連続撮影速度を優先した撮影になります。

● **デジタルレンズオプティマイザ設定時**

［**デジタルレンズオプティマイザ**］が［**する**］に設定されているときは、**連続撮影速度が大幅に遅くなります。**

なお、最高連続撮影速度は撮影条件により変動します。詳しくは162ページを参照してください。

□ ：**低速連続撮影**

シャッターボタンを全押しすると、押している間、**最高約3.0コマ/秒**の連続撮影を行うことができます。

なお、ライブビュー撮影時に［**AF動作**］が［**サーボAF**］に設定されているときは、**最高約3.0コマ/秒**で被写体へのピント追従を優先した（被写体追従優先）撮影になります。

□$^{S}$ ：**ソフト1枚撮影**

ファインダー撮影時に作動音を抑えた1枚撮影を行うことができます。ライブビュー撮影時は設定できません。

□$^{S}$ ：**ソフト連続撮影**

ファインダー撮影時に（〈□〉設定時に比べて）作動音を抑えながら、**最高約3.0コマ/秒**で連続撮影を行うことができます。ライブビュー撮影時は設定できません。

⏲ ：**セルフタイマー：10秒／リモコン撮影**

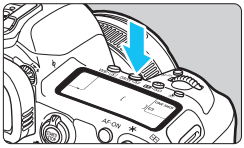
⏲$_{2}$ ：**セルフタイマー：2秒／リモコン撮影**

セルフタイマー撮影については163ページ、リモコン撮影については279ページを参照してください。

- 〈**H**〉高速連続撮影時の最高連続撮影速度：約7.0コマ/秒は（p.160）、バッテリーパック：フル充電、シャッター速度：1/500秒以上、絞り開放（レンズの種類により異なる）*、常温（+23℃）、フリッカー低減処理：なし、DPRAW撮影：しない、ライブビュー撮影時：ワンショットAF+LVソフト撮影：しない、デジタルレンズオプティマイザ：しないの条件で連続撮影を行ったときの最高速度です。
  * EF300mm F4L IS USM、EF28-135mm F3.5-5.6 IS USM、EF75-300mm F4-5.6 IS USM、EF100-400mm F4.5-5.6L IS USM は、ワンショットAF、手ブレ補正機能OFFで使用時
- 〈**H**〉高速連続撮影時の連続撮影速度は、電源の種類、電池残量、温度、フリッカー低減処理、DPRAW撮影、デジタルレンズオプティマイザ、シャッター速度、絞り数値、被写体条件、明るさ、AF動作、レンズの種類、ストロボ使用、撮影機能の設定などの条件により低下することがあります。
- 外部ストロボ使用時は、最高連続撮影速度が遅くなります。
- [**4：フリッカーレス撮影**]を[**する**]に設定して（p.215）、フリッカー光源下で撮影を行うと、最高連続撮影速度が遅くなります。また、連続撮影間隔にばらつきが生じたり、シャッターが切れるまでのタイムラグが長くなることがあります。
- [**1：DPRAW設定**]を[**する**]に設定し（p.175）、[**1：記録画質**]を[RAW]［RAW+JPEG］に設定したときは（p.169）、最高連続撮影速度が遅くなります。
- ライブビュー撮影時に［**AF動作**］を［**サーボAF**］に設定したときは（p.314）、最高連続撮影速度が遅くなります。
- ［**デジタルレンズオプティマイザ**］を［**する**］に設定したときは（p.210）、連続撮影速度が大幅に遅くなります。
- AIサーボAF時は、被写体条件や使用レンズにより、最高連続撮影速度が低下することがあります。
- 低温下で電池自体の温度が低いときや、電池残量が少ないときは、最高連続撮影速度がLP-E6N使用時：約6.0コマ/秒、LP-E6使用時：約5.0コマ/秒まで低下することがあります。
- 〈**S**〉〈**S**〉設定時は、シャッターボタンを全押ししてからシャッターが切れるまでのタイムラグが通常よりも長くなります。
- 連続撮影中に内部メモリーがいっぱいになると、一時的に撮影ができなくなるため（p.174）、連続撮影速度が途中から遅くなることがあります。

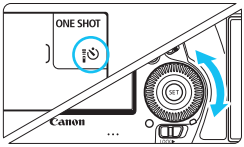
# セルフタイマー撮影

セルフタイマーは記念撮影などに使用します。



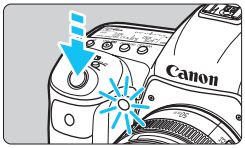
## 1 〈DRIVE•AF〉ボタンを押す（⏱6）

## 2 セルフタイマーを選ぶ




- 表示パネルまたはファインダー内を見ながら〈◯〉を回します。

  ：約10秒後に撮影
  ：約2秒後に撮影




## 3 撮影する

- ファインダーをのぞいてピントを合わせ、シャッターボタンを全押しします。
- ➡ セルフタイマーランプと電子音、表示パネルに表示される秒数の減算表示で作動を確認することができます。
- ➡ 撮影の約2秒前にセルフタイマーランプが点灯し、電子音が速く鳴ります。

ファインダーから目を離してシャッターボタンを押すときは、ファインダーにアイピースカバーを取り付けてください（p.278）。ファインダーに光が入ると、適切な露出が得られないことがあります。

- 〈 〉は、三脚を使用した静物撮影や長秒時露光などで、撮影を開始する際、カメラから手を離しておきたいとき（カメラブレ防止）に使用します。
- セルフタイマー撮影した画像は、その場で再生して（p.394）、ピントや露出を確認することをおすすめします。
- 自分一人だけをセルフタイマーで写すときは、自分が入る位置とほぼ同じ距離にあるものにフォーカスロックして撮影します（p.97）。
- セルフタイマー撮影を途中で中止するときは、〈DRIVE•AF〉ボタンを押します。

**MEMO**

# 4

# 画像に関する設定

この章では、記録画質、DPRAW機能、ISO感度、ピクチャースタイル、ホワイトバランス、オートライティングオプティマイザ、ノイズ低減機能、高輝度側・階調優先、レンズ光学補正、フリッカー低減撮影など、画像に関係する機能について説明しています。

- ページタイトル右の 応用 は、〈**P**〉〈**Tv**〉〈**Av**〉〈**M**〉〈**B**〉モード限定の機能であることを示しています。

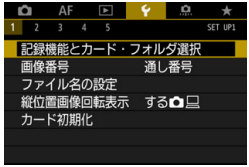
# MENU 記録・再生するカードを選択する

カメラにCFカード、またはSDカードのどちらかが入っていれば、撮影した画像を記録することができます。カードを1枚だけ入れたときは、166～168ページの操作を行う必要はありません。

両方のカードを入れたときは、次の手順で記録方法、記録・再生を行うカードを選択します。

なお、［1］はCFカード、［2］はSDカードを表しています。

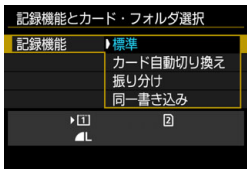
## カードを2枚入れたときの記録方法の設定




### 1 ［記録機能とカード・フォルダ選択］を選ぶ

● ［1］タブの［**記録機能とカード・フォルダ選択**］を選び、〈SET〉を押します。

### 2 ［記録機能］を選ぶ




### 3 記録方法を選ぶ

● 記録方法を選び〈SET〉を押します。

● **標準**
［**記録・再生**］で選択したカードに画像が記録されます。

● **カード自動切り換え**
［**標準**］と同じですが、記録先のカードの空き容量がなくなると、記録先が自動的にもう一方のカードに切り換わります。なお、自動切り換えの際は、新しいフォルダが作成されます。

● **振り分け**
カードごとに記録する記録画質を設定することができます（p.169）。1回の撮影でCFカードとSDカードに、設定した記録画質の画像が記録されます。**L**と**RAW**、**S3**と**M RAW**など、記録画質を自由に設定して撮影することができます。

● **同一書き込み**
1回の撮影でCFカードとSDカードに同じ画像が記録されます。RAW＋JPEGを選ぶこともできます。

● ［**振り分け**］設定時に、CFカードとSDカードの記録画質の設定が異なるときは、連続撮影可能枚数が少なくなります（p.171）。
● 動画をCFカードとSDカードに同時記録することはできません。［**再生**］に設定されているカードに動画が記録されます。

**振り分け／同一書き込みについて**
● CFカードとSDカードに同じ画像番号で記録されます。
● 表示パネルには、撮影可能枚数が少ない方のカードの枚数が表示されます。
● どちらかのカードの空き容量がなくなると、［**カード＊がいっぱいです**］が表示され、撮影できなくなります。そのときはカードを交換するか、［**記録機能**］を［**標準**］にして空き容量のあるカードを選ぶと、撮影することができます。
● ［**1：記録機能とカード・フォルダ選択**］の［**フォルダ**］については218ページを参照してください。

## カードを2枚入れたときの記録・再生カードの選択

［**記録機能**］を［**標準**］［**カード自動切り換え**］に設定したときは、画像を「記録・再生」するカードを選択します。

［**振り分け**］［**同一書き込み**］に設定したときは、画像を「再生」するカードを選択します。

**標準／カード自動切り換え**

**［記録・再生］を選ぶ**

- ［**記録・再生**］を選び〈(SET)〉を押します。
  - 1：CFカードに記録、CFカードの画像を再生
  - 2：SDカードに記録、SDカードの画像を再生
- カードを選び〈(SET)〉を押します。

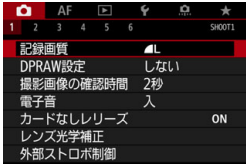
**振り分け／同一書き込み**

**［再生］を選ぶ**

- ［**再生**］を選び〈(SET)〉を押します。
  - 1：CFカードの画像を再生
  - 2：SDカードの画像を再生
- カードを選び〈(SET)〉を押します。

# MENU 記録画質を設定する

記録する画素数と画質を選ぶことができます。JPEGの記録画質は、◢L、◢L、◢M、◢M、◢S1、◢S1、S2、S3の8種類です。RAWの記録画質は、RAW、M RAW、S RAWの3種類です（p.173）。




## 1 ［記録画質］を選ぶ

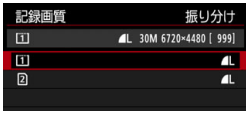
- ［📷1］タブの［**記録画質**］を選び、〈(SET)〉を押します。

**標準／カード自動切り換え／同一書き込み**

## 2 記録画質を設定する

- RAW画質は〈🌄〉、JPEG画質は〈◎〉を回して選びます。
- 画面の数字「**M（百万画素）****×****」は記録画素数、［***］は撮影可能枚数（9999まで表示）を示しています。
- 〈(SET)〉を押すと設定されます。

**振り分け**




- ［🔧1：**記録機能とカード・フォルダ選択**］の［**記録機能**］が［**振り分け**］に設定されているときは、［1］CFカードまたは［2］SDカードを選び、〈(SET)〉を押します。

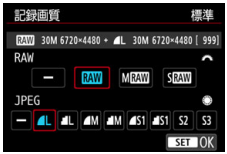
- 表示された画面で記録画質を選び、〈(SET)〉を押します。

## 記録画質の設定例

◢Lのみ

RAWのみ

RAW＋◢L




S RAW＋◢M

記録画質の設定画面に表示される画像サイズ［****x****］と撮影可能枚数［****］は、［**5：アスペクト比**］の設定（p.310）に関係なく、常に［**3：2**］設定時の値が表示されます。

RAW画像とJPEG画像の設定を両方［－］にしたときは、◢Lに設定されます。

## 記録画質を選ぶときの目安

（約）

| 記録画質 | 記録画素数 | 印刷サイズ | ファイルサイズ（MB） | 撮影可能枚数 | 連続撮影可能枚数 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | CFカード | | SDカード | |
| | | | | | 標準 | 高速 | 標準 | 高速 |
| JPEG | | | | | | | | |
| ◢L | 30M | A2 | 8.8 | 820 | 110 | Full | 130 | Full |
| ◢L | | | 4.5 | 1590 | Full | Full | Full | Full |
| ◢M | 13M | A3 | 4.7 | 1530 | Full | Full | Full | Full |
| ◢M | | | 2.4 | 2970 | Full | Full | Full | Full |
| ◢S1 | 7.5M | A4 | 3.0 | 2350 | Full | Full | Full | Full |
| ◢S1 | | | 1.5 | 4560 | Full | Full | Full | Full |
| S2 | 2.5M | L判 | 1.3 | 5420 | Full | Full | Full | Full |
| S3 | 0.3M | — | 0.3 | 20330 | Full | Full | Full | Full |
| RAW | | | | | | | | |
| RAW | 30M | A2 | 36.8 | 170 | 17 | 21 | 17 | 19 |
| RAW ： DPR | 30M | | 66.9 | 90 | 7 | 7 | 7 | 7 |
| M RAW | 17M | | 27.7 | 220 | 23 | 32 | 23 | 26 |
| S RAW | 7.5M | A4 | 18.9 | 310 | 35 | 74 | 36 | 48 |
| RAW＋JPEG | | | | | | | | |
| RAW ◢L | 30M ◢ 30M | A2 A2 | 36.8 8.8 | 140 | 13 | 16 | 13 | 14 |
| M RAW ◢L | 17M ◢ 30M | A2 A2 | 27.7 8.8 | 170 | 13 | 17 | 14 | 15 |
| S RAW ◢L | 7.5M ◢ 30M | A4 A2 | 18.9 8.8 | 220 | 15 | 22 | 15 | 18 |

- S2は市販のデジタルフォトフレームでの再生などに適しています。
- S3 は電子メールで画像を送るときや、ホームページでの使用などに適しています。
- S2、S3は、どちらも◢（ファイン）の画質です。

- 撮影可能枚数は、当社試験基準8GBカード使用時の枚数です。
- 連続撮影可能枚数（バースト枚数）は、当社試験基準CFカード（標準：8GB／高速：UDMAモード7対応 64GB）、SDカード（標準：8GB／高速：UHS-I対応 16GB）を使用し、当社試験基準（〈□H〉高速連続撮影、アスペクト比3：2、ISO100、DPRAW撮影しない、ピクチャースタイル：スタンダード、IPTC情報の付加：しない）で測定したものです。
- **ファイルサイズ、撮影可能枚数、連続撮影可能枚数は、被写体やカードの銘柄、ISO感度、ピクチャースタイル、カスタム機能などの設定により変動します。**
- 「Full」と記載された条件のときは、カードの空き容量がなくなる（カードフル）まで撮影できます。

- UDMA対応のCFカードや、高速タイプのSDカードを使用しても、連続撮影可能枚数の表示は変わりませんが、前ページの表に示した枚数の連続撮影ができます。
- RAWとJPEGの両方を選んだときは、1回の撮影で設定した記録画質の画像がカードに記録されます。2つの画像は同じ画像番号（拡張子はJPEG：.JPG、RAW：.CR2）で記録されます。
- 記録画質の読み方は、RAW（ロウ）、M RAW（ミドルロウ）、S RAW（スモールロウ）、JPEG（ジェイペグ）、◢（ファイン）、▟（ノーマル）、**L**（ラージ）、**M**（ミドル）、**S**（スモール）です。

## RAWについて

カードに記録されるRAW画像は、撮像素子から出力されたデータをデジタル変換してそのまま記録した「生（ロウ）データ」で、RAW、M RAW、S RAWから選ぶことができます。

RAWで撮影した画像は、［▶1：RAW現像］で現像処理を行い（p.446）、JPEG画像として保存することができます（M RAW、S RAWはカメラで現像処理できません）。なお、RAW画像そのものは何も変化しませんので、現像条件を変えたJPEG画像を何枚でも作ることができます。

また、RAW画像は、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.598）で現像処理を行うことができます。使用目的に応じてさまざまな画像調整を行い、その調整結果を反映したJPEG画像、TIFF画像などを生成することができます。

### RAW画像処理用のソフトウェアについて

- パソコンでRAW画像を表示するときは、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional（以下DPP）の使用をおすすめします。
- 古いバージョンのDPP Ver.4.xでは、このカメラで撮影したRAW画像の処理はできません。パソコンに古いバージョンのDPP Ver.4.xがインストールされているときは、EOS DIGITAL Solution DiskからDPPをアップデート（上書きインストール）してください（p.599）。なお、Ver.3.x以前のDPPでは、このカメラで撮影したRAW画像の処理はできません。
- 市販のソフトウェアでは、このカメラで撮影したRAW画像を表示できないことがあります。対応状況については、ソフトウェアメーカーにお問い合わせください。

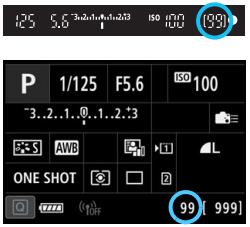
## ワンタッチ記録画質切り換え 応用

操作ボタンカスタマイズ機能で、〈M-Fn〉ボタンまたは絞り込みボタンに、記録画質を一時的に切り換える機能を割り当てることができます。〈M-Fn〉ボタンまたは絞り込みボタンに［**ワンタッチ記録画質切換**］［**ワンタッチ記録画質切換（ホールド）**］を割り当てると、記録画質を素早く切り換えて撮影することができます。

詳しくは、『操作ボタンカスタマイズ』（p.495）を参照してください。

［**1：記録機能とカード・フォルダ選択**］の［**記録機能**］が［**振り分け**］に設定されているときは、ワンタッチ記録画質切り換えはできません。

## 連続撮影可能枚数（バースト枚数）




ファインダー内、またはクイック設定画面、クイック設定カスタマイズ画面の右下の数値で、連続撮影できる枚数の目安が確認できます。

「99」と表示されているときは、連続して99枚以上撮影できることを示しています。

連続撮影可能枚数は、カードが入っていないときにも表示されますので、カードが入っていることを確認してから撮影してください。

連続撮影可能枚数が、「**99**」と表示されているときは、99枚以上の連続撮影ができます。98枚以下になると、表示されている数値が減っていき、内部メモリーがいっぱいになると、ファインダー内と表示パネルに「**buSY**」が表示され、一時的に撮影ができなくなります。撮影を中断すると数値が増えていきます。撮影した画像がすべてカードに書き込まれると、171ページの表に示した枚数の連続撮影ができるようになります。

# DPRAW機能の設定

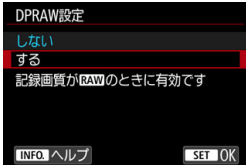
DPRAW機能を設定してRAW画像を撮影すると（MRAW、SRAW画像を除く）、撮像素子からのデュアルピクセル情報が付加された「特別なRAW画像（DPRAW画像）」として記録されます。これをDPRAW撮影といいます。

EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.598）でDPRAW 画像の現像処理を行う際に、DPRAW画像に記録されたデュアルピクセル情報を活用して、「被写体の奥行き情報に基づく解像感の微調整」「カメラの撮影視点の微調整」「ゴーストの低減」を行うことができます。

なお、**撮影条件により効果が異なりますので、DPRAW撮影を行う前に、Digital Photo Professional使用説明書を参照して、DPRAW機能の特徴と現像処理についてご確認ください。**

## 1 ［DPRAW設定］を選ぶ

- ［1］タブの［**DPRAW設定**］を選び、〈SET〉を押します。




## 2 ［する］を選ぶ

- 〈**INFO.**〉ボタンを押して、あらかじめヘルプ画面（p.91）の内容を確認することをおすすめします。
- ［**する**］を選び〈SET〉を押します。

## 3 記録画質をRAWに設定する

- 169ページを参照し、記録画質をRAWまたはRAW＋JPEGに設定します。

➡ 表示パネルに〈DPR〉が表示されます。

## 4 撮影する

➡ デュアルピクセル情報が付加されたRAW画像（DPRAW画像）が記録されます。

- [📷1：DPRAW設定]を[する]に設定しても、デュアルピクセル情報が付加されたM RAW、S RAW画像は撮影できません（RAW画像のみ）。
- [🔧1：記録機能とカード・フォルダ選択]を[振り分け]に設定し、一方の記録画質をRAW、もう一方をM RAW、S RAWに設定したときは、DPRAW撮影はできません。
- [📷1：DPRAW設定]を[する]に設定したときは、多重露出撮影、HDR撮影、ワンタッチ記録画質切り換え、デジタルレンズオプティマイザはできません。また、電源スイッチを〈**ON**〉にしたときや、オートパワーオフ状態から復帰したときの起動時間が長くなります。
- DPRAW撮影時は、撮影可能枚数が少なくなります。
- ファインダー撮影時にDPRAW撮影を行ったときは、連続撮影速度が遅くなります。また、連続撮影可能枚数が少なくなります。
- ライブビュー撮影時に［📷1：DPRAW 設定］を［する］に設定したときは、ドライブモードの〈□ᴴ〉〈□〉は選択できません。〈□ᴴ〉〈□〉に設定されているときは、〈□〉の設定で撮影されます。
- ファインダー撮影時に［📷1：DPRAW設定］を［する］に設定し、ドライブモードを〈□ᴴ〉〈□〉に設定した状態でライブビュー撮影に切り換えたときは、〈□〉に自動設定されます。
- ［📷1：DPRAW設定］を［する］に設定して、RAW画像、またはRAW＋JPEG画像を撮影したときは、通常撮影時に比べてややノイズが増えることがあります。

### DPRAW機能の調整量・補正効果について

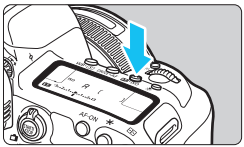
- レンズの絞り数値が開放側のときに、調整量・補正効果が上がります。
- 使用するレンズや撮影シーンによっては、十分な調整量・補正効果が得られないことがあります。
- カメラの姿勢（縦/横）によって調整量・補正効果が変わります。
- 撮影条件によっては、十分な調整量・補正効果が得られないことがあります。

DPRAW撮影時に、ファインダー内に〈DPR〉を表示することができます（p.84）。

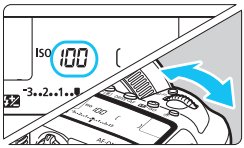
# ISO: 静止画のISO感度を設定する 応用

ISO感度（撮像素子の感度）は、撮影場所の明るさに応じて設定します。〈A+〉モードのときはISO感度が自動設定されます（p.179）。

なお、動画撮影時のISO感度については、337、341ページを参照してください。



**1** **〈ISO〉ボタンを押す**（⏱6）




**2** **ISO感度を設定する**

- 表示パネルまたはファインダー内を見ながら〈◯〉を回します。
- ISO100～32000の範囲で、1/3段ステップで設定することができます。
- 「**A**」は「ISO オート」を表しています。ISO感度が自動設定されます（p.179）。

### ISO感度を選ぶときの目安

| ISO感度 | 撮影シーン（ストロボなし） | ストロボ撮影できる距離 |
|---|---|---|
| L（50）、100～400 | 晴天時の屋外 | ISO感度の数値が大きいほど、ストロボ撮影できる距離が長くなります。 |
| 400～1600 | 曇り空、夕方 | |
| 1600～32000、H1（51200）、H2（102400） | 暗い屋内、夜景 | |

* ISO感度の数値が大きい（高ISO感度）ほど、画像のザラツキ感が増します。

［📷2：ISO感度に関する設定］の［ISO感度設定］の画面で設定することもできます。

- H1（ISO51200相当）、H2（ISO102400相当）は拡張ISO感度のため、通常よりもノイズ（輝点、縞）や色ムラが多くなり、解像感も低下します。
- L（ISO50相当）は拡張ISO感度のため、通常よりもダイナミックレンジがやや狭くなります。
- [**3：高輝度側・階調優先**]を[**する**]に設定すると（p.206）、L（ISO50相当）、ISO100/125/160、H1（ISO51200相当）、H2（ISO102400相当）は選択できなくなります。
- 高ISO感度、高温、長秒時露光、多重露出撮影の条件などで撮影すると、画像のノイズ（ザラツキ感、輝点、縞など）や色ムラ、色味の変化が目立つことがあります。
- 高ISO感度、高温、長秒時露光の組み合わせなど、ノイズが非常に多くなる条件で撮影したときは、正常な画像が記録できないことがあります。
- 高ISO感度で近距離の被写体をストロボ撮影すると、露出オーバーになることがあります。

[**2：ISO感度に関する設定**]の[**静止画撮影の範囲**]で、ISO感度の設定範囲をL（ISO50相当）からH1（ISO51200相当）、H2（ISO102400相当）まで拡張することができます（p.180）。

## ISOオートについて

ISO感度の設定が「**A**」(AUTO)のときにシャッターボタンを半押しすると、実際に設定されるISO感度が表示されます。

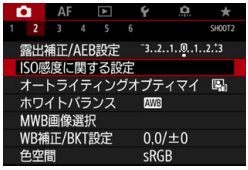
ISO感度は、撮影モードに応じて下記のように自動設定されます。

| 撮影モード | ISO感度設定 | |
|---|---|---|
| | ストロボなし | ストロボあり |
| A+ | ISO100～12800 | ISO100～1600 |
| **P**/**Tv**/**Av**/**M** | ISO100～32000*1 | ISO400*1*2*3 |
| **B** | ISO400*1 | |

*1：[**オートの範囲**]の[**下限値**][**上限値**]による
*2：日中シンクロで露出オーバーになる場合は、最低ISO100となる
(〈**M**〉〈**B**〉モードを除く)
*3：〈**P**〉モードで外部ストロボをバウンスしたときは、ISO400～1600の範囲で自動設定

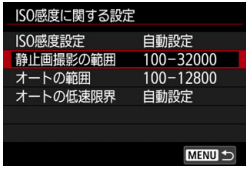
## MENU ISO感度の手動設定範囲を設定する

手動で設定できるISO 感度の範囲（下限値／上限値）を設定することができます。下限値はL（ISO50相当）～H1（ISO51200相当）、上限値はISO100～H2（ISO102400相当）の範囲で設定することができます。

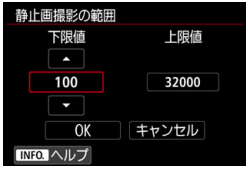



**1** **［ISO感度に関する設定］を選ぶ**

- ［2］タブの［**ISO感度に関する設定**］を選び、〈(SET)〉を押します。




**2** **［静止画撮影の範囲］を選ぶ**




**3** **下限値を設定する**

- 下限値の枠を選び〈(SET)〉を押します。
- ISO感度を選び〈(SET)〉を押します。

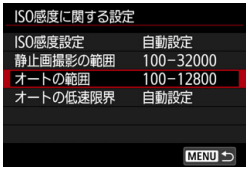
**4** **上限値を設定する**

- 上限値の枠を選び〈(SET)〉を押します。
- ISO感度を選び〈(SET)〉を押します。

**5** **［OK］を選ぶ**

## MENU ISOオート時の自動設定範囲を設定する

ISOオート設定時に自動設定される感度を、ISO100～32000の範囲で設定することができます。下限値はISO100～25600の範囲、上限値はISO200～32000の範囲で、1段ステップで設定することができます。




**1** ［オートの範囲］を選ぶ

**2** 下限値を設定する

- 下限値の枠を選び〈(SET)〉を押します。
- ISO感度を選び〈(SET)〉を押します。

**3** 上限値を設定する

- 上限値の枠を選び〈(SET)〉を押します。
- ISO感度を選び〈(SET)〉を押します。

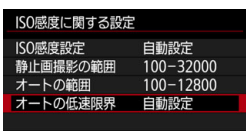
**4** ［OK］を選ぶ

［**下限値**］［**上限値**］は、ISO感度でセイフティシフト（p.485）が行われたときの下限感度、上限感度も兼ねています。

## MENU ISOオート時のシャッター速度の低速限界を設定する

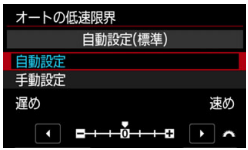
ISOオート設定時に、シャッター速度が自動的に遅くならないように、低速限界（下限速度）を設定することができます。

この機能は〈**P**〉〈**Av**〉モードで、広角レンズを使用して動いている被写体を撮影するときや、望遠レンズを使用するときに効果的です。手ブレや被写体ブレを軽減することができます。




**1** **［オートの低速限界］を選ぶ**

**自動設定**




**2** **低速限界を設定する**

- ［**自動設定**］または［**手動設定**］を選びます。
- ［**自動設定**］を選んだときは、〈〉を回して標準設定からの度合い（遅め／速め）を設定し、〈(SET)〉を押します。

**手動設定**

- ［**手動設定**］を選んだときは、〈〉を回してシャッター速度を選び、〈(SET)〉を押します。

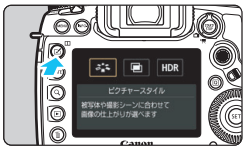
- ［**オートの範囲**］で設定した上限感度で適切な露出が得られないときは、標準露出で撮影できるように、［**オートの低速限界**］で設定した速度よりも遅いシャッター速度が設定されます。
- ストロボ撮影時、動画撮影時は機能しません。

［**自動設定：0**］設定時は、下限速度がおよそレンズ焦点距離分の1秒となります。なお、［**遅め**］から［**速め**］の1ステップは、シャッター速度1段分です。

# ピクチャースタイルを選択する 応用

ピクチャースタイルは、写真表現や被写体にあわせて、用意された項目を選ぶだけで効果的な画像特性が得られる機能です。

〈A+〉モードのときは［スタイル:A］（オート）に自動設定されます。




**1 〈Q〉ボタンを押す**

**2 ［スタイル］を選ぶ**

➡ スタイル選択画面が表示されます。

**3 スタイルを選ぶ**

➡ スタイルが設定され、撮影準備状態に戻ります。

［3：ピクチャースタイル］の画面で設定することもできます。

## 各スタイルの画像特性について

**オート**

撮影シーンに応じて、色あいが自動調整されます。特に自然や屋外シーン、夕景シーンでは、青空、緑、夕景が色鮮やかな写真になります。

［**オート**］で好みの色あいにならなかったときは、他のスタイルに変更して撮影してください。

**スタンダード**

鮮やかで、くっきりした写真になります。通常はこの設定でほとんどのシーンに対応できます。

**ポートレート**

肌色がきれいで、ややくっきりした写真になります。人物をアップで写すときに効果的です。

188ページの［**色あい**］を変えると、肌色を調整することができます。

**風景**

青空や緑の色が鮮やかで、とてもくっきりした写真になります。印象的な風景を写すときに効果的です。

**ディテール重視**

被写体の細部の輪郭や繊細な質感の描写に適しています。やや鮮やかな写真になります。

**ニュートラル**

パソコンでの画像処理に適した設定です。自然な色あいで、メリハリの少ない控えめな写真になります。

**忠実設定**

パソコンでの画像処理に適した設定です。5200K（色温度）程度の太陽光下で撮影した写真が、測色的に被写体の色とほぼ同じになるように色調整されます。メリハリの少ない控えめな写真になります。

**モノクロ**

白黒写真になります。

JPEG画質で撮影した画像を、カラー写真に戻すことはできません。[**モノクロ**] に設定したまま、カラー写真のつもりで撮り続けないように注意してください。

[**モノクロ**] 設定時に、ファインダー内と表示パネルに〈⚠〉を表示することができます（p.489）。

**ユーザー設定1～3**

[**ポートレート**] や [**風景**]、ピクチャースタイルファイルなどの基本スタイルを登録し、好みにあわせて調整することができます（p.190）。登録されていないときは、[**スタンダード**] の初期設定と同じ特性で撮影されます。

## 記号について

スタイル選択画面の記号は、［**シャープネス**］の［**強さ**］［**細かさ**］［**しきい値**］や、［**コントラスト**］などを表しています。数値は、各スタイルに設定されている各項目の設定値を示しています。

**記号の意味**

| | | |
|---|---|---|
| | シャープネス | |
| | 強さ | |
| | 細かさ | |
| | しきい値 | |
| | コントラスト | |
| | 色の濃さ | |
| | 色あい | |
| | フィルター効果（モノクロ） | |
| | 調色（モノクロ） | |

動画撮影時、［**シャープネス**］の［**細かさ**］［**しきい値**］は、ともに「*」と表示されます。また、［**細かさ**］［**しきい値**］は動画には反映されません。

# ピクチャースタイルを調整する 応用

それぞれのピクチャースタイルは、好みにあわせて設定内容（[**シャープネス**]の［**強さ**］［**細かさ**］［**しきい値**］、［**コントラスト**］など）を初期設定から変更（調整）することができます。効果については、試し撮りを重ねて確認してください。［**モノクロ**］の調整については、189ページを参照してください。

## 1 〈✎〉ボタンを押す

## 2 ［ピクチャースタイル］を選ぶ

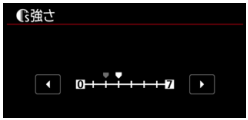
➡ スタイル選択画面が表示されます。

## 3 スタイルを選ぶ

- スタイルを選び〈**INFO.**〉ボタンを押します。

## 4 項目を選ぶ

- ［**シャープネス**］の［**強さ**］などの項目を選び、〈(SET)〉を押します。
- 設定内容と効果については、次ページを参照してください。



## 5 内容を設定する

- 効果の度合いを設定し、〈(SET)〉を押します。

- 〈MENU〉ボタンを押すと、調整した内容が保存され、スタイル選択画面に戻ります。
- ➡ 初期設定から変更した数値が青色で表示されます。

## 設定内容と効果について

| | | | |
|---|---|---|---|
| | シャープネス | | |
| | 強さ | 0：輪郭強調・控えめ | 7：輪郭強調・強め |
| | 細かさ*1 | 1：細かい | 5：粗い |
| | しきい値*2 | 1：小さい | 5：大きい |
| | コントラスト | -4：明暗差・弱 | +4：明暗差・強 |
| | 色の濃さ | -4：薄い | +4：濃い |
| | 色あい | -4：肌色が赤め | +4：肌色が黄色め |

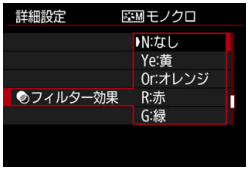
*1：強調する輪郭線の細かさを示しています。値が小さいほど、より細部が強調されやすくなります。
*2：「周囲に比べ、どの程度のコントラスト差があれば輪郭線を強調するか」の設定です。値が小さいほど、コントラスト差が少ない輪郭線が強調されやすくなります。なお、値を小さくするとノイズも強調されやすくなります。

- 動画撮影時は［**シャープネス**］の［**細かさ**］［**しきい値**］の設定はできません（項目が表示されません）。
- 手順4で［**初期設定**］を選ぶと、スタイルごとに設定した内容を初期状態に戻すことができます。
- 調整したスタイルで撮影するときは、調整したスタイルを選択してから撮影します。

## モノクロの調整

前ページで説明した［**シャープネス**］の［**強さ**］［**細かさ**］［**しきい値**］と［**コントラスト**］の他に、［**フィルター効果**］［**調色**］を設定することができます。

### フィルター効果

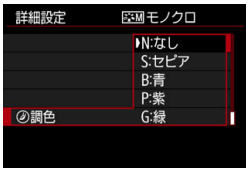



フィルター効果を使うと、同じモノクロ画像でも、白い雲や木々の緑を強調した画像にすることができます。

| フィルター | 効果例 |
|---|---|
| N：なし | フィルター効果なしの通常の白黒画像になります。 |
| Ye: 黄 | 青空がより自然に再現され、白い雲がはっきりと浮かび上がります。 |
| Or: オレンジ | 青空が少し暗くなります。夕日の輝きがいっそう増します。 |
| R：赤 | 青空がかなり暗くなります。紅葉の葉がはっきりと明るくなります。 |
| G：緑 | 人物の肌色や唇が落ち着いた感じになります。木々の緑の葉がはっきりと明るくなります。 |

［**コントラスト**］をプラス側に設定して撮影すると、フィルター効果がより強調されます。

### 調色




調色を設定して撮影すると、色のついたモノクロ画像にすることができます。より印象的な画像を撮影したいときに有効です。

［**N：なし**］［**S：セピア**］［**B：青**］［**P：紫**］［**G：緑**］から選ぶことができます。

# ピクチャースタイルを登録する 応用

［**ポートレート**］や［**風景**］などの基本スタイルを選択し、好みにあわせて調整して、［**ユーザー設定1**］から［**ユーザー設定3**］に登録することができます。設定が異なる、複数のスタイルを用意しておきたいときに使用します。

また、EOS用ソフトウェアのEOS Utility（p.598）からカメラに登録したスタイルをここで調整することもできます。

## 1 〈☑〉ボタンを押す

## 2 ［ ］を選ぶ

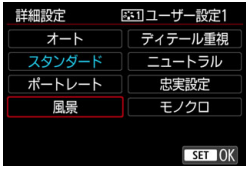
➡ スタイル選択画面が表示されます。

## 3 ［ユーザー設定］を選ぶ

- ［**ユーザー設定***］を選び〈**INFO.**〉ボタンを押します。

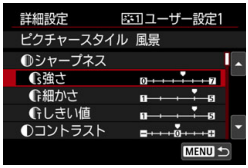
## 4 〈㊗〉を押す

- ［**ピクチャースタイル**］が選ばれた状態で〈㊗〉を押します。




## 5 基本にするスタイルを選ぶ

- 基本にするスタイルを選び〈㊗〉を押します。
- EOS用ソフトウェアのEOS Utilityから登録したスタイルを調整するときは、この操作で選択します。




## 6 項目を選ぶ

- [**シャープネス**]の[**強さ**]などの項目を選び、〈(SET)〉を押します。

## 7 内容を設定する

- 効果の度合いを設定し、〈(SET)〉を押します。
  詳しくは、『ピクチャースタイルを調整する』(p.187)を参照してください。

- 〈MENU〉ボタンを押すと内容が登録され、スタイル選択画面に戻ります。

➡ [**ユーザー設定**＊]の右に、基本にしたスタイルが表示されます。

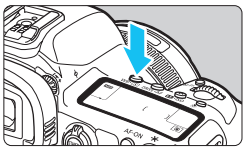
- [**ユーザー設定**＊]にスタイルがすでに登録されているときは、手順5で基本にするスタイルを変更すると、登録されているスタイルの設定内容が無効になります。
- [**5：カメラ設定初期化**](p.77)を行うと、[**ユーザー設定**＊]に設定したスタイルと内容が初期化されます。

- 登録したスタイルで撮影するときは、登録した[**ユーザー設定**＊]を選択してから撮影します。
- ピクチャースタイルファイルのカメラへの登録方法については、EOS Utility使用説明書(p.600)を参照してください。

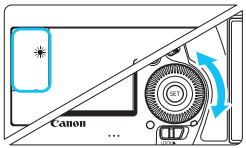
# WB: ホワイトバランスの設定 応用

ホワイトバランス（WB）は、白いものを白く写すための機能です。通常はオート［AWB］（雰囲気優先）、［AWB W］（ホワイト優先）で適切なホワイトバランスが得られます。オートで自然な色あいにならないときは、光源別にホワイトバランスを選択したり、白い被写体を撮影して手動で設定します。

〈A+〉モードのときは［AWB］（雰囲気優先）に自動設定されます。



**1** **〈WB·⊛〉ボタンを押す**（⏱6）



**2** **ホワイトバランスを選ぶ**

- 表示パネルまたはファインダー内を見ながら〈◎〉を回します。

（約）

| 表示 | モード | 色温度（K：ケルビン） |
|---|---|---|
| AWB | オート（雰囲気優先／p.194） | 3000～7000 |
| AWB W | オート（ホワイト優先／p.194） | |
| ☀ | 太陽光 | 5200 |
| 🏠 | 日陰 | 7000 |
| ☁ | くもり、薄暮、夕やけ空 | 6000 |
| 💡 | 白熱電球 | 3200 |
| 蛍光灯 | 白色蛍光灯 | 4000 |
| ϟ | ストロボ使用 | 自動設定* |
| 手動 | マニュアル（p.195） | 2000～10000 |
| K | 色温度（p.197） | 2500～10000 |

* 色温度情報通信機能を備えたストロボ使用時。それ以外は約6000K固定

- ［📷2：ホワイトバランス］の画面で設定することもできます。
- オート［AWB］（雰囲気優先）、［AWB w］（ホワイト優先）を切り換えるときは、［📷2：ホワイトバランス］の画面で設定します（p.194）。

## ホワイトバランスについて

人間の目には、照明する光が変化しても、白い被写体は白に見えるという順応性があります。デジタルカメラでは、照明光の色温度に応じて色の基準となる白を決め、ソフトウェア的に色あいを調整することで、自然な色あいで撮影することができます。

## AWB オートホワイトバランスの設定

［AWB］（雰囲気優先）では、白熱電球（タングステン光）下などで撮影したときに、その場の雰囲気を重視してやや赤みがかった写真になります。［AWB W］（ホワイト優先）を選ぶと、赤みの少ない写真にすることができます。

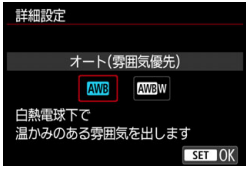
なお、従来機種のEOSデジタルカメラのオートホワイトバランスに合わせたいときは、［AWB］（雰囲気優先）を選びます。

### 1 ［ホワイトバランス］を選ぶ

- ［2］タブの［**ホワイトバランス**］を選び、〈SET〉を押します。

### 2 ［AWB］を選ぶ

- ［AWB］を選んだ状態で〈**INFO.**〉ボタンを押します。




### 3 項目を選ぶ

- ［**オート（雰囲気優先）**］または［**オート（ホワイト優先）**］を選び、〈SET〉を押します。

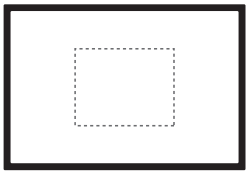
AWB ：オート（雰囲気優先）
AWB W：オート（ホワイト優先）

**［AWB W］（ホワイト優先）設定時の注意事項**

- 赤みのある被写体の色が薄くなることがあります。
- 画面内に複数の光源が含まれるときは、赤みの少ない写真にならないことがあります。
- ストロボ使用時は［AWB］（雰囲気優先）と同じ色あいになります。

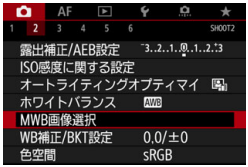
## マニュアルホワイトバランス

マニュアルホワイトバランス（MWB）は、撮影場所の光源にあわせてホワイトバランスを設定するときに使用します。必ず撮影する場所の光源下で一連の操作を行ってください。



### 1 白い被写体を撮影する

- ファインダーをのぞき、図の点線の枠内全体に、白い無地の被写体がくるようにします。
- 手動でピントを合わせ、白い被写体が標準露出になるように撮影します。
- ホワイトバランスはどの設定でも構いません。

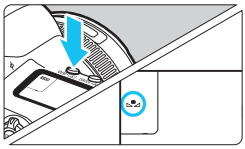



### 2 [MWB画像選択] を選ぶ

- [📷2] タブの [**MWB画像選択**] を選び、〈(SET)〉を押します。
- ➡ MWB画像選択画面が表示されます。

### 3 ホワイトバランスデータを取り込む

- 〈◯〉を回して手順1で撮影した画像を選び、〈(SET)〉を押します。
- ➡ 表示されるメッセージ画面で [OK] を選ぶとデータが取り込まれます。
- 〈**MENU**〉ボタンを押してメニューを終了します。



## 4 〈WB·◉〉ボタンを押す（⏱6）

## 5 マニュアルWBを選ぶ

- 表示パネルを見ながら〈◎〉を回して〈⚙〉を選びます。

- 手順1で撮影した画像の露出が、標準露出から大きく外れていると、正確なホワイトバランスが設定されないことがあります。
- ピクチャースタイルを［**モノクロ**］に設定して撮影した画像、多重露出画像、4K動画からフレーム切り出しを行った画像、他のカメラで撮影した画像は、手順3で選択できません。

- 白い被写体の代わりに、市販のグレーチャートや18%標準反射板を撮影すると、より正確なホワイトバランスにすることができます。
- EOS用ソフトウェアから登録するカスタムホワイトバランスは、〈⚙〉に登録されます。なお、手順3の操作を行うと、登録したカスタムホワイトバランスのデータは消去されます。

## K 色温度を直接設定する

色温度指定は、ホワイトバランスの色温度を数値で設定する、上級者向けの機能です。

### 1 [ホワイトバランス] を選ぶ

- [2] タブの [**ホワイトバランス**] を選び、〈(SET)〉を押します。

### 2 色温度を設定する

- [K] を選びます。
- 〈◌〉を回して色温度を設定し、〈(SET)〉を押します。
- 設定できる色温度範囲は、約2500～10000K（100Kステップ）です。

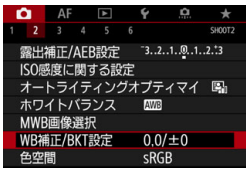
- 人工光源の色温度を設定するときは、必要に応じてWB補正（マゼンタ／グリーン寄り）を行ってください。
- 市販のカラーメーターで測定した色温度を［K］に設定するときは、事前にテスト撮影を行い、カメラとカラーメーター間の誤差を補正した数値を設定してください。

# WB +/- ホワイトバランスを補正する 応用

設定しているホワイトバランスを補正することができます。この機能を使うと、市販の色温度変換フィルターや、色補正用フィルターと同じような効果を得ることができます。補正幅は各色9段です。

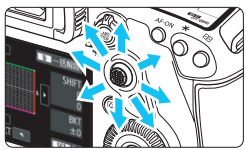
特に色温度変換フィルターや、色補正用フィルターの役割と効果を理解された、上級者向けの機能です。

## ホワイトバランス補正

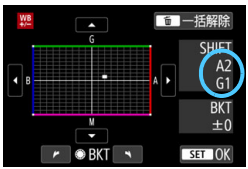



### 1 [WB補正/BKT設定] を選ぶ

- [📷2] タブの [**WB補正/BKT設定**] を選び、〈SET〉を押します。



設定例：A2, G1



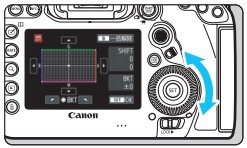

### 2 ホワイトバランスを補正する

- 〈✣〉を操作して、画面上の「■」を希望する位置に移動します。
- Bはブルー、Aはアンバー、Mはマゼンタ、Gはグリーンの意味です。移動方向寄りの色に補正されます。
- 画面右の「**SHIFT**」に補正方向と、補正量が表示されます。
- 〈🗑〉ボタンを押すと［**WB補正/BKT設定**］の設定を一括解除することができます。
- 〈SET〉を押すと設定が終了します。

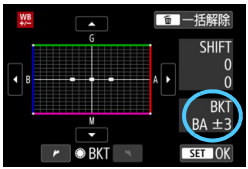
- WB 補正時に、ファインダー内と表示パネルに〈⚠〉を表示することができます（p.489）。
- ブルー／アンバー方向の1段は、色温度変換フィルターの約5ミレッドに相当します（ミレッド：色温度変換フィルターの濃度を表すときなどに使用される色温度の単位）。

## ホワイトバランスを自動的に変えて撮る

1回の撮影で色あいの異なる3枚の画像を記録することができます。設定されているホワイトバランスの色温度を基準に、ブルーとアンバー寄りの色あい、またはマゼンタとグリーン寄りの色あいに補正した画像が記録されます。この機能を「ホワイトバランスブラケティング（WB-BKT）」といいます。設定できる補正幅は1段ステップ±3段です。



B/A方向±3段のとき




### 補正幅を設定する

- 『ホワイトバランス補正』の手順2で〈◌〉を回すと、画面上の「■」が「■■■」（3点）に変わります。右に回すとB/A方向、左に回すとM/G方向のブラケティングになります。
- ➡ 画面右の「**BKT**」にブラケティング方向と、補正幅が表示されます。
- 〈🗑〉ボタンを押すと［**WB補正/BKT設定**］の設定を一括解除することができます。
- 〈(SET)〉を押すと設定が終了します。

### ● 記録される順序について

①基準ホワイトバランス ②ブルー（B）寄り ③アンバー（A）寄り、または ①基準ホワイトバランス ②マゼンタ（M）寄り ③グリーン（G）寄りの順に画像が記録されます。

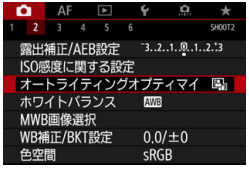
- WBブラケティング撮影時は、連続撮影可能枚数が少なくなります。
- 1回の撮影で3枚の画像を記録するため、通常の撮影よりもカードに画像を記録する時間が長くなります。

- WB補正やAEB撮影と組み合わせることができます。AEB撮影と組み合わせたときは、合計9枚の画像が記録されます。
- WBブラケティング設定時は、ホワイトバランスのマークが点滅します。
- WB ブラケティング時の記録順序（p.483）と撮影枚数（p.484）を変更することができます。
- 「**BKT**」はBracketing：ブラケティングの略です。

# MENU 明るさ・コントラストを自動補正する 応用

撮影結果が暗いときやコントラストが低いときに、明るさ・コントラストを自動的に補正することができます。この機能を「オートライティングオプティマイザ」といいます。初期状態では［**標準**］に設定されています。JPEG画像は撮影時に補正されます。

〈A+〉モードのときは［**標準**］に自動設定されます。




## 1 ［オートライティングオプティマイザ］を選ぶ

- ［2］タブの［**オートライティングオプティマイザ**］を選び、〈SET〉を押します。

## 2 補正内容を設定する

- 内容を選び〈SET〉を押します。

## 3 撮影する

- 必要に応じて、明るさ・コントラストが補正された画像が記録されます。

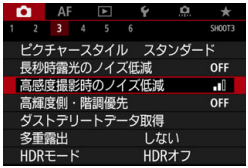
- 撮影条件によりノイズが増えることがあります。
- オートライティングオプティマイザの効果が強すぎて、画像が明るすぎるときは、［**弱め**］または［**しない**］に設定して撮影してください。
- ［**しない**］以外に設定したときは、露出補正、ストロボ調光補正で露出を暗めに設定しても、明るく撮影されることがあります。設定したとおりの明るさで撮影したいときは、［**しない**］に設定してください。
- 多重露出（p.268）、HDRモード（p.263）、高輝度側・階調優先（p.206）設定時は、［**オートライティングオプティマイザ**］の設定が自動的に［**しない**］になります。

手順2で〈**INFO.**〉ボタンを押して［**M, Bulb時はOFF**］の［✓］を外すと、〈**M**〉〈**B**〉モードでも［**オートライティングオプティマイザ**］が設定できるようになります。

# MENU ノイズ低減機能の設定 応用

## 高感度撮影時のノイズ低減

画像に発生するノイズを低減することができます。すべてのISO感度で作動しますが、特に高ISO感度撮影時に有効です。低ISO感度撮影時は、低輝度部（暗部）のノイズをさらに低減することができます。




### 1 ［高感度撮影時のノイズ低減］を選ぶ

- ［3］タブの［**高感度撮影時のノイズ低減**］を選び、〈SET〉を押します。

### 2 レベルを設定する

- 低減レベルを選び〈SET〉を押します。

- **NR：マルチショットノイズ低減機能**

［**強め**］よりも高画質なノイズ低減処理が行われます。1回の撮影で4枚連続撮影し、自動的に画像の位置を合わせながら合成を行い、1枚のJPEG画像が記録されます。

なお、記録画質がRAW、RAW+JPEGに設定されているときは、［**マルチショットノイズ低減機能**］は設定できません。

### 3 撮影する

- ノイズ低減処理が行われた画像が記録されます。

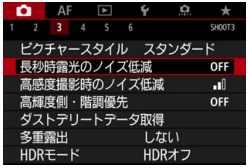
マルチショットノイズ低減機能設定時に、ファインダー内と表示パネルに〈⚠〉を表示することができます（p.489）。

**マルチショットノイズ低減機能設定時の注意事項**

- 手ブレなどにより画像のズレ量が大きいときは、ノイズ低減効果が小さくなることがあります。
- 手持ち撮影のときは手ブレに注意してください。三脚の使用をおすすめします。
- 動いている被写体を撮影すると、被写体の動きが残像のように写ることがあります。
- 格子模様、ストライプ模様のような繰り返しパターンや、画面全体が平坦で単調なときは、位置合わせが正常に行われないことがあります。
- 4枚連続撮影中に被写体の明るさが変化したときは、画像に露出ムラが発生することがあります。
- 撮影後にノイズ低減処理と画像合成を行ってからカードに記録するため時間がかかります。画像処理中は、ファインダー内と表示パネルに「**buSY**」が表示され、処理が終わるまで次の撮影はできません。
- AEB撮影、WBブラケティング撮影はできません。
- [**3：長秒時露光のノイズ低減**]［**3：多重露出**］［**3：HDRモード**］、およびDPRAW撮影、AEB撮影、WBブラケティング撮影、ライブビュー撮影時のサーボAFなどが設定されているときは、［**マルチショットノイズ低減機能**］は設定できません。
- バルブ撮影時は設定できません。
- ストロボ撮影はできません。ただし、EOS用外部ストロボのAF補助光は［**AF3：AF補助光の投光**］の設定に応じて投光されます。
- 電源スイッチ〈**OFF**〉、電池交換、カード交換、〈A+〉〈**B**〉モード選択、記録画質RAW、RAW＋JPEG設定／切り換え、動画撮影への切り換えを行うと、自動的に［**標準**］に切り換わります。

## 長秒時露光のノイズ低減

露光時間1秒以上で撮影した画像に対して、長秒時露光特有のノイズ（輝点、縞）を低減することができます。




### 1 ［長秒時露光のノイズ低減］を選ぶ

● ［3］タブの［**長秒時露光のノイズ低減**］を選び、〈SET〉を押します。

### 2 低減内容を設定する

● 内容を選び〈SET〉を押します。

● **自動**

露光時間1秒以上で撮影した画像に対し、長秒時露光特有のノイズが検出された場合に自動低減処理が行われます。通常はこの設定で十分な効果が得られます。

● **する**

露光時間1秒以上で撮影した画像に対し、常に低減処理が行われます。［**自動**］で検出できないノイズがあったときに［**する**］で撮影すると、ノイズを低減できることがあります。

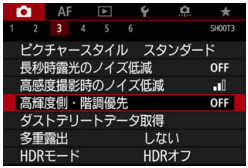
### 3 撮影する

● ノイズ低減処理が行われた画像が記録されます。

- ［**自動**］［**する**］設定時は、撮影後、ノイズ低減処理のために露光時間と同じ時間が必要となることがあります。なお、低減処理中でもファインダー内の連続撮影可能枚数が「1」以上のときは、続けて撮影することができます。
- 高ISO感度で撮影すると、［**しない**］［**自動**］設定時よりも［**する**］設定時の方が、画像のザラつきが多くなることがあります。
- ［**する**］設定時に、ライブビュー表示の状態から長秒時露光を行うと、ノイズ低減処理中は、「**BUSY**」が表示され、処理が終了するまでライブビュー表示は行われません（次の撮影はできません）。

# MENU 高輝度側・階調優先の設定 応用

画像のハイライト部分の白とびを緩和することができます。




## 1 [高輝度側・階調優先] を選ぶ

- [📷3] タブの [**高輝度側・階調優先**] を選び、〈(SET)〉を押します。

## 2 [する] を選ぶ

- 高輝度（ハイライト）側の階調表現性が向上します。適正露出（18%グレー）から高輝度限界までの範囲が拡張され、グレーからハイライトまでの階調がより滑らかになります。

## 3 撮影する

- 高輝度側・階調優先による処理が行われた画像が記録されます。

- [**する**] 設定時はノイズが若干増えることがあります。
- [**する**] 設定時は、ISO感度の設定範囲がISO200～になります。また、拡張ISO感度は設定できません。
- 多重露出（p.268）、HDRモード（p.263）設定時は、[**高輝度側・階調優先**] の設定が自動的に [**しない**] になります。

高輝度側・階調優先設定時は、ファインダー内と表示パネルに〈**D+**〉が表示されます。

# MENU レンズの光学特性による影響を補正する 応用

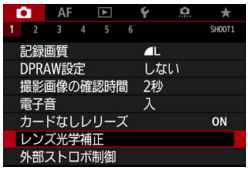
レンズの光学特性によって画像の四隅が暗くなる現象を「周辺光量の低下」、レンズの光学特性によって起こる画像のゆがみを「歪曲収差」、被写体の輪郭部分に現れる色のにじみを「色収差」、絞りの影響により画像の先鋭さが低下することを「回折現象」といいますが、これらの現象を補正することができます。なお、「デジタルレンズオプティマイザ」機能により、レンズの光学特性により生じる諸収差や、回折現象、ローパスフィルターに起因した解像劣化を補正することもできます。

初期状態では、［**周辺光量補正**］［**色収差補正**］［**回折補正**］は［**する**］、［**歪曲収差補正**］［**デジタルレンズオプティマイザ**］は［**しない**］に設定されています。

レンズ補正を行うためのデータがカメラに登録（保存）されているときは、〈A+〉モードでも周辺光量補正、色収差補正、回折補正が行われます。

設定画面に［**補正データなし**］と表示されたときや、［🚫］マークが表示されたときは、レンズ光学補正を行うための補正データがカメラに登録されていません。213ページの『レンズの補正データについて』を参照してください。

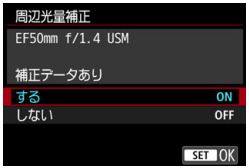
## 周辺光量補正




**1** **［レンズ光学補正］を選ぶ**

- ［📷1］タブの［**レンズ光学補正**］を選び、〈(SET)〉を押します。

**2** **［周辺光量補正］を選ぶ**




### 3 ［する］を選ぶ

- 装着レンズの［**補正データあり**］が表示されていることを確認します。
- ［**する**］を選び〈(SET)〉を押します。

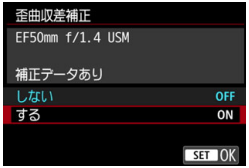
### 4 撮影する

- 周辺光量が補正された画像が記録されます。

- 撮影条件により、画像の周辺部分にノイズが発生することがあります。
- ISO感度が高くなるほど、補正量が少なくなります。

EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional(p.598)で最大補正を行ったときよりもやや控えめに補正されます。

## 歪曲収差補正




### 1 ［歪曲収差補正］を選ぶ

### 2 ［する］を選ぶ

- 装着レンズの［**補正データあり**］が表示されていることを確認します。
- ［**する**］を選び〈(SET)〉を押します。

### 3 撮影する

- 歪曲収差が補正された画像が記録されます。

- ゆがみの補正が行われるため、ファインダー撮影時に見えていた範囲よりも狭い範囲が記録されます（画像の周辺部分が少しトリミングされ、解像感が若干低下します）。
- 動画撮影時は、［**歪曲収差補正**］は表示されません（補正できません）。
- ライブビュー撮影時は、歪曲収差補正の設定により画角がわずかに変化します。
- ライブビュー撮影時に拡大表示を行ったときは、ゆがみが補正されていない映像が表示されます。そのため、画面の端のほうを拡大表示したときは、記録されない範囲が表示されることがあります。
- 歪曲収差補正が行われた画像には、ダストデリートデータ（p.460）は付加されません。また、再生時にAFフレーム表示（p.402）は行われません。

## デジタルレンズオプティマイザ

### 1 ［デジタルレンズオプティマイザ］を選ぶ

### 2 ［する］を選ぶ

- 装着レンズの［**補正データあり**］が表示されていることを確認します。
- ［**する**］を選び〈(SET)〉を押します。

### 3 撮影する

- レンズの諸収差、回折現象、ローパスフィルターに起因した解像劣化が補正された画像が記録されます。

- 撮影条件により、補正効果とともにノイズが強調されることがあります。また、画像に輪郭強調が強くかかることがあります。そのときは、必要に応じてピクチャースタイルのシャープネスの調整を行ってください。
- ISO感度が高くなるほど、補正量が少なくなります。
- 記録画質がM RAW、S RAWに設定されているときに、［**デジタルレンズオプティマイザ**］を［**する**］に設定すると、記録画質がRAWになります。
- ［**デジタルレンズオプティマイザ**］を［**する**］に設定したときは、連続撮影速度が大幅に低下します。また、記録画質設定時にM RAW、S RAWは選択できません。なお、ライブビュー撮影時に補正処理が行われたときは、［BUSY］が表示され、処理が終了するまでライブビュー表示は行われません（次の撮影はできません）。
- ［**デジタルレンズオプティマイザ**］を［**する**］に設定したあと、［**DPRAW設定**］を［**する**］に設定すると、［**デジタルレンズオプティマイザ**］は機能しません（［**しない**］になります）。
- 動画撮影時は、［**デジタルレンズオプティマイザ**］は表示されません（補正できません）。
- ［**デジタルレンズオプティマイザ**］を［**する**］に設定したときは、マルチショットノイズ低減機能は設定できません。また、操作ボタンカスタマイズの［**ワンタッチ記録画質切換**］［**ワンタッチ記録画質切換（ホールド）**］で、切り換える記録画質をM RAW、S RAWに設定し、割り当てたボタンを押しても機能しません。

- ［**デジタルレンズオプティマイザ**］を［**する**］に設定したときは、［**色収差補正**］［**回折補正**］は表示されませんが、ともに［**する**］の設定で撮影されます。
- ［**ファインダー内表示設定**］の［**デジタルレンズオプティマイザ**］に［✓］を付けると、ファインダー内に〈◐〉のマークを表示することができます（p.84）。
- 新たに発売されたレンズのデジタルレンズオプティマイザ用の補正データは、EOS用ソフトウェアのEOS Utility（p.598）から追加することができます。
- ［**デジタルレンズオプティマイザ用の補正データが無効です**］と表示されたときは、EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使用して、デジタルレンズオプティマイザ用の補正データをカメラに登録してください。

## 色収差補正

### 1 ［色収差補正］を選ぶ

### 2 ［する］を選ぶ

- 装着レンズの［**補正データあり**］が表示されていることを確認します。
- ［**する**］を選び〈(SET)〉を押します。

### 3 撮影する

- 色収差が補正された画像が記録されます。

［**デジタルレンズオプティマイザ**］を［**する**］に設定したときは、［**色収差補正**］は表示されません。

## 回折補正

**1** **［回折補正］を選ぶ**

**2** **［する］を選ぶ**

- ［**する**］を選び〈(SET)〉を押します。

**3** **撮影する**

- 回折現象が補正された画像が記録されます。

- 撮影条件により、補正効果とともにノイズが強調されることがあります。
- ISO感度が高くなるほど、補正量が少なくなります。
- 動画撮影時は、［**回折補正**］は表示されません（補正できません）。

- 「回折補正」では回折現象だけでなく、ローパスフィルターなどの影響による解像劣化も補正されます。そのため、開放絞り付近でも補正効果があります。
- ［**デジタルレンズオプティマイザ**］を［**する**］に設定したときは、［**回折補正**］は表示されません。

## レンズの補正データについて

レンズ光学補正に対応しているレンズの補正用データは、カメラに登録（保存）されています。補正［**する**］を選んでおくと、自動的に周辺光量補正、歪曲収差補正、デジタルレンズオプティマイザ、色収差補正、回折補正が行われます。

EOS用ソフトウェアのEOS Utility（p.598）を使用すると、登録されているレンズが確認できます。また、未登録レンズの補正データをカメラに登録することもできます。詳しくは、EOS Utility使用説明書（p.600）を参照してください。

なお、補正データが内蔵されているレンズを使用したときは、カメラに補正データを登録する必要はありません。

### 各補正共通注意事項

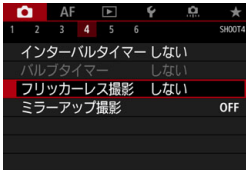
- 撮影したJPEG画像の周辺光量低下、歪曲収差、色収差、回折現象を、後から補正することはできません。
- 他社製レンズ使用時は、[**補正データあり**]と表示されていても、[**しない**]に設定することをおすすめします。
- ライブビュー撮影時に拡大表示を行ったときは、周辺光量補正、歪曲収差補正の効果は映像に反映されません。なお、デジタルレンズオプティマイザ、回折補正の効果は、ライブビュー撮影時の映像には反映されません。
- 距離情報を持たないレンズを使用したときは、補正量が少なくなります（回折補正を除く）。

### 各補正共通事項

- レンズ光学補正の効果は、使用レンズや撮影条件などにより異なります。また、使用レンズや撮影条件などにより、効果が分かりにくい場合があります。
- 補正の効果が分かりにくいときは、撮影後に画像を拡大して確認することをおすすめします。
- エクステンダーやライフサイズコンバーター装着時にも補正が行われます。
- 補正データがカメラに登録されていないレンズで撮影したときは、補正［**しない**］と同じ撮影結果になります（回折補正を除く）。

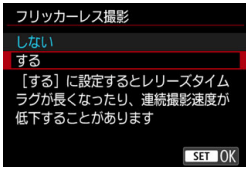
# MENU フリッカーの影響を低減する 応用

蛍光灯などの光源下で、速いシャッター速度で撮影を行うと、光源の点滅（明滅）によるちらつき（フリッカー）により、画面の上下で露出差が生じたり、連続撮影を行ったときに写真に露出差や色あいの差が生じることがあります。ファインダー撮影時にこの機能を利用すると、カメラが光源の点滅周期を検知し、フリッカーによる露出や色あいへの影響が少ないタイミングで撮影することができます。




## 1 ［フリッカーレス撮影］を選ぶ

● ［📷4］タブの［**フリッカーレス撮影**］を選び、〈(SET)〉を押します。




## 2 ［する］を選ぶ

## 3 撮影する

● フリッカーによる露出や色あいへの影響が低減された状態で撮影されます。

● ［**する**］設定時にフリッカー光源下で撮影を行うと、レリーズタイムラグが長くなることがあります。また、連続撮影速度が遅くなったり、連続撮影間隔にばらつきが生じることがあります。
● ミラーアップ撮影時、ライブビュー撮影時、動画撮影時は機能しません。
● 〈**P**〉〈**Av**〉モードで連続撮影中にシャッター速度が変化したときや、同一シーンでシャッター速度を変えて複数枚の撮影を行ったときは、撮影画像の色あいが異なる（ばらつく）ことがあります。色あいの変化が気になるときは、〈**Tv**〉〈**M**〉モードでシャッター速度を一定にして撮影してください。
● ［**フリッカーレス撮影**］を［**する**］に設定したときと、［**しない**］に設定したときで、撮影画像の色あいが異なることがあります。
● 100Hz、120Hzの点滅周期以外は検出できません。また、連続撮影中に光源の点滅周期が変化したときは、フリッカーの影響は低減できません。

- 被写体の背景が暗いときや、画面内に輝度が高い光源などが含まれているときは、フリッカーを適切に検知できないことがあります。
- イルミネーションなどの特殊な光源下では、ファインダー内の〈Flicker!〉が点灯しても、フリッカーの影響が低減できないことがあります。
- 光源によってはフリッカーを適切に検知できないことがあります。
- 構図変更を行ったときは、〈Flicker!〉の表示が点いたり消えたりすることがあります。
- 光源や撮影条件などにより、この機能を使用しても効果が得られないことがあります。

- 事前にテスト撮影することをおすすめします。
- ファインダー内に〈Flicker!〉が表示されないときは、[**ファインダー内表示設定**]の[**フリッカー検知**]に[✓]を付けます（p.84）。フリッカーの影響が低減された状態で撮影が行われるときは、〈Flicker!〉が点灯します。なお、フリッカーが発生しない光源下や、フリッカーを検知できないときは、〈Flicker!〉は表示されません。
- [**フリッカー検知**]に[✓]が付いている状態で、[**📷4：フリッカーレス撮影**]を[**しない**]に設定し、フリッカー光源下で測光を行ったときは、ファインダー内の〈Flicker!〉が点滅して警告が行われます。[**する**]に設定して撮影することをおすすめします。
- 〈A+〉モードのときは〈Flicker!〉は表示されませんが、フリッカーの影響が低減された状態で撮影されます。
- ストロボ撮影時も機能します。ただし、ワイヤレスストロボ撮影時は効果が得られないことがあります。

# MENU 色空間を設定する 応用

再現できる色の範囲（色域特性）のことを「色空間」といいます。このカメラでは、撮影する画像の色空間をsRGB（エスアールジービー）、Adobe RGB（アドビアールジービー）から選ぶことができます。なお、一般的な撮影のときはsRGBをおすすめします。

〈A+〉モードのときは［sRGB］に自動設定されます。

**1 ［色空間］を選ぶ**

- ［📷2］タブの［色空間］を選び、〈SET〉を押します。

**2 色空間を設定する**

- ［sRGB］または［Adobe RGB］を選び、〈SET〉を押します。

## Adobe RGBについて

主に商用印刷などの業務用途で使用します。画像処理とAdobe RGB、DCF 2.0（Exif 2.21以上）についての知識がない方にはおすすめできません。sRGBのパソコン環境や、DCF 2.0（Exif 2.21以上）に対応していないプリンターでは、とても控えめな感じに仕上がるため、撮影後、パソコンのソフトウェアなどで画像処理を行う必要があります。

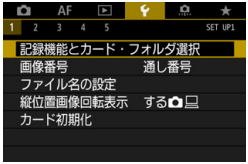
- 色空間をAdobe RGBに設定して撮影した静止画は、ファイル名の先頭文字が「_」（アンダーバー）になります。
- ICCプロファイルは付加されません。ICCプロファイルについては、Digital Photo Professional使用説明書（p.600）を参照してください。

# MENU フォルダの作成と選択

画像を保存するフォルダを任意に作成／選択することができます。

なお、この操作を行わなくても、画像を保存するフォルダは自動で作成され、そのフォルダに画像が保存されます。

## フォルダの作成

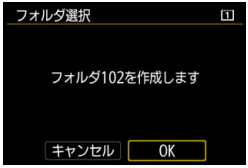



**1** **［記録機能とカード・フォルダ選択］を選ぶ**

- ［1］タブの［**記録機能とカード・フォルダ選択**］を選び、〈SET〉を押します。

**2** **［フォルダ］を選ぶ**

**3** **［フォルダ作成］を選ぶ**




**4** **［OK］を選ぶ**

➡ 番号が１つ繰り上がった、新しいフォルダが作成されます。

## フォルダの選択

- フォルダ選択画面でフォルダを選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 画像を保存するフォルダが選択されます。
- 撮影を行うと、選択したフォルダに画像が記録されます。

### フォルダについて

フォルダ名は、「**100EOS5D**」のように先頭3桁の数字（フォルダ番号）と、5文字の英数字で構成されています。1つのフォルダには、画像が最大9999枚保存されます（画像番号0001～9999）。フォルダ内の画像がいっぱいになると、番号が1つ繰り上がったフォルダが自動的に作成されます。また、強制リセット（p.224）を行ったときもフォルダが自動的に作成されます。フォルダは100～999まで作成することができます。

### パソコンを使ったフォルダ作成

カードを開いたところに「**DCIM**」という名前のフォルダを作ります。次にDCIMフォルダを開いたところに、画像を記録するフォルダを必要な数だけ作ります。フォルダ名は、「**100ABC_D**」のように、必ず100～999までの3桁の番号に続けて、5文字の英数字を付けます。使用できる文字は、半角アルファベットA～Z（大文字、小文字混在可）、半角の「_」（アンダーバー）、および数字です。スペースは使用できません。また、同じフォルダ番号（例：100ABC_D、100W_XYZ）を付けたときは、カメラがフォルダを認識できません。

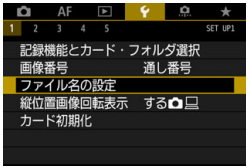
# MENU ファイル名を変更する

ファイル名は、先頭4文字の英数字、4桁の画像番号（p.223）、拡張子で構成されています。先頭4文字の初期設定は、工場出荷時に決められた、カメラ固有の英数字になっていますが、これを任意に変更することができます。

（例）**BE3B0001.JPG**

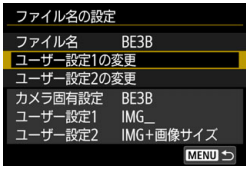
ユーザー設定1は、任意の4文字を登録することができます。ユーザー設定2は、任意の3文字を登録して撮影すると、先頭から4文字目に画像サイズ（記録画質）が自動的に付加されます。

## ファイル名の登録・変更




### 1 ［ファイル名の設定］を選ぶ

- ［1］タブの［**ファイル名の設定**］を選び、〈SET〉を押します。




### 2 ［ユーザー設定＊の変更］を選ぶ

文字パレット

### 3 任意の英数字を入力する

- ユーザー設定1は4文字、ユーザー設定2は3文字入力します。
- 〈🗑〉ボタンを押して、不要な文字を消去します。

入力モード

- 〈◎〉〈⚙〉または〈✥〉を操作して□を移動し、希望する文字を選び、〈SET〉を押すと入力されます。
- ［A⇄1］を選ぶと、入力モードが切り換わります。
- 入力をキャンセルするときは、〈INFO.〉ボタンを押して［OK］を選びます。

## 4 設定を終了する

- 所定の文字数を入力し、〈MENU〉ボタンを押して［OK］を選びます。
- ➡ 登録したファイル名が保存されます。

設定内容

## 5 登録したファイル名を選ぶ

- ［ファイル名］を選び〈SET〉を押します。
- 登録したファイル名を選び〈SET〉を押します。
- ユーザー設定2に登録したときは、「(登録した3文字) ***＋画像サイズ」を選びます。

「_」（アンダーバー）を1文字目に指定することはできません。

### ユーザー設定2について

ユーザー設定2で登録した「***＋画像サイズ」を選択して撮影すると、そのとき設定されていた記録画質（1文字）が、ファイル名の先頭から4文字目に自動的に付加されます。付加される文字の意味は次のとおりです。

「***L」＝ ◢L/◢L/RAW　「***M」＝ ◢M/◢M/M RAW
「***S」＝ ◢S1/◢S1/S RAW　「***T」＝ S2
「***U」＝ S3

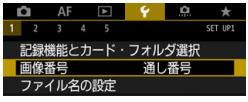
パソコンに画像を取り込んだときに、自動付加された4文字目を読み取ることで、画像を開かずに画像サイズ（記録画質）を判別することができます。なお、RAW画像、JPEG画像は、拡張子から判別することができます。

- 手順3で文字が入力できないときは、〈Q〉ボタンを押して、文字パレットに青い枠を付けてから操作します。
- 拡張子は、JPEG画像は「.JPG」、RAW画像は「.CR2」、動画は「.MOV」「.MP4」になります。
- ユーザー設定2で動画を撮影すると、ファイル名の先頭から4文字目が「_」（アンダーバー）になります。

# MENU 画像番号の付け方を設定する

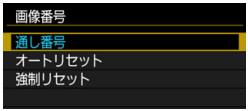
撮影した画像には0001～9999までの連続した4桁の画像番号が付けられ、1つのフォルダに保存されます。画像番号は、用途に応じて番号の付け方を変えることができます。

（例）**BE3B0001.JPG**
画像番号




**1 ［画像番号］を選ぶ**

- ［1］タブの［**画像番号**］を選び、〈(SET)〉を押します。




**2 画像番号の付け方を選ぶ**

- 内容を選び〈(SET)〉を押します。
- ［**強制リセット**］を選んだときは、［OK］を選ぶと画像番号が0001にリセットされます。

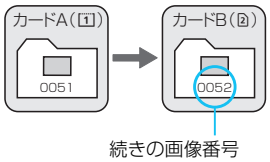
## 通し番号

**カード交換やフォルダ作成を行っても連番で保存したいとき**

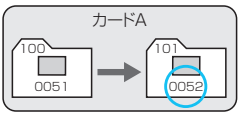
カード交換やフォルダ作成、カードの変更（例：[1]→[2]）を行っても、画像番号9999の画像ができるまで、連続した番号が付けられ、保存されます。複数のカード、またはフォルダにまたがった0001～9999までの画像を、パソコンで1つのフォルダにまとめて保存したいときなどに有効です。

ただし、交換・変更したカードや、作成したフォルダにすでに画像が入っているときは、その画像に付けられた番号の続き番号になることがあります。画像を通し番号で保存したいときは、初期化したカードを使用してください。

**カードを交換・変更した場合**




**フォルダを作成した場合**

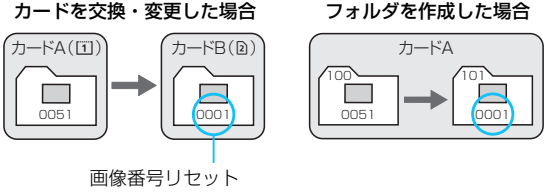


## オートリセット

**カード交換やフォルダ作成で、画像番号を0001にしたいとき**

カード交換やフォルダ作成、カードの変更（例：[1]→[2]）を行うと、画像番号0001から順に番号が付けられ、保存されます。カード単位、またはフォルダ単位で画像を分類したいときなどに有効です。

ただし、交換・変更したカードや、作成したフォルダにすでに画像が入っているときは、その画像に付けられた番号の続き番号になることがあります。0001から順に保存したいときは、初期化したカードを使用してください。




## 強制リセット

**任意に画像番号を0001にしたり、新しいフォルダで画像番号0001から撮影したいとき**

この操作を行うと、自動的に新しいフォルダが作られ、そのフォルダに画像番号0001から順に番号が付けられ、保存されます。

前の日に撮影した画像と、今日撮影する画像を別々のフォルダに保存したいときなどに有効です。操作を行ったあとは、通し番号、またはオートリセットの設定に戻ります。

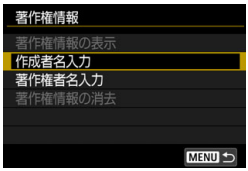
フォルダ番号999のフォルダに画像番号9999の画像が保存されると、カードに空き容量があっても撮影できなくなります。カードの交換を促すメッセージが表示されますので、新しいカードに交換してください。

# MENU 著作権情報を設定する 応用

著作権情報の設定を行うと、その内容がExif（イグジフ）情報として画像に記録されます。

## 1 ［著作権情報］を選ぶ

- ［🔧5］タブの［**著作権情報**］を選び、〈SET〉を押します。




## 2 設定する項目を選ぶ

- ［**作成者名入力**］または［**著作権者名入力**］を選び、〈SET〉を押します。

## 3 文字を入力する

- 〈◎〉〈⚙〉または〈✥〉を操作して□を移動し、希望する文字を選び、〈SET〉を押すと入力されます。
- 最大63文字入力できます。
- 〈🗑〉ボタンを押すと、1文字消去されます。
- ［Aa⇄1@］を選ぶと、入力モードが切り換わります。
- 入力をキャンセルするときは、〈**INFO.**〉ボタンを押して［OK］を選びます。

## 4 設定を終了する

- 文字の入力が終わったら、〈MENU〉ボタンを押して［OK］を選びます。
- ➡ 設定した内容が保存されます。

## 著作権情報の確認

手順2で［**著作権情報の表示**］を選ぶと、入力した［**作成者**］［**著作権者**］の情報を確認することができます。

## 著作権情報の消去

手順2で［**著作権情報の消去**］を選ぶと、［**作成者**］［**著作権者**］の情報が消去されます。

入力した作成者名または著作権者名が長いときは、［**著作権情報の表示**］を選んだ際に、入力した文字の一部が表示されないことがあります。

- 手順3で文字が入力できないときは、〈Q〉ボタンを押して、文字パレットに青い枠を付けてから操作します。
- EOS用ソフトウェアのEOS Utility（p.598）から、著作権情報を設定・確認することもできます。

# 5

# GPS 機能の設定

この章では、カメラに内蔵されているGPS機能の設定について説明しています。なお、EOS 5D Mark IV (WG)は、GPS衛星（アメリカ）、およびGLONASS衛星（ロシア）、準天頂衛星みちびき（日本）からの信号に対応しています。

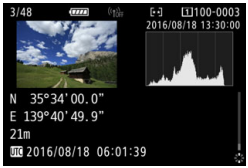
- GPS機能は、初期設定では［**使わない**］に設定されています。
- 本書では測位機能の総称として「GPS機能」と記載しています。

［GPS］が［モード1］に設定されているときは（p.231）、カメラの電源スイッチを〈**OFF**〉にしても一定の間隔でGPS信号を受信し続けるため、電池が早く消耗して撮影可能枚数が少なくなります。GPS機能を使用しないときは、［GPS］を［使わない］または［モード2］に設定することをおすすめします。

GPS機能を使用するときは、使用可能な国や地域を確認の上、法令等の規制に従ってください。国外でGPS機能を使用するときは、特にご注意ください。

# GPS機能でできること

## 位置情報を画像に付加




- 位置情報*1（緯度、経度、標高）と協定世界時*2を画像に付加することができます。
- この情報を利用して、パソコンの地図上に撮影場所を表示することができます。

*1：移動条件やGPS機能の設定により、画像に付加される位置情報が正確でない場合があります。

*2：協定世界時（UTC：Coordinated Universal Time）は、グリニッジ標準時とほぼ同じ時刻です。

## 移動ルートを記録

ロガー機能を使うと、カメラがたどった位置情報を一定間隔で自動的に記録することができます。たどった位置情報は、パソコンの地図上で確認することができます。

* 移動条件や移動場所、GPS機能の設定により、画像に付加される位置情報が正確でない場合があります。

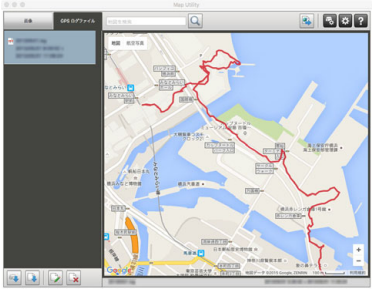
## 時刻の設定

GPS信号から得られる時刻情報をカメラに設定することができます。

GPS情報を記録した静止画や動画は、個人を特定できる情報が含まれていることがあります。そのため、GPS情報が記録されている静止画や動画を他人に渡したり、インターネットなど複数の人が閲覧できる環境に掲載するときは、十分注意してください。

## パソコンの地図上に画像や情報を表示

EOS用ソフトウェアのMap Utility（p.599）を使用して、パソコンの地図上に撮影場所や移動ルートを表示することができます。



地図データ©2016 ZENRIN

# GPS機能に関するご注意

## ■ GPS機能が使える国や地域について

GPS機能の使用は、国や地域ごとの法令等により規制されていることがあるため、違反すると罰せられることがあります。そのため、GPS機能が使用できる国や地域については、キヤノンのWebサイトで確認してください。

なお、それ以外の国や地域でGPS機能を使用した際のトラブル等については、弊社は一切責任を負いかねます。

## ■ モデルナンバー

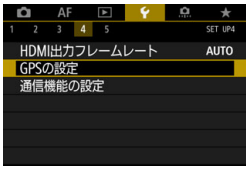
EOS 5D Mark IV (WG) ：DS126601
（GPSモジュールモデル：ES300）

- 国や地域によっては、GPS機能の使用などが規制されていることがありますので、お使いになる国や地域の法令等の規制にしたがってご使用ください。国外でGPS機能を使用するときは特に注意してください。
- 電子機器の使用が制限されている場所での使用には十分注意してください。
- GPS機能を使って撮影した静止画や動画に記録されるカメラの位置情報は、個人を特定する情報が含まれていることがあります。そのためGPS機能を使ってカメラの位置情報が記録されている静止画、動画、GPSログファイルを他人に渡したり、インターネットなどの複数の人が閲覧できる環境へ掲載するときは、十分注意してください。
- GPS衛星からの信号を受信するのに時間がかかることがあります。

# GPSの信号を受信する

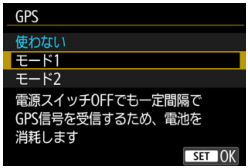
GPS信号を受信するときは、空が見通せる屋外でカメラを使用し、カメラに手や物などをのせないようにして、カメラの上面が空に向くようにしてください。

なお、受信状態が良いときは、[GPS]を[モード1]または[モード2]に設定したあと、約30秒～60秒で衛星捕捉状態になります。表示パネルに[GPS]が表示されていることを確認してから撮影してください。




## 1 [GPSの設定]を選ぶ

- [4]タブの[GPSの設定]を選び、〈(SET)〉を押します。




## 2 モードを選ぶ

- [モード1]または[モード2]を選びます。
- ➡ 表示パネルに[GPS]が表示されます。

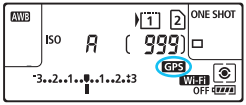
- **モード1**

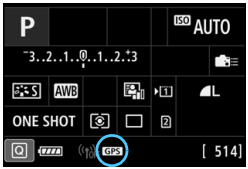
  電源スイッチが〈**ON**〉のときだけでなく、電源スイッチを〈**OFF**〉にしたときも一定間隔でGPS信号を受信し続けます。

- **モード2**

  電源スイッチが〈**ON**〉のときにGPS信号を受信します。電源スイッチを〈**OFF**〉にすると、GPS機能もオフになります。ただし、カメラがオートパワーオフ状態のときは、一定間隔でGPS信号を受信し続けます。

## GPS信号の受信状態について




表示パネルに表示される［GPS］で、GPS信号の受信状態を確認することができます。

**GPS 点灯：衛星捕捉状態**
**GPS 点滅：衛星未捕捉**

［GPS］が点灯した状態で撮影すると、画像に位置情報が付加されます。

- ［**モード1**］設定時は、カメラの電源スイッチを〈**OFF**〉にしても一定間隔でGPS信号を受信し続けるため、電池が早く消耗して撮影可能枚数が少なくなります。長時間カメラを使用しないときは、［**使わない**］に設定してください。
- ［**モード2**］設定時は、カメラがオートパワーオフ状態のときに一定間隔でGPS信号を受信し続けるため、オートパワーオフ状態を長く続けると、電池が早く消耗して撮影可能枚数が少なくなります。長時間カメラを使用しないときは、電源スイッチを〈**OFF**〉にしてください。
- GPSのアンテナは、背面から見てアクセサリーシューの右前方に内蔵されています（p.28）。なお、外部ストロボを取り付けてもGPS信号を受信することはできますが、受信感度は少し低下します。
- GPSレシーバー GP-E2（別売）は使用できません。

### GPS信号を受信しにくい条件

次のような環境ではGPS衛星からの信号が正しく受信できないため、位置情報が記録されなかったり、誤差のある位置情報が記録されることがあります。

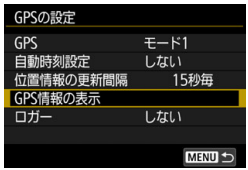
- 屋内、地下、トンネルや森の中、ビルなどの近くや谷間
- 高圧電線や1.5GHz帯の携帯電話などの近く
- カメラをかばんなどに入れて持ち歩いたとき
- 長い距離を移動したとき
- 周囲の環境が異なる場所へ移動したとき
- GPS衛星は時間の経過とともに移動するため、上記以外の環境でも位置情報が記録されなかったり、誤差のある位置情報が記録されることがあります。また、同じ場所でカメラを使っていても移動した位置情報が記録されることがあります。

- GPS機能の影響により、カメラを使うときに電池の残量が少なくなっていることがあります。必要に応じて電池を充電するか、充電した予備の電池（別売）を用意しておくことをおすすめします。
- 縦位置撮影時もGPS信号を受信することができます。

## GPS情報を表示する

### 1 [GPS] の設定を確認する

● [GPS] が [モード1] または [モード2] に設定されていることを確認します。




### 2 [GPS情報の表示] を選ぶ

➡ GPS情報が表示されます。

### 3 撮影する

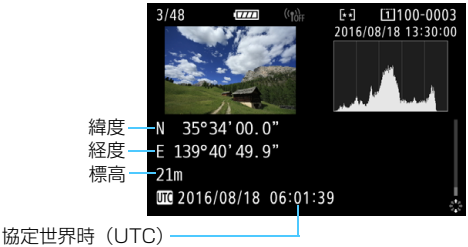
● 衛星を捕捉した状態で撮影すると、位置情報が画像に付加されます。

一般的にGPSの特性上、標高の精度は、緯度・経度の精度よりも劣ります。

● 衛星捕捉状態の〈📡〉は電波状態を示しています。〈**3D**〉が表示されているときは標高も記録されます。〈**2D**〉が表示されているときは標高は記録されません。
● UTC（協定世界時）は、グリニッジ標準時とほぼ同じ時刻です。

## 画像に付加される位置情報について

画像を再生し、〈**INFO.**〉ボタンを押して撮影情報表示の画面（p.398）を表示した状態で〈✲〉を上下に操作すると、位置情報を確認することができます。



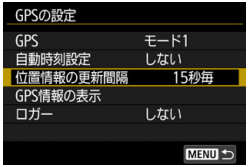

- 動画撮影のときは、撮影を開始したときの位置情報が記録されます。なお、衛星捕捉状態は記録されません。
- EOS用ソフトウェアのMap Utility（p.599）を使用すると、パソコンの地図上に撮影場所を表示することができます。

# 位置情報の更新間隔を設定する

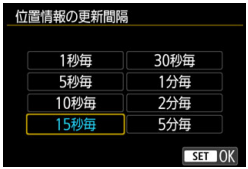
位置情報の更新間隔（時間）を設定することができます。なお、更新間隔が短いほど撮影時の位置情報が正確に記録されますが、電池が消耗するため撮影可能枚数が少なくなります。

## 1 [GPS] の設定を確認する

- [GPS] が [**モード1**] または [**モード2**] に設定されていることを確認します。




## 2 [位置情報の更新間隔] を選ぶ




## 3 更新間隔を設定する

- 項目を選び〈(SET)〉を押します。

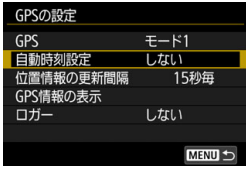
- GPS信号の受信状態が悪い場所で使用すると、撮影可能枚数が少なくなります。
- GPSの特性上、更新間隔に誤差が生じます。

# GPSの時刻をカメラに設定する

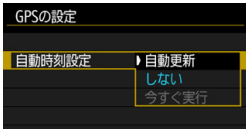
GPS信号から得られる時刻情報をカメラに設定することができます。なお、誤差は約±1秒です。

## 1 [GPS]の設定を確認する

- [GPS]が[**モード1**]または[**モード2**]に設定されていることを確認します。




## 2 [自動時刻設定]を選ぶ




## 3 項目を選ぶ

- [**自動更新**]または[**今すぐ実行**]を選び、〈(SET)〉を押します。
- [**自動更新**]は、カメラの電源が入った状態で、GPS信号を受信したときに更新されます。

- GPS衛星を5基以上捕捉できないときは、時刻の自動更新は行われません。また、[**今すぐ実行**]が灰色に表示されて選択できません。
- [**今すぐ実行**]が選択できても、GPS衛星の捕捉タイミングによっては、時刻合わせが行われないことがあります。
- [**自動時刻設定**]が[**自動更新**]に設定されているときは、[**▼2：日付/時刻/エリア**]の設定で日付/時刻の手動設定はできません。
- ワイヤレスファイルトランスミッター WFT-E7（Ver.2／別売）を使用して[**カメラ間時刻同期**]を行ったあと、時刻を変えたくないときは、手順2で[**自動時刻設定**]を[**しない**]に設定してください。

# 移動ルートを記録する

地図データ©2016 ZENRIN

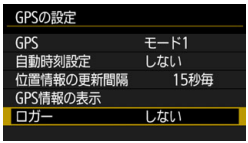
ロガー機能を使うと、カメラがたどった位置情報がカメラの内蔵メモリーに自動的に記録されます。

EOS用ソフトウェアのMap Utility（p.599）を使用すると、パソコンの地図上に撮影場所や移動ルートを表示することができます。

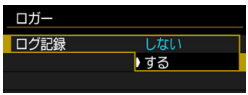
---

## 1 [GPS] の設定を確認する

- [GPS] が [**モード1**] または [**モード2**] に設定されていることを確認します。

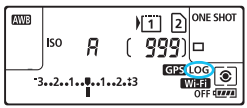



## 2 [ロガー] を選ぶ




## 3 [ログ記録] を [する] に設定する

- [**ログ記録**] を選び〈(SET)〉を押します。
- [**する**] を選び〈(SET)〉を押します。
- ➡ 表示パネルに [**LOG**] が表示されます。




- [GPS] が [**モード1**] のときは、電源スイッチを〈**OFF**〉にしてもロガー機能が働きます。
- [**モード2**] のときは、電源スイッチを〈**OFF**〉にすると、ロガー機能もオフになります。ただし、オートパワーオフ状態のときは、ロガー機能が働きます。

## 位置情報のログデータについて

カメラがたどった位置情報は、［**位置情報の更新間隔**］（p.236）ごとに記録され、日付別のログデータとしてカメラの内蔵メモリーに保存されます。保存できるログデータの日数は下表のとおりです。

**位置情報の更新間隔と保存できるログデータの日数**　（約）

| 更新間隔 | ログデータ | 更新間隔 | ログデータ |
|---|---|---|---|
| **1秒毎** | 4.1日分 | **30秒毎** | 100日分 |
| **5秒毎** | 20日分 | **1分毎** | 100日分 |
| **10秒毎** | 41日分 | **2分毎** | 100日分 |
| **15秒毎** | 61日分 | **5分毎** | 100日分 |

* 1日8時間分のログデータを記録した場合

- 内蔵メモリーに保存されたログデータを、ログファイルとしてカードに移動することができます（p.240）。
- ログファイルは、日付+番号（16081800など）のファイル名で、1日単位で作成されます。エリア（p.51）を変えたときは、新たなログファイルが作成されます。
- 内蔵メモリーがいっぱいになると、古いログデータから順に消去され、新しいログデータが保存されます。

## ログ記録時の電池消耗について

［GPS］が［**モード1**］に設定されているときは、電源スイッチを〈**OFF**〉にしても、［**モード2**］に設定されているときは、オートパワーオフ状態でも一定の間隔でGPS信号を受信し続けるため、電池が早く消耗して撮影可能枚数が少なくなります。また、［**ログ記録**］が［**する**］に設定されているときは、更新間隔が短いほどさらに電池の消耗が早くなります。

移動していないときや、GPS信号の受信状態が悪いときは、［GPS］を［**使わない**］に設定することをおすすめします。

## ログデータをパソコンに取り込む

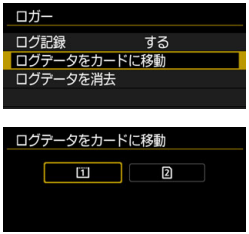
カメラの内蔵メモリーに保存されたログデータをパソコンに取り込む方法は、EOS用ソフトウェアのEOS Utility（p.598）で取り込む方法と、カードに移動してから取り込む方法があります。

パソコンに取り込んだログファイルをEOS 用ソフトウェアのMap Utility（p.599）で開くと、地図上に移動ルートが表示されます。

### ● EOS用ソフトウェアで取り込む

カメラとパソコンを付属のインターフェースケーブルで接続し、EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使用して、ログデータをパソコンに取り込むことができます。詳しくは、EOS Utility使用説明書（p.600）を参照してください。

### ● カードに移動して取り込む



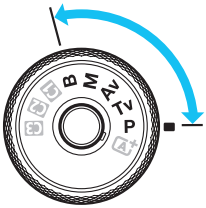

- ［**ログデータをカードに移動**］を選ぶと、内蔵メモリーに保存されているログデータを、ログファイルとしてCFカード［1］またはSDカード［2］に移動することができます。
  なお、カードに移動すると、内蔵メモリーに保存されていたログデータは消去されます。
- カードに取り込まれたログファイルは、「MISC」フォルダの中にある「GPS」フォルダに入っています。ログファイルの拡張子は「.LOG」です。
- ［**ログデータを消去**］を選ぶと、内蔵メモリーに保存されているログデータを消去することができます。なお、消去には1分程度かかることがあります。

- カメラとパソコンを接続するときは、付属または純正のインターフェースケーブルを使用してください（p.525）。なお、インターフェースケーブルを接続するときは、付属のケーブルプロテクターを使用してください（p.38）。
- GPSアンテナがカメラの上部に配置されているため、バッグなどに入れて持ち歩くときは、カメラの上面を空に向け、カメラの上に物がのらないように収納してください。
- カメラの日付/時刻はできるだけ正確に設定してください。また、エリアとサマータイムは、撮影する地域に対応した設定にしてください。

**MEMO**

# 6

# 撮影目的にあわせた応用撮影




〈**P**〉〈**Tv**〉〈**Av**〉〈**M**〉〈**B**〉モードでは、シャッター速度や絞り数値を選択したり、露出を自分の好みに変えるなど、カメラの設定を思いどおりに変えることで、さまざまな撮影ができます。

- ページタイトル右の 応用 は、〈**P**〉〈**Tv**〉〈**Av**〉〈**M**〉〈**B**〉モード限定の機能であることを示しています。
- シャッターボタンを半押ししたあとで指を離しても、タイマーの働きにより、ファインダー内と表示パネルに露出値が約4秒間表示されます（⏱4）。
- 各撮影モードで設定できる機能については、536ページを参照してください。

あらかじめ〈LOCK▶〉スイッチを左側にしてください。

# P: プログラムAE撮影

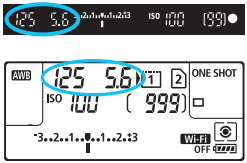
被写体の明るさに応じて、カメラがシャッター速度と絞り数値を自動的に設定します。これを「プログラムAE」といいます。

＊〈**P**〉はProgram（プログラム）の略です。
＊ AEはAuto Exposure（オートエクスポージャー）の略で自動露出のことです。

## 1 モードダイヤルを〈P〉にする

## 2 ピントを合わせる

- ファインダーをのぞいてAFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。
- ➡ ピントが合うとファインダー内に合焦マーク〈●〉が点灯します（ワンショットAF時）。
- ➡ シャッター速度と絞り数値が自動的に決まり、ファインダー内と表示パネルに表示されます。




## 3 表示を確認する

- シャッター速度と絞り数値が点滅していなければ、標準露出です。

## 4 撮影する

- 構図を決め、シャッターボタンを全押しします。

● シャッター速度の「**30"**」と小さな絞り数値が点滅するときは、被写体が暗すぎます。
ISO感度を上げるか、ストロボを使用してください。

● シャッター速度の「**8000**」と大きな絞り数値が点滅するときは、被写体が明るすぎます。
ISO感度を下げるか、減光用のNDフィルター（別売）を使用してください。

### 〈P〉と〈A+〉モードの違いについて

〈A+〉モードのときは失敗を防ぐために、AF動作や測光モードなど、多くの機能が自動的に設定され、変更できる機能が限定されています。それに対して〈**P**〉モードのときは、自動的に設定されるのはシャッター速度と絞り数値だけで、AF動作や測光モードなどの機能を自由に設定することができます（p.536）。

### プログラムシフトについて

- プログラムAEのときは、自動的に設定されたシャッター速度と絞り数値の組み合わせ（プログラム）を、同じ露出のままで自由に変えることができます。これを「プログラムシフト」といいます。
- プログラムシフトは、シャッターボタンを半押ししてから、希望するシャッター速度、または絞り数値が表示されるまで〈☆〉を回します。
- プログラムシフトは、測光タイマー（⏱4）が終了したとき（露出表示が消えたとき）に自動的に解除されます。
- ストロボを使用したときは、プログラムシフトはできません。

# Tv: シャッター速度を決めて撮る

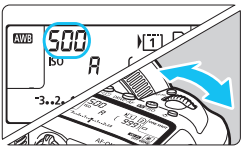
シャッター速度を設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが標準露出に必要な絞り数値を自動的に設定します。これを「シャッター優先AE」といいます。シャッター速度を速くすると、動きの速い被写体の瞬間をとらえることができます。逆にシャッター速度を遅くすると、流動感を表現することができます。

＊〈**Tv**〉はTime value（タイムバリュー）の略で時間量のことです。

流動感のある写真
（遅いシャッター速度：1/30秒）

動きを止めた写真
（速いシャッター速度：1/2000秒）

## 1 モードダイヤルを〈Tv〉にする




## 2 シャッター速度を設定する

- 表示パネルまたはファインダー内を見ながら〈 〉を回します。

## 3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- ➡ 絞り数値が自動的に決まります。

## 4 表示を確認して撮影する

- 絞り数値が点滅していなければ標準露出です。

- 小さな絞り数値が点滅するときは、露出アンダー（露出不足）です。
  絞り数値の点滅が止まるまで〈 〉を回してシャッター速度を遅くするか、ISO感度を上げます。

- 大きな絞り数値が点滅するときは、露出オーバー（露出過度）です。
  絞り数値の点滅が止まるまで〈 〉を回してシャッター速度を速くするか、ISO感度を下げます。

### シャッター速度の表示について

「**8000**」から「**4**」までは分数の分母を表しています。例えば「**125**」は1/125秒を表しています。また、「**0"5**」は0.5秒を、「**15"**」は15秒を表しています。

# Av：絞り数値を決めて撮る

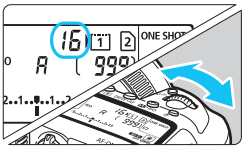
絞り数値を設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが標準露出に必要なシャッター速度を自動的に設定します。これを「絞り優先AE」といいます。絞り数値を大きくする（絞りを閉じる）と、ピントの合う範囲が前後に広くなります。逆に絞り数値を小さくする（絞りを開く）と、ピントの合う範囲が狭くなります。

＊〈**Av**〉はAperture value（アパーチャーバリュー）の略で開口量のことです。

背景をぼかした写真
（小さい絞り数値：F5.6）

背景にもピントが合った写真
（大きい絞り数値：F32）

## 1 モードダイヤルを〈Av〉にする




## 2 絞り数値を設定する

- 表示パネルまたはファインダー内を見ながら〈 〉を回します。

## 3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- ➡ シャッター速度が自動的に決まります。

## 4 表示を確認して撮影する

- シャッター速度が点滅していなければ標準露出です。

- シャッター速度の「**30"**」が点滅するときは、露出アンダー（露出不足）です。
  シャッター速度の点滅が止まるまで〈☁〉を回して絞り数値を小さくする（絞りを開く）か、ISO感度を上げます。

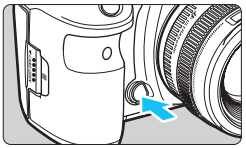
- シャッター速度の「**8000**」が点滅するときは、露出オーバー（露出過度）です。
  シャッター速度の点滅が止まるまで〈☁〉を回して絞り数値を大きくする（絞りを閉じる）か、ISO感度を下げます。

### 絞り数値の表示について

数値が大きくなるほど、レンズの絞り径は小さくなります。表示される絞り数値はレンズによって異なります。カメラにレンズが付いていないときは、表示が「**00**」になります。

## ピントの合う範囲を確認する 応用

レンズの絞りは、撮影する瞬間だけ絞りの大きさ（開口量）が変わり、撮影していないときは、絞りが開いた状態になっています。そのため、ファインダーやライブビュー映像で見えるピントの合う範囲は、常に狭く（浅く）なっています。



絞り込みボタンを押すと、そのとき設定されている絞り数値でレンズの絞り込みが行われ、実際にピントの合う範囲（被写界深度）を確認することができます。

- 絞り数値が大きいほどピントの合う範囲は前後に広くなりますが、ファインダーは暗くなります。
- ライブビュー映像を見ながら（p.298）、絞り数値を変えて絞り込みボタンを押すと、被写界深度の効果がよく分かります。
- 絞り込みボタンを押している間は、露出が固定された（AEロック）状態になります。

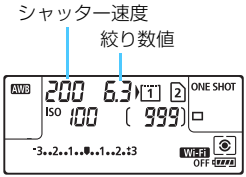
# M: 露出を自分で決めて撮る

自分でシャッター速度や絞り数値を決めて撮影するときに設定します。露出は、ファインダー内の露出レベル表示を参考にしたり、市販の露出計を利用して自分で任意に決めます。これを「マニュアル露出」といいます。

＊〈**M**〉はManual（マニュアル）の略です。

## 1 モードダイヤルを〈M〉にする

## 2 ISO感度を設定する（p.177）

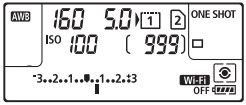



## 3 シャッター速度と絞り数値を設定する

- シャッター速度は〈 〉、絞り数値は〈 〉を回して設定します。
- 設定できないときは、〈LOCK▶〉スイッチを左側にしてから〈 〉または〈 〉を回します。

## 4 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- ➡ ファインダー内と表示パネルに露出値が表示されます。
- 露出レベルマーク〈 〉で、標準露出からどのくらいずれているか、確認することができます。




## 5 露出を決めて撮影する

- 露出レベル表示を確認し、任意のシャッター速度、絞り数値を設定します。
- 標準露出から±3段を超えるときは、露出レベル表示の端が〈◀〉または〈▶〉の表示になります。

## ISOオート設定時の露出補正について

〈**M**〉マニュアル露出撮影時にISO感度を「**A**」（AUTO）に設定したときは、以下の方法で露出補正（p.255）を行うことができます。

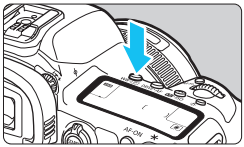
- ［**2：露出補正／AEB設定**］
- ［**3：操作ボタンカスタマイズ**］の［**：露出補正（押しながら）**］［**：露出補正（押しながら）**］（p.506）
- クイック設定（p.64）

- ISOオート設定時は、設定したシャッター速度と絞り数値に対して標準露出になるようにISO感度が変動するため、意図した露出で撮影できないことがあります。そのときは露出補正を行ってください。
- ISOオート設定時にストロボを使用したときは、露出補正量を設定しても補正は行われません。

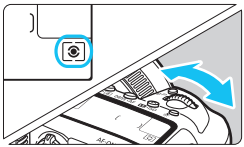
- ［**2：オートライティングオプティマイザ**］で［**M, Bulb時はOFF**］の［✓］を外すと、〈**M**〉モードでもオートライティングオプティマイザ機能が設定できるようになります（p.201）。
- ISOオート設定時に〈✳〉ボタンを押すと、ISO感度を固定（ロック）することができます。
- 〈✳〉ボタンを押して構図を変えると、〈✳〉ボタンを押したときとの露出差を露出レベル表示で確認することができます。
- 〈**P**〉〈**Tv**〉〈**Av**〉モードで露出補正（p.255）を行っていたときは、〈**M**〉モード＋ISOオートに変更したときに、設定していた補正量が引き継がれます。
- ISOオート設定時に［**1：露出設定ステップ**］を［**1/2段**］に設定して1/2段の露出補正を行ったときは、ISO感度（1/3段分）とシャッター速度で露出補正が行われます。ただし、表示上のシャッター速度は変化しません。

# 測光モードの選択 応用

被写体の明るさを測る機能の特性を４種類の中から選ぶことができます。〈A+〉モードのときは評価測光に自動設定されます。

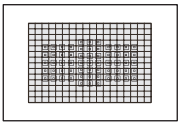


## 1 〈WB・◉〉ボタンを押す（⏱6）



## 2 測光モードを選ぶ

- 表示パネルまたはファインダー内を見ながら〈⚙〉を回します。
  - ◉：**評価測光**
  - ◎：**部分測光**
  - •：**スポット測光**
  - □：**中央部重点平均測光**

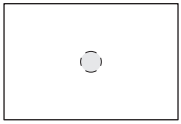


### ◉ 評価測光

逆光撮影を含む一般的な撮影に適しています。撮影シーンに応じてカメラが露出を自動補正します。

### ◎ 部分測光

逆光などで被写体の周辺に強い光があるときに有効です。ファインダー中央部の約6.1%の範囲を測光します。



### [•] スポット測光

被写体の特定の部分を測光するときに有効です。ファインダー中央部の約1.3%の範囲を測光します。ファインダー内にスポット測光範囲が表示されます。

### [□] 中央部重点平均測光

ファインダー中央部に重点を置いて、画面全体を平均的に測光します。

〈[●]〉（評価測光）は、シャッターボタン半押しでピントが合うと露出値が固定されます（ワンショットAF時）。〈[⊙]〉（部分測光）／〈[•]〉（スポット測光）／〈[□]〉（中央部重点平均測光）は、撮影する瞬間に露出が決まります（半押しによる露出値の固定なし）。

# ± 自分の好みに露出を補正する 応用

カメラが決めた標準的な露出に対して、明るめ（プラス補正）にしたり、暗め（マイナス補正）にして撮影することを「露出補正」といいます。

〈**P**〉〈**Tv**〉〈**Av**〉モードのときに露出補正を行うことができます。補正できる範囲は、ファインダー撮影時に1/3段ステップ±5段ですが、ファインダー内と表示パネルの露出補正表示は±3段までです。±3段を超える設定は、クイック設定（p.64）または257ページの［**📷2：露出補正／AEB設定**］で行ってください。

なお、〈**M**〉モード+ISOオート設定時の露出補正については、252ページを参照してください。

明るく（プラス）補正

暗く（マイナス）補正

## 1 露出を確認する

- シャッターボタンを半押しして（⏱4）、露出レベル表示を確認します。

## 2 補正量を設定する

- ファインダー内、または表示パネルを見ながら〈◎〉を回します。
- 設定できないときは、〈LOCK▶〉スイッチを左側にしてから〈◎〉を回します。

➡ 露出補正を行うと、ファインダー内と表示パネルに〈±〉が表示されます。

## 3 撮影する

- 露出補正を解除するときは、露出レベル〈▮/▮〉を標準露出指標（〈▼/▼〉）の位置に戻します。

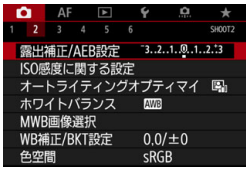
- ライブビュー撮影／動画撮影時の露出補正範囲は±3段です。
- [**2：オートライティングオプティマイザ**]（p.201）が、[**しない**]以外に設定されているときは、暗めにする露出補正（マイナス補正）を行っても、明るく撮影されることがあります。

- 設定した補正量は、電源スイッチを〈**OFF**〉にしても記憶されています。
- 補正量を設定してから〈LOCK▶〉スイッチを右側にすると、補正量が不用意に変わることを防止できます。
- 露出補正量が±3段を超えるときは、露出レベル表示の端が〈◀〉または〈▶〉の表示になります。

# 露出を自動的に変えて撮る／AEB撮影 応用

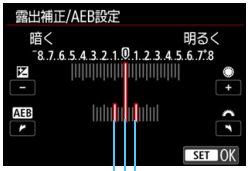
1/3段ステップ±3段の範囲で、自動的にシャッター速度、または絞り数値を変えながら3枚の画像を撮影することができます。これを「AEB撮影」といいます。

＊ AEBはAuto Exposure Bracketing（オートエクスポージャーブラケティング）の略です。




## 1 ［露出補正／AEB設定］を選ぶ

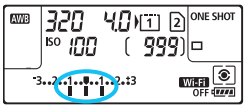
- ［📷2］タブの［**露出補正／AEB設定**］を選び、〈SET〉を押します。




AEBレベル

## 2 AEBレベルを設定する

- 〈⚙〉を回してAEBレベルを設定します。〈◎〉を回すと露出補正量を設定することができます。
- 〈SET〉を押すと設定されます。
- ➡ メニューを終了すると、表示パネルにAEBレベルが表示されます。




標準露出

マイナス補正

プラス補正

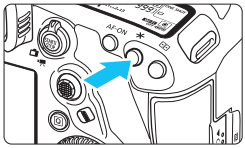
## 3 撮影する

- 設定しているドライブモードに従って、標準露出→マイナス補正→プラス補正の順に撮影されます。
- AEB撮影は自動解除されません。解除するときは、手順2の操作でAEBレベルの表示を消します。

- AEB撮影中は、ファインダー内の〈✳〉が点滅します。
- ドライブモードが〈□〉〈□S〉のときは、3回撮影してください。〈□H〉〈□L〉〈□LS〉のときは、シャッターボタンを全押ししたままにすると、3枚連続撮影して自動的に停止します。〈⏲〉〈⏲2〉のときは、10秒後または2秒後に3枚連続撮影されます。
- 露出補正と組み合わせて、AEB撮影を行うこともできます。
- AEBレベルが±3段を超えるときは、露出レベル表示の端が〈◖〉または〈◗〉の表示になります。
- ストロボ使用時、バルブ撮影時、およびマルチショットノイズ低減機能、HDRモード設定時は、AEB撮影できません。
- 電源スイッチ〈**OFF**〉、ストロボ充電完了で、AEB設定が自動解除されます。

# ✳ 露出を固定して撮る／AEロック撮影 応用

ピントと露出を別々に決めたいときや、同じ露出で何枚も撮影するときに使用します。〈✳〉ボタンを押して露出を固定したあと、構図を変えて撮影します。これを「AEロック撮影」といいます。逆光下の撮影などで有効です。



## 1 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- ➡ 露出値が表示されます。

## 2 〈✳〉ボタンを押す（⏱4）

- ➡ ファインダー内に〈✳〉が表示され、露出が固定（AEロック）されます。
- 〈✳〉ボタンを押すたびに、そのときの露出がAEロックされます。

## 3 構図を決めて撮影する

- 続けてAEロック撮影を行うときは、〈✳〉ボタンを押しながら、シャッターボタンを押します。

### AEロックの効果

| 測光モード（p.253） | AFフレーム選択（p.106、107） | |
|---|---|---|
| | 自動選択 | 任意選択 |
| ⦿* | ピントを合わせたAFフレームを中心にした露出値でAEロック | 選択されているAFフレームを中心にした露出値でAEロック |
| ⊡ [•] [ ] | 中央のAFフレームを中心にした露出値でAEロック | |

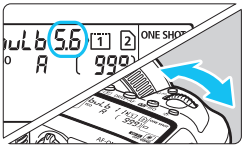
* レンズのフォーカスモードスイッチが〈**MF**〉のときは、中央のAFフレームを中心にした露出値でAEロックされます。

バルブ撮影時はAEロックできません。

# B: 長時間露光（バルブ）撮影

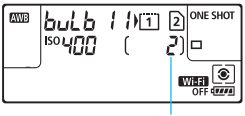
シャッターボタンを押している間、シャッターが開いたままになり、シャッターボタンから指を離すと閉じます。この撮影方法を「バルブ撮影」といいます。夜景や打上げ花火、天体撮影など長時間の露光が必要なときに設定します。

## 1 モードダイヤルを〈B〉にする




## 2 絞り数値を設定する

- 表示パネルまたはファインダー内を見ながら、〈⚙〉または〈◎〉を回します。




露光経過時間

## 3 撮影する

- シャッターボタンを全押ししている間、露光が行われます。
- ➡ 表示パネルに露光経過時間が表示されます。

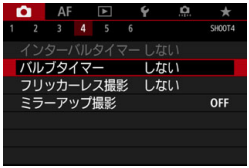
- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- 長時間のバルブ撮影を行うと、画像に含まれるノイズが多くなります。
- ISOオート設定時はISO400になります（p.179）。
- セルフタイマーとミラーアップ撮影を併用して、バルブタイマーを使用せずにバルブ撮影を行うときは、シャッターボタンを全押しし続けてください（セルフタイマー作動秒時＋バルブ撮影時間）。セルフタイマー作動中に、シャッターボタンから指を離すと、シャッターが切れたような音がしますが、実際は撮影されていません。なお、同じ条件でバルブタイマーを使用したときは、シャッターボタンを全押しし続ける必要はありません。

- ［**3：長秒時露光のノイズ低減**］で長秒露光時に発生するノイズを低減することができます（p.204）。
- バルブ撮影を行うときは、三脚、およびバルブタイマーの使用をおすすめします。ミラーアップ撮影（p.276）を併用することもできます。
- リモートスイッチ RS-80N3（別売）、タイマーリモートコントローラー TC-80N3（別売）を使ってバルブ撮影を行うこともできます（p.279）。
- リモートコントローラー RC-6（別売）を使ってバルブ撮影を行うこともできます（p.279）。リモートコントローラーの送信ボタンを押すと、（2秒後またはすぐに）バルブ撮影が始まり、再度押すと終了します。

## TIMER バルブタイマー機能 応用

バルブ撮影時の露光時間をあらかじめ設定することができます。この機能を使うと、バルブ撮影中にシャッターボタンを指で押している必要がなくなるため、カメラブレを低減することができます。

なお、バルブタイマーは、〈**B**〉（バルブ撮影）以外の撮影モードでは設定できません（機能しません）。




### 1 ［バルブタイマー］を選ぶ

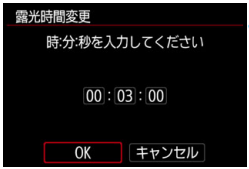
- ［4］タブの［**バルブタイマー**］を選び、〈(SET)〉を押します。

### 2 ［する］を選ぶ

- ［**する**］を選び、〈**INFO.**〉ボタンを押します。

## 3 露光時間を設定する

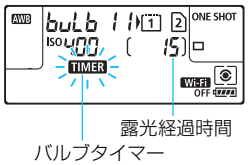
- 項目（時：分：秒）を選びます。
- 〈(SET)〉を押して〈✥〉の状態にします。
- 数値を設定し〈(SET)〉を押します（〈✥〉の状態に戻ります）。




## 4 [OK] を選ぶ

➡ メニュー画面に設定した時間が表示されます。

➡ メニューを終了すると、表示パネルに〈TIMER〉が表示されます。




## 5 撮影する

➡ シャッターボタンを全押しすると、設定した時間のバルブ撮影が行われます。

- バルブタイマー撮影中は、〈TIMER〉が点滅します。
- 設定を解除するときは、手順２で［**しない**］を選びます。

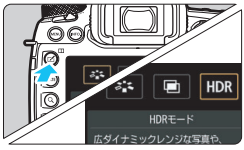
- バルブタイマー作動中にシャッターボタンを全押しして指を離すと、バルブタイマー撮影が終了します。
- 露光開始からシャッターボタンを全押しし続けたときは、設定した露光時間が経過してもバルブ撮影が継続します（設定した露光時間で自動的にバルブ撮影は終了しません）。
- 電源スイッチ〈**OFF**〉、電池交換、カード交換、動画撮影への切り換えを行ったとき、撮影モードを〈**B**〉以外に変更したときは、バルブタイマーが解除されます（設定が［**しない**］になります）。

# HDR: HDR（ハイダイナミックレンジ）撮影 応用

明暗差の大きいシーンで、白とびや黒つぶれが緩和された階調の広い（ハイダイナミックレンジな）写真を撮影することができます。風景などの静物の撮影に適しています。

**HDR撮影では、1回の撮影で露出の異なる3枚の画像（標準露出／露出アンダー／露出オーバー）を連続撮影して、自動的に画像合成を行います。撮影したHDR画像はJPEG画質で記録されます。**

＊ HDRはHigh Dynamic Range（ハイダイナミックレンジ）の略です。



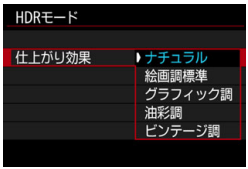

## 1 〈✍〉ボタンを押す

## 2 HDRモードを選ぶ

- ［**HDR**］を選び〈(SET)〉を押します。
- ➡ HDRモードの画面が表示されます。

## 3 ［Dレンジ調整］を設定する

- ダイナミックレンジの調整幅を選び、〈(SET)〉を押します。
- ［**自動**］を選ぶと、撮影画面全体の明暗差に応じて調整幅が自動設定されます。
- 数値が大きいほどダイナミックレンジが広い写真を撮影することができます。
- HDR撮影をやめるときは、［**HDRオフ**］を選びます。




## 4 ［仕上がり効果］を設定する

- 仕上がり効果を選び〈(SET)〉を押します。

● ［**3：HDRモード**］から設定することもできます。

## 仕上がり効果について

● **ナチュラル**
　明暗差の大きいシーンで、通常は白とびしてしまう部分や、黒くつぶれてしまう部分の描写が補正され、白とびや黒つぶれが緩和された写真になります。

● **絵画調標準**
　［**ナチュラル**］よりも白とびや黒つぶれが緩和された写真になりますが、コントラストを抑えたフラットな階調のため、絵画のような仕上がりになります。被写体の輪郭部分に明るい（または暗い）縁取りが付きます。

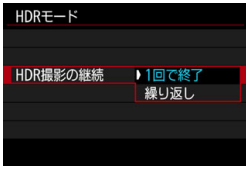
● **グラフィック調**
　［**絵画調標準**］よりも鮮やかでありながら、コントラストを抑えたフラットな階調で、グラフィックアートのような仕上がりになります。

● **油彩調**
　最も鮮やかで被写体の立体感を強調した、油絵のような仕上がりになります。

● **ビンテージ調**
　鮮やかさと明るさを抑えながら、コントラストをさらに抑えたフラットな階調で、色あせた古めかしい感じの仕上がりになります。被写体の輪郭部分に明るい（または暗い）縁取りが強めに付きます。

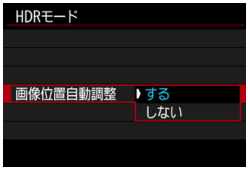
| | 絵画調標準 | グラフィック調 | 油彩調 | ビンテージ調 |
|---|---|---|---|---|
| **彩度** | 標準 | 高い | より高い | 低い |
| **輪郭強調** | 標準 | 弱い | 強い | より強い |
| **明るさ** | 標準 | 標準 | 標準 | 暗い |
| **階調** | フラット | フラット | フラット | よりフラット |

各仕上がり効果とも、設定されているピクチャースタイル（p.183）を基本にした画像特性で撮影されます。




## 5 ［HDR撮影の継続］を設定する

- ［**1回で終了**］または［**繰り返し**］を選び、〈(SET)〉を押します。
- ［**1回で終了**］を選んだときは、撮影が終了すると、HDR撮影が自動的に解除されます。
- ［**繰り返し**］を選んだときは、手順3で［**HDRオフ**］を選ぶまでHDR撮影が続きます。




## 6 ［画像位置自動調整］を設定する

- 手持ち撮影を行うときは［**する**］、三脚などを使用するときは［**しない**］を選び、〈(SET)〉を押します。

## 7 保存する画像を指定する

- 撮影した3枚の画像と、合成したHDR画像を保存するときは、［**全画像**］を選び〈(SET)〉を押します。
- HDR画像だけを保存するときは、［**HDR画像のみ**］を選び〈(SET)〉を押します。

## 8 撮影する

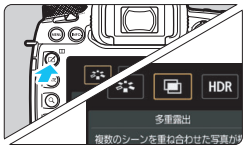
- ファインダー撮影、ライブビュー撮影で、HDR撮影を行うことができます。
- シャッターボタンを全押しすると、3枚連続撮影され、HDR画像がカードに記録されます。

- RAW画質で撮影したときは、HDR画像は**L**の画質で記録されます。RAW+JPEG画質で撮影したときは、HDR画像は設定したJPEG画質で記録されます。
- 拡張ISO感度（L、H1、H2）でHDR撮影を行うことはできません。ISO100～32000の範囲（［**静止画撮影の範囲**］の［**下限値**］［**上限値**］の設定による）でHDR撮影を行うことができます。
- HDR撮影時はストロボは発光しません。
- HDR撮影時は、［**1：レンズ光学補正**］の［**歪曲収差補正**］、［**2：オートライティングオプティマイザ**］［**3：高輝度側・階調優先**］の設定が自動的に［**しない**］になります。
- AEB撮影は設定できません。
- 動いている被写体を撮影すると、被写体の動きが残像のように写ることがあります。
- HDR撮影はシャッター速度を自動的に変えて3枚の画像を撮影します。そのため、〈**Tv**〉〈**M**〉モードでも、設定したシャッター速度を基準にシャッター速度が変化します。
- 手ブレを抑えるため、ISO感度が高く設定されることがあります。
- HDRモード設定時に、ファインダー内と表示パネルに〈!〉を表示することができます（p.489）。

- ［**画像位置自動調整**］を［**する**］に設定して撮影したときは、AFフレーム表示用の情報（p.402）、およびダストデリートデータ（p.460）は画像に付加されません。
- ［**画像位置自動調整**］を［**する**］に設定して手持ち撮影を行うと、画像の周辺部分がわずかにトリミングされ、解像感が若干低下します。また、手ブレなどにより画像のズレ量が大きいと、自動位置合わせが行われないことがあります。なお、極端に明るい（または暗い）露出設定で撮影すると、自動位置合わせが適切に行われないことがあります。
- ［**画像位置自動調整**］を［**しない**］に設定して手持ち撮影を行うと、3枚の画像がズレてHDRの効果が十分に得られないことがあります。そのときは、三脚の使用をおすすめします。
- 格子模様、ストライプ模様のような繰り返しパターンや、画面全体が平坦で単調なときは、自動位置合わせが正常に行われないことがあります。
- 空や白壁のようなシーンのグラデーションが滑らかに再現されなかったり、露出ムラや色ムラ、ノイズが発生することがあります。
- 蛍光灯やLED照明などの光源下でHDR撮影を行うと、照明されている部分が適切な色で再現されないことがあります。
- HDR撮影は撮影後に画像を合成してからカードに記録するため、時間がかかります。画像処理中はファインダー内と表示パネルに「**buSY**」が表示され、処理が終わるまで次の撮影はできません。
- HDR撮影設定後に動画撮影への切り換えを行うと、HDR撮影の設定が解除されることがあります（［**Dレンジ調整**］の設定が［**HDRオフ**］になります）。

# 多重露出撮影 応用

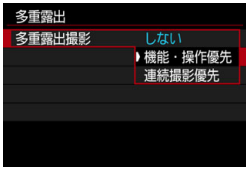
複数の画像（2～9枚）を重ね合わせた写真を撮影することができます。なお、ライブビュー撮影（p.297）のときは、画像の重なり具合を確認しながら撮影することができます。




## 1 〈✍〉ボタンを押す

## 2 多重露出を選ぶ

- ［▣］を選び〈SET〉を押します。
- ➡ 多重露出の設定画面が表示されます。




## 3 ［多重露出撮影］を設定する

- ［**機能・操作優先**］または［**連続撮影優先**］を選び、〈SET〉を押します。
- 多重露出撮影をやめるときは、［**しない**］を選びます。

- **機能・操作優先**

  画像の確認を行いながら、じっくり多重露出撮影を行いたいときに適しています。連続撮影時は連続撮影速度が大幅に遅くなります。

- **連続撮影優先**

  動いている被写体を連続して重ね合わせるときに設定します。連続撮影を行うことができますが、撮影途中に「メニュー画面の表示」「撮影直後の画像確認」「画像再生」「撮影のやり直し（p.274）」はできません。また、ライブビュー撮影を行ったときは、撮影した画像は重なって表示されません。

  なお、撮影画像は多重露出画像のみ保存されます（多重露出画像を生成するために撮影した画像の保存はできません）。

［📷3：**多重露出**］から設定することもできます。

## 4 [多重露出制御] を設定する

- 露出の重ね合わせ方を選び〈(SET)〉を押します。

- **加算**

撮影した画像の露出を加算して重ね合わせます。[**重ねる枚数**] に応じて、マイナス補正を行ってください。露出補正量の目安は以下のとおりです。

**重ねる枚数と露出補正量の目安**

「2枚：−1段」「3枚：−1.5段」「4枚：−2段」

- **加算平均**

[**重ねる枚数**] に応じて自動的にマイナス補正を行いながら、画像を重ね合わせます。なお、同じ構図で撮影したときは、被写体の背景が標準露出になるように自動露出制御が行われます。

- **比較（明）／比較（暗）**

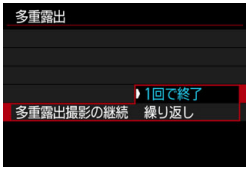
ベースになる画像と重ね合わせる画像を同じ位置で明るさ（暗さ）比較して、明るい（暗い）部分を残します。重なる色によっては、明るさ（暗さ）の割合に応じて、色が混ざり合うことがあります。

## 5 [重ねる枚数] を設定する

- 枚数を選び〈(SET)〉を押します。
- 2〜9枚の範囲で設定することができます。

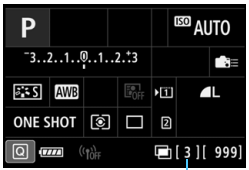
## 6 保存する画像を設定する

- 重ね合わせる画像と、多重露出画像の両方を保存するときは、［**全画像**］を選び〈SET〉を押します。
- 多重露出画像だけを保存するときは、［**多重画像のみ**］を選び〈SET〉を押します。




## 7 ［多重露出撮影の継続］を設定する

- ［**1回で終了**］または［**繰り返し**］を選び、〈SET〉を押します。
- ［**1回で終了**］を選んだときは、撮影が終了すると、多重露出撮影が自動的に解除されます。
- ［**繰り返し**］を選んだときは、手順3で［**しない**］を選ぶまで多重露出撮影が続きます。




残り撮影枚数

## 8 1枚目を撮影する

- ➡ ［**機能・操作優先**］設定時は、撮影した画像が表示されます。
- ➡ 〈▣〉が点滅します。
- 多重露出撮影の残り枚数は、ファインダー内、または画面に表示される［ ］内の数値で確認することができます。
- 〈▶〉ボタンを押すと、撮影した画像を確認することができます（p.274）。

### 9 2枚目以降を撮影する

➡ [**機能・操作優先**] 設定時は、撮影した画像が重なって表示されます。

- [**機能・操作優先**] の設定でライブビュー撮影を行ったときは、そのときまでに撮影した画像が重なって表示されます。〈**INFO.**〉ボタンを押すと、ライブビュー映像だけを表示することができます。
- 設定した枚数を撮影すると、多重露出撮影が終了します。連続撮影時は、シャッターボタンを押し続けると、設定した枚数を連続撮影して停止（または一旦停止）します。

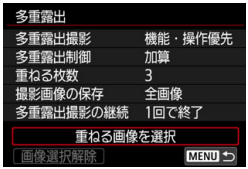
- [**機能・操作優先**] のときは、撮影途中で〈▶〉ボタンを押すと、そのときまでに撮影した多重露出画像を確認したり、直前に撮影した画像を消去することができます（p.274）。
- 最後に撮影したときの撮影情報が多重露出画像に記録されます。

- 記録画質、ISO感度、ピクチャースタイル、高感度撮影時のノイズ低減、色空間などは、1枚目と同じ設定で2枚目以降も撮影されます。
- 多重露出撮影時は、[**1：レンズ光学補正**]の全項目、[**2：オートライティングオプティマイザ**][**3：高輝度側・階調優先**]の設定が自動的に[**しない**]になります。
- [**3：ピクチャースタイル**]が[**オート**]に設定されているときは、[**スタンダード**]で撮影されます。
- [**機能・操作優先**]＋[**加算**]設定時に、撮影途中に表示される画像のノイズ、色ムラ、縞などは、最終的に記録される多重露出画像と異なることがあります。
- 多重露出撮影は、重ねる枚数が多いほど、ノイズ、色ムラ、縞が目立つようになります。
- [**加算**]設定時は、多重露出撮影を終了したときに画像処理に時間がかかります（アクセスランプが長く点灯します）。
- [**加算**]の設定でライブビュー撮影を行ったときは、多重露出撮影終了時にライブビュー機能が自動的に終了します。
- 手順9でライブビュー撮影時に重なって表示される画像の明るさやノイズなどは、最終的に記録される多重露出画像とは異なります。
- [**連続撮影優先**]設定時は、設定した枚数の撮影が終わったらシャッターボタンから指を離してください。
- 電源スイッチ〈**OFF**〉、電池交換、カード交換、動画撮影への切り換えを行うと、多重露出撮影が解除されます。
- 多重露出撮影中は、[**3：センサークリーニング**]の[**今すぐクリーニング**]［**手作業でクリーニング**]は選択できません。
- 撮影中に撮影モードを〈A+〉または〈C1〉〈C2〉〈C3〉にすると、多重露出撮影が終了します。
- カメラとパソコンを接続しているときは、多重露出撮影はできません。なお、撮影中に接続すると多重露出撮影が終了します。

## カードに記録されている画像に重ね合わせる

カードに記録されているRAW画像を1枚目に指定して、多重露出撮影を行うことができます。選択したRAW画像の画像データはそのまま残ります。

**指定できるのはRAW画像のみです。M RAW / S RAW画像、およびJPEG画像は選択できません。**




### 1 ［重ねる画像を選択］を選ぶ

➡ カード内の画像が表示されます。

### 2 1枚目の画像を選ぶ

- 〈◯〉を回して1枚目に設定する画像を選び、〈(SET)〉を押します。
- ［OK］を選びます。

➡ 選択中の画像番号が、画面の下側に表示されます。

### 3 撮影する

- 画像を選択すると、残り撮影枚数は［**重ねる枚数**］で設定した枚数よりも1枚少なくなります。例えば、［**重ねる枚数**］が3枚のときは、2枚撮影します。

- ［**📷3：高輝度側・階調優先**］を［**する**］に設定して撮影した画像、［**📷5：アスペクト比**］を［**3：2**］以外に設定して撮影した画像（p.310）、トリミング情報が付加された画像（p.491）は、1枚目に指定できません。
- ［**📷1：レンズ光学補正**］［**📷2：オートライティングオプティマイザ**］は、1枚目に指定したRAW画像の設定に関わらず、［**しない**］で撮影されます。
- ISO感度、ピクチャースタイル、高感度撮影時のノイズ低減、色空間などは、1枚目に指定したRAW画像と同じ設定で撮影されます。
- 1枚目に指定したRAW画像のピクチャースタイルが［**オート**］のときは、［**スタンダード**］で撮影されます。
- 他のカメラで撮影した画像は選択できません。

- 多重露出撮影を行ったRAW画像を選ぶこともできます。
- [**画像選択解除**] を選ぶと指定が解除されます。

## 撮影途中の画像確認と画像消去について

[**機能・操作優先**] 設定時に、設定した枚数の撮影が完了する前に〈▶〉ボタンを押すと、撮影途中の（多重）画像が表示され、重なり具合や、露出などを確認することができます（[**連続撮影優先**] 時不可）。

この状態で〈🗑〉ボタンを押すと、撮影途中に操作できる項目が表示されます。

| 項目 | 内容 |
|---|---|
| **1枚戻る** | 直前に撮影した画像を消去します（撮影のやり直し）。残り撮影枚数が1枚増えます。 |
| **保存して終了** | [**撮影画像の保存：全画像**] 設定時は、途中まで撮影した全画像と、多重露出画像を保存して終了します。<br>[**撮影画像の保存：多重画像のみ**] 設定時は、途中まで撮影した多重露出画像だけを保存して終了します。 |
| **保存しないで終了** | 途中まで撮影した全画像を保存しないで終了します。 |
| **前の画面に戻る** | 〈🗑〉ボタンを押す前の画面に戻ります。 |

- 多重露出撮影中は、多重露出画像以外の再生はできません。

## ? こんなときは

**● 記録画質に制限はありますか？**

JPEGはすべての記録画質を選択できます。M RAW/S RAW のときは、多重露出画像は RAW で記録されます。

| 記録画質設定 | 各撮影画像 | 多重露出画像 |
|---|---|---|
| JPEG | JPEG | JPEG |
| RAW | RAW | RAW |
| M RAW/S RAW | M RAW/S RAW | RAW |
| RAW＋JPEG | RAW＋JPEG | RAW＋JPEG |
| M RAW/S RAW＋JPEG | M RAW/S RAW＋JPEG | RAW＋JPEG |

**● カードに記録されている画像に重ね合わせたい**

［**重ねる画像を選択**］で、多重露出1枚目の画像を選択することができます（p.273）。なお、カードに記録されている画像どうしを重ね合わせることはできません。

**● ライブビュー撮影でも多重露出ができますか？**

ライブビュー撮影（p.297）でも多重露出を行うことができます。ただし、［**連続撮影優先**］のときは、撮影した画像は重なって表示されません。

**● 多重露出画像の画像番号はどうなりますか？**

全画像を保存する設定のときは、多重露出画像を生成するために撮影した最終画像の続き番号で、多重露出画像が保存されます。

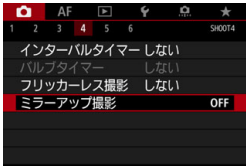
**● 多重露出撮影中にオートパワーオフ機能は作動しますか？**

［**2：オートパワーオフ**］が［**しない**］以外に設定されているときは、オートパワーオフで電源が自動的に切れるまでの時間が約30分になります。オートパワーオフが働くと多重露出撮影が終了し、多重露出の設定も解除されます。

なお、多重露出撮影を始める前は、カメラで設定した時間どおりにオートパワーオフが働き、多重露出の設定が解除されます。

# ミラーアップ撮影 応用

撮影時にミラーが上下に動作することで発生する機械的な振動を「ミラーショック」といいます。ミラーアップ機能を使うと、撮影時にあらかじめミラーが上がった状態になり、ミラーショックによるブレを低減することができます。近接（マクロ）撮影や超望遠レンズを使用した撮影、低速シャッターによる撮影などに効果的です。




## 1 ［ミラーアップ撮影］を選ぶ

- ［📷4］タブの［**ミラーアップ撮影**］を選び、〈(SET)〉を押します。

## 2 ［する］を選ぶ

## 3 ピントを合わせ、シャッターボタンを全押しする

➡ ミラーが上がります。

## 4 もう一度シャッターボタンを全押しする

- 撮影が行われ、ミラーが下がります。

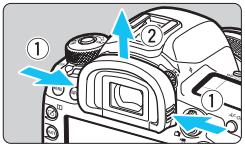
- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- 晴天の真夏の海岸や、スキー場のように極端に明るいところでミラーアップ撮影を行うときは、ミラーアップ安定後、速やかに撮影してください。
- ミラーアップ中は、撮影機能の設定やメニュー操作などはできません。

- ［**する**］設定時に、ドライブモードが連続撮影に設定されていても、1枚撮影になります。
- セルフタイマーを併用することもできます。
- ミラーアップしてから約30秒経過すると、ミラーが自動的に下がります。再度シャッターボタンを全押しすると、ミラーアップします。
- ミラーアップ撮影を行うときは、三脚とリモートスイッチ RS-80N3（別売）、またはタイマーリモートコントローラー TC-80N3（別売）の使用をおすすめします（p.279）。
- リモートコントローラー（別売）を併用することもできます（p.279）。リモートコントローラーのスイッチを「2秒後」に設定することをおすすめします。

# アイピースカバーの使い方

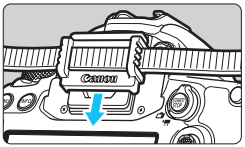
セルフタイマー撮影やバルブ撮影、リモートスイッチを使った撮影など、ファインダーをのぞかずに撮影すると、ファインダーから入った光の影響で暗い写真（露出不足）になることがあります。このようなときは、ストラップに付いているアイピースカバー（p.37）を使います。

なお、ライブビュー撮影と動画撮影のときは、アイピースカバーを取り付ける必要はありません。




## 1 アイカップを取り外す

- アイカップの両脇をつまんだまま引き上げて取り外します。



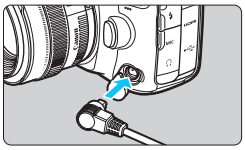
## 2 アイピースカバーを取り付ける

- ファインダー接眼部の溝に沿って、アイピースカバーを取り付けます。
- 撮影が終わったら、アイピースカバーを取り外し、アイカップを取り付けます。

# リモートスイッチ撮影

リモートスイッチ RS-80N3（別売）や、タイマーリモートコントローラー TC-80N3（別売）など、N3タイプの端子を備えたEOS用アクセサリーをカメラに取り付けて撮影することができます（p.525）。

アクセサリーの操作方法については、各アクセサリーの使用説明書を参照してください。



**1 端子カバーを開ける**

**2 リモコン端子にプラグを取り付ける**

- 図のように取り付けます。
- 取り外すときは、プラグの銀色の部分をつまんで引き抜きます。

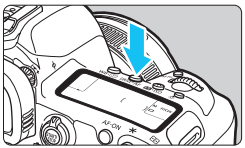
# リモコン撮影

リモートコントローラー RC-6（別売）を使用すると、カメラから最大約5m離れて（正面時）リモコン撮影することができます。「すぐに撮影」と「2秒後撮影」ができます。

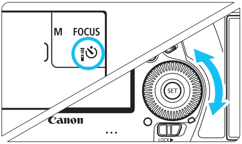
**1 ピントを合わせる**

**2 レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にする**

- 〈AF〉で撮影することもできます。

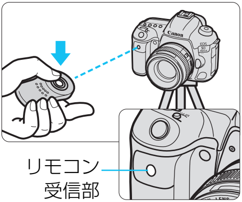


**3 〈DRIVE•AF〉ボタンを押す**（⏲6）




## 4 セルフタイマー／リモコンを選ぶ

- 表示パネルまたはファインダー内を見ながら〈◎〉を回して、〈リモコン〉または〈リモコン2〉を選びます。




## 5 リモコンの送信ボタンを押す

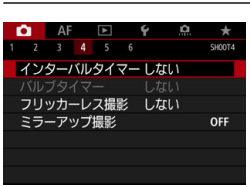
- リモコンの送信部をカメラの受信部に向けて、送信ボタンを押します。
- ➡ セルフタイマーランプが点灯して撮影されます。

- 蛍光灯やLED照明などが近くにあると、光源の影響でカメラが誤作動して、意図せずにシャッターが切れることがあります。できるだけカメラを光源から離してください。
- テレビ用のリモコンなどをカメラに向けて操作すると、カメラが誤動作して、意図せずにシャッターが切れることがあります。
- このカメラの周りで、他のカメラのストロボが発光すると、本機が誤動作して、意図せずにシャッターが切れることがあります。リモコン受信部に他のカメラのストロボ光が入らないようにしてください。

- リモートコントローラー RC-1とRC-5を使用することもできます。
- リモートレリーズ機能を備えたEXスピードライト（別売）でも、リモコン撮影を行うことができます。

# TIMER インターバルタイマー撮影

インターバルタイマー機能を使用すると、撮影間隔、撮影回数を任意に設定して、一定間隔で1枚撮影を繰り返すことができます。




## 1 ［インターバルタイマー］を選ぶ

- ［📷4］タブの［**インターバルタイマー**］を選び、〈(SET)〉を押します（〈A+〉モードは［📷2］タブ）。

## 2 ［する］を選ぶ

- ［**する**］を選び、〈**INFO.**〉ボタンを押します。

## 3 撮影間隔、撮影回数を設定する

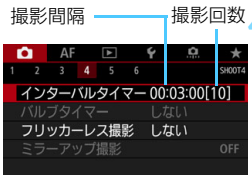
- 項目（時：分：秒／回数）を選びます。
- 〈(SET)〉を押して〈☝〉の状態にします。
- 数値を設定し〈(SET)〉を押します（〈□〉の状態に戻ります）。

- **撮影間隔**

  ［00：00：01］～［99：59：59］の範囲で設定することができます。

- **撮影回数**

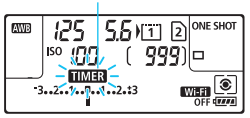
  ［01］～［99］の範囲で設定することができます。［00］に設定したときは、撮影回数制限なしで、インターバルタイマーを終了するまで撮影が継続します。




## 4 [OK] を選ぶ

➡ メニュー画面に設定した内容が表示されます。

➡ メニューを終了すると、表示パネルに〈TIMER〉が表示されます。




## 5 撮影する

➡ 1枚目が撮影され、以降は設定した内容でインターバルタイマー撮影が行われます。

- インターバルタイマー撮影中は、〈TIMER〉が点滅します。
- 設定した回数の撮影が終わると、インターバルタイマー撮影が終了し、自動的に解除されます。

- 三脚の使用をおすすめします。
- 事前にテスト撮影することをおすすめします。
- インターバルタイマー撮影を開始したあとでも、シャッターボタンを全押しすると、通常の撮影を行うことができます。ただし、次のインターバルタイマー撮影の約5秒前になると、撮影機能の設定、メニュー操作、画像の再生などの操作や表示が中断され、撮影準備状態になります。
- 次のインターバルタイマー撮影が行われるタイミングで撮影しているときや、画像処理中のときは、その回のインターバルタイマー撮影がキャンセルされます。そのため、設定した撮影回数より少ない枚数の静止画が記録されます。
- インターバルタイマー中もオートパワーオフが機能します。次の撮影約1分前になると自動的に電源が入ります。
- AEBやWBブラケティング、多重露出、HDRモードと組み合わせて撮影することもできます。
- インターバルタイマー撮影を途中で終了するときは、[**しない**] に設定するか、電源スイッチを〈**OFF**〉にします。

- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- レンズのフォーカスモードスイッチが〈**AF**〉に設定されているときは、AFでピントが合わないと撮影が行われません。〈**MF**〉に設定し、手動でピントを合わせてから撮影することをおすすめします。
- インターバルタイマー機能を使用したライブビュー撮影、動画撮影、バルブ撮影はできません。
- 撮影時間が長くなるときは、家庭用電源アクセサリー（別売／ p.530）の使用をおすすめします。
- 長秒時露光など、シャッター速度が撮影間隔より長く設定されているときは、設定した間隔で撮影できません。そのため、設定した撮影回数より少ない枚数の静止画が記録されます。また、シャッター速度が撮影間隔とほぼ同じ（近い）ときも、撮影枚数が少なくなることがあります。
- 撮影機能の設定やカードの性能などにより、カードに記録する時間が撮影間隔よりも長いときは、設定した間隔で撮影できないことがあります。
- ストロボを使用してインターバルタイマー撮影を行うときは、ストロボの充電に必要な時間よりも長い撮影間隔を設定してください。撮影間隔が短いと、ストロボなしで撮影が行われることがあります。
- 撮影間隔が短いときは、撮影が行われなかったり、AFが行われずに撮影されることがあります。
- 電源スイッチを〈**OFF**〉にしたときや、ライブビュー撮影／動画撮影画面を表示したとき、撮影モードを〈**B**〉や〈**C1**〉〈**C2**〉〈**C3**〉にしたとき、EOS用ソフトウェアEOS Utility（p.598）を使用したときは、インターバルタイマーが解除され、設定が［**しない**］になります。
- インターバルタイマー撮影開始後は、リモコン撮影（p.279）やEOS用外部ストロボによるリモートレリーズ撮影はできません。
- ファインダーから目を離してインターバルタイマー撮影を行うときは、ファインダーにアイピースカバーを取り付けてください（p.278）。ファインダーに光が入ると、適切な露出が得られないことがあります。

**MEMO**

# 7

# ストロボ撮影

この章では、外部ストロボ（EXスピードライト／別売）を使った撮影、カメラのメニュー画面から外部ストロボの設定を行う方法について説明しています。

# ストロボを使った撮影

## EOS用EXスピードライト

EXスピードライト（別売）を使用すると、簡単にストロボ撮影を行うことができます。

**操作方法については、EXスピードライトの使用説明書を参照してください。**なお、このカメラは、EXスピードライトの全機能が使用できる、Aタイプカメラに属しています。

カメラのメニュー画面から、ストロボの機能やストロボのカスタム機能を設定する方法については、289～295ページを参照してください。

● **ストロボ調光補正**

露出補正と同じ感覚で、ストロボの発光量を調整することができます。補正できる範囲は1/3段ステップ±3段です。

カメラの〈ISO〉ボタンを押したあと、ファインダー内、または表示パネルを見ながら〈◌〉を回します。

● **FEロック**

被写体の任意の部分に適正調光させるストロボ撮影方法です。被写体をファインダーの中央に置いて、カメラの〈M-Fn〉ボタンを押してから、構図を決めて撮影します。

［**2：オートライティングオプティマイザ**］（p.201）が［**しない**］以外に設定されているときは、暗めにする調光補正（マイナス補正）を行っても、明るく撮影されることがあります。

AFでピントが合わせにくいときは、必要に応じてEOS用外部ストロボからAF補助光が自動投光されます。

## EXシリーズ以外のキヤノン製スピードライト

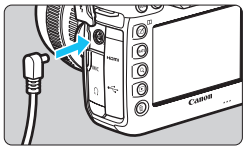
- **EZ/E/EG/ML/TLスピードライトをA-TTLまたはTTL自動調光モードに設定して撮影すると、常時フル発光します。**
  カメラの撮影モードを〈**M**〉マニュアル露出、または〈**Av**〉絞り優先AE に設定して、絞り数値を変えて撮影してください。
- マニュアル発光機能を搭載したスピードライト使用時は、マニュアル発光モードで撮影してください。

## 汎用ストロボ

### ● 同調シャッター速度

小型の汎用ストロボは1/200秒以下で同調します。スタジオ用の大型ストロボは、小型の汎用ストロボに比べ閃光時間が長く、機種により閃光時間が異なります。1/60～1/30秒程度を目安に、あらかじめストロボが正しく同調するかどうか、確認してから撮影してください。

### ● シンクロ端子について



- シンクロ端子を利用して、シンクロコード付きのストロボを使用することができます。なお、端子にはコードの抜け落ちを防止するための、ロック用のねじ山が付いています。
- シンクロ端子には極性はありません。シンクロコードの極性に関わらず、そのまま使用することができます。

### ● ライブビュー撮影時の注意

汎用ストロボを使用してライブビュー撮影を行うときは、[**6：LVソフト撮影**]を[**しない**]設定にしてください（p.312）。[**モード1**][**モード2**]に設定されていると、ストロボが発光しません。

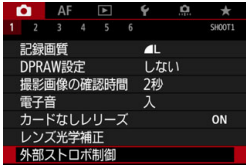
- 他社製の特定カメラ専用のストロボ、およびストロボ用付属品を使用すると、カメラが正常な機能を発揮しないばかりでなく、故障の原因になります。
- シンクロ端子に250V以上の電圧がかかるストロボを使用しないでください。
- 高圧ストロボをアクセサリーシューに取り付けて使用しないでください。発光しないことがあります。

アクセサリーシューとシンクロ端子にそれぞれストロボを接続して、同時に使用することもできます。

# MENU ストロボの機能を設定する 応用

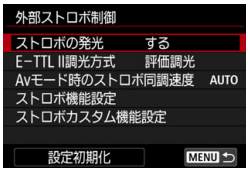
ストロボ機能設定に対応したEXスピードライトを使用すると、カメラのメニュー画面から、ストロボの機能を設定したり、ストロボのカスタム機能を設定することができます。**設定を行う前にストロボをカメラに取り付け、ストロボの電源を入れておきます。**

なお、ストロボの機能については、スピードライトの使用説明書を参照してください。




## 1 [外部ストロボ制御] を選ぶ

- [📷1] タブの [**外部ストロボ制御**] を選び、〈(SET)〉を押します。
- ➡ 外部ストロボ制御画面が表示されます。




## 2 項目を選ぶ

- 設定する項目を選び、〈(SET)〉を押します。

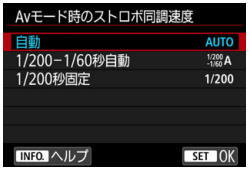
### ストロボの発光

ストロボ撮影を行うときは、[**する**] に設定します。ストロボのAF補助光だけを利用したいときは、[**しない**] に設定します。

### E-TTL II 調光方式

通常は、標準的なストロボ露出が得られる [**評価調光**] に設定します。[**平均調光**] に設定すると、測光領域全体を平均的に測光します。状況に応じてストロボ調光補正が必要です。上級者向けの設定です。

## Avモード時のストロボ同調速度




〈**Av**〉絞り優先AEモードでストロボ撮影を行うときのストロボ同調速度を設定することができます。

- **AUTO: 自動**
  明るさに応じてシャッター速度が1/200～30秒の範囲で自動設定されます。ハイスピードシンクロを行うこともできます。
- **1/200 -1/60 A: 1/200-1/60秒自動**
  暗い場所でシャッター速度が自動的に遅くならないようになります。被写体ブレや手ブレを防止したいときに有効です。ただし、被写体はストロボ光により標準露出になりますが、被写体の背景が暗くなることがあります。
- **1/200: 1/200秒固定**
  シャッター速度が1/200秒に固定されるため、［**1/200-1/60秒自動**］よりも被写体ブレや手ブレを抑えることができます。ただし、暗い場所では［**1/200-1/60秒自動**］よりも被写体の背景が暗くなります。

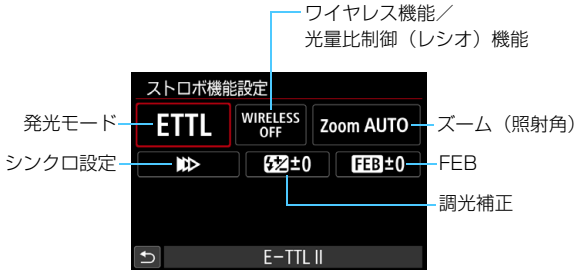
［**1/200-1/60秒自動**］［**1/200秒固定**］設定時は、〈**Av**〉モードでハイスピードシンクロを行うことはできません。

## ストロボ機能設定

**画面に表示される内容や設定できる項目は、ストロボの機種や設定されている発光モード、ストロボカスタム機能の設定状態などにより異なります。**

なお、使用するストロボの機能については、スピードライトの使用説明書を参照してください。

### 表示例




● **発光モード**

撮影目的に応じて発光モードを選択します。

［**E-TTL II**］は、ストロボの自動露出撮影ができる、EXスピードライトの標準的なモードです。

［**マニュアル発光**］は、ストロボの［**発光量**］を自分で決めて撮影するモードです。

その他の発光モードについては、その発光モードに対応したストロボの使用説明書を参照してください。

### ワイヤレス機能／光量比制御（RATIO）機能

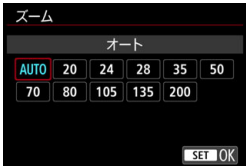
電波通信、または光通信によるワイヤレス（多灯）ストロボ撮影を行うことができます。

詳しくは、ワイヤレスストロボ撮影に対応したストロボの使用説明書を参照してください。

ストロボ機能設定に対応したマクロストロボ（例：MR-14EX II）使用時に、発光部A, Bの発光量の比率（光量比）を設定したり、レシーバーストロボを増灯したワイヤレスストロボ撮影を行うことができます。

詳しくは、光量比制御に対応したマクロストロボの使用説明書を参照してください。

### ズーム（照射角）




ズーム機能を内蔵したストロボ使用時に、発光照射角を設定することができます。通常は、撮影レンズの焦点距離に応じて照射角をカメラが自動設定する［AUTO］に設定します。

### ● シンクロ設定

通常は、撮影開始直後にストロボが発光する［**先幕シンクロ**］に設定します。

［**後幕シンクロ**］に設定すると、シャッターが閉じる直前にストロボが発光します。遅いシャッター速度と組み合わせると、走行中の車のライトなどの軌跡を自然な感じで写すことができます。なお、後幕シンクロと［**E-TTL II**］の組み合わせのときは、シャッターボタンを全押ししたときと撮影終了直前の計2回発光します。

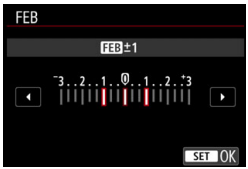
［**ハイスピード**］に設定すると、すべてのシャッター速度でストロボ撮影を行うことができます。日中の屋外などで、被写体の背景をぼかして（絞りを開いて）撮影したいときに有効です。

### ● 調光補正

ストロボの発光量を1/3段ステップ±3段の範囲で調整することができます。

詳しくは、ストロボの使用説明書を参照してください。

### ● FEB




ストロボの発光量を自動的に変えながら3枚の撮影を行うことができます。

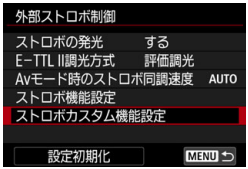
詳しくは、FEB（Flash Exposure Bracketing）機能を搭載したストロボの使用説明書を参照してください。

後幕シンクロで撮影するときは、シャッター速度を1/25秒以下の遅い速度に設定してください。1/30秒以上の速い速度のときは、［**後幕シンクロ**］に設定していても、自動的に先幕シンクロ撮影になります。

- ストロボ機能設定に対応していないEXスピードライト使用時は、［**ストロボの発光**］［**E-TTL II 調光方式**］、および［**ストロボ機能設定**］の［**調光補正**］のみ設定できます（一部のEXスピードライトでは、［**シンクロ設定**］も設定可能）。
- ストロボ側で調光補正を設定したときは、カメラ側から調光補正を行うことはできません。なお、同時に設定されているときは、ストロボ側の設定が優先されます。

## ストロボカスタム機能設定

ストロボのカスタム機能については、ストロボ（別売）の使用説明書を参照してください。



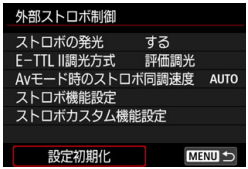

### 1 ［ストロボカスタム機能設定］を選ぶ

### 2 機能を設定する

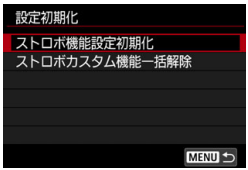
- 番号を選び〈SET〉を押します。
- 項目を選び〈SET〉を押します。

EXスピードライト使用時に、ストロボカスタム機能の［**調光方式**］を［TTL］（自動調光）に設定したときは、常時フル発光します。

## ストロボ機能設定初期化／ストロボカスタム機能一括解除




### 1 ［設定初期化］を選ぶ




### 2 初期化する内容を選ぶ

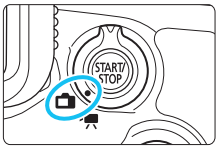
- ［**ストロボ機能設定初期化**］［**ストロボカスタム機能一括解除**］のいずれかを選び、〈(SET)〉を押します。
- 確認画面で［OK］を選ぶと、ストロボの設定が初期化、またはカスタム機能がすべて解除されます。

［**外部ストロボ制御**］の画面から、ストロボのパーソナル機能（P.Fn）の設定・解除はできません。ストロボを直接操作して設定してください。

**MEMO**

# 8

# 液晶モニターを見ながら撮影する（ライブビュー撮影）




カメラの液晶モニターに表示される映像を見ながら撮影することができます。この撮影方法を「ライブビュー撮影」といいます。

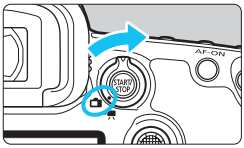
ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈📷〉にすると、ライブビュー撮影ができるようになります。

- カメラを手に持って液晶モニターを見ながら撮影すると、手ブレにより、鮮明な画像が得られないことがあります。そのようなときは、三脚などの使用をおすすめします。

**リモートライブビュー撮影について**

EOS用ソフトウェアのEOS Utility（p.598）がインストールされたパソコンにカメラを接続すると、パソコンの画面を見ながらリモート撮影を行うことができます。詳しくは、EOS Utility使用説明書（p.600）を参照してください。

# 液晶モニターを見ながら撮影する




## 1 ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈📷〉にする

## 2 ライブビュー映像を表示する

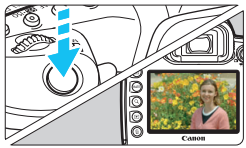
- 〈START/STOP〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに映像が表示されます。
- ライブビュー映像は、実際の撮影結果に近い明るさで表示されます。

## 3 撮影モードを選ぶ

- モードダイヤルを回して撮影モードを選びます。

## 4 ピントを合わせる

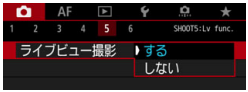
- シャッターボタンを半押しすると、設定されているAF方式（p.316）でピント合わせが行われます。
- 画面にタッチして人物の顔や被写体を選ぶこともできます（p.327）。




## 5 撮影する

- シャッターボタンを全押しします。
- ➡ 撮影が行われ、液晶モニターに撮影した画像が表示されます。
- ➡ 表示が終わると、自動的にライブビュー撮影に戻ります。
- 〈START/STOP〉ボタンを押すとライブビュー撮影が終了します。

## ライブビュー撮影ができないときは




［5：ライブビュー撮影］を［する］に設定します（〈A+〉モードは［3］タブ）。

**ライブビュー撮影時の撮影可能枚数の目安**　（約・枚）

| 温度 | 常温（+23℃） | 低温（0℃） |
|---|---|---|
| 撮影可能枚数 | 300 | 280 |

- 上記の撮影可能枚数は、フル充電のバッテリーパック LP-E6N使用、CIPA（カメラ映像機器工業会）の試験基準によります。
- バッテリーグリップ BG-E20（別売）使用時に、バッテリーパック LP-E6Nを2個使用したときは、撮影可能枚数が約2倍になります。
- フル充電のバッテリーパック LP-E6Nでライブビュー撮影できる時間は、常温（+23℃）：合計約2時間40分、低温（0℃）：合計約2時間30分です。

## 連続撮影中の表示について

ライブビュー撮影時に記録画質をJPEG画質、および RAW に設定して（M RAW/S RAW を除く）〈□H〉高速連続撮影を行ったときは、シャッターボタンを全押ししている間、撮影した画像が連続して表示（再生）されます。連続撮影を終了すると（シャッターボタンを半押しに戻すと）、ライブビュー映像が表示されます。

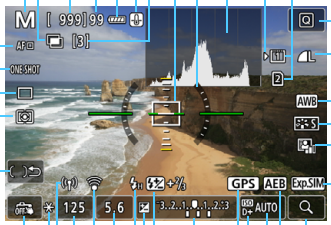
外部ストロボ使用時や長秒時露光を行ったときなど、撮影条件によっては撮影した画像が連続して表示（再生）されないことがあります。

- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- **『ライブビュー撮影全般の注意事項』は、331～332ページにまとめて記載しています。**

- 映像の視野率は約100%（記録画質 JPEG **L**、アスペクト比 3:2時）です。
- 〈LOCK▶〉スイッチを左側にして〈◎〉を回すと、±3段までの範囲で露出補正を行うことができます（〈A+〉モードを除く）。
- 絞り込みボタンを押すと、被写界深度を確認することができます。
- 記録画質が**M** RAW、**S** RAWの設定で撮影を行うと、「**BUSY**」が表示され、一時的に撮影ができなくなります。
- ピント合わせは〈**AF-ON**〉ボタンで行うこともできます。
- ストロボ撮影時は、シャッターが2回切れたような音がしますが、撮影枚数は1枚です。また、シャッターボタンを全押ししてから撮影されるまでの時間が、ファインダー撮影時より少し長くなります。
- カメラを操作しない状態が続くと、［**2：オートパワーオフ**］の設定時間で電源が自動的に切れます（p.76）。［**しない**］に設定されているときは、約30分でライブビュー機能が自動的に終了します（電源は切れません）。
- HDMIケーブル HTC-100（別売）を使用すると、ライブビュー映像をテレビに表示することができます（p.432）。ただし、音声は出力されません。なお、テレビに映像が表示されないときは、［**3：ビデオ方式**］の［NTSC］［PAL］の設定を確認してください（テレビが対応している方式に合わせてください）。
- リモートコントローラー（別売／ p.279）を使ってライブビュー撮影を行うこともできます。

## 情報表示について

〈**INFO.**〉ボタンを押すと、押すたびに情報表示内容が切り換わります。




連続撮影可能枚数
電池残量
撮影可能枚数／
セルフタイマー秒数
温度上昇警告
多重露出残り枚数
HDR撮影／
多重露出撮影／
DPRAW撮影／
マルチショット
ノイズ低減
AFフレーム（ライブ1点AF）
水準器
ヒストグラム
撮影モード／
シーン判別アイコン
記録・再生／再生カード
カード
クイック設定ボタン
AF方式
記録画質
AF動作
ドライブモード
ホワイトバランス／
ホワイトバランス補正
測光モード
ピクチャースタイル
AFフレーム
自動選択に
切り換え
オートライティング
オプティマイザ
露出
シミュレーション
タッチシャッター
拡大ボタン
AEロック
Wi-Fi機能
AEB撮影／FEB撮影
シャッター速度
ISO感度
Eye-Fiカード通信状態
高輝度側・階調優先
絞り数値
GPS受信状態
ストロボ充電完了／
ストロボ発光禁止／
ハイスピードシンクロ
露出レベル表示
ストロボ調光補正
露出補正

● 設定に応じた部分のみ表示されます。

⚠ 警告

**長時間、身体の同じ箇所に触れたまま使用しないでください。**

熱いと感じなくても、皮膚が赤くなったり、水ぶくれができたりするなど、低温やけどの原因になる恐れがあります。気温の高い場所で使用する場合や、血行の悪い方や皮膚感覚の弱い方などが使用する場合は、三脚などをお使いください。

- ヒストグラムは、［**5：露出Simulation**］が［**する**］に設定されているときに（p.311）表示することができます。
- 〈**INFO.**〉ボタンを押すと、水準器を表示することができます（p.82）。ただし、AF方式が［**+追尾優先AF**］のときや、カメラとテレビがHDMIケーブルで接続されているときは、水準器は表示されません。
- 〈Exp.SIM〉が白く表示されているときは、実際の撮影結果に近い明るさでライブビュー映像が表示されています。
- 〈Exp.SIM〉が点滅しているときは、低輝度、高輝度条件下で映像が撮影結果と異なる明るさで表示されていることを示しています。ただし、撮影を行うと露出設定どおりに記録されます。また、実際に撮影される画像よりもノイズが多く見えることがあります。
- バルブ撮影時、ストロボ撮影時、マルチショットノイズ低減機能設定時、HDRモード設定時は、露出シミュレーションは行われません（p.311）。そのときは〈Exp.SIM〉とヒストグラムが灰色で表示されます。このとき液晶モニターに表示される映像は、標準的な明るさで表示されます。また、低輝度、高輝度条件下ではヒストグラムが適切に表示されないことがあります。

## シーン判別のアイコン一覧

撮影モードが〈A+〉のときは、カメラがシーンを判別して、シーンに合った全自動撮影を行うことができます。判別したシーンは画面の左上に表示されます。

| 背景＼被写体 | 人物*1 | 動いているとき | 人物以外の被写体 自然や屋外シーン | 動いているとき | 近いとき*2 | 背景色 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 明るい | | | | | | 灰色 |
| 逆光 | | | | | | |
| 青空を含む | | | | | | 水色 |
| 逆光 | | | | | | |
| 夕景 | *3 | | | | *3 | オレンジ色 |
| スポットライト | | | | | | 紺色 |
| 暗い | | | | | | |
| 三脚使用時 | *4*5 | *3 | *4*5 | *3 | | |

*1：AF方式を［+追尾優先AF］に設定しているときのみ表示されます。それ以外のAF方式を設定しているときは、人物を検知しても「人物以外の被写体」のアイコンが表示されます。

*2：距離情報を持っているレンズを使用しているときに表示されます。なお、エクステンションチューブやクローズアップレンズ併用時は、実際のシーンと異なるアイコンが表示されることがあります。

シーンや撮影状態によっては、実際のシーンと異なるアイコンが表示されることがあります。

*3：判別可能なシーンから選ばれたアイコンが、適宜表示されます。
*4：下記の条件がそろったときに表示されます。
「撮影シーンが暗いとき」「夜景撮影時」「三脚などでカメラを固定しているとき」
*5：下記のレンズ使用時に表示されます。
・EF300mm F2.8L IS II USM　・EF400mm F2.8L IS II USM
・EF500mm F4L IS II USM　・EF600mm F4L IS II USM
・2012年以降に発売された手ブレ補正機能内蔵レンズ
*4+*5: *4と*5の条件がすべて揃ったときは、シャッター速度が遅くなります。

## ファイナルイメージシミュレーションについて

「ファイナルイメージシミュレーション」は、ピクチャースタイルやホワイトバランスなどの効果をライブビュー映像で確認できる機能です。

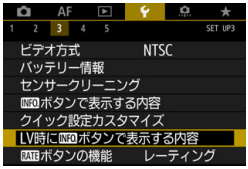
ライブビュー映像を表示すると、下記に示した機能の設定効果が、自動的に反映されて表示されます。なお、撮影結果と若干異なる場合があります。

### ライブビュー撮影時のファイナルイメージシミュレーション機能

- ピクチャースタイル
  * シャープネス（強さ）、コントラスト、色の濃さ、色あいが反映されます。
- ホワイトバランス
- ホワイトバランス補正
- 測光モード
- 露出（[**5：露出Simulation：する**] 設定時）
- 被写界深度（絞り込みボタンON時）
- オートライティングオプティマイザ
- 周辺光量補正
- 歪曲収差補正
- 色収差補正
- 高輝度側・階調優先
- アスペクト比（撮影範囲確認）

## INFO.ボタンで表示する内容

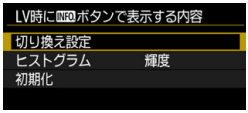
ライブビュー撮影時／動画撮影時に、〈**INFO.**〉ボタンを押したときに映像に重ねて表示する内容（情報）を設定することができます。




### ［LV時に INFO ボタンで表示する内容］を選ぶ

- ［3］タブの［**LV時に INFO ボタンで表示する内容**］を選び、〈SET〉を押します。

### ● 切り換え設定




**1** ［切り換え設定］を選ぶ

**2** 番号を選ぶ

- 番号は〈**INFO.**〉ボタンを押す回数を表しています。
- 表示内容を変更する番号を選び、〈**INFO.**〉ボタンを押します。
- 〈SET〉を押して番号の［✓］を外すこともできます。4項目すべての［✓］を外すことはできません。

初期状態は以下のとおりです。

| 内容／番号 | | 1 | 2 | 3 | 4 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 基本撮影情報 | ○ | ○ | ○ | − |
| | 詳細撮影情報 | − | ○ | ○ | − |
| | タッチボタン | ○ | ○ | ○ | − |
| | ヒストグラム | − | − | ○ | − |
| | 水準器 | − | − | ○ | − |

### 3 編集する

- 表示する内容を選び、〈(SET)〉を押して［✓］を付けます。
- 非表示にする内容は、〈(SET)〉を押して［✓］を外します。
- ［OK］を選ぶと設定されます。
- 必要に応じて手順2、3を繰り返します。

## ● ヒストグラム

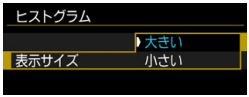
**・輝度/RGB**

〈**INFO.**〉ボタンを押したときに画面に表示するヒストグラム（p.402）を、［**輝度**］［**RGB**］から選ぶことができます。

［**ヒストグラム**］の［**輝度/RGB**］を選び、［**輝度**］または［**RGB**］を選びます。

**・表示サイズ**

ヒストグラムの表示サイズを変更することができます。




［**ヒストグラム**］の［**表示サイズ**］を選び、［**大きい**］または［**小さい**］を選びます。

## ● 初期化

手順1で［**初期化**］を選ぶと、［**3：LV時に INFO ボタンで表示する内容**］で設定した内容が初期化されます。

# 撮影機能の設定

## WB／◉／DRIVE／AF／⚡±／ISO／⚙／▭／HDR設定

ライブビュー映像が表示された状態で〈WB•◉〉／〈DRIVE•AF〉／〈⚡±•ISO〉／〈✎〉ボタンを押すと、液晶モニターに設定画面が表示され、〈⚙〉または〈◎〉を回して撮影機能の設定を行うことができます。

- 〈WB•◉〉ボタンを押したあと〈**INFO.**〉ボタンを押すと、WB補正、WBブラケティングの設定を行うことができます。
- 〈✎〉ボタンを押したあと、〈▭〉または〈**HDR**〉を選ぶと、多重露出／HDRモードのメニュー画面が表示されます。

ライブビュー撮影時は、ドライブモードの〈□S〉〈▭S〉は設定できません。また、ファインダー撮影時に設定した連続撮影モードの設定は、ライブビュー撮影には引き継がれません。

◉（部分測光）、•（スポット測光）設定時は、画面の中央に測光範囲を示す円が表示されます。

## Q クイック設定

〈**P**〉〈**Tv**〉〈**Av**〉〈**M**〉〈**B**〉モードのときは、**AF方式**／AF動作／**ドライブモード**／測光モード／**記録/再生カード・記録画質**／ホワイトバランス／ピクチャースタイル／オートライティングオプティマイザの設定を行うことができます。

**〈A+〉モードのときは太字の項目のみ**設定できます。

**1** **〈Q〉ボタンを押す**（⏱10）

➡ 設定できる項目が表示されます。

**2** **機能を選んで設定する**

- 〈✣〉で機能を選びます。
- ➡ 選んだ機能の設定内容が、画面に表示されます。
- 〈☆〉または〈◯〉を回して設定します。
- 記録画質のRAW画像の設定を行うときは、〈(SET)〉を押します。
- 記録/再生カードの選択、WB補正/WBブラケティングの設定、ピクチャースタイルの詳細設定を行うときは、〈**INFO.**〉ボタンを押します。
- オートホワイトバランスの設定を行うときは、［AWB］を選んだ状態で〈(SET)〉を押します。
- 〈(SET)〉または〈Q〉ボタンを押すとライブビュー撮影に戻ります。
- ［⮌］を選んでライブビュー撮影に戻ることもできます。

［**AF動作**］を［**サーボAF**］に設定したときは、［**記録画質**］でRAW画像の設定を行うときに、**M** RAW、**S** RAWは選択できません。

# MENU メニュー機能の設定

## 5

ライブビュー撮影／動画撮影スイッチが〈〉のときは、［5］［6］タブにライブビュー撮影特有の項目が表示されます（〈〉モードは［3］タブ）。

**このメニュー画面で設定できる機能は、ライブビュー撮影時のみ有効です。ファインダー撮影時は機能しません（設定が無効になります）。**

---

● **ライブビュー撮影**

ライブビュー撮影［**する**］［**しない**］を選択することができます。

● **AF方式**

［**+追尾優先AF**］［**ライブ多点AF**］［**ライブ1点AF**］を選択することができます。AF方式については、316～322ページを参照してください。

● **タッチシャッター**

タッチシャッター［**しない**］［**する**］を選択することができます。画面にタッチするだけで、ピント合わせから撮影までを自動で行うことができます。詳しくは327ページを参照してください。

● **グリッド**

［**9分割**］または［**24分割**］でグリッド（格子線）を表示して、水平、垂直の傾きを確認しながら撮影することができます。また、［**9分割+対角**］では、格子線と対角線が表示され、水平、垂直の傾きの確認だけでなく、交点を被写体に合わせることで、バランスの良い構図で撮影することができます。

### ● アスペクト比 応用

画像のアスペクト比（横縦比率）を［3:2］［4:3］［16:9］［1:1］から選択することができます。［4:3］［16:9］［1:1］のときは、撮影範囲外が黒くマスキングされた状態でライブビュー映像が表示されます。

JPEG画像は、設定したアスペクト比で保存されます。RAW画像は、常に［3:2］のアスペクト比で保存されます。RAW画像には設定したアスペクト比情報が付加され、カメラやDigital Photo Professional（p.598）で現像する際に、撮影時に設定したアスペクト比でJPEG画像を生成することができます。なお、RAW画像をカメラで再生したときは、撮影範囲を表すアスペクト比の線が表示されます。

| 記録画質 | アスペクト比と画素数（約） | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 3:2 | 4:3 | 16:9 | 1:1 |
| L | 6720×4480<br>（3010万） | 5952×4480*<br>（2670万） | 6720×3776*<br>（2540万） | 4480×4480<br>（2010万） |
| M | 4464×2976<br>（1330万） | 3968×2976<br>（1180万） | 4464×2512*<br>（1120万） | 2976×2976<br>（890万） |
| S1 | 3360×2240<br>（750万） | 2976×2240*<br>（670万） | 3360×1888*<br>（630万） | 2240×2240<br>（500万） |
| S2 | 1920×1280<br>（250万） | 1696×1280*<br>（220万） | 1920×1080<br>（210万） | 1280×1280<br>（160万） |
| S3 | 720×480<br>（35万） | 640×480<br>（31万） | 720×408*<br>（29万） | 480×480<br>（23万） |

- 「*」印の付いた記録画質とアスペクト比は、正確な比率になりません。
- 「*」印が付いたアスペクト比の撮影範囲表示は、実際に撮影される範囲とわずかに異なることがあります。撮影結果を確認しながら撮影してください。
- 多重露出撮影時は［3:2］の設定で撮影されます。

### 露出Simulation 応用

露出Simulation（シミュレーション）は、実際の撮影結果（露出）に近い明るさをシミュレートして映像を表示する機能です。

- **する**（Exp.SIM）
  実際の撮影結果（露出）に近い明るさで表示されます。露出補正を行うと、補正量に応じて映像の明るさが変わります。
- **絞り込み中**
  通常は、ライブビュー映像が見やすいように、標準的な明るさで表示されます（DISP）。絞り込みボタンを押している間だけ、実際の撮影結果（露出）に近い明るさで表示されます（Exp.SIM）。
- **しない**（DISP）
  ライブビュー映像が見やすいように、標準的な明るさで表示されます。露出補正を行っても、標準的な明るさで表示されます。

## 6 応用

### LVソフト撮影 応用

**・モード1**

ファインダー撮影時よりも作動音を抑えた撮影を行うことができます。連続撮影を行うこともできます。

**・モード2**

シャッターボタンを全押しすると１枚だけ撮影し、全押しを続けている間、カメラの作動を停止します。半押し状態に戻したときにカメラが作動するため、撮影する瞬間の音を最小限に抑えることができます。なお、連続撮影に設定していても1枚撮影になります。

**・しない**

ドライブモードを〈□H〉、［**AF動作**］を［**ワンショットAF**］に設定すると、最高約7.0コマ/秒の連続撮影を行うことができます。

なお、TS-Eレンズを使用して**シフトやティルト**を行うときや、エクステンションチューブを使用するときは、必ず［**しない**］に設定してください。［**モード1**］［**モード2**］に設定すると、標準露出にならなかったり、露出ムラが発生することがあります。

- ［**モード2**］設定時にドライブモードを〈**H**〉〈**L**〉に設定しても、連続撮影はできません。
- ストロボ撮影時に発光モードがE-TTL II/E-TTL自動調光のときは、ファインダー撮影時と同じ内部機構の動作で撮影が行われるため、（［**LVソフト撮影**］の設定に関わらず）作動音を抑えた撮影はできません。
- 汎用ストロボを使用するときは、［**しない**］に設定してください。［**モード1**］［**モード2**］に設定されていると、ストロボが発光しません。
- リモートコントローラー（p.279）を使用して［**モード2**］の設定で撮影したときは、［**モード1**］と同じ動作になります。

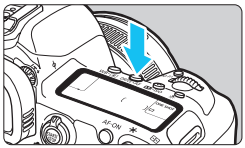
### ● 測光タイマー 応用

露出値の表示時間（AEロック時の保持時間）を変えることができます。

以下のメニュー項目を選ぶと、ライブビュー撮影が終了します。再開するときは、再度〈START/STOP〉ボタンを押してください。
・［**3：ダストデリートデータ取得**］［**3：センサークリーニング**］［**5：カメラ設定初期化**］［**5：ファームウェア**］

# AF動作の選択 応用

撮影状況や被写体にあわせて、AFの作動特性を選ぶことができます。なお、〈A+〉モードでは［ワンショットAF］に自動設定されます。



**1** **〈DRIVE•AF〉ボタンを押す**

**2** **AF動作を選ぶ**

- 〈☆〉を回してAF動作を選び、〈(SET)〉を押します。
  **ONE SHOT**：ワンショットAF
  **SERVO**：サーボAF

- ライブビュー撮影時のみ設定できます（動画撮影時は設定できません）。
- ピントが合わないとAFフレームがオレンジ色になります。このときはシャッターボタンを全押ししても撮影できません。構図を変えて再度ピント合わせを行うか、『ピントが合いにくい撮影条件』（p.324）を参照してください。

## 止まっている被写体を撮る：ワンショットAF

**止まっている被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しすると1回だけピント合わせを行います。**

- 被写体にピントが合うと、AFフレームが緑色に変わります。
- シャッターボタンを半押ししている間、ピントが固定され、構図を変えて撮影することができます。
- ストロボ撮影時は、連続撮影速度が低下します。

［📷1：**電子音**］を［**切**］に設定すると、ピントが合ったときに電子音が鳴らないようになります。

## 動いている被写体を撮る：サーボAF

**動いている被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押ししている間、被写体にピントを合わせ続けます。**

- ドライブモードが〈□H〉高速連続撮影に設定されているときは、連続撮影速度が最高約4.3コマ/秒になります。「連続撮影速度優先」で撮影されます。なお、〈□〉低速連続撮影時は、「被写体追従優先」で撮影されます。
- ストロボ撮影時は、連続撮影速度が低下します。
- 被写体にピントが合うと、AFフレームが青色に変わります。
- 露出は撮影の瞬間に決まります。
- **[AF方式]**が［**+追尾優先AF**］［**ライブ多点AF**］のときは、エリア枠で被写体を捉えていれば、継続してピント合わせが行われます。

- 使用するレンズや被写体との距離、被写体の動く速さによっては、適切なピント合わせができないことがあります。
- 連続撮影中にズーム操作を行うと、ピントがズレることがあります。ズーム操作を行い構図を決めてから撮影してください。
- ［**サーボ AF**］設定時は、記録画質 **M** RAW、**S** RAW は選択できません。**M** RAW、**S** RAW に設定されているときは、RAW で記録されます。
- ［**サーボAF**］設定時に、［**マルチショットノイズ低減機能**］(p.202) が設定されているときは、［**高感度撮影時のノイズ低減**］の設定が、自動的に［**標準**］に切り換わります。
- ［**サーボAF**］設定時に、［**3：操作ボタンカスタマイズ**］で［**ワンタッチ記録画質切換**］［**ワンタッチ記録画質切換（ホールド）**］(p.507) の記録画質を**M** RAW、**S** RAW に設定したときは、割り当てたボタンを押しても機能しません。

サーボAFのときは、ピントが合っても電子音は鳴りません。

# AFでピントを合わせる（AF方式）

## AF方式を選ぶ

撮影状況や被写体にあわせて、[**+追尾優先AF**]（p.317）、[**ライブ多点AF**]（p.319）、[**ライブ1点AF**]（p.321）からAF方式を選ぶことができます。

なお、厳密にピントを合わせたいときは、レンズのフォーカスモードスイッチを〈**MF**〉にしたあと、映像を拡大して手動ピント合わせを行ってください（p.329）。

### AF方式を選ぶ

- [**5**] タブの [**AF方式**] を選びます（〈A+〉モードは [**3**] タブ）。
- AF方式を選び〈SET〉を押します。
- ライブビュー映像が表示されているときに、〈DRIVE•AF〉ボタンを押すと、AF動作を設定することができます（p.314）。

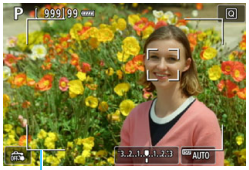
- 317～322ページでは、[**AF動作**] が [**ワンショットAF**]（p.314）に設定されていることを前提に説明しています。[**サーボAF**]（p.315）に設定しているときは、被写体にピントが合うとAFフレームが青色に変わります。
- タッチシャッター（タッチ操作によるAFとレリーズ）については、327ページを参照してください。

## （顔）＋追尾優先AF：AF

人の顔を検知してピント合わせを行います。顔が動くとAFフレーム〈 〉も動いて顔を追尾します。

### 1 ライブビュー映像を表示する

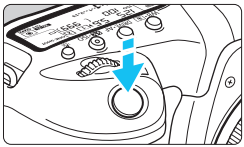
- 〈START/STOP〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに映像が表示されます。



エリア枠

### 2 AFフレームを確認する

- 顔を検知するとエリア枠が表示され、ピント合わせを行う〈 〉が顔の部分に表示されます。
- 複数の顔を検知しているときは〈 〉が表示されます。〈 〉でピントを合わせたい顔に〈 〉を合わせます。
- 画面にタッチして、顔または被写体を選ぶこともできます。顔以外の被写体にタッチしたときは、AFフレームが〈 〉に変わります。



### 3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせが行われます。
- ➡ 顔が検知できないときや、画面にタッチしなかったときは、ライブ多点AFの自動選択（p.319）に切り換わります。
- ➡ ピントが合うとAFフレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
- ➡ ピントが合わないときは、AFフレームがオレンジ色に変わります。

## 4 撮影する

- ピントと露出を確認し、シャッターボタンを全押しして撮影します（p.298）。

### ● 人の顔以外にピントを合わせるとき

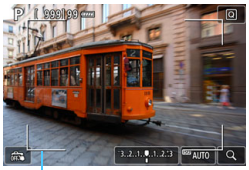
・ピントを合わせたい被写体（位置）にタッチします。
・〈✣〉または〈(SET)〉を押すと、画面にAFフレーム〈[ ]〉が表示され、〈✣〉でAFフレームを移動することができます。
・被写体にAFフレーム〈[ ]〉を合わせたあと、構図を変更したり、被写体が動いたりすると、AFフレーム〈[ ]〉も動いて被写体を追尾します。

- ピントが大きく外れていると顔を検知できません。顔が検知できる位置まで手動でピントを動かしてから（p.329）、AFを行ってください。
- 顔以外の被写体を顔として検知することがあります。
- 「顔が画面に対して極端に小さい／大きい」「顔が明るすぎる／暗すぎる」「顔の一部が隠れている」ときは、顔を検知できません。
- ピント合わせを行う〈[ ]〉が、顔全体ではなく、顔の一部分にだけ表示されることがあります。

- 画面の端のほうにある顔や被写体に対してはAFができません。被写体をエリア枠内に入れてピント合わせを行ってください。
- AFフレームは被写体により大きさが変化します。

## ライブ多点AF：AF( )

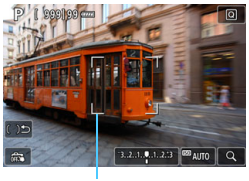
最大63点のAFフレームを使用した広いエリアでピントを合わせることができます（自動選択）。また、そのエリアを9つのゾーンに分けてピントを合わせることもできます（ゾーン選択）。



エリア枠

### 1 ライブビュー映像を表示する

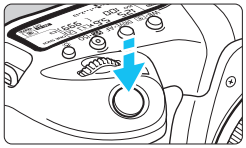
- 〈START/STOP〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに映像が表示されます。



ゾーン枠

### 2 AFフレームを選ぶ 応用

- 〈✣〉または〈(SET)〉を押すたびに、自動選択とゾーン選択が切り換わります。なお、〈A+〉モードのときは自動選択に自動設定されます。
- 〈✣〉でゾーンを選択します。もう一度〈✣〉または〈(SET)〉を押すと、中央のゾーンに戻ります。
- 画面にタッチして、ゾーンを選択することもできます。ゾーン選択時に画面の［ ］をタッチすると、自動選択に切り換わります。



## 3 ピントを合わせる

- AFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。
- ➡ ピントが合うとAFフレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
- ➡ ピントが合わないときは、エリア枠がオレンジ色に変わります。

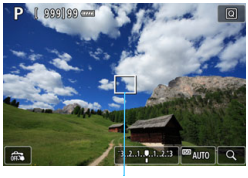
## 4 撮影する

- ピントと露出を確認し、シャッターボタンを全押しして撮影します（p.298）。

- 自動選択で意図したところにピントが合わないときは、ゾーンを選択するか、［**ライブ1点AF**］（p.321）に変更してピントを合わせなおしてください。
- ライブビュー撮影時は、［**5：アスペクト比**］の設定により、AFフレームの数が異なります。［**3：2**］［**4：3**］［**16：9**］のときは63点／9ゾーン、［**1：1**］のときは49点／9ゾーンになります。
- 動画撮影時は、［**動画記録サイズ**］の設定により、AFフレームの数とゾーンの数が異なります。FHD HD撮影時は63点／9ゾーン、4K撮影時は15点／3ゾーンになります。

## ライブ1点AF：AF□

1点のAFフレームでピント合わせを行います。狙った被写体にピントを合わせたいときに効果的です。

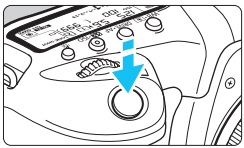



### 1 ライブビュー映像を表示する

- 〈START/STOP〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに映像が表示されます。
- ➡ AFフレーム〈□〉が表示されます。
- ［**動画サーボAF**］を［**する**］に設定したときは、AFフレームが大きく表示されます。

### 2 AFフレームを移動する

- 〈✣〉を操作して、ピントを合わせたい位置にAFフレームを動かします（画面の一番端までは動きません）。
- 〈✣〉または〈(SET)〉ボタンを押すと、AFフレームが画面中央に戻ります。
- 画面にタッチして、AFフレームを移動することもできます。



### 3 ピントを合わせる

- AFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。
- ➡ ピントが合うとAFフレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
- ➡ ピントが合わないときは、AFフレームがオレンジ色に変わります。

## 4 撮影する

- ピントと露出を確認し、シャッターボタンを全押しして撮影します（p.298）。

## AFに関するおことわり

### AFの動作について

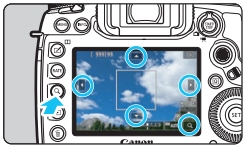
- ピントが合った状態でも、シャッターボタンを半押しすると、もう一度ピント合わせが行われます。
- AF中とAFを行った後で、映像の明るさが変わることがあります。
- 被写体や撮影条件により、ピント合わせに時間がかかったり、連続撮影速度が低下することがあります。
- ライブビュー映像表示中に光源（照明光）が変化すると、画面がちらついてピントが合いにくいことがあります。そのときは、ライブビュー撮影を一旦終了し、撮影する光源下でAFを行ってください。

- AF でピントが合わないときは、レンズのフォーカスモードスイッチを〈**MF**〉にして手動ピント合わせを行ってください（p.329）。
- 画面の端のほうにある被写体を撮影したときに、わずかにピントがズレているときは、被写体（AFフレームまたはゾーン）を画面の中央寄りにして、再度ピント合わせを行ってから撮影してください。
- 外部ストロボからAF補助光は投光されません。ただし、LEDライト付きEXスピードライト（別売）使用時は、必要に応じてAF補助用のライトが点灯します。
- 使用するレンズによっては、AFでピントが合うまでに時間がかかったり、適切なピント合わせができないことがあります。

## ピントが合いにくい撮影条件

- 青空、単色の平面、画面上で被写体が白とびや黒つぶれしているときなど、明暗差（コントラスト）のない被写体
- 暗い場所にある被写体
- 縞模様など、水平方向のコントラストしかない被写体
- 繰り返し模様の被写体（例：ビルの窓やパソコンのキーボードなど）
- 細い線、被写体の輪郭部分
- 明るさや色、パターンが変化する光源
- 夜景など、点状の光源
- 蛍光灯やLED照明などの光源下で、映像がちらついている場合（フリッカー）
- 被写体が極端に小さい場合
- 画面の端のほうにある被写体
- 強い逆光状態、または光の反射が強い被写体（例：反射光の強い車のボディなど）
- 近くと遠くにある被写体が、AFフレームの中に入っている場合（例：おりの中の動物など）
- 手ブレや被写体ブレで、AFフレーム内の被写体が揺れ動いて、静止しない場合
- 大きくピンボケした状態からAFを行った場合
- ソフトフォーカスレンズで、ソフトフォーカス撮影する場合
- 特殊効果フィルターを使用している場合
- AF中に画面にノイズ（輝点、縞など）が表示されている場合

## 拡大表示について



［**ライブ多点AF**］［**ライブ1点AF**］のときに〈🔍〉ボタンを押すか、画面右下に表示された［🔍］にタッチすると、映像を約5倍、約10倍に拡大してピントを確認することができます。

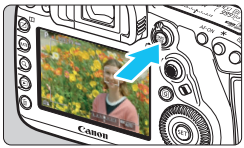
［**顔+追尾優先AF**］のときは拡大表示できません。

- AFフレームを移動するときや、ゾーンを選択するときは、〈✣〉を操作するか、拡大したい部分にタッチします。
- 〈🔍〉ボタンを押すか［🔍］にタッチすると、拡大表示されます。〈🔍〉ボタンを押す、または［🔍］にタッチするごとに拡大倍率が切り換わります。
- ［**ライブ多点AF**］設定時はゾーン枠の中央部分（自動選択時は画面中央）に、［**ライブ1点AF**］設定時はAFフレームの位置に拡大表示枠が表示されます。
- 等倍（約1倍）表示のときに〈✣〉を操作するか、画面にタッチすると、拡大表示枠を移動することができます。〈✣〉または〈SET〉を押すと、拡大表示枠が画面中央に戻ります。
- 〈🔍〉ボタンを押すか［🔍］にタッチすると、拡大表示枠の位置が拡大表示されます。
- 約5倍、約10倍表示のときに〈✣〉を操作するか、画面の上下左右に表示された「三角」のマークにタッチすると、拡大位置を変更することができます。
- シャッターボタンを半押しすると、［**ライブ多点AF**］のときは通常表示に戻って、［**ライブ1点AF**］のときは拡大表示のままAFが行われます。
- サーボAF時は、拡大表示した状態で、シャッターボタンを半押しすると、通常表示に戻ってピント合わせが行われます。

- 拡大表示の状態でピントが合いにくいときは、通常表示に戻してAFを行ってください。
- 通常表示の状態でAFを行ったあと拡大表示を行うと、正確にピントが合っていないことがあります。
- AFの速度は通常表示と拡大表示の状態で異なります。
- 拡大表示中、動画サーボAF（p.380）は行われません。
- 拡大表示のときは、手ブレによりピントが合いにくくなります。三脚の使用をおすすめします。

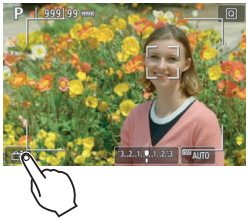
# タッチシャッターで撮影する

画面にタッチするだけで、ピント合わせから撮影まで自動で行うことができます。



## 1 ライブビュー映像を表示する

- 〈START/STOP〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに映像が表示されます。



## 2 タッチシャッター機能を設定する

- 画面左下の［］にタッチします。タッチするたびに、［］と［］が切り換わります。
- ［］（タッチシャッター：する）
  タッチした位置にピントを合わせてから撮影が行われます。
- ［］（タッチシャッター：しない）
  タッチした位置にピントを合わせることができます。シャッターボタンを全押しして撮影します。

## 3 画面にタッチして撮影する

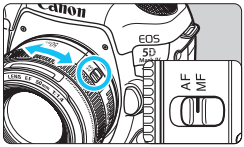
- 画面上の顔や被写体にタッチします。
- ➡ 設定されているAF方式（p.316～322）でタッチした位置でピント合わせが行われます（タッチAF）。
- ➡ ［］に設定したときは、ピントが合うとAFフレームが緑色に変わり、自動的に撮影されます。
- ➡ ピントが合わないときは、AFフレームがオレンジ色に変わり、撮影できません。もう一度、画面上の顔や被写体にタッチします。

- ドライブモードを〈□H〉〈□〉に設定していても、1枚撮影になります。
- [**AF動作**]が[**サーボAF**]に設定されていても、画面にタッチしたときは[**ワンショットAF**]でピント合わせが行われます。
- 拡大表示中に画面にタッチしても、ピント合わせや撮影は行われません。
- 〈A+〉モードのときに、[**ライブ多点AF**]、[**タッチシャッター：しない**]に設定されているときは、画面にタッチしてもピント合わせは行われません。
- [**1：撮影画像の確認時間**]を[**ホールド**]に設定してタッチで撮影を行ったときは、シャッターボタンを半押しすると、次の撮影を行うことができます。なお、[**3：操作ボタンカスタマイズ**]の[**シャッターボタン半押し**]が、[**測光開始**]または[**AEロック（押している間）**]に設定されているときは、ピント合わせが行われずに撮影されます。
- [**3：操作ボタンカスタマイズ**]でボタンに[**ワンショット⇄AIサーボ/サーボ**]や、測光タイマーが作動する機能を割り当てているときは（p.495）、そのボタンを押している間、タッチシャッターによる撮影はできません。

- タッチシャッターの機能は、[**5：タッチシャッター**]で設定することもできます（〈A+〉モードは[**3**]タブ）。
- バルブ撮影時は2回タッチします。1回目のタッチで露光を開始し、2回目のタッチでバルブ撮影が終了します。タッチするときにカメラが動かないように注意してください。

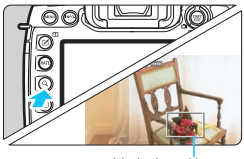
# MF：手動でピントを合わせる

映像を拡大表示して、手動で厳密にピントを合わせることができます。




## 1 レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にする

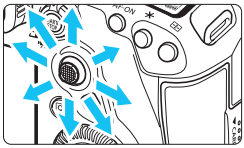
- レンズのフォーカスリングを回して、おおまかにピントを合わせておきます。



拡大表示枠

## 2 拡大表示枠を表示する

- 〈Q〉ボタンを押すか、画面右下に表示された［🔍］にタッチします。
- ➡ 拡大表示枠が表示されます。



## 3 拡大表示枠を移動する

- 〈✲〉を操作するか、拡大したい部分にタッチして、ピントを合わせたい位置に拡大表示枠を移動します。
- 〈✲〉または〈SET〉を押すと、拡大表示枠が画画中央に戻ります。

## 4 映像を拡大する

- 〈Q〉ボタンを押すか、画面右下に表示された［🔍］にタッチするたびに、次のように画面が切り換わります。

通常表示 → 1倍 → 5倍 → 10倍

- 拡大した状態で〈✲〉を操作するか、画面の上下左右に表示された「三角」のマークにタッチすると、拡大位置を変えることができます。

### 5 手動でピントを合わせる

- 拡大された映像を見ながら、レンズのフォーカスリングを回してピントを合わせます。
- ピント合わせが終わったら、〈Q〉ボタンを押して通常表示にします。

### 6 撮影する

- 露出を確認し、シャッターボタンを全押しして撮影します（p.298）。

- 拡大表示中は露出が固定されます（シャッター速度と絞り数値が赤く表示されます）。
- 手動ピント合わせのときも、タッチシャッターで撮影することができます。

## ライブビュー撮影全般の注意事項

### 画質について

- 高ISO感度で撮影すると、ノイズ（輝点、縞など）が目立つことがあります。
- 高温下で撮影すると、ノイズや色ムラが発生することがあります。
- ライブビュー撮影を長時間継続すると、カメラ内部の温度が上昇して、画質が低下することがあります。撮影しないときは、こまめにライブビュー撮影を終了してください。
- カメラ内部の温度が上昇した状態で長秒時露光を行うと、画質が低下することがあります。ライブビュー撮影を一旦終了し、数分間経ってから撮影してください。

### カメラ内部の温度上昇に伴う、白い〈🌡〉と赤い〈🔥〉表示について

- ライブビュー撮影を長時間行ったり、高温下でライブビュー撮影を行うと、カメラ内部の温度が上昇し、白い〈🌡〉または赤い〈🔥〉が表示されます。
- 白い〈🌡〉は、静止画の画質が低下することを示しています。このため、カメラ内部の温度が下がるまで、ライブビュー撮影を一時休止することをおすすめします。
- 赤い〈🔥〉は、もうすぐライブビュー撮影が自動的に終了することを示しています。そのときは、カメラ内部の温度が下がるまで撮影ができなくなるため、ライブビュー撮影を一時休止するか、一旦電源を切ってしばらくカメラを休止してください。
- 高温下でライブビュー撮影を長時間行うと、〈🌡〉または〈🔥〉が表示されるタイミングが早くなります。撮影しないときは、こまめに電源を切ってください。
- 白い〈🌡〉が表示されていなくても、カメラ内部の温度が上昇している状態で高ISO感度撮影、長秒時露光を行うと、画質が低下することがあります。

### 撮影結果について

- 拡大表示中は、シャッター速度と絞り数値が赤色で表示されます。拡大表示の状態で撮影すると、意図した露出で撮影されないことがあります。通常表示に戻して撮影してください。
- 拡大表示の状態で撮影しても、通常表示の範囲が撮影されます。

## ライブビュー撮影全般の注意事項

### ライブビュー映像について

- 低輝度、高輝度条件下では、映像が撮影結果に近い明るさで表示されないことがあります。
- ISO感度を低く設定しても、暗い場所ではライブビュー映像にノイズが多く表示されることがありますが、撮影を行うとノイズの少ない画質で撮影されます（ライブビュー映像と撮影した画像の画質は異なります）。
- 表示中に光源（照明光）が変化すると、画面がちらつくことがあります。そのときは、ライブビュー撮影を一旦終了し、撮影する光源下でライブビュー撮影を再開してください。
- カメラの向きを変えると、映像が一瞬適切な明るさで表示されないことがあります。適切な明るさに安定するのを待ってから撮影してください。
- 極端に明るい光源が画面内にあると、明るい部分が黒っぽくつぶれたように表示されることがあります。ただし、撮影すると、その部分は明るい状態で正しく記録されます。
- 暗い場所で［**2：液晶の明るさ**］を明るい設定にすると、ライブビュー映像にノイズや色ムラが発生することがあります。ただし、このノイズや色ムラは撮影画像には記録されません。
- 映像を拡大表示すると、シャープネスが実際の設定よりも強くかかって見えることがあります。

### カスタム機能について

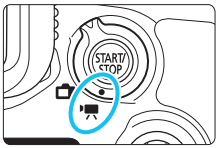
- ライブビュー撮影時は、一部のカスタム機能は機能しません（設定が無効になるカスタム機能があります）。詳しくは480ページを参照してください。

### レンズとストロボについて

- 手ブレ補正機能を搭載したレンズ使用時は、手ブレ補正スイッチを〈**ON**〉にすると、シャッターボタンを半押ししなくても、常時手ブレ補正機能が作動します。そのため、電池が消耗して撮影条件により撮影可能枚数が少なくなることがあります。三脚使用時など補正の必要がないときは、手ブレ補正スイッチを〈**OFF**〉にすることをおすすめします。
- 2011年下期以降に発売された、フォーカスプリセット機能を備えた（超）望遠レンズ使用時のみ、ライブビュー撮影時にフォーカスプリセットを行うことができます。
- 外部ストロボ使用時にFEロック、モデリング発光はできません。

# 9

# 動画を撮影する




ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈🎥〉にすると、動画を撮影することができます。

- **動画撮影を行う前に356ページを参照して、各動画記録画質で動画が記録できるカードを確認してください。**
- カメラを手に持って動画撮影を行うと、手ブレにより、鮮明な映像が得られないことがあります。そのようなときは、三脚などの使用をおすすめします。

### Full HD 1080について

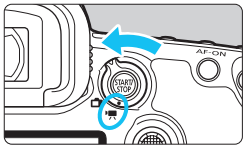
Full HD 1080は、垂直画素（走査線）数：1080画素（本）のHD（High Definition：ハイディフィニション）映像に対応していることを示しています。

FULL HD 1080

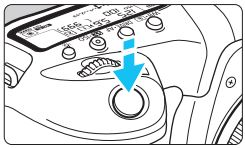
# 動画を撮影する

## 自動露出撮影

撮影モードが〈A+〉〈P〉〈B〉のときは、明るさに応じて自動露出制御が行われます。




**1 モードダイヤルを〈A+〉〈P〉〈B〉のいずれかにする**



**2 ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈🎥〉にする**

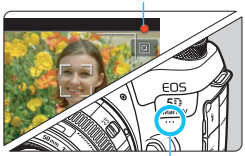
➡ 液晶モニターに映像が表示されます。

**3 ピントを合わせる**

- 動画撮影を始める前に、AF または手動でピントを合わせます（p.316、329）。
- シャッターボタンを半押しすると、設定されているAF方式でピント合わせが行われます。

**4 動画を撮影する**

- 〈START/STOP〉ボタンを押すと、動画撮影が始まります。
- ➡ 動画撮影中は画面右上に「●」が表示されます。
- ➡ 音声は内蔵マイクで記録されます。
- もう一度〈START/STOP〉ボタンを押すと、動画撮影が終了します。

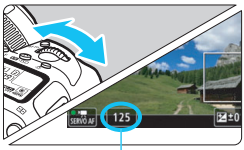


## シャッター優先AE撮影

撮影モードを〈**Tv**〉に設定すると、任意にシャッター速度を設定して、動画撮影を行うことができます。なお、ISO感度、絞り数値は、標準露出になるように、明るさに応じて自動設定されます。

### 1 モードダイヤルを〈Tv〉にする

### 2 ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈🎥〉にする




シャッター速度

### 3 シャッター速度を設定する

- 液晶モニターを見ながら〈⚙〉を回します。
- 設定できるシャッター速度は、フレームレートにより異なります。343ページを参照してください。

### 4 ピントを合わせて撮影する

- 『自動露出撮影』の手順3、4と同じです（p.334）。

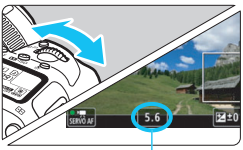
- 動画撮影中にシャッター速度の変更を行うと、露出変化が記録されるため、おすすめできません。
- 動きのある被写体を動画撮影するときは、1/25～1/125秒程度のシャッター速度をおすすめします。シャッター速度を速くするほど、被写体の動きが滑らかに再現されなくなります。
- ハイフレームレート動画撮影時は、シャッター速度の下限が、NTSC設定時：1/125秒／PAL設定時：1/100秒になります。
- 蛍光灯やLED照明などの光源下で動画撮影を行っているときに、シャッター速度を変更すると、画面のちらつきが記録されることがあります。

## 絞り優先AE撮影

撮影モードを〈**Av**〉に設定すると、任意に絞り数値を設定して、動画撮影を行うことができます。なお、ISO感度、シャッター速度は、標準露出になるように、明るさに応じて自動設定されます。

**1** **モードダイヤルを〈Av〉にする**

**2** **ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈🎥〉にする**




絞り数値

**3** **絞り数値を設定する**

- 液晶モニターを見ながら〈⚙〉を回します。

**4** **ピントを合わせて撮影する**

- 『自動露出撮影』の手順3、4と同じです(p.334)。

動画撮影中に絞り数値の変更を行うと、絞りの駆動による露出変化が記録されるため、おすすめできません。

## 〈A+〉モード時のISO感度について

**FHD：フルHD動画／HD：ハイフレームレート動画撮影時**

- ISO100～25600の範囲で自動設定されます。

**4K：4K動画撮影時**

- ISO100～12800の範囲で自動設定されます。

## 〈P〉〈Tv〉〈Av〉〈B〉モード時のISO感度について

**FHD：フルHD動画／HD：ハイフレームレート動画撮影時**

- ISO100～25600の範囲で自動設定されます。
- [**2：ISO感度に関する設定**]の[**動画撮影の範囲**]の[**上限値**]を[**H2（102400）**]に設定すると（p.379）、自動設定範囲の上限がH2（ISO102400相当）まで拡張されます。なお、[**上限値**][**下限値**]による範囲を初期状態（ISO100～25600）から狭めても機能しません。
- [**3：高輝度側・階調優先**]を[**する**]に設定したときは（p.206）、ISO感度の自動設定範囲がISO200～25600になります。

**4K：4K動画撮影時**

- ISO100～12800の範囲で自動設定されます。
- [**2：ISO 感度に関する設定**]の[**4K の範囲**]の[**上限値**]を[**H2（102400）**]に設定すると（p.379）、自動設定範囲の上限がH2（ISO102400相当）まで拡張されます。なお、[**上限値**][**下限値**]による範囲を初期状態（ISO100～12800）から狭めても機能しません。
- [**3：高輝度側・階調優先**]を[**する**]に設定したときは（p.206）、ISO感度の自動設定範囲がISO200～12800になります。

- 動画撮影時は、L（ISO50相当）のISO感度拡張はできません。
- 静止画撮影から動画撮影に切り換えたときは、動画撮影を行う前にISO感度の設定を再確認してください。

**〈A+〉〈P〉〈Tv〉〈Av〉〈B〉モード共通事項**

- 〈A+〉モードのときは、画面の左上にカメラが判別したシーンアイコンが表示されます（p.339）。
- 〈✱〉ボタンを押すと、露出を固定（AEロック）することができます（〈A+〉モードを除く／p.259）。動画撮影中にAEロックを行ったときは、〈SET〉ボタンを押すと、AEロックを解除することができます（〈SET〉ボタンを押すまで保持されます）。
- 〈LOCK▶〉スイッチを左側にして〈◎〉を回すと、±3段までの範囲で露出補正を行うことができます（〈A+〉モードを除く）。
- 〈A+〉〈**P**〉〈**B**〉モードのときは、動画の画像情報（Exif情報）にISO感度、シャッター速度、絞り数値は記録されません。
- このカメラは、〈A+〉〈**P**〉〈**Tv**〉〈**Av**〉〈**B**〉モードで動画を撮影する際、暗い場所でLEDライトが自動的に点灯する機能に対応しています（ただし344ページの情報表示の画面にLEDライトの点灯を表すマークは表示されません）。詳しくは、LEDライトを内蔵したEXスピードライトの使用説明書を参照してください。

## シーン判別のアイコン一覧

〈A+〉モードで動画を撮影するときは、カメラが判別したシーンアイコンが表示され、そのシーンに応じた撮影が行われます。

| 被写体 / 背景 | 人物*1 | 人物以外の被写体 | | 背景色 |
|---|---|---|---|---|
| | | 自然や屋外シーン | 近いとき*2 | |
| 明るい | | | | 灰色 |
| 逆光 | | | | |
| 青空を含む | | | | 水色 |
| 逆光 | | | | |
| 夕景 | *3 | | *3 | オレンジ色 |
| スポットライト | | | | 紺色 |
| 暗い | | | | |

*1：AF方式を［+追尾優先AF］に設定しているときのみ表示されます。それ以外のAF方式を設定しているときは、人物を検知しても「人物以外の被写体」のアイコンが表示されます。

*2：距離情報を持っているレンズを使用しているときに表示されます。なお、エクステンションチューブやクローズアップレンズ併用時は、実際のシーンと異なるアイコンが表示されることがあります。

*3：判別可能なシーンから選ばれたアイコンが、適宜表示されます。

シーンや撮影状態によっては、実際のシーンと異なるアイコンが表示されることがあります。

## マニュアル露出撮影

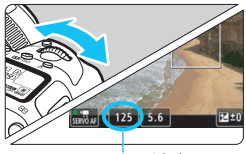
任意にシャッター速度、絞り数値、ISO感度を設定して、動画撮影を行うことができます。動画のマニュアル露出撮影は上級者向けの機能です。

### 1 モードダイヤルを〈M〉にする

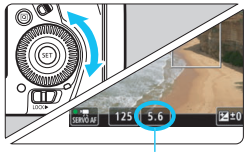
### 2 ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈🎥〉にする

### 3 ISO感度を設定する

- 〈ISO〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターにISO感度の設定画面が表示されます。
- 〈⚙〉を回して設定します。
- ISO感度については、次ページを参照してください。




シャッター速度




絞り数値

### 4 シャッター速度と絞り数値を設定する

- シャッターボタンを半押しして、露出レベル表示を参考に設定します。
- シャッター速度は〈⚙〉、絞り数値は〈◯〉を回して設定します。
- 設定できるシャッター速度は、フレームレートにより異なります。343ページを参照してください。

### 5 ピントを合わせて撮影する

- 『自動露出撮影』の手順3、4と同じです(p.334)。

## 〈M〉モード時のISO感度について

**FHD：フルHD動画／HD：ハイフレームレート動画撮影時**

- ［AUTO］（A）のときは、ISO100～25600の範囲で自動設定されます。なお、［**2：ISO感度に関する設定**］の［**動画撮影の範囲**］の［**上限値**］を［**H2 (102400)**］に設定すると（p.379）、自動設定範囲の上限がH2（ISO102400相当）まで拡張されます。なお、［**上限値**］［**下限値**］による範囲を初期状態（ISO100～25600）から狭めても機能しません。
- 手動設定のときは、ISO100～25600の範囲で、1/3段ステップで設定することができます。なお、［**動画撮影の範囲**］の［**上限値**］を［**H2 (102400)**］に設定すると、手動設定範囲の上限がH2（ISO102400相当）まで拡張されます。また、［**上限値**］［**下限値**］による範囲を初期状態（ISO100～25600）から狭めることもできます。
- ［**3：高輝度側・階調優先**］を［**する**］に設定したときは（p.206）、ISO感度の自動/手動設定範囲がISO200～25600になります。

**4K：4K動画撮影時**

- ［AUTO］（A）のときは、ISO100～12800の範囲で自動設定されます。なお、［**2：ISO感度に関する設定**］の［**4K の範囲**］の［**上限値**］を［**H2 (102400)**］に設定すると（p.379）、自動設定範囲の上限がH2（ISO102400相当）まで拡張されます。なお、［**上限値**］［**下限値**］による範囲を初期状態（ISO100～12800）から狭めても機能しません。
- 手動設定のときは、ISO100～12800の範囲で、1/3段ステップで設定することができます。なお、［**4K の範囲**］の［**上限値**］を［**H2 (102400)**］に設定すると、手動設定範囲の上限がH2（ISO102400相当）まで拡張されます。また、［**上限値**］［**下限値**］による範囲を初期状態（ISO100～12800）から狭めることもできます。
- ［**3：高輝度側・階調優先**］を［**する**］に設定したときは（p.206）、ISO感度の自動/手動設定範囲がISO200～12800になります。

- 動画撮影時は、L（ISO50相当）のISO感度拡張はできません。
- 静止画撮影から動画撮影に切り換えたときは、動画撮影を行う前にISO感度の設定を再確認してください。
- 動画撮影中にシャッター速度や絞り数値の変更を行うと、露出変化が記録されたり、高ISO感度でノイズが記録されることがあるため、おすすめできません。
- 動きのある被写体を動画撮影するときは、1/25～1/125秒程度のシャッター速度をおすすめします。シャッター速度を速くするほど、被写体の動きが滑らかに再現されなくなります。
- ハイフレームレート動画撮影時は、シャッター速度の下限が、NTSC設定時：1/125秒／PAL設定時：1/100秒になります。
- 蛍光灯やLED照明などの光源下で動画撮影を行っているときに、シャッター速度を変更すると、画面のちらつきが記録されることがあります。

- 手順4でシャッター速度、絞り数値が設定できないときは、〈LOCK▶〉スイッチを左側にしてから〈 〉または〈 〉を回します。
- [ **3：操作ボタンカスタマイズ**]で[ **：露出補正（押しながら）**]［ **：露出補正（押しながら）**]に設定すると（p.506）、ISOオート設定時に露出補正を行うことができます。
- ISOオート設定時に〈 〉ボタンを押すと、ISO感度を固定（ロック）することができます。動画撮影中にISO感度を固定したときは、〈 〉ボタンを押すと、ISO感度の固定を解除することができます（〈 〉ボタンを押すまで保持されます）。
- 〈 〉ボタンを押して構図を変えると、〈 〉ボタンを押したときとの露出差を露出レベル表示（p.344）で確認することができます。
- 〈**M**〉モード時に撮影準備状態で〈**INFO.**〉ボタンを押すと、ヒストグラムを表示することができます。

## 設定できるシャッター速度について

〈**Tv**〉シャッター優先AE、〈**M**〉マニュアル露出撮影時に設定できるシャッター速度は、設定した動画記録画質のフレームレートによって異なります。

（秒）

| フレームレート | シャッター速度 | | |
|---|---|---|---|
| | 通常動画撮影 | HDR動画撮影 | |
| | | 〈**P**〉〈**Av**〉〈**M**〉〈**B**〉モード | 〈**Tv**〉モード |
| 119.9P | 1/4000～1/125 | – | |
| 100.0P | 1/4000～1/100 | | |
| 59.94P | 1/4000～1/60 | | |
| 50.00P | 1/4000～1/50 | | |
| 29.97P | 1/4000～1/30 | 1/1000～1/60* | 1/4000～1/60 |
| 25.00P | 1/4000～1/25 | 1/1000～1/50 | 1/4000～1/50 |
| 24.00P | | – | |
| 23.98P | | | |

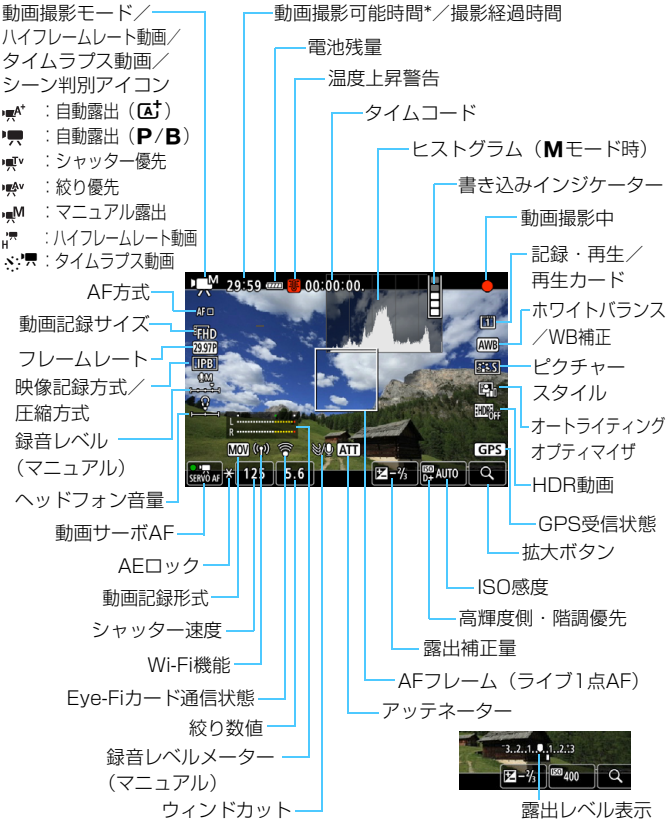
* 〈**P**〉〈**Av**〉〈**B**〉: 1/1000～1/100

## 静止画撮影について

**動画撮影時に静止画は撮影できません。**静止画を撮影するときは、動画撮影を終了して、ファインダー撮影、またはライブビュー撮影を行ってください。

## 情報表示について

〈**INFO.**〉ボタンを押すと、押すたびに情報表示内容が切り換わります。




* 1回の撮影可能時間です。

● 設定に応じた部分のみ表示されます。

- [AF方式]が[ライブ多点AF][ライブ1点AF]のときに〈INFO.〉ボタンを押すと、水準器を表示することができます（p.82）。
- 〈INFO.〉ボタンを押したときに表示する内容を設定することができます（p.305）。
- [AF方式]が[+追尾優先AF]のときと、カメラとテレビがHDMIケーブルで接続されているときは、水準器は表示されません。
- 動画撮影中に水準器、グリッド、ヒストグラムを表示することはできません（表示した状態で動画撮影を開始すると、表示が消えます）。
- 「動画撮影可能時間」は、撮影が始まると「撮影経過時間」に変わります。

## 動画撮影時共通注意事項

- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- 細かいパターンの被写体を撮影すると、モアレや偽色が発生することがあります。
- [**1：記録機能とカード・フォルダ選択**]の[**記録機能**]を[**同一書き込み**]に設定しても（p.167）、動画をCFカード[1]とSDカード[2]に同時記録することはできません。なお、[**振り分け**][**同一書き込み**]に設定されているときは、[**再生**]に設定されているカードに動画が記録されます。
- 〈AWB〉〈AWB W〉の設定で動画撮影中に、ISO感度や絞り数値が変わると、ホワイトバランスが変化することがあります。
- 蛍光灯やLED照明などの光源下で動画を撮影すると、画面にちらつきが発生することがあります。
- USMレンズを使用して暗い場所で動画撮影中にAFを行うと、動画に横縞状のノイズが記録されることがあります。なお、電子式フォーカスリングを備えた一部のレンズでは、手動ピント合わせ（MF）でも同様のノイズが記録されることがあります。
- 動画撮影中にズーム操作を行うときは、テスト撮影をおすすめします。ズーム操作を行うと、露出変化やレンズの作動音が記録されたり、ピントがズレることがあります。
- 動画撮影中にAFを行うと、「一時的にピントが大きくぼける」「動画の明るさが変化して記録される」「動画が一瞬停止して記録される」「レンズの作動音が記録される」などの現象が起こることがあります。
- 動画撮影中に〈Q〉ボタンを押しても、拡大表示はできません。
- 内蔵マイク（p.334）を指などでふさがないようにしてください。
- 動画撮影中にHDMIケーブルの接続や取り外しを行うと、動画撮影が終了します。

⚠ 警告
**長時間、身体の同じ箇所に触れたまま使用しないでください。**
熱いと感じなくても、皮膚が赤くなったり、水ぶくれができたりするなど、低温やけどの原因になる恐れがあります。気温の高い場所で使用する場合や、血行の悪い方や皮膚感覚の弱い方などが使用する場合は、三脚などをお使いください。

- **『動画撮影全般の注意事項』は、391～392ページにまとめて記載しています。**
- **必要に応じて331～332ページの『ライブビュー撮影全般の注意事項』もお読みください。**

## 動画撮影時共通事項

- ［📷4］［📷5］タブで動画撮影に関する設定を行うことができます（p.380）（〈A+〉モードは［📷2］［📷3］タブ）。
- 1回撮影するたびに、カードに新たな動画ファイルが作成されます。
- 映像の視野率は、4K/フルHD/HD撮影時：約100%です。
- 〈AF-ON〉ボタンでピントを合わせることもできます。
- ［📷5：**ボタンの機能**］で［AF/🎥］［⊙/🎥］を選ぶと、シャッターボタンの全押しで、動画撮影を開始／終了することができます（p.386）。
- 音声はカメラに内蔵されたマイク（p.334）でモノラル録音されます。
- 外部マイク入力端子（p.29）に、指向性ステレオマイクロホン DM-E1（別売）を接続すると、外部マイクが優先され、ステレオ録音することができます（p.363）。
- ミニプラグ（φ3.5mm）を備えたマイクであれば、ほとんどの外部マイクが使用できます。
- フル充電のバッテリーパック LP-E6Nで動画撮影できる時間は、常温（+23℃）：合計約1時間30分、低温（0℃）：合計約1時間20分です（［📷4：**動画サーボAF：しない**］、FHD 29.97P/25.00P/24.00P/23.98P IPB設定時）。
- 2011年下期以降に発売された、フォーカスプリセット機能を備えた（超）望遠レンズ使用時は、動画撮影時にフォーカスプリセットを行うことができます。

## ファイナルイメージシミュレーションについて

ファイナルイメージシミュレーションは、ピクチャースタイルやホワイトバランスなどの効果を映像で確認できる機能です。

動画撮影時に映像を表示すると、下記に示した機能の設定効果が、自動的に反映されて表示されます。

### 動画撮影時のファイナルイメージシミュレーション機能

- ピクチャースタイル
  * シャープネス（強さ）、コントラスト、色の濃さ、色あいが反映されます。
- ホワイトバランス
- ホワイトバランス補正
- 露出
- 被写界深度（タイムラプス動画撮影時を除く）
- オートライティングオプティマイザ
- 周辺光量補正
- 色収差補正
- 高輝度側・階調優先
- HDR動画

# 撮影機能の設定

## WB／ISO／設定

液晶モニターに映像が表示された状態で〈WB･◉〉／〈ISO〉／〈✎〉ボタンを押すと、液晶モニターに設定画面が表示され、〈⚙〉または〈◎〉で撮影機能の設定を行うことができます。

- マニュアル露出撮影時（p.340）に〈ISO〉ボタンを押すと、ISO感度を設定することができます。
- 〈WB･◉〉ボタンを押したあと〈**INFO.**〉ボタンを押すと、WB補正の設定を行うことができます。
- AF動作、ドライブモード、測光モード、調光補正、HDRモード、多重露出は設定できません。

## Q クイック設定

〈**P**〉〈**Tv**〉〈**Av**〉〈**M**〉〈**B**〉モードのときは、**AF方式**／**動画記録サイズ**／録音レベル（マニュアル設定時のみ）／**音量**（ヘッドフォン）／**カード選択**／ホワイトバランス／ピクチャースタイル／オートライティングオプティマイザ／**HDR動画撮影**の設定を行うことができます。

**〈A+〉モードのときは太字の項目のみ**設定できます。

**1** **〈Q〉ボタンを押す**（⏱10）

➡ 設定できる項目が表示されます。

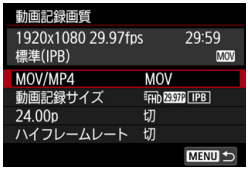
**2** **機能を選んで設定する**

- 〈☆〉で機能を選びます。
- ➡ 選んだ機能の設定内容が、画面に表示されます。
- 〈⚙〉または〈◎〉を回して設定します。
- WB補正の設定、ピクチャースタイルの詳細設定を行うときは、〈**INFO.**〉ボタンを押します。
- オートホワイトバランスの設定を行うときは、［AWB］を選んだ状態で〈SET〉を押します。
- 〈SET〉または〈Q〉ボタンを押すと動画撮影に戻ります。

- ［📷4：**動画記録画質**］の［**ハイフレームレート**］が［**入**］に設定されているときは、録音レベルの項目は表示されません。また、動画記録サイズの設定はできません。
- ［📷5：**タイムラプス動画**］［**する**］設定時に〈Q〉ボタンを押したときは、録音レベルの項目は表示されません。

動画撮影中に〈Q〉ボタンを押したときは、録音レベル（マニュアル設定時のみ）、音量（ヘッドフォン）の設定を行うことができます。

# MENU 動画記録画質の設定



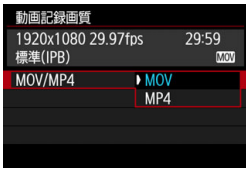

［**4：動画記録画質**］で、動画記録形式、動画記録サイズ（画像サイズ、フレームレート、映像記録方式／圧縮方式）などを設定することができます（〈A+〉モードは［**2**］タブ）。

なお、［**動画記録サイズ**］の画面に表示されるフレームレートは、［**3：ビデオ方式**］の設定（p.549）により自動的に切り換わります。

**動画をカードに記録するときに必要なカードの書き込み／読み取り速度（要求カード性能）は、動画記録画質により異なります。動画撮影を行う前に356ページを参照して、要求カード性能を確認してください。**

## MOV/MP4

動画の記録形式を選ぶことができます。




**MOV MOV**

MOV形式の動画ファイルとして記録されます（拡張子：「.MOV」）。パソコンなどでの編集などに適しています。

**MP4 MP4**

MP4形式の動画ファイルとして記録されます（拡張子：「.MP4」）。MOV形式よりも再生互換性が高いファイル形式です。

［**MP4**］設定時は、［**ハイフレームレート**］は設定できません。

## 動画記録サイズ

動画の画像サイズ、フレームレート、圧縮方式を選ぶことができます。

● **画像サイズ**

**4K 4096×2160**

4K画質で記録します。画面の横縦比は約17：9です。なお、4K 29.97P／25.00P／23.98P MJPG動画を撮影するときは、UDMA7に対応した高速タイプのCFカードを使用してください（p.356）。

**FHD 1920×1080**

フルハイビジョン（Full HD）画質で記録します。画面の横縦比は16：9です。

**HD 1280×720**

ハイフレームレート動画撮影時は（p.358）、ハイビジョン（HD）画質で記録されます。画面の横縦比は16：9です。

● **フレームレート**（fps：frame per second）

**119.9P 119.9fps／59.94P 59.94fps／29.97P 29.97fps**

テレビの映像方式が「NTSC」地域（北米、日本、韓国、メキシコなど）のときに設定します。119.9Pについては、358ページを参照してください。

**100.0P 100.0fps／50.00P 50.00fps／25.00P 25.00fps**

テレビの映像方式が「PAL」地域（ヨーロッパ、ロシア、中国、オーストラリアなど）のときに設定します。100.0Pについては、358ページを参照してください。

**23.98P 23.98fps／24.00P 24.00fps**

主に映画関連で使用します。24.00Pについては、357ページを参照してください。

23.98P（23.98fps）は、[3：ビデオ方式]を[NTSC]に設定したときに選択できます。

## ● 4K動画撮影について

- 4K動画を撮影するには高性能なカードが必要です。詳しくは、356ページの『動画が記録できるカードについて』を参照してください。
- 4K動画撮影時やハイフレームレート動画撮影時は、処理負荷が高いため、通常の動画撮影時に比べカメラ内部の温度が早く上昇したり、より温度が高くなることがあります。動画撮影時に赤い[!]が表示されたときは、カードが熱くなっていることがあるため、動画撮影を休止して、しばらく経ってからカードを取り出してください（すぐにカードを取り出さないでください）。
- 4K画質で撮影した動画から任意のフレームを選んで、約880万画素（4096×2160）のJPEG画像（静止画）としてカードに保存することができます（p.427）。

カードの性能を発揮させるため、動画撮影を行う前にカメラでカードを初期化することをおすすめします（p.73）。

## ● 撮影範囲について

撮像素子の以下の範囲を使って4K動画、フルHD/HD動画の撮影が行われます。

- 4K動画撮影時は、[📷3：**高感度撮影時のノイズ低減**]は機能しません。そのため撮影条件によっては、ノイズが多くなることがあります。
- [🎥3：**ビデオ方式**]の設定を変更したときは、動画記録サイズを再設定してください。
- 4K動画、FHD 59.94P／50.00Pで撮影した動画、ハイフレームレート動画は、再生時のデータ処理の負荷が高いため、他の機器で正常に再生できないことがあります。

- 動画記録サイズの画面に表示される項目（フレームレート）は、[🎥3：**ビデオ方式**]の[**NTSC**][**PAL**]の設定に応じて変わります。
- 標準（VGA）画質の動画を撮影することはできません。
- 画像サイズをフルHD/HDから4Kに変更すると、動画撮影範囲が望遠側に変化します。
- 4K動画の撮影範囲は、EOS-1D C、EOS-1D X Mark IIと異なります。
- カラーサンプリングは、4K：YCbCr 4:2:2（8bit）、フルHD/HD：YCbCr 4:2:0（8bit）、カラーマトリックスは、4K：Rec. ITU-R BT.601、フルHD/HD：Rec. ITU-R BT.709で記録されます。

### ● 映像記録方式／圧縮方式

**MJPG MJPG**

動画記録形式が［**MOV**］のときに選択できます。Motion JPEG形式で圧縮して記録されます。フレーム間の圧縮を行わず、1フレーム単位で圧縮して記録するため、圧縮率が低くなります。また、4K画質で画像サイズも大きいため、ファイルサイズが大きくなります。

**ALL-I ALL-I**（編集用／I-only）

動画記録形式が［**MOV**］のときに選択できます。1フレーム単位で圧縮して記録します。IPB（標準）よりもファイルサイズが大きくなりますが、撮影後の編集作業に適しています。

**IPB IPB**（標準）

複数のフレーム単位で効率的に圧縮して記録します。ALL-I（編集用）よりもファイルサイズが小さくなるため、（同じ容量のカードであれば）撮影できる時間が長くなります。

**IPB IPB**（軽量）

動画記録形式が［**MP4**］のときに選択できます。IPB（標準）よりもビットレートを低く抑えて記録するため、IPB（標準）よりもファイルサイズが小さく、再生互換性が高くなります。（同じ容量のカードであれば）4つの方式の中で撮影できる時間が最も長くなります。

## 動画が記録できるカードについて

動画を撮影するときは、書き込み／読み取り速度（要求カード性能）が下表の速度、または規格以上で、大容量のカードを使用してください。なお、事前にテスト撮影を行い、設定した動画記録画質（p.351）で正しく記録できるかどうか確認してください。

| 動画記録画質 | | | CFカード | SDカード |
|---|---|---|---|---|
| 4K | 29.97P 25.00P 24.00P 23.98P | MJPG | UDMA7<br>100MB/秒以上 | UHS-I<br>90MB/秒以上 |
| FHD | 59.94P 50.00P | ALL-I | UDMA7<br>60MB/秒以上 | UHS-Iスピード<br>クラス3以上 |
| | 59.94P 50.00P | IPB | 30MB/秒以上 | SDスピード<br>クラス10以上 |
| | 29.97P 25.00P 24.00P 23.98P | ALL-I | 30MB/秒以上 | UHS-Iスピード<br>クラス3以上 |
| | 29.97P 25.00P 24.00P 23.98P<br>HDR動画 | IPB | 10MB/秒以上 | SDスピード<br>クラス6以上 |
| | 29.97P 25.00P | IPB | 10MB/秒以上 | SDスピード<br>クラス4以上 |
| HD | 119.9P 100.0P | ALL-I | UDMA7<br>60MB/秒以上 | UHS-Iスピード<br>クラス3以上 |

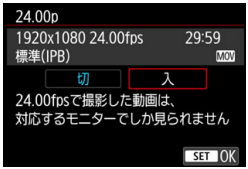
- 4K動画撮影を行うときは、撮影前にカードを初期化してください（p.73）。
- 動画撮影時に書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画が正常に記録できないことがあります。また、動画再生時に読み取り速度が遅いカードを使用すると、動画が正常に再生できないことがあります。
- ビットレートについては580ページを参照してください。動画撮影を行うときは、実際の書き込み速度がビットレートを十分に上回る、高性能なカードを使用してください。
- 正常に動画が記録できないときは、カードを初期化してから使用してください。なお、カードを初期化しても問題が改善しないときは、カードメーカーのホームページなどもあわせて確認してください。

このカメラはSDHC/SDXCカードの高速転送規格であるUHS-IIには対応していません（UHS-Iに対応）。UHS-II対応のカードを使用したときは、UHS-Iによる高速転送ができないことがあります（カード側の仕様による）。

- カードの性能を発揮させるため、動画撮影を行う前にカメラでカードを初期化することをおすすめします（p.73）。
- カードの書き込み／読み取り速度については、カードメーカーのホームページなどで確認してください。

## 24.00p

フレームレートが24.00fpsの動画を撮影するときに設定します。




［入］に設定したときは、4K 24.00P MJPG、FHD 24.00P ALL-I、FHD 24.00P IPB から動画記録画質を選ぶことができます。

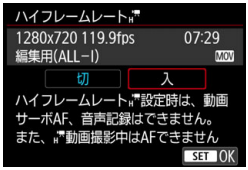
［**動画記録サイズ**］の設定を行ったあとで、［24.00p］を［入］にしたときは、もう一度［**動画記録サイズ**］の設定を行ってください。

### ［24.00p：入］設定時の注意事項

- ［MP4］設定時は、［**動画記録サイズ**］の設定はできません。FHD 24.00P IPB に設定されます。
- ［**ハイフレームレート**］（p.358）は設定できません。
- ［**3：ビデオ方式**］は設定できません。
- ［**4：HDMI出力フレームレート**］（p.390）は設定できません。1080/24.00pで映像がHDMI出力されます。なお、1080/24.00pの信号に対応していないテレビなどにHDMI接続したときは、映像が表示されないことがあります。
- 設定を［**切**］に戻すと、［**4:HDMI出力フレームレート**］の設定が［**自動**］になります。
- 設定を［**切**］に戻しても元の動画記録サイズの設定には戻りません。再度、動画記録サイズの設定を行ってください。

## ハイフレームレート

ハイビジョン（HD）画質で119.9fps/100.0fpsの高フレームレートの動画を撮影することができます。スローモーション再生用の映像素材の撮影に適しています。なお、1回に撮影できる時間は最長7分29秒です。




HD 119.9P ALL-I MOV、または HD 100.0P ALL-I MOV で記録されます。

ハイフレームレート動画撮影時に動画サーボAFは機能しません。また、ハイフレームレート動画撮影中は、AFによるピント合わせはできません。

ハイフレームレート動画に音声は記録されません。

なお、動画撮影時にタイムコードを表示しているときは、実時間1秒で4秒分カウントアップします。

なお、ハイフレームレート動画は、29.97fps/25.00fpsの動画ファイルとして記録されるため、再生時は1/4倍速のスローモーションで再生されます。

**［ハイフレームレート：入］設定時の注意事項**

- ［5：タイムコード］の［カウントアップ］を［フリーラン］に設定したときは（p.365）、タイムコードは記録されません。
- ［MOV/MP4］［動画記録サイズ］［24.00p］の設定はできません。
- 設定を［切］に戻しても元の動画記録サイズの設定には戻りません。再度、動画記録サイズの設定を行ってください。
- 蛍光灯やLED照明などの光源下でハイフレームレート動画を撮影すると、画面にちらつきが発生することがあります。
- ハイフレーム動画撮影を開始したときや終了したときは、映像が一時的に更新されなくなります（一瞬フレームストップ）。外部記録機器でHDMI出力映像を記録するときは注意してください。
- ハイフレームレート動画撮影時に液晶モニターに表示される映像のフレームレートは、撮影した動画のフレームレートと異なります。
- ヘッドフォンは使用できません（音声は聞こえません）。

## 動画の総記録時間と1分間あたりのファイルサイズの目安

●MOV形式設定時　（約）

| 動画記録画質 | | カードごとの総記録可能時間 | | | ファイルサイズ |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 8GB | 32GB | 128GB | |
| 4K ：4K | | | | | |
| 29.97P 25.00P 24.00P 23.98P | MJPG | 2分 | 8分 | 34分 | 3587MB/分 |
| FHD ：フルHD | | | | | |
| 59.94P 50.00P | ALL-I | 5分 | 23分 | 94分 | 1298MB/分 |
| 59.94P 50.00P | IPB | 17分 | 69分 | 277分 | 440MB/分 |
| 29.97P 25.00P 24.00P 23.98P | ALL-I | 11分 | 46分 | 186分 | 654MB/分 |
| 29.97P 25.00P 24.00P 23.98P | IPB | 33分 | 135分 | 541分 | 225MB/分 |
| HDR動画撮影 | | 33分 | 135分 | 541分 | 225MB/分 |
| HD ：HD | | | | | |
| 119.9P 100.0P | ALL-I | 6分 | 26分 | 105分 | 1155MB/分 |

●MP4形式設定時　（約）

| 動画記録画質 | | カードごとの総記録可能時間 | | | ファイルサイズ |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 8GB | 32GB | 128GB | |
| FHD ：フルHD | | | | | |
| 59.94P 50.00P | IPB | 17分 | 70分 | 283分 | 431MB/分 |
| 29.97P 25.00P 24.00P 23.98P | IPB | 35分 | 140分 | 563分 | 216MB/分 |
| HDR動画撮影 | | 35分 | 140分 | 563分 | 216MB/分 |
| 29.97P 25.00P | IPB | 86分 | 347分 | 1391分 | 87MB/分 |

カメラ内部の温度上昇により、表に示した時間よりも早く動画撮影が終了することがあります（p.391）。

● **ファイルサイズが4GBを超える動画撮影について**

1回の撮影でファイルサイズが4GBを超える場合でも、一時中断することなく、動画撮影を続けることができます。

● **このカメラで初期化した「128GBまでのCFカード」「SD/SDHCカード」使用時**

容量が128GBまでのCFカード、またはSD/SDHCカードをこのカメラで初期化すると、FAT32形式でフォーマットされます。

FAT32形式でフォーマットされたカードを使用したときは、動画撮影を開始してファイルサイズが4GBを超えると、新しい動画ファイルが自動的に作成されます。

なお、再生時は動画ファイルごとの再生になります。動画ファイルを自動で連続再生することはできません。再生が終わったら、続きのファイルを選んで再生してください。

● **このカメラで初期化した「128GBを超えるCFカード」「SDXCカード」使用時**

容量が128GBを超えるCFカード、またはSDXCカードをこのカメラで初期化すると、exFAT形式でフォーマットされます。

exFAT形式でフォーマットされたカードを使用したときは、1回の撮影でファイルサイズが4GBを超える場合でも、(ファイルが分割されず)1つの動画ファイルに記録されます(4GBを超える動画ファイルが作成されます)。

- 4GBを超える動画ファイルをパソコンに取り込むときは、EOS Utilityを使用するか（p.596）、カードリーダーを使用してください（p.597）。パソコン（OS）の機能を使って画像の取り込みを行うと、4GBを超える動画ファイルは取り込まれません。
- 1回の撮影でファイルサイズが4GBを超え、複数の動画ファイルが作成されたときに、その一部の動画ファイルを消去すると、EOS MOVIE Utility（p.599）で1つの動画として連続再生したり、結合保存することができなくなります。

EOS MOVIE Utilityを使用すると、4GBごとに分割されたMOV形式の動画ファイルを自動的に結合して、1つの動画ファイルとして保存することができます。

## ● 撮影時間の制限について

### ● ハイフレームレート以外の動画撮影時

1回に撮影できる時間は最長29分59秒です。29分59秒に達した時点で動画撮影が自動的に終了します。〈START/STOP〉ボタンを押すと、動画撮影を再開することができます（新規ファイルとして記録されます）。

### ● ハイフレームレート動画撮影時

1回に撮影できる時間は最長7分29秒です。7分29秒に達した時点で動画撮影が自動的に終了します。〈START/STOP〉ボタンを押すと、ハイフレームレート動画撮影を再開することができます（新規ファイルとして記録されます）。

# MENU 録音の設定

内蔵のモノラルマイク、または外部ステレオマイクを使用して、動画撮影を行うことができます。また、録音レベルを任意に調整することもできます。

［📷4：**録音**］で録音に関する設定を行うことができます（〈A+〉モードは［📷2］タブ）。

## 録音／録音レベル

**オート**　：録音レベルが自動調整されます。音の大きさに応じて、オートレベルコントロール機能が自動的に働きます。

**マニュアル**：上級者向けの機能です。録音レベルを64段階で任意に調整することができます。
［**録音レベル**］を選び、レベルメーターを見ながら〈◯〉を回すと、録音レベルを調整することができます。音量が大きいときに、レベルメーターの「12」（−12dB）の右側が、時々点灯するように、ピークホールド機能を参考にして調整します。「0」を超えると音が割れます。

**しない**　：録音は行われません。また、HDMI 出力時（p.387）に音声は出力されません。

ハイフレームレート動画撮影時は、音声は記録されません。また、［📷4：**録音**］の設定はできません。

## ウィンドカット／アッテネーター

**ウィンドカット**：［入］に設定すると、屋外で撮影する際、風の影響により発生する「ボコボコ」という音を低減することができます。内蔵マイク使用時のみ機能します。ただし、［入］に設定すると、低い音の一部も低減されるため、風の影響を受けない場所では［切］に設定することをおすすめします。［入］のときよりも自然な音で録音されます。

**アッテネーター**：音割れを抑制する機能です。［録音］を［オート］または［マニュアル］に設定して撮影しても、大音響の環境では音割れすることがあります。そのときは［入］に設定することをおすすめします。

---

● **マイクについて**

通常は内蔵マイクでモノラル録音されます。

外部マイク入力端子（p.29）に、ミニプラグ（φ3.5mm）を備えた外部ステレオマイクを接続すると、外部マイクが優先され、ステレオ録音することができます。指向性ステレオマイクロホン DM-E1（別売）の使用をおすすめします。

● **ヘッドフォンについて**

ヘッドフォン端子（p.29）に、ミニプラグ（φ3.5mm）を備えた市販のヘッドフォンを接続すると、動画撮影時の音声を聴くことができます。外部ステレオマイクを使用したときは、ステレオで聴くことができます。ヘッドフォンの音量を調整するときは、〈Q〉ボタンを押して〈🎧〉を選び、〈◌〉を回して調整します（p.350）。

なお、動画再生時もヘッドフォンを使用することができます。

- 外部マイク使用時にWi-Fi（無線通信）機能を使用すると、ノイズが録音されることがあります。録音中は無線通信機能を使用しないことをおすすめします。
- カメラに外部マイクやヘッドフォンを接続するときは、プラグが根元までしっかりと差し込まれているか確認してください。
- カメラに内蔵されたマイクにより、撮影中の操作音やカメラの作動音なども一緒に録音されます。なお、指向性ステレオマイクロホン DM-E1（別売）を使用すると、これらの音を録音しないように（低減）することができます。
- 外部マイク入力端子に、外部マイク以外は接続しないでください。
- ヘッドフォン使用時の音声は、ノイズ低減処理が行われていません。そのため、実際に動画に記録される音声とは異なります。
- ヘッドフォンで音声を聴きながら、[**録音**]の設定を切り換えないでください。突然大きな音が流れて耳を痛める恐れがあります。

- 〈**CA+**〉モードのときは［**録音**］：［**する**］［**しない**］になります。なお、［**する**］に設定したときは、録音レベルが自動調整されますが（［**オート**］と同じ）、ウィンドカットは行われません。
- HDMIケーブルでカメラとテレビを接続したときは、音声も出力されます（［**録音：しない**］設定時を除く）。
- L/R（左/右）の音量バランスを調整することはできません。
- サンプリング周波数48kHz／16bitで記録されます。

# MENU タイムコードの設定

タイムコードとは、動画撮影時に映像に同期して自動的に記録される時間軸のことです。「時／分／秒／フレーム」の単位で常時記録されます。主に撮影した動画を編集するときに利用します。

［**5：タイムコード**］でタイムコードの設定を行うことができます（〈A+〉モードは［3］タブ）。

## カウントアップ

**レックラン**：動画撮影しているときだけ、タイムコードのカウントが進みます。撮影した動画ファイルの順でタイムコードが連続します。

**フリーラン**：動画撮影をしていないときも、タイムコードのカウントが進みます。

## スタート時間設定

タイムコードの起点（スタート時間）を設定することができます。

**手動入力設定**：「時：分：秒：フレーム」を任意に設定することができます。

**リセット**：［**手動入力設定**］［**カメラ時間に設定**］で設定した時間がリセットされ、「00:00:00.」または「00:00:00:」になります（p.368）。

**カメラ時間に設定**：カメラに設定されている「時：分：秒」に設定されます。「フレーム」は「00」に設定されます。

- ［**フリーラン**］の設定でハイフレームレート動画撮影を行ったときは、タイムコードは付加されません。
- ［**フリーラン**］設定時に時刻/エリア/サマータイムの設定を変更すると（p.51）、タイムコードに影響が生じます。
- MP4形式で撮影した動画をこのカメラ以外で再生したときは、タイムコードが適切に表示されないことがあります。

## 動画記録カウント

動画撮影画面に表示する内容を選ぶことができます。

**記録時間**　：動画撮影時に撮影開始からの経過時間が表示されます。
**タイムコード**：動画撮影時にタイムコードが表示されます。

## 動画再生カウント

動画再生画面に表示する内容を選ぶことができます。

**記録時間**　：動画再生時に撮影時間または再生時間が表示されます。
**タイムコード**：動画再生時にタイムコードが表示されます。

**［タイムコード］設定時**

動画撮影時

動画再生時

- タイムコードは、［**動画記録カウント**］の設定に関わらず、動画ファイルに常時記録されます（ハイフレームレート動画＋［**フリーラン**］設定時を除く）。
- ［**5：タイムコード**］の［**動画再生カウント**］と［**3：動画再生カウント**］は、設定が連動して切り換わります。
- 動画撮影時、動画再生中は、「フレーム」は表示されません。

## HDMI

● **タイムコード**

HDMI出力時の映像にタイムコードを付加することができます。

**入**：HDMI出力映像にタイムコードが付加されます。［**入**］に設定すると、［**記録コマンド**］が表示されます。

**切**：HDMI出力映像にタイムコードは付加されません。

● **記録コマンド**

HDMI出力した映像を外部記録機器に記録する際に、カメラの動画撮影開始／停止と、外部記録機器の記録を同期させることができます。

**入**：動画撮影開始／停止と外部記録機器の記録が同期します。

**切**：外部記録機器側で記録開始／停止を行います。

- ハイフレームレート動画撮影時に、［**タイムコード**］の［**カウントアップ**］を［**フリーラン**］に設定してHDMI出力を行ったときは、HDMI出力映像にタイムコードは付加されません。
- 使用する外部記録機器が［**タイムコード**］［**記録コマンド**］に対応しているかどうかについては、外部記録機器メーカーに確認してください。
- ［**タイムコード**］を［**切**］に設定していても、外部記録機器側の仕様により、映像にタイムコードが付加されることがあります。HDMI入力時のタイムコードの仕様については、外部記録機器メーカーに確認してください。

## ドロップフレーム

フレームレートの設定が、119.9P（119.9fps）、59.94P（59.94fps）、29.97P（29.97fps）のときに、タイムコードでフレームをカウントすると、実際の時間とタイムコードで差が生じます。[**する**] 設定時はこの差が自動的に補正されます。この機能を「ドロップフレーム」といいます。動画編集などを行う上級者向けの機能です。

**する**　：タイムコードを間引く補正が自動的に行われます（DF：ドロップフレーム）。
**しない**　：補正は行われません（NDF：ノンドロップフレーム）。

なお、タイムコードは次のように表示されます。

する（DF）　：00:00:00.（再生時：00:00:00.00）
しない（NDF）　：00:00:00:（再生時：00:00:00:00）

フレームレートが100.0P（100.0fps）、50.00P（50.00fps）、25.00P（25.00fps）、24.00P（24.00fps）、23.98P（23.98fps）のときは、ドロップフレームは行われません（100.0P / 50.00P / 25.00P / 24.00P / 23.98P 設定時、および［**3：ビデオ方式**］が［**PAL**］に設定されているときは、［**ドロップフレーム**］の項目は表示されません）。

# HDR動画を撮影する

明暗差の大きいシーンで、白とびが緩和された階調の広い（ハイダイナミックレンジな）動画を撮影することができます。

HDR動画は、［4：動画記録画質］の［動画記録サイズ］が FHD 29.97P IPB（NTSC）、または FHD 25.00P IPB（PAL）のときに、**クイック設定画面から設定することができます。**なお、動画記録形式はMOV/MP4のどちらに設定されていても、HDR動画撮影を行うことができます。

## 1 ［動画記録サイズ］を確認する

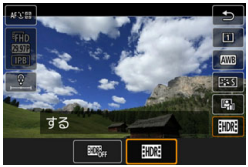
- ［4：動画記録画質］の［動画記録サイズ］が FHD 29.97P IPB、または FHD 25.00P IPB に設定されていることを確認します。

## 2 〈Q〉ボタンを押す（ぢ10）

➡ クイック設定の状態になります。

## 3 ［HDR OFF］を選ぶ

- 〈☆〉を上下に押して、画面の右下に表示された［HDR OFF］（HDR 動画撮影）を選びます。




## 4 ［HDR］（する）を選ぶ

- 〈◎〉を回して［HDR］（する）を選びます。
- 記録できる時間とファイルサイズは、359ページの表を参照してください。

## 5 HDR動画を撮影する

- 通常の動画撮影と同じ方法で撮影します。

- HDR動画撮影時のISO感度の自動/手動設定範囲は、ISO100～25600です。ISO感度拡張はできません。
- シャッター速度については、343ページを参照してください。
- 〈**Tv**〉モードのときは、最低ISO感度がISO400になります。
- ［**3：高輝度側・階調優先**］が［**する**］に設定されているときは、HDR動画撮影の設定はできません。
- HDR動画撮影時にシャッター速度が適切に設定されていても、映像にフリッカーが発生することがあります。
- HDR動画は、複数のフレームを合成して映像を生成するため、映像の一部がゆがむことがあります。手持ち撮影のときは、手ブレにより、この現象が目立つことがあるため、三脚の使用をおすすめします。なお、三脚を使用して撮影しても、コマ送りやスロー再生を行ったときは、通常の再生を行ったときに比べ、残像が目立ったり、ノイズが増えたように見えることがあります。
- ［**5：タイムラプス動画**］が［**する**］に設定されているときは、HDR動画撮影はできません。
- HDR動画撮影の設定を切り換えたときは、映像の色あいや明るさなどが瞬時に大きく変化することがあります。また、映像が一時的に更新されなくなります（一瞬フレームストップ）。外部記録機器でHDMI出力映像を記録するときは注意してください。

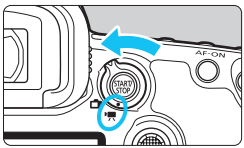
# タイムラプス動画を撮影する

一定間隔で撮影した静止画を自動でつなぎ合わせて動画にすることができます。この機能を使うと、撮影開始から終了までの被写体の変化を、コマ送りのようにして短時間にまとめることができます。景色の変化、植物の成長、星の動きなどの定点観測に効果的です。

タイムラプス動画は、MOV形式で、FHD 29.97P ALL-I（NTSC）、またはFHD 25.00P ALL-I（PAL）で記録されます。なお、フレームレートは、[**3：ビデオ方式**]の設定（p.549）により自動的に切り換わります。

## 1 撮影モードを選ぶ

## 2 ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈🎥〉にする



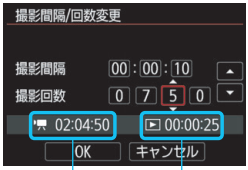

➡ 液晶モニターに映像が表示されます。

## 3 [タイムラプス動画] を選ぶ

- [📷5] タブの [**タイムラプス動画**] を選び、〈(SET)〉を押します（〈A+〉モードは [📷3] タブ）。
- [**動画撮影準備状態にしないと選択できません**] と表示されたときは、〈START/STOP〉ボタンを押してから、もう一度手順3の操作を行ってください。

## 4 [する] を選ぶ

- [**する**] を選び、〈**INFO.**〉ボタンを押します。




撮影所要時間　再生時間

## 5 撮影間隔、撮影回数を設定する

- 画面の下側に表示される［**撮影所要時間**］［**再生時間**］を参考にして設定します。
- 項目（時：分：秒／回数）を選びます。
- 〈(SET)〉を押して〈◆〉の状態にします。
- 数値を設定し〈(SET)〉を押します（〈□〉の状態に戻ります）。

- **撮影間隔**

［00：00：01］～［99：59：59］の範囲で設定することができます。

- **撮影回数**

［0002］～［3600］の範囲で設定することができます。1桁ずつ設定します。3600回に設定したときは、NTSC設定時：約2分、PAL設定時：約2分24秒のタイムラプス動画になります。

## 6 ［OK］を選ぶ

➡ 手順3の画面に戻ります。

## 7 設定内容を確認する

- 手順3の画面で［**タイムラプス動画**］が選ばれた状態で〈(SET)〉を押します。

➡ 設定した内容が表示されます。

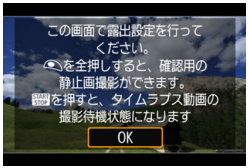
● **撮影所要時間**
　撮影間隔、撮影回数をもとに撮影に必要な時間が表示されます。なお、24時間を超えるときは、「***日」で表示されます。

● **再生時間**
　一定間隔で撮影した静止画から FHD 29.97P ALL-I（NTSC）、または FHD 25.00P ALL-I（PAL）の動画を生成したときに、動画として記録される時間です（＝動画再生に必要な時間）。

● **カードの残量**
　カードの残り容量に対して、タイムラプス動画として記録できる総時間です。

### 8 メニューを終了する

● 〈MENU〉ボタンを押してメニュー画面を消します。




### 9 メッセージを確認する

● メッセージを確認して[OK]を選びます。

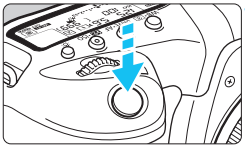
### 10 テスト撮影する

● ライブビュー撮影と同じように、露出や撮影機能の設定を行い、シャッターボタンを半押ししてピントを合わせます。
● シャッターボタンを全押しすると、テスト撮影が行われ、カードに画像が記録されます。
● 撮影結果を確認し、問題がなければ次の手順に進みます。
● もう一度テスト撮影するときは、この手順を繰り返します。

## 11 〈START/STOP〉ボタンを押す

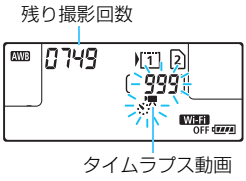
➡ タイムラプス動画の撮影準備状態になります。

- 手順9に戻る時は、もう一度〈START/STOP〉ボタンを押します。



## 12 タイムラプス動画を撮影する

- シャッターボタンを半押ししてピントと露出を確認します。
- シャッターボタンを全押しすると、タイムラプス動画撮影が始まります。
- タイムラプス動画撮影中はAFは行われません。露出は1枚目と同じ設定で撮影されます。
- タイムラプス動画撮影中は、液晶モニターには何も表示されません。表示パネルに〈タイムラプス動画〉が点滅します。
- 電子シャッターによる撮影のため、タイムラプス動画撮影中は、ミラーやシャッターの作動音はしません。
- 設定した回数の撮影が終わると、タイムラプス動画の撮影が終了し、自動的に解除されます。



- 三脚の使用をおすすめします。
- 事前にテスト撮影することをおすすめします。
- [**4：動画記録画質**]の設定に関係なく、FHD 29.97P ALL-I（NTSC）、または FHD 25.00P ALL-I（PAL）で記録されます。
- タイムラプス動画撮影を途中で中止するときは、シャッターボタンを全押しするか、〈START/STOP〉ボタンを押します（設定が［**しない**］になります）。そのときは、中止したときまでのタイムラプス動画がカードに記録されます。
- 撮影したタイムラプス動画は、通常の動画と同じようにこのカメラで再生できます。
- 撮影所要時間が24時間超～48時間以下のときは2日と表示されます。3日以上のときも同じように24時間単位の基準で表示されます。
- タイムラプス動画の「再生時間」が1秒未満でも動画ファイルが生成されます。そのとき［**再生時間**］は「00：00：00」と表示されます。
- 撮影時間が長くなるときは、家庭用電源アクセサリー（別売／ p.530）の使用をおすすめします。
- 〈A+〉モードのときは、画面の左上にカメラが判別したシーンアイコンが表示されます（p.303）。

- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- ［**する**］に設定されているときは、［**4：動画記録画質**］［**3：ビデオ方式**］などの設定はできません。
- インターフェースケーブルでパソコンと接続しているときや、HDMIケーブルを接続しているときは、［**する**］を選ぶことはできません。
- 〈**P**〉〈**Tv**〉〈**Av**〉〈**B**〉モード、および〈**M**〉モード+ISOオート設定時は、最高ISO感度がISO12800になります。
- バルブ撮影はできません。撮影モードが〈**B**〉のときは、〈**P**〉モード設定時と同じ動作になります。
- 動画サーボAFは機能しません。
- シャッター速度が1/30秒以下のときは、映像の露出が適切に表示されない（実際の撮影結果と異なる）ことがあります。
- タイムラプス動画撮影中は、レンズのズーム操作を行わないでください。ピントがぼけたり、露出が変化したり、レンズ光学補正が適切に行われないことがあります。
- フリッカー光源下でタイムラプス動画撮影を行うと、画面に強いちらつきが発生したり、横縞（ノイズ）や露出ムラが記録されることがあります。
- タイムラプス撮影時に表示される映像と、実際の撮影結果は異なることがあります（フリッカーによるちらつきや被写界深度など）。
- タイムラプス動画撮影中にカメラを左右に動かしたり（パンニング）、動きのある被写体を撮影すると、像が強くゆがんで写ることがあります。
- タイムラプス動画撮影中は、オートパワーオフは機能しません。また、撮影機能やメニュー機能の設定、画像再生などの操作はできません。
- タイムラプス動画に音声やタイムコードは記録されません。
- タイムラプス動画撮影中は、ドライブモードの設定に関係なく、1枚撮影の設定で撮影が行われます。
- 撮影機能の設定は、1枚目と同じ設定で2枚目以降も撮影されます。
- 長秒時露光など、シャッター速度が撮影間隔より長く設定されているときは、設定した間隔で撮影できません。また、シャッター速度が撮影間隔とほぼ同じ（近い）ときも、撮影が行われないことがあります。
- 次の撮影が行われるタイミングで撮影できないときは、その回の撮影がキャンセルされます。そのため、生成される動画の記録時間が短くなることがあります。

- 撮影機能の設定やカードの性能などにより、カードに記録する時間が撮影間隔よりも長いときは、設定した間隔で撮影できないことがあります。
- 撮影画像は静止画としては記録されません。1枚だけ撮影したあと、撮影を中止しても動画ファイルとして記録されます。
- 設定した撮影回数でカードの容量が不足するときは、[**再生時間**]が赤く表示されます。そのまま撮影することはできますが、カードの残量がなくなった時点で撮影が終了します。
- カメラとパソコンを付属のインターフェースケーブルで接続して、EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使用するときは、[**5：タイムラプス動画**]を[**しない**]に設定してください。[**する**]に設定されているときは、パソコンと通信できません。
- タイムラプス動画撮影中は、レンズの手ブレ補正機能は作動しません。
- 電源スイッチ〈**OFF**〉、ライブビュー撮影／動画撮影スイッチ操作などが行われたときは、タイムラプス動画撮影が終了し、設定が[**しない**]になります。
- ストロボを使用しても発光しません。
- 次の操作を行うと、タイムラプス動画の撮影待機状態が解除され、設定が[**しない**]になります。
  - [**3：ダストデリートデータ取得**][**3：センサークリーニング**][**5：カメラ設定初期化**][**5：ファームウェア**]を選んだとき
  - 撮影モード〈**C1**〉〈**C2**〉〈**C3**〉を選んだとき
- タイムラプス動画撮影が終了すると、設定が自動解除され、通常の動画撮影に戻ります。タイムラプス動画撮影時に遅いシャッター速度に設定していたときは、設定が自動解除された際に、シャッター速度が（通常の動画撮影で設定可能な速度に）自動変更されることがありますので、注意してください。
- 白い〈**!**〉温度上昇警告（p.344）が表示されている状態で、タイムラプス動画撮影を開始すると、タイムラプス動画の画質が低下することがあります。白い〈**!**〉が消えてから（カメラ内部の温度が下がってから）撮影開始することをおすすめします。

フル充電のバッテリーパック LP-E6Nでタイムラプス動画撮影ができる時間（撮影開始から電池切れまで）の目安は、以下のとおりです。なお、撮影条件により、撮影可能時間は変動します。

**タイムラプス動画撮影可能時間の目安**　（約）

| タイムラプス動画撮影 | 常温（+23℃） | 低温（0℃） |
|---|---|---|
| **撮影間隔1秒** | 3時間50分 | 3時間40分 |
| **撮影間隔10秒** | 5時間20分 | 5時間10分 |

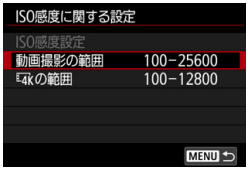
リモートコントローラー RC-6（別売／p.279）を使用して、タイムラプス動画の撮影の開始／終了などを行うことができます。あらかじめ、［**5：リモコン撮影**］を［**する**］に設定してください。

**リモートコントローラー RC-6使用時の動作**

| カメラの状態／リモコン設定 | 〈2〉「2秒後撮影」 | 〈●〉「すぐに撮影」 |
|---|---|---|
| **テスト撮影画面** | 撮影待機状態へ | 静止画撮影 |
| **撮影待機状態** | テスト撮影画面へ | 撮影開始 |
| **タイムラプス動画撮影中** | 撮影終了 | 撮影終了 |

# MENU メニュー機能の設定

**📷2**




ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈🎥〉にすると、［📷2：**ISO感度に関する設定**］の設定項目が、［**ISO感度設定**］［**動画撮影の範囲**］［**4K の範囲**］に変わります。

---

● **ISO感度に関する設定**

● **ISO感度設定**

〈**M**〉モードの時に、ISO感度を任意に設定することができます。ISOオートを選ぶこともできます。〈**ISO**〉ボタンでも同じ設定を行うことができます。

● **動画撮影の範囲**

フルHD動画、ハイフレームレート（HD）動画撮影時のISO感度の自動／手動設定範囲（下限値／上限値）を設定することができます。初期状態ではISO100～25600に設定されています。下限値はISO100～H1（ISO51200相当）、上限値はISO200～H2（ISO102400相当）の範囲で設定することができます。

● **4K の範囲**

4K動画撮影時のISO感度の自動／手動設定範囲（下限値／上限値）を設定することができます。初期状態ではISO100～12800に設定されています。下限値はISO100～H1（ISO51200相当）、上限値はISO200～H2（102400相当）の範囲で設定することができます。

● フルHD/HD撮影時のISO32000、4K動画撮影時のISO16000/20000/25600/32000は拡張感度です。設定時に［H］と表示されます。
● 静止画撮影（ファインダー撮影／ライブビュー撮影）時の［📷2：**ISO感度に関する設定**］については、180ページを参照してください。

## 📷4

ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈🎥〉にすると、［📷4］［📷5］タブが、動画撮影特有の項目として表示されます（〈[A]〉モードは［📷2］［📷3］タブ）。

---

● **動画サーボAF**

動画撮影のときに被写体に対して常にピントを合わせ続ける機能です。初期設定では［**する**］に設定されています。

**［する］設定時**

- シャッターボタンを半押ししなくても、被写体に対して常にピントを合わせ続けます。
- 狙った位置でピントを止めたいときや、レンズの作動音などが記録されるのが気になるときは、以下の方法で動画サーボAFを一時的に停止することができます。
  - ・画面左下の［SERVO AF］にタッチする
  - ・［📷3：**操作ボタンカスタマイズ**］で［**動画サーボAF一時停止**］（p.504）を割り当てたときは、そのボタンを押すと動画サーボAFが停止します。もう一度ボタンを押すと動画サーボAFが再開します。
  - ・［**AF停止**］（p.501）を割り当てたときは、そのボタンを押している間、動画サーボAFが停止します。ボタンを離すと動画サーボAFが再開します。
- 動画サーボAFが停止しているときに、〈**MENU**〉ボタンや〈▶〉ボタンを押したり、AF方式を変更するなどの操作を行ったあと、動画撮影に戻ると、動画サーボAFが再開します。

**［しない］設定時**

- シャッターボタンを半押しするか、〈**AF-ON**〉ボタンを押すと、ピント合わせが行われます。

**［動画サーボAF：する］設定時の注意事項**

- **ピントが合いにくい撮影条件**
  - ・速い速度で近づく、または遠ざかる被写体
  - ・近距離で動いている被写体
  - ・絞り数値が大きいとき
  - ・324ページの『ピントが合いにくい撮影条件』も参照してください。
- 常にレンズが作動して電池を消耗するため、動画撮影できる時間（p.359）が短くなります。
- レンズの種類により、ピント合わせのための作動音が記録されることがあります。そのときは、指向性ステレオマイクロホン DM-E1（別売）を使用することで、作動音の記録を低減することができます。
- ズーム操作中や拡大表示を行っているときは、動画サーボAFが一時停止します。
- 動画撮影中に被写体が近づいたり/遠ざかったり、カメラを上下/左右に動かすと（パンニング）、映像が一瞬伸縮（像倍率変化）して記録されることがあります。
- 動画サーボAF中に、レンズのフォーカスモードスイッチを〈**MF**〉にするときは、ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈📷〉にしてから操作してください。

● **AF方式**

［**+追尾優先AF**］［**ライブ多点AF**］［**ライブ1点AF**］が選択できます。AF方式については、316ページを参照してください。

● **グリッド**

［**9分割**］または［**24分割**］でグリッド（格子線）を表示して、水平、垂直の傾きを撮影開始前に確認することができます。また、［**9分割+対角**］では、格子線と対角線が表示され、水平、垂直の傾きの確認だけでなく、交点を被写体に合わせることで、バランスの良い構図にすることができます。

なお、動画撮影中は液晶モニターにグリッドは表示されません。

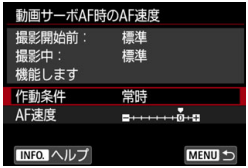
● **動画記録画質**

動画記録形式（MOV／MP4）、動画記録サイズ、24.00pの設定、ハイフレームレート動画の設定を行うことができます。詳しくは351ページを参照してください。

● **録音**

録音に関する設定を行うことができます。詳しくは362ページを参照してください。

## 動画サーボAF時のAF速度 応用



動画サーボAFのAF速度とその作動条件を設定することができます。

この機能は［**動画サーボAF**］が［**する**］、［**AF方式**］が［**ライブ1点AF**］のときに設定することができます。

また、この機能は「動画撮影時の低速ピント送り」に対応しているレンズ*使用時に機能します。

**作動条件**： 設定したAF速度を動画撮影時（撮影開始前、撮影中）に常に有効にするか（［**常時**］）、動画撮影中のみ有効にするか（［**撮影中**］）を設定することができます。

**AF速度**： 作画意図に合わせてAF速度（ピント送り）を、標準の速さから遅い方向に7段階、速い方向に2段階の調整を行うことができます。

***「動画撮影時の低速ピント送り」対応レンズについて**

2009年以降に発売されたUSMレンズ、およびSTMレンズが対応しています。詳しくはキヤノンのホームページでご確認ください。

［**AF方式**］が［**☺+追尾優先AF**］［**ライブ多点AF**］のときは、［**AF速度**］を［**標準（0）**］に設定したときと同じ動作になります。

### ● 動画サーボAFの被写体追従特性 応用

動画サーボAF中にパンニングを行ったり、障害物がAFフレームを横切ったときなど、AFフレームが被写体から外れたときの動画サーボAFの応答特性を、7段階で調整することができます。

この機能は［**動画サーボAF**］が［**する**］、［**AF方式**］が［**ライブ1点AF**］のときに設定することができます。

**粘る：-3/-2/-1**

AFフレームが被写体から外れたときに、別の被写体に対して敏感に反応しない設定です。マイナスの数値が大きいほど、より敏感に反応しなくなります。パンニングを行ったり、障害物がAFフレームを横切ったときに、意図しない別の被写体に、すぐにピントが移らないようにしたいときに有効です。

**敏感：+1/+2/+3**

AFフレームで捉えている被写体に機敏に反応する設定です。プラスの数値が大きいほど、より敏感に反応します。動いている（撮影距離が変化する）被写体にピントを合わせ続けたいときや、別の被写体にすぐにピントを合わせたいときに有効です。

［**AF方式**］が［**+追尾優先AF**］［**ライブ多点AF**］のときは、［**0**］に設定したときと同じ動作になります。

## 5

---

● **測光タイマー** 応用

露出値の表示時間（AEロック時の保持時間）を変えることができます。

● **タイムコード**

タイムコードを設定することができます。詳しくは365ページを参照してください。

### ● ボタンの機能

動画撮影時にシャッターボタンを半押し／全押ししたときの動作を設定することができます。

| 項目 | 半押し | 全押し |
|---|---|---|
| AF/－ | 測光・AF | 無効 |
| /－ | 測光のみ | 無効 |
| AF/ | 測光・AF | 動画撮影の開始/終了 |
| / | 測光のみ | 動画撮影の開始/終了 |

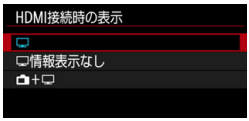
なお、［AF/］［/］に設定すると、〈START/STOP〉ボタンだけでなく、シャッターボタンの全押し、またはリモートスイッチ RS-80N3（別売）や、タイマーリモートコントローラー TC-80N3（別売）で、動画撮影を開始／終了することができます（p.279）。

- ［5：ボタンの機能］を［/－］［/］に設定しても、タイムラプス動画撮影時は、シャッターボタンを半押しするとAFが行われます。
- ［3：操作ボタンカスタマイズ］でシャッターボタンに機能が割り当てられていても、動画撮影時は［5：ボタンの機能］の設定が優先されます。

### ● タイムラプス動画

タイムラプス動画を撮影することができます。詳しくは371ページを参照してください。

## HDMI接続時の表示




外部記録機器でHDMI出力映像を記録するための機能です。映像はフルHD（1920×1080）画質で出力されます。なお、初期状態では［□］に設定されています。

### ●［□］設定時

- HDMI出力を行ったときは、カメラの液晶モニターが消灯します。
- HDMI出力した映像に撮影情報やAFフレームなどが表示されますが、外部記録機器に接続した外部モニターなどを見ながら〈**INFO.**〉ボタンを押すと、情報なし出力を行うことができます。
- HDMI接続を行わずに、カメラの液晶モニターを見ながら〈**INFO.**〉ボタンを押しても、情報なし出力の設定はできません。
- 情報なしの映像を記録するときは、外部モニターなどで撮影情報やAFフレームなどが表示されていない（情報なし出力が行われている）ことを確認してから記録してください。［**□情報表示なし**］に設定することをおすすめします。

### ●［□情報表示なし］設定時

- HDMI出力を行ったときは、カメラの液晶モニターが消灯します。
- 映像のみHDMI出力されます（撮影情報やAFフレームなどは表示されません）。

### ●［📷+□］設定時

- 液晶モニターに映像を表示しながら、HDMI出力による映像表示を行うことができます。
- 画像再生やメニュー表示を行っても、HDMI出力先に画像やメニュー画面は表示されません。

## ? HDMI出力を長時間行いたい

30分以上連続してHDMI出力を行うときは、[□]または[□情報表示なし]を選び、[ϟ2：オートパワーオフ]を[しない]に設定してください（p76）。

- 4K画質のHDMI出力はできません（[動画記録サイズ]が 4K に設定されていても、フルHD画質で出力されます）。
- 情報表示なしのHDMI出力を行ったときは、カード残量やバッテリー残量、内部温度上昇（p.391）などの警告は、HDMI出力先の画面に表示されません。特に[□情報表示なし]設定時は注意してください。[📷+□]設定時は、カメラの液晶モニターで警告を確認することができます。
- 動画撮影を行わないときは、[ϟ2：オートパワーオフ]の設定時間で自動的に電源が切れます。なお、[📷+□]選び、[ϟ2：オートパワーオフ]を[しない]に設定したときは、カメラを操作せずに30分経過すると、HDMI出力が停止します（動画撮影の状態が終了します）。
- [□情報表示なし]設定時に〈WB·◉〉〈⚡±·ISO〉ボタンなどを押すと、HDMI出力映像に設定画面が表示されることがあります。外部記録機器で映像を記録しているときは、ボタン操作を行わないことをおすすめします。
- カメラで撮影した動画と、HDMI出力を外部記録機器で記録した映像の明るさと色味は、閲覧する環境により異なって見えることがあります。

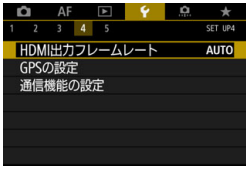
- 〈INFO.〉ボタンを押すと、画面に表示される情報を切り換えることができます。
- HDMI出力映像にタイムコードを付加することができます（p.367）。
- HDMI出力時に音声も出力されます（[録音：しない]設定時を除く）。

● **リモコン撮影**

［**する**］に設定すると、リモートコントローラー RC-6（別売／p.279）を使用して、動画撮影の開始/停止を行うことができます。

RC-6の撮影タイミングスイッチを〈**2**〉の位置にして、送信ボタンを押します。〈●〉（すぐに撮影）の位置のときは、［**ボタンの機能**］の設定で動作します。

## 4




### ● HDMI出力フレームレート

HDMI出力時のフレームレートを［**自動**］［**59.94i/50.00i**］［**59.94p/50.00p**］［**23.98p**］から選ぶことができます。HDMI出力した映像を市販の外部記録機器に記録する際に、外部記録機器が対応するフレームレートに合わせて設定します。

- ［**4：動画記録画質**］の［**24.00p**］が［**入**］に設定されているときは、［**4：HDMI出力フレームレート**］は設定できません。1080/24.00pで映像がHDMI出力されます。
- ハイフレームレート動画撮影時にHDMI出力を行っても、119.9p/100.0pで映像出力は行われません。
- ハイフレームレートの設定でHDMI出力を行ったときは、59.94p/50.00pの映像が［**4：HDMI出力フレームレート**］の設定に応じてHDMI出力されます。

- 表示されるフレームレートの項目は、［**3：ビデオ方式**］の設定に応じて変わります。
- HDMI出力先の機器に映像が出力（表示）されないときは、［**3：ビデオ方式**］の［**NTSC**］［**PAL**］の設定を確認してください（出力先の機器が対応している方式に合わせてください）。
- 手動設定したフレームレートに外部記録機器が対応していないときは、フレームレートが自動設定されます。
- ［**4：HDMI出力フレームレート**］の［**59.94i**］［**59.94p**］と動画記録サイズ 23.98P（23.98fps）の組み合わせのときは、「2-3プルダウン」処理が行われます。

## 動画撮影全般の注意事項

### カメラ内部の温度上昇に伴う、赤い〈🔥〉表示について

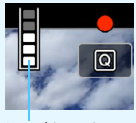
- 動画撮影を長時間行ったり、高温下で動画撮影を行うと、カメラ内部の温度が上昇し、赤い〈🔥〉が表示されます。
- 赤い〈🔥〉は、もうすぐ動画撮影が自動的に終了することを示しています。そのときは、カメラ内部の温度が下がるまで、撮影ができなくなりますので、一旦電源を切り、しばらく休止してください。
- 高温下で動画撮影を長時間行うと、〈🔥〉が表示されるタイミングが早くなります。撮影しないときは、こまめに電源を切ってください。

### 記録と画質について

- 手ブレ補正機能を搭載したレンズ使用時は、手ブレ補正スイッチを〈**ON**〉にすると、シャッターボタンを半押ししなくても、常時手ブレ補正機能が作動します。そのため、電池が消耗し、撮影条件により動画撮影時間が短くなることがあります。三脚使用時など、補正の必要がないときは、手ブレ補正スイッチを〈**OFF**〉にすることをおすすめします。
- 自動露出撮影、シャッター優先 AE 撮影で動画撮影中に明るさが変化すると、その場面の映像が一瞬止まって見えることがあります。このようなときは、絞り優先AE、マニュアル露出で撮影してください。
- 極端に明るい光源が画面内にあると、明るい部分が黒っぽくつぶれたように表示されることがあります。動画撮影時は、表示された映像とほぼ同じ状態で記録されます。
- 暗い場所では映像にノイズや色ムラが発生することがあります。動画撮影時は、表示された映像とほぼ同じ状態で記録されます。
- 撮影した動画を他の機器などで再生すると、画質や音質が悪くなったり、(MOV／MP4形式に対応していても) 再生できないことがあります。

## 動画撮影全般の注意事項

### 記録と画質について


インジケーター

- 書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画撮影中に画面の右側に5段階のインジケーターが表示されることがあります。インジケーターは、カードにまだ書き込まれていないデータ量（内蔵メモリーの空き容量）を表し、遅いカードほど、段階が早く上がっていきます。インジケーターがフルになると、動画撮影が自動的に停止します。
  書き込み速度が速いカードは、インジケーターが表示されないか、表示されても段階はほとんど上がりません。そのため、事前にテスト撮影を行うことで、動画撮影に適したカードかどうかを判断することができます。
- インジケーターがフルになって動画撮影が自動的に終了したときは、映像の終端付近の音声が正常に記録されないことがあります。
- カードの（記憶領域の断片化により）書き込み速度が低下してインジケーターが表示されるようになったときは、カードの初期化を行うと、書き込み速度が改善することがあります。

## MP4形式の動画の制約について

MP4形式の動画には、一般的に以下の制約事項がありますので、ご了承ください。

- 最後の約2フレームには、音声は記録されません。
- Windowsで動画を再生すると、映像と音声が若干ズレることがあります。

# 10

# 画像の再生

この章では、撮影した画像（静止画／動画）をカメラで再生・消去する方法や、テレビで見る方法など、撮影画像の再生に関連する内容について説明しています。

**他の機器で撮影・記録された画像について**

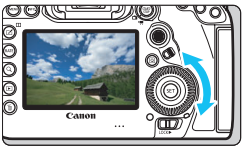
他のカメラで撮影した画像や、このカメラで撮影したあとにパソコンなどで画像を加工したり、ファイル名を変更した画像は、カメラで正常に表示できないことがあります。

# ▶ 画像を再生する

## 1枚表示

### 1 画像を再生する

- 〈▶〉ボタンを押します。
- ➡ 最後に撮影した画像、または最後に再生した画像が表示されます。

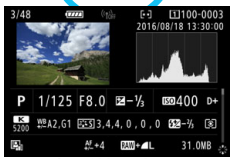


### 2 画像を選ぶ

- 〈◎〉を左に回すと、最後に撮影した画像から新しい順に画像が表示されます。右に回すと、古い画像から順に新しい画像が表示されます。
- 〈**INFO.**〉ボタンを押すたびに、表示形式が切り換わります。

情報表示なし

簡易情報表示




撮影情報表示

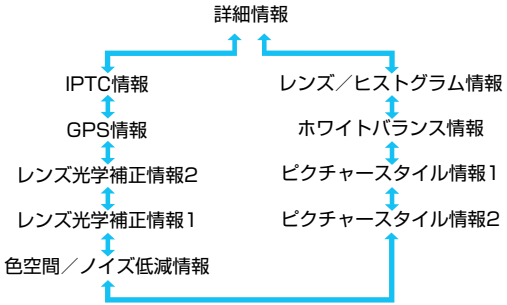
### 3 再生を終了する

● 〈▶〉ボタンを押すと再生が終了し、撮影準備状態に戻ります。

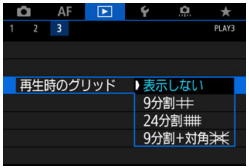
［📷4：**トリミング情報の付加**］を［**しない**］以外に設定して（p.491）撮影した画像は、再生したときに撮影範囲を示す線が表示されます。

## 撮影情報表示について

撮影情報表示の画面（p.394）が表示されている状態で〈✣〉を上下に操作すると、画面下側の撮影情報が以下のように切り換わります。詳しくは398～400ページを参照してください。



## MENU グリッド表示について




1枚表示、2枚表示（p.408）のときに、再生画像に重ねてグリッド（格子線）を表示することができます。

［▶3：**再生時のグリッド**］で［**9分割**］［**24分割**］［**9分割+対角**］から選ぶことができます。

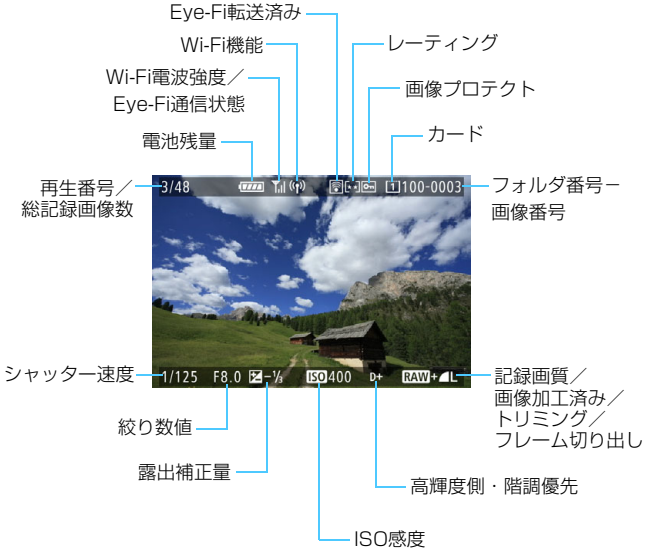
撮影画像の水平／垂直の傾きや、構図を確認するときに便利です。

動画再生時にグリッドは表示されません。

# INFO.: 撮影情報の内容

## 静止画の例

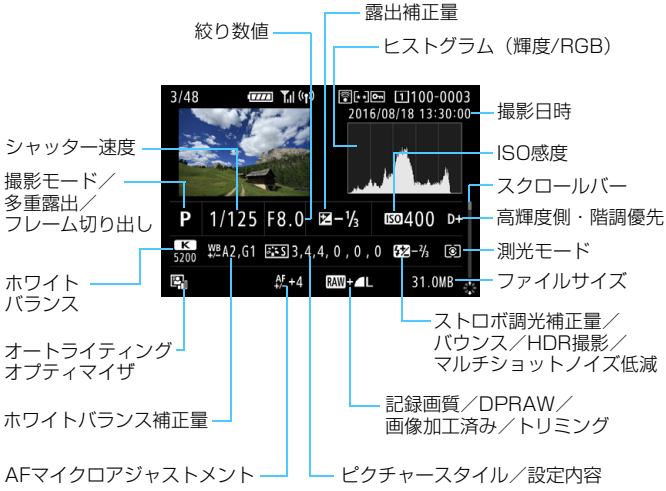
### ● 簡易情報表示




- 他のカメラで撮影した画像は、一部の撮影情報が表示されないことがあります。
- このカメラで撮影した画像は、他のカメラで再生できないことがあります。

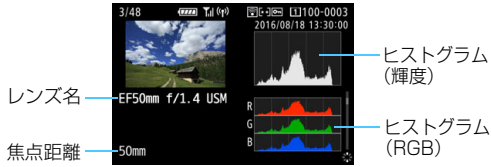
## 撮影情報表示

### • 詳細情報

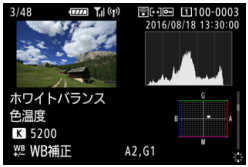



* RAW+JPEGで撮影した画像は、RAW画像のファイルサイズが表示されます。
* RAW、RAW+JPEGの設定で、アスペクト比を設定して撮影した画像は（p.310）、撮影範囲が線で表示されます。
* DPRAW撮影を行った画像は、〈DPR〉が表示されます。
* トリミング情報が付加された画像は（p.491）、撮影範囲が線で表示されます。
* 調光補正なしでストロボ撮影を行ったときは、〈⚡〉が表示されます。
* バウンス撮影を行った画像は、〈〉が表示されます。
* HDR撮影を行った画像は、〈**HDR**〉とダイナミックレンジの調整幅が表示されます。
* 多重露出撮影を行った画像は、〈〉が表示されます。
* マルチショットノイズ低減処理が行われた画像は、〈NR〉が表示されます。
* RAW現像、リサイズ処理、トリミング、フレーム切り出しを行って保存した画像は、〈〉が表示されます。
* トリミングを行って保存した画像は、〈〉が表示されます。

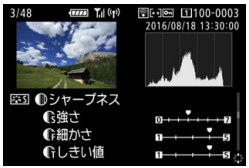
• レンズ／ヒストグラム情報



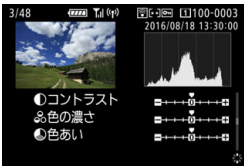

• ホワイトバランス情報




• ピクチャースタイル情報1




• ピクチャースタイル情報2



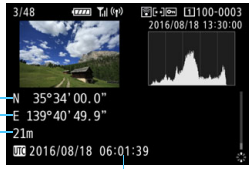

4K動画からフレーム切り出しを行い静止画として保存した画像は（p.427）、一部の撮影情報表示の画面は表示されません。

• 色空間／ノイズ低減情報

• レンズ光学補正情報1

• レンズ光学補正情報2

• GPS情報

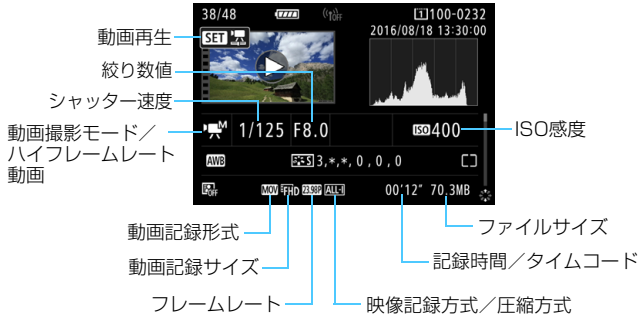



緯度
経度
標高
協定世界時（UTC）

• IPTC情報

画像にGPS情報が記録されていないときや、IPTC情報が付加されていないときは、GPS情報の画面、IPTC情報の画面は表示されません。

## 動画の例




・〈 / / / / 〉：シャッター速度、絞り数値、ISO感度は表示されません。
・〈 / 〉：絞り数値、ISO感度は表示されません。
・〈 / 〉：シャッター速度、ISO感度は表示されません。
・〈 / 〉＋ISOオート：ISO感度は表示されません。

動画再生時、［**ピクチャースタイル**］の［**シャープネス**］の［**細かさ**］［**しきい値**］は、「*, *」と表示されます。

---

● **ハイライト警告表示について**

［▶3：**ハイライト警告表示**］を［**する**］に設定すると、露出オーバーで白とびした部分が点滅表示します。階調を再現させたい部分が点滅しているときは、露出をマイナス補正して、もう一度撮影すると良い結果が得られます。

### AFフレーム表示について

［▶3：AFフレーム表示］を［する］に設定すると、ピント合わせを行ったAFフレームが赤い枠で表示されます。なお、AFフレーム自動選択のときは、AFフレームが複数表示されることがあります。

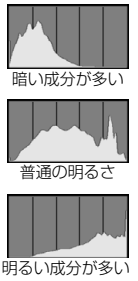
### ヒストグラムについて

ヒストグラムには、露出レベルの傾向と全体の階調を確認できる輝度表示と、色の飽和と階調を確認できるRGB表示があります。表示の切り換えは、［▶3：ヒストグラム］で行います。

#### ［輝度］表示

このヒストグラムは、横軸に明るさ（左：暗、右：明）、縦軸に明るさごとの画素数を積み上げたグラフで、画像の輝度分布を表しています。画面の中の「暗い成分」ほどグラフの左寄りに積み上げられ、「明るい成分」ほどグラフの右寄りに積み上げられて表示されます。横軸の左端に積み上げられた成分は黒くつぶれ、右端に積み上げられた成分は白くとびます（ハイライト）。その他の成分は階調が再現されます。再生画像とそのヒストグラムを見ることで、露出レベルの傾向と全体の階調を確認することができます。

ヒストグラム例




#### ［RGB］表示

このヒストグラムは、横軸に色の明るさ（左：暗、右：明）、縦軸に色の明るさごとの画素数を積み上げたグラフで、R（赤）／G（緑）／B（青）別に色の輝度分布を表しています。画面の中の「暗く薄い色」ほどグラフの左寄りに積み上げられ、「明るく濃い色」ほどグラフの右寄りに積み上げられます。横軸の左端に積み上げられた成分は色の情報がなく、右端に積み上げられた色は飽和して階調がありません。RGBのヒストグラムを見ることで、色の飽和と階調の状態や、ホワイトバランスの傾向を確認することができます。

# 見たい画像を素早く探す

## 一度に複数の画像を表示する（インデックス表示）

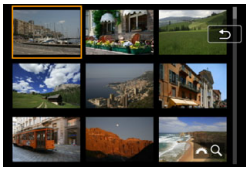
見たい画像を素早く見つけることができる、「インデックス表示」といわれる再生方法で、一度に4枚／9枚／36枚／100枚の画像を表示することができます。

### 1 〈Q〉ボタンを押す

- 画像を再生した状態、または撮影準備状態で〈Q〉ボタンを押します。
- ➡ 画面右下に［Q］が表示されます。

### 2 インデックス表示にする

- 〈⊞〉を左に回していきます。
- ➡ 4枚表示になります。選択されている画像にオレンジ色の枠が付きます。
- 〈⊞〉をさらに左に回すと、9枚→36枚→100枚表示になります。右に回すと、100枚→36枚→9枚→4枚→1枚表示になります。

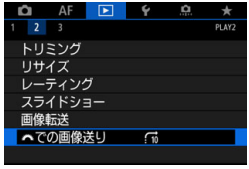


### 3 画像を選ぶ

- 〈✣〉または〈◎〉を操作してオレンジ色の枠を移動させ、画像を選びます。
- 〈Q〉ボタンを押して［Q］が表示されていない状態で〈⊞〉を回すと、1画面分先、または1画面分前の画像が表示されます。
- インデックス表示の状態で〈SET〉を押すと、選んだ画像が1枚表示されます。

## 画像を飛ばして表示する（ジャンプ表示）

1枚表示のときに〈☆〉を回すと、指定した方法で前後に画像を飛ばして表示することができます。




### 1 [☆での画像送り]を選ぶ

- [▶2]タブの[☆での画像送り]を選び、〈(SET)〉を押します。

### 2 ジャンプ方法を選ぶ

- ジャンプ方法を選び〈(SET)〉を押します。

1：1枚ずつ画像表示
10：10枚飛びに画像表示
100：100枚飛びに画像表示
：撮影日を切り換えて画像を表示
：フォルダを切り換えて画像を表示
：動画だけを表示
：静止画だけを表示
：プロテクト画像だけを表示
★：指定したレーティング（p.415）の画像を表示

〈☆〉を回してレーティングを指定します。★を選んだときは、画像送りを行うと、レーティングが設定されているすべての画像が表示されます。

### 3 画像送りをする

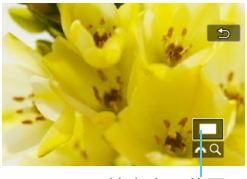
- 〈▶〉ボタンを押して画像を再生します。
- 1枚表示の状態で〈〉を回します。

➡ 設定した方法で画像が送られます。

- ［**撮影日**］は、撮影した日付で画像を探したいときに選びます。
- ［**フォルダ**］は、フォルダを指定して画像を探したいときに選びます。
- ［**動画**］［**静止画**］は、カードの中に動画と静止画が混在しているときに、動画、静止画のどちらかだけを表示したいときに選びます。
- ［**プロテクト**］［**レーティング**］設定時に対象となる画像がないときは、〈〉を回しても画像送りは行われません。

# 拡大する

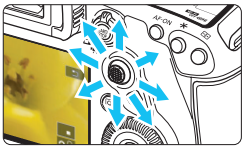
撮影した画像を約1.5倍～10倍に拡大して表示することができます。

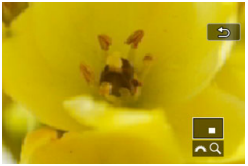


拡大表示位置

## 1 画像を拡大する

- ①画像再生中（1枚表示）、②撮影直後の画像表示中、③撮影準備状態から拡大することができます。
- 〈Q〉ボタンを押します。
- ➡ 拡大表示になります。画面右下に拡大位置と［Q］が表示されます。
- 〈⚙〉を右に回すたびに拡大します。約10倍まで拡大することができます。
- 〈⚙〉を左に回すたびに縮小します。さらに回していくと、インデックス表示（p.403）になります（①③のみ）。



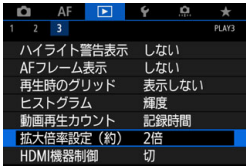


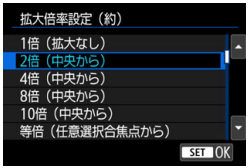
## 2 表示位置を移動する

- 〈✣〉を操作した方向に表示位置が移動します。
- 〈Q〉ボタンまたは〈▶〉ボタンを押すと、拡大表示が終了します。

- 〈◌〉を回すと、拡大表示のまま画像が切り換わります（①③のみ）。
- 動画は拡大表示できません。

## MENU 拡大開始倍率／拡大開始位置を設定する



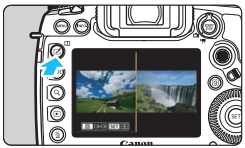

［▶3］タブの［**拡大倍率設定（約）**］を選ぶと、拡大表示を開始したときの、表示倍率、拡大位置を設定することができます。

- **1倍（拡大なし）**
  拡大表示は行われません。1枚表示の状態で拡大表示が始まります。
- **2倍／4倍／8倍／10倍（中央から）**
  選択した倍率で画面中央から拡大表示が始まります。
- **等倍（任意選択合焦点から）**
  記録画像の画素を約100%で表示します。ピントが合ったAFフレームの位置から拡大表示が始まります。なお、手動ピント合わせで撮影した画像は、画面中央から拡大表示が始まります。
- **前回と同じ倍率（中央から）**
  前回、〈▶〉〈🔍〉ボタンを押して拡大表示を終了したときと同じ倍率で、画面中央から拡大表示が始まります。

［**顔+追尾優先AF**］［**ライブ1点AF**］（p.316）で撮影した画像や、［**歪曲収差補正**］を［**する**］に設定して（p.209）撮影した画像は、［**等倍（任意選択合焦点から）**］に設定しても画面中央から拡大表示が始まります。

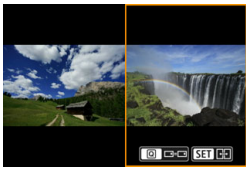
# ⊡ 画像を比較する（2枚表示）

撮影した画像を左右に並べて表示することができます。2枚表示の状態で拡大表示、ジャンプ表示、画像プロテクト、レーティング、画像消去を行うことができます。



## 1 2枚表示にする

- 画像を再生した状態で、〈⊡〉ボタンを押します。
- ➡ 2枚表示になります。選択されている画像にオレンジ色の枠が付きます。



## 2 比較する画像を選ぶ

- 〈㊗〉を押すと、オレンジ色の枠が切り換わります。
- 〈◌〉を回して画像を選びます。
- この手順を繰り返して、左右の画像を選びます。
- 左右が同じ画像のときは、両方の画面の左上に［⊂⊃］が表示されます。
- 〈Q〉ボタンを押すと、左右の画像の拡大倍率、拡大位置を同じにすることができます（オレンジ色の枠が付いていない画像と同じ拡大設定になります）。
- 〈▶〉ボタンを押している間、オレンジ色の枠が付いている画像を1枚表示にすることができます。
- 〈⊡〉ボタンを押すと、元の表示に戻ります。

2枚表示の状態から動画を再生することはできません。

〈**INFO.**〉ボタンを押すと、情報表示を切り換えることができます。

# 画面にタッチして再生する

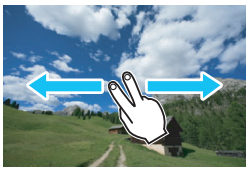
液晶モニター（タッチパネル）に指で触れて、いろいろな再生を行うことができます。**まず〈▶〉ボタンを押して画像を再生します。**

## 画像を送る

### 指1本でドラッグする

- 1枚表示のときは「**指1本**」で液晶モニターに触れます。指を左または右に動かすと1枚ずつ画像が送られます。
  左に動かすと新しい画像、右に動かすと古い画像が表示されます。
- インデックス表示のときも「**指1本**」で液晶モニターに触れます。指を上または下に動かすと1画面ずつ画像が送られます。
  上に動かすと新しい画像、下に動かすと古い画像が表示されます。
  画像を選んで、オレンジ色の枠が付いた画像にもう一度触れると、1枚表示になります。

## 画像を飛ばして表示する（ジャンプ表示）



### 指2本でドラッグする

液晶モニターに「**指2本**」で触れ、指を左または右に動かすと、[▶2] タブの [**での画像送り**] で設定されている方法で、画像を飛ばして表示することができます。

## 画像を縮小表示する（インデックス表示）

### 2本の指を閉じる

指2本を広げた状態で液晶モニターに触れ、触れたまま指を閉じます。

- 指を閉じるたびに縮小します。1枚表示の状態で行うと、4枚インデックス表示になります。
- 画像を選んでオレンジ色の枠が付いた画像にもう一度触れると、1枚表示になります。

## 画像を拡大表示する

### 2本の指を開く

指2本を閉じた状態で液晶モニターに触れ、触れたまま指を開きます。

- 指を開くたびに拡大します。
- 最大約10倍に拡大できます。
- 指を動かすと、表示位置を移動することができます。
- 4枚インデックス表示の状態で行うと、1枚表示になります。
- [⮌] をタッチすると、1 枚表示に戻ります。

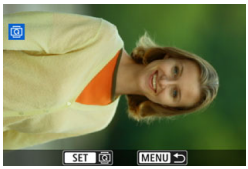
カメラとテレビを接続して（p.432）、撮影した画像をテレビで再生しているときも、液晶モニターにタッチして操作することができます。

# 回転させる

画像が表示される向きを変えたいときは、この方法で回転させることができます。

## 1 ［画像回転］を選ぶ

- ［▶1］タブの［**画像回転**］を選び、〈(SET)〉を押します。




## 2 回転させる画像を選ぶ

- 〈◎〉を回して回転させる画像を選びます。
- インデックス表示（p.403）にして選ぶこともできます。

## 3 回転させる

- 〈(SET)〉を押すたびに、時計方向に回転（90°→270°→0°）します。
- 他に回転したい画像があるときは、手順2、3を繰り返します。

- ［**1：縦位置画像回転表示**］を［**する** 凵］（p.444）に設定して撮影すると、この機能で画像を回転させる必要がなくなります。
- 回転した画像が再生時に回転した向きで表示されないときは、［**1：縦位置画像回転表示**］を［**する** 凵］に設定します。
- 動画は回転できません。

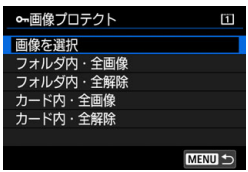
# 保護する（プロテクト）

大切な画像をカメラの消去機能で誤って消さないように、プロテクト（保護）することができます。

## MENU 画像を選択して1枚ずつプロテクト

### 1 ［画像プロテクト］を選ぶ

- ［▶1］タブの［**画像プロテクト**］を選び、〈SET〉を押します。




### 2 ［画像を選択］を選ぶ

➡ 画像が表示されます。

### 3 プロテクトする画像を選ぶ

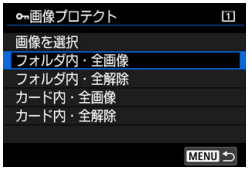
- 〈◯〉を回してプロテクトする画像を選びます。
- インデックス表示にして設定することもできます（p.403）。

### 4 プロテクトする

- 〈SET〉を押すと画像がプロテクトされ、画面の上に〈🔑〉が表示されます。
- もう一度〈SET〉を押すと、プロテクトが解除され〈🔑〉が消えます。
- 他にプロテクトしたい画像があるときは、手順3、4を繰り返します。

## MENU フォルダ内／カード内全画像プロテクト

フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめてプロテクトすることができます。




［▶1：**画像プロテクト**］で［**フォルダ内・全画像**］または［**カード内・全画像**］を選ぶと、その中のすべての画像がプロテクトされます。

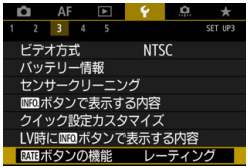
解除するときは［**フォルダ内・全解除**］または［**カード内・全解除**］を選びます。

**カードを初期化すると**（p.73）、**プロテクトされた画像も消去されます。**

- 動画もプロテクトすることができます。
- プロテクトした画像は、カメラの消去機能で消去できません。画像を消去するときは、プロテクトを解除してください。
- 必要な画像をプロテクトしてから全画像消去（p.441）を行うと、プロテクトした画像以外はすべて消去されます。不要な画像を一度にまとめて消去するときに便利です。
- ［**カード内・全画像**］［**カード内・全解除**］を選んだときに画像がプロテクト／解除されるカードは、［**1：記録機能とカード・フォルダ選択**］の［**記録・再生**］または［**再生**］で選択しているカードです。

## 〈RATE〉ボタンでプロテクト

再生時に〈**RATE**〉ボタンでプロテクトすることができます。



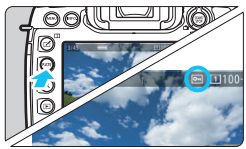

### 1 ［RATEボタンの機能］を選ぶ

- ［3］タブの［**RATE ボタンの機能**］を選び、〈SET〉を押します。

### 2 ［プロテクト］を選ぶ

### 3 プロテクトする画像を選ぶ

- 〈▶〉ボタンを押して画像を再生します。
- 〈◯〉を回してプロテクトする画像を選びます。
- インデックス表示にして選ぶこともできます（p.403）。



### 4 プロテクトする

- 〈**RATE**〉ボタンを押すと画像がプロテクトされ、〈🔑〉が表示されます。
- もう一度〈**RATE**〉ボタンを押すと、プロテクトが解除され〈🔑〉が消えます。
- 他にプロテクトしたい画像があるときは、手順3、4を繰り返します。

# レーティングを設定する

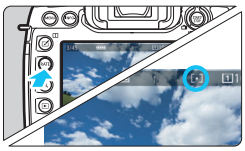
撮影した画像（静止画/動画）に、5種類のお気に入りマーク（[•]/[••]/[•••]/[••••]/[•••••]）を付加することができます。この機能を「レーティング」といいます。

* レーティングは「評価」や「等級」などの意味です。

## 〈RATE〉ボタンでレーティング

### 1 レーティングする画像を選ぶ

- 〈▶〉ボタンを押して画像を再生します。
- 〈◎〉を回してレーティングを行う画像を選びます。
- インデックス表示にして設定することもできます（p.403）。

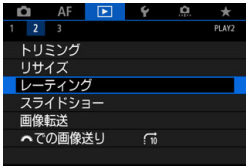


### 2 レーティングを設定する

- 〈RATE〉ボタンを押すたびに、お気に入りマークが切り換わります（[•]/[••]/[•••]/[••••]/[•••••]/なし）。
- 他にレーティングを行いたい画像があるときは、手順1、2を繰り返します。

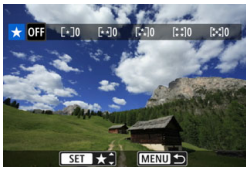
- ［🔧3：RATE ボタンの機能］が［プロテクト］に設定されているときは、［レーティング］に設定してください。
- ［🔧3：RATE ボタンの機能］で［レーティング］を選んで〈Q〉ボタンを押すと、〈RATE〉ボタンを押したときに選択できる（使用する）お気に入りマークを設定することができます。

## MENU メニューからレーティング




### 1 [レーティング] を選ぶ

- [▶2] タブの [**レーティング**] を選び、〈SET〉を押します。




### 2 レーティングする画像を選ぶ

- 〈◯〉を回してレーティングを行う画像を選びます。
- 〈Q〉ボタンを押して〈◯〉を左に回していくと、3画像表示になります。右に回すと1枚表示に戻ります。

### 3 レーティングを設定する

- 〈SET〉を押すと、図の位置に青い枠が表示されます。
- 〈◯〉を回してお気に入りマークを選び、〈SET〉を押します。
- ➡ お気に入りマークを付けると、そのマークの横にある数値がカウントされます。
- 他にレーティングを行いたい画像があるときは、手順2、3を繰り返します。

お気に入りマークの横にある数値は、3桁（999枚）までしか表示されません。1000枚を超えると［###］と表示されます。

### レーティングの利用方法

- ［▶2：**での画像送り**］で、特定のお気に入りマークを付けた画像だけを表示することができます。
- ［▶2：**スライドショー**］で、特定のお気に入りマークを付けた画像だけを再生することができます。
- パソコンのOSによっては、ファイルの詳細表示を行ったときや、標準装備された画像表示機能で再生したときに、お気に入りマークを確認することができます（JPEG画像のみ）。

# 再生時のクイック設定

画像再生時に〈Q〉ボタンを押すと、再生しながら［**：画像プロテクト**］［：画像回転］［**★：レーティング**］［RAW/JPEG↓：RAW現像（RAW画像のみ）］［：リサイズ（JPEG画像のみ）］［：トリミング（JPEG画像のみ）］［**：ハイライト警告表示**］［**：AFフレーム表示**］［**：での画像送り**］［**：スマートフォンへ画像を送信***］の設定を行うことができます。

なお、**動画のときは太字の項目のみ**設定できます。

*［**4：通信機能の設定**］の［**内蔵無線通信の設定**］の［**Wi-Fi/NFC**］が［**使わない**］に設定されているときは選択できません。

## 1 〈Q〉ボタンを押す

- 画像を再生した状態で〈Q〉ボタンを押します。
- ➡ クイック設定の項目が表示されます。

## 2 項目を選んで設定する

- 〈☆〉を上下に押して、項目を選びます。
- ➡ 選んだ項目と設定内容が、画面下側に表示されます。
- 〈◯〉を回して設定します。
- RAW現像、リサイズ、トリミングは、さらに〈SET〉を押して設定を行います。詳しくは、『RAW現像』（p.446）、『リサイズ』（p.452）、『トリミング』（p.454）を参照してください。
- キャンセルするときは、〈MENU〉ボタンを押します。

## 3 設定を終了する

- 〈Q〉ボタンを押すとクイック設定が終了します。

画像回転を行うときは、[**1：縦位置画像回転表示**]を[**する** 凵]に設定してください（p.444）。[**1：縦位置画像回転表示**]が[**する** 凵][**しない**]に設定されているときは、[**画像回転**]で選んだ内容は画像に記録されますが、カメラで回転表示は行われません。

- インデックス表示中に〈Q〉ボタンを押すと、1枚表示に切り換わり、クイック設定状態になります。再度〈Q〉ボタンを押すと、インデックス表示に戻ります。
- 他のカメラで撮影した画像は、選択できる項目が制限されることがあります。

# 撮った動画の楽しみ方

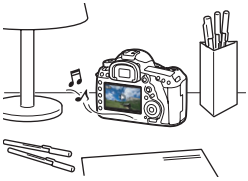
撮影した動画は、主に次の3つの方法で再生して楽しむことができます。

## テレビに接続して再生する (p.432)

HDMIケーブル HTC-100（別売）でカメラとテレビを接続すると、撮影した静止画や動画をテレビで再生することができます。

- カメラとテレビをHDMIケーブルで接続して、4K画質で撮影した動画を再生しても、フルHD画質で再生されます（4K画質での再生はできません）。
- ハードディスクレコーダーは、HDMI入力端子を備えていないため、HDMIケーブルでカメラとレコーダーを接続することはできません。
- USBケーブルでカメラとハードディスクレコーダーを接続しても、動画や静止画を再生・保存することはできません。

## カメラの液晶モニターで再生する (p.422)



カメラの液晶モニターで動画を再生することができます。

また、動画の前後部分をカット（簡易編集）したり、4K動画から任意のフレームを選んで静止画として保存したり、カードに記録されている静止画と動画をスライドショーで自動再生することができます。

- パソコンで編集した動画をカードに書き戻して、カメラで再生することはできません。

## パソコンで再生・編集する

カードに記録されている動画ファイルをパソコンに取り込んで、（カメラで撮影した動画の記録形式に対応した）OS標準のソフトウェアや汎用ソフトウェアで、動画の再生・編集を行うことができます。

- 市販のソフトウェアで再生・編集するときは、MOV 形式、MP4 形式の動画に対応したソフトウェアを使用してください。市販のソフトウェアについては、ソフトウェアメーカーにお問い合わせください。
- MOV形式の動画は、EOS用ソフトウェアのEOS MOVIE Utility（p.599）で再生することもできます。

# 動画を再生する

## 1 画像を再生する

- 〈▶〉ボタンを押して画像を再生します。

## 2 動画を選ぶ

- 〈◎〉を回して再生する動画を選びます。
- 1枚表示のときに、画面左上に〈SET 🎥〉が表示されている画像が動画です。
- インデックス表示のときは、画面左側に縦帯の付いた画像が動画です。**インデックス表示からは再生できませんので、〈(SET)〉を押して1枚表示にします。**

## 3 1枚表示の状態で〈(SET)〉を押す

➡ 画面の下に動画再生パネルが表示されます。

## 4 動画を再生する

- 〈◎〉を回して［▶］(再生)を選び、〈(SET)〉を押します。
- ➡ 動画再生が始まります。
- 再生中に〈(SET)〉を押すと、一時停止します。もう一度押すと再開します。
- 〈🎚〉を回すと、再生中でも音量を調整することができます。
- 再生操作に関する詳しい内容は、次ページを参照してください。

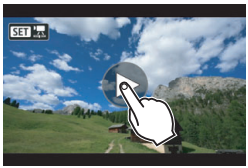
スピーカー

- ヘッドフォンで動画の音声を聴くときは、耳を痛めないように、音量を下げてから取り付けてください。
- 他のカメラで撮影した動画は、このカメラで再生できないことがあります。

## 動画再生パネル

| 項目 | 再生内容 |
|---|---|
| ▶ 再生 | 〈(SET)〉を押すたびに再生／一時停止を繰り返します。 |
| ▶ スロー再生 | 〈◯〉を回すとスロー再生の速さを変えることができます。画面右上に速さの度合いが表示されます。 |
| ⏮ 先頭フレーム | 動画の先頭画面を表示します。 |
| ◀II フレーム戻し | 〈(SET)〉を押すたびに1コマ戻します。〈(SET)〉を押し続けると早戻しします。 |
| II▶ フレーム送り | 〈(SET)〉を押すたびに1コマ送ります。〈(SET)〉を押し続けると早送りします。 |
| ⏭ 最終フレーム | 動画の最終画面を表示します。 |
| ✂ 編集 | 編集画面を表示します（p.425）。 |
| フレーム切り出し | 4K動画再生時に選択することができます。画面に表示しているフレームを切り出して、静止画（JPEG画像）として保存することができます（p.427）。 |
| ▬▬ | 再生位置 |
| mm’ ss” | 再生時間（mm’：分、ss”：秒／［**動画再生カウント：記録時間**］設定時） |
| hh:mm:ss.ff（DF）<br>hh:mm:ss:ff（NDF） | タイムコード（hh：時、mm：分、ss：秒、ff：フレーム／［**動画再生カウント：タイムコード**］設定時） |
| 音量 | 〈☞〉を回すと、内蔵スピーカー（p.422）またはヘッドフォンの音量を調整することができます。 |
| MENU ↩ | 〈MENU〉ボタンを押すと1枚表示に戻ります。 |

## タッチパネルで再生する




**画面中央の［▶］をタッチする**

➡ 動画再生が始まります。

- 画面左上の〈SET〉をタッチすると、動画再生パネルが表示されます。
- 再生中に画面をタッチすると、再生が一時停止し、動画再生パネルが表示されます。

## ハイフレームレート動画の再生について

ハイフレームレート（119.9fps/100.0fps）の設定で撮影したHD動画を再生したときは、1/4倍速のスローモーション（29.97fps/25.00fps）で再生されます。（ハイフレームレート動画撮影時に音声は録音されませんので）音声は再生されません。なお、再生時間／タイムコードのカウントアップ1秒は、実時間で1/4秒です。

- カメラをテレビに接続して動画を再生するときは（p.432）、テレビ側で音量の調整を行ってください（〈 〉を回しても音量は変わりません）。
- 動画再生中にレンズの取り付け／取り外しを行ったときや、カードの読み取り速度が遅いとき、動画ファイル内のフレームが壊れているときは、動画再生が終了します。

- フル充電のバッテリーパック LP-E6Nで連続再生できる時間は、常温（+23℃）：約2時間30分です（FHD 29.97P / 25.00P / 24.00P / 23.98P IPB設定時）。
- ヘッドフォン端子（p.29）に、ミニプラグ（φ3.5mm）を備えた市販のヘッドフォンを接続すると、動画の音声を聴くことができます（p.363）。

# ✂ 動画の前後部分をカットする

撮影した動画の前後部分を約1秒単位で削除することができます。

## 1 動画再生画面で［✂］を選ぶ

➡ 画面の下に動画編集パネルが表示されます。

## 2 削除する範囲を指定する

- ［前部を削除］か、［後部を削除］を選んで〈SET〉を押します。
- 〈◈〉を左右に押すとフレームが送られます。押したままにすると早送りになります。〈◎〉を回すと1フレームずつ送られます。
- 削除する範囲が決まったら、〈SET〉を押します。画面上部に白く表示された範囲が残ります。

## 3 編集内容を確認する

- ［▶］を選んで〈SET〉を押すと、編集した動画が再生されます。
- 削除する範囲を変更するときは、手順2の操作を行います。
- 編集を中止するときは、〈MENU〉ボタンを押し、確認画面で［OK］を選びます。

## 4 保存する

- ［[保存]］を選んで〈(SET)〉を押します。
- ➡ 保存画面が表示されます。
- 別のファイルとして保存するときは［**新規保存**］、編集前の動画を残さないときは［**上書き保存**］を選んで、〈(SET)〉を押します。
- 確認画面で［**OK**］を選ぶと、編集した動画が保存され、再生画面に戻ります。

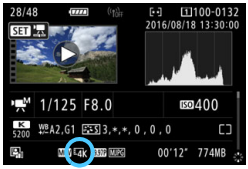
- 約1秒単位（画面上部に［✂］が表示される位置）で削除されるため、実際にカットされる位置が指定した位置と異なることがあります。
- カードの空き容量が少ないときは、［**新規保存**］は選択できません。
- 電池の残量が少ないときは、動画編集はできません。フル充電した電池を使用してください。
- 他のカメラで撮影した動画はこのカメラで編集できません。
- カメラとパソコンを接続しているときは編集できません。

# 4K動画からフレームを切り出す

4K画質で撮影した動画から任意のフレームを選び、約880万画素（4096×2160）の静止画（JPEG画像）として保存することができます。この機能を「フレーム切り出し（4Kフレームキャプチャー）」と言います。

## 1 画像を再生する

- 〈▶〉ボタンを押して画像を再生します。




## 2 4K動画を選ぶ

- 〈◯〉を回して 4K 画質で撮影した動画を選びます。
- 撮影情報表示の画面（p.401）で［4K］と表示されている画像が4K動画です。
- インデックス表示のときは、〈(SET)〉を押して1枚表示にします。

## 3 1枚表示の状態で〈(SET)〉を押す

➡ 画面の下に動画再生パネルが表示されます。

## 4 切り出すフレームを選ぶ

- 動画再生パネルを操作して、静止画として切り出したいフレームを選びます。
- 動画再生パネルの操作方法については、423ページを参照してください。

## 5 ［🎞］を選ぶ

- 〈◯〉を回して［🎞］を選び、〈(SET)〉を押します。

## 6 保存する

- ［OK］を選ぶと、画面に表示されているフレームが静止画（JPEG画像）として保存されます。
- 保存先のフォルダと画像番号を確認します。

## 7 表示する画像を選ぶ

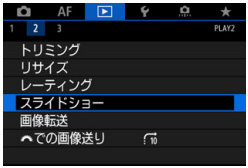
- ［**元の動画**］または［**切り出した静止画**］を選びます。

➡ 選択した画像が表示されます。

- フルHD画質で撮影した動画や、他のカメラで撮影した4K動画からは、フレーム切り出しはできません。
- カメラとパソコンを接続しているときは、フレーム切り出しはできません。

# MENU 自動再生する（スライドショー）

カードに記録されている画像を自動で連続再生することができます。




## 1 ［スライドショー］を選ぶ

- ［▶2］タブの［**スライドショー**］を選び、〈(SET)〉を押します。

## 2 再生する画像を選ぶ

- 画面に示す項目を選び〈(SET)〉を押します。

### 全画像/動画/静止画/プロテクト

- 〈◯〉を回して［**全画像**］［**動画**］［**静止画**］［**プロテクト**］のいずれかを選び、〈(SET)〉を押します。

### 日付/フォルダ/レーティング

- 〈◯〉を回して［**日付**］［**フォルダ**］［**★レーティング**］のいずれかを選びます。
- 〈INFO.〉が明るく表示された状態で、〈**INFO.**〉ボタンを押します。
- 内容を選び〈(SET)〉を押します。

日付

フォルダ

レーティング

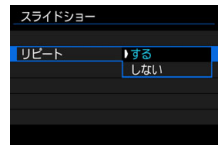
| 項目 | 再生内容 |
|---|---|
| **全画像** | カード内のすべての静止画、動画を再生します。 |
| **日付** | 選んだ撮影日の静止画、動画を再生します。 |
| **フォルダ** | 選んだフォルダ内にある静止画、動画を再生します。 |
| **動画** | カード内の動画だけを再生します。 |
| **静止画** | カード内の静止画だけを再生します。 |
| **プロテクト** | カード内のプロテクトされた静止画、動画だけを再生します。 |
| **★レーティング** | 選んだお気に入りマークが付いた静止画、動画を再生します。 |

### 3 再生内容を設定する

- ［**設定**］を選び〈(SET)〉を押します。
- 静止画の［**再生間隔**］と［**リピート**］（繰り返し再生）を設定します。
- 設定が終わったら、〈**MENU**〉ボタンを押します。

**再生間隔**

**リピート**




画像が再生されるカードは、［**1：記録機能とカード・フォルダ選択**］の［**記録・再生**］または［**再生**］で選択しているカードです。

## 4 スライドショーを開始する

- ［**スタート**］を選び〈SET〉を押します。
- ➡ ［**画像読み込み中...**］が表示されたあと、スライドショーが始まります。

## 5 スライドショーを終了する

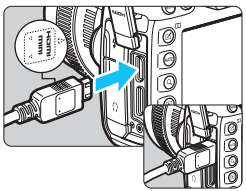
- 〈MENU〉ボタンを押すとスライドショーが終了し、設定画面に戻ります。

- 一時停止したいときは〈SET〉を押します。一時停止中は画面の左上に［II］が表示されます。再度〈SET〉を押すと再開します。
- 静止画を自動再生しているときに〈**INFO.**〉ボタンを押すと、表示形式を切り換えることができます（p.394）。
- 動画再生中に〈⚙〉を回すと、音量を調節することができます。
- 自動再生中、または一時停止中に〈◎〉を回すと、画像が切り換わります。
- 自動再生中にオートパワーオフ機能は働きません。
- 画像により表示時間が異なる場合があります。
- テレビでスライドショーを見るときは、432ページを参照してください。

# テレビで見る

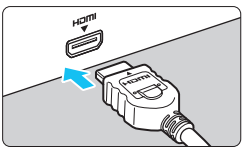
カメラとテレビをHDMIケーブル（別売）で接続して、撮影した静止画や動画をテレビで見ることができます。HDMIケーブルは、別売のHTC-100の使用をおすすめします。

なお、テレビに映像が表示されないときは、［**3：ビデオ方式**］の［**NTSC**］［**PAL**］の設定を確認してください（テレビが対応している方式に合わせてください）。



## 1 HDMIケーブルをカメラに接続する

- プラグの〈**▲HDMI MINI**〉がカメラの前面に向くようにして、〈**HDMI OUT**〉端子に差し込みます。

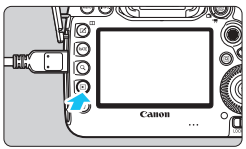


## 2 テレビにHDMIケーブルを接続する

- HDMIケーブルを、テレビのHDMI入力端子に接続します。

## 3 テレビの電源を入れ、テレビの入力切り換えで接続した端子を選ぶ

## 4 カメラの電源スイッチを〈ON〉にする



## 5 〈▶〉ボタンを押す

- ➡ 画像がテレビに表示されます（液晶モニターには何も表示されません）。
- 接続したテレビに合わせて、自動的に最適な解像度で画像が表示されます。
- 〈**INFO.**〉ボタンを押すと、表示形式を切り換えることができます。
- 動画の再生方法は、422ページを参照してください。

- カメラとテレビをHDMIケーブルで接続して、4K画質で撮影した動画を再生しても、フルHD画質で再生されます（4K画質での再生はできません）。
- 動画再生時の音量はテレビ側で調整します。カメラ側から音量の調整はできません。
- ケーブルの取り付け／取り外しを行うときは、カメラとテレビの電源を切った状態で行ってください。
- 使用するテレビにより、表示内容の一部が欠けて表示されることがあります。
- 他の機器からの出力をカメラの〈**HDMI OUT**〉端子に入力しないでください。故障の原因になります。
- テレビとの相性により、映像が表示されないことがあります。

## HDMI CEC対応のテレビについて

HDMI機器制御機能（HDMI CEC*）対応のテレビとカメラをHDMIケーブルで接続すると、テレビのリモコンで再生操作ができます。

* HDMI規格で決められた相互機器制御機能のことです。

### 1 ［HDMI機器制御］を選ぶ

- ［▶3］タブの［**HDMI機器制御**］を選び、〈SET〉を押します。

### 2 ［入］を選ぶ

### 3 テレビとカメラを接続する

- HDMIケーブルでテレビとカメラを接続します。

➡ テレビの入力がカメラを接続したHDMI端子に自動的に切り換わります。切り換わらないときは、テレビのリモコンなどを操作して、接続したHDMIの入力端子を選びます。

### 4 カメラの〈▶〉ボタンを押す

➡ テレビに画像が表示され、テレビのリモコンで再生操作ができるようになります。

### 5 画像を選ぶ

● リモコンをテレビに向けて ←/→ ボタンを押すと、画像を選ぶことができます。

### 6 リモコンの決定ボタンを押す

➡ メニューが表示され、左図に示す再生を行うことができます。

● ←/→ ボタンで項目を選び、決定ボタンを押します。スライドショー選択時は、↑/↓ボタンを押して項目を選び、決定ボタンを押します。

● [**戻る**] を選択し決定ボタンを押すと、メニューが消え、←/→ボタンで画像が選べるようになります。

**静止画再生メニュー**

**動画再生メニュー**

- ⮌ ：戻る
- ▦ ：9枚インデックス表示
- ▶ ：動画再生
- ：スライドショー
- **INFO.**：撮影情報の切り換え
- ：画像回転

2枚表示のときは（p.408）、テレビのリモコンで再生操作はできません。〈▣〉ボタンを押して、1枚表示にしてから操作してください。

- テレビによっては、HDMI機器制御機能を有効にする必要があります。詳しくは、テレビの使用説明書を参照してください。
- HDMI機器制御機能に対応したテレビでも、正しく操作できないことがあります。そのときは、[▶**3：HDMI機器制御**] を [**切**] にして、カメラ側で再生操作を行ってください。

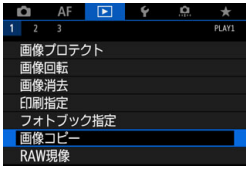
# コピーする

カードに記録されている画像を、もう一方のカードにコピー（複製保存）することができます。

**4GBを超える動画ファイルについて**

- カード間で画像をコピーする際、コピー先のカードがFAT32形式でフォーマットされているときは（p.74）、exFAT形式でフォーマットされたコピー元に記録されている4GBを超える動画ファイルはコピーできません。
- 4GBを超える動画ファイルは、カード1（[1]）とカード2（[2]）がexFAT形式でフォーマットされているときに、カード間でコピーすることができます。

## MENU 画像を1枚ずつ選んでコピーする




### 1 [画像コピー] を選ぶ

- [▶1] タブの [**画像コピー**] を選び、〈(SET)〉を押します。

### 2 [画像選択] を選ぶ

- コピー元のカード番号、コピー先のカード番号と空き容量を確認します。
- [**画像選択**] を選び〈(SET)〉を押します。

コピー元は、[**1：記録機能とカード・フォルダ選択**] の [**記録・再生**] または [**再生**] で選択しているカードです。

## 3 フォルダを選ぶ

- コピーしたい画像が入っているフォルダを選び、〈(SET)〉を押します。
- 画面右側に表示される画像を参考にして、フォルダを選びます。

➡ 選択したフォルダ内の画像が表示されます。

## 4 コピーする画像を選ぶ

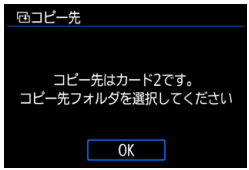
- 〈◯〉を回してコピーする画像を選び、〈(SET)〉を押します。

➡ 画面左上に［✓］が表示されます。

- 〈Q〉ボタンを押して〈☞〉を左に回していくと、3画像表示になります。右に回すと1枚表示に戻ります。
- 他にコピーしたい画像があるときは、手順4を繰り返します。

## 5 〈RATE〉ボタンを押す

- 画像を選び終わったら、〈**RATE**〉ボタンを押します。

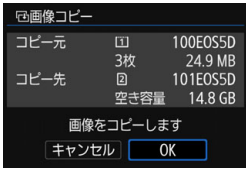



## 6 ［OK］を選ぶ

- コピー先のカードを確認して［**OK**］を選びます。

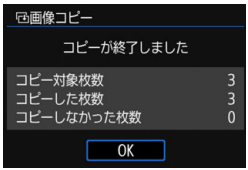
## 7 コピー先のフォルダを選ぶ

- 画像をコピー保存するフォルダを選び、〈(SET)〉を押します。
- [**フォルダ作成**]を選ぶと、新しいフォルダを作成することができます。




## 8 [OK]を選ぶ

- コピー元とコピー先の情報を確認して[OK]を選びます。




➡ コピーが始まり、コピー状況が表示されます。

- コピーが終了すると、結果が表示されます。[OK]を選ぶと手順2の画面に戻ります。

## MENU フォルダ内／カード内全画像コピー

フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめてコピーすることができます。

[▶1:**画像コピー**]の[■**選択**]または[**全画像**]を選ぶと、その中のすべての画像がコピーされます。

- コピー先のフォルダ／カードに、同じ画像番号の画像が記録されているときは、[**スキップしてコピー**]［**上書きコピー**］［**コピー中止**］が表示されます。コピー方法を選んで〈SET〉を押します。
  ・［**スキップしてコピー**］：画像番号が重複する画像だけコピーされません
  ・［**上書きコピー**］：画像番号が重複する画像は、コピー画像に書き換えられます（プロテクト画像を含む）
  なお、印刷指定（p.471）されている画像に対して上書きコピーを行ったときは、再度印刷指定を行ってください。
- ［■**選択**］［**全画像**］を選んだときに、フォルダ内、またはカード内にファイルサイズが4GBを超える動画ファイルが含まれていて、4GBを超える動画ファイルをコピー先にコピーできないときは、メッセージが表示されます。コピーを行うと、4GBを超える動画ファイル以外の画像がコピーされます。
- 印刷指定情報、画像転送情報、フォトブック指定情報はコピーされません。
- コピー実行中は撮影できません。［**キャンセル**］を選んでから撮影してください。

- オリジナルの画像と同じファイル名でコピーされます。
- ［**画像選択**］のときに、複数フォルダ内の画像を同時にコピーすることはできません。フォルダごとに画像を選んでコピーしてください。

# 消去する

不要な画像を1枚ずつ選んで消去したり、まとめて消去することができます。なお、プロテクト（p.412）をかけた画像は消去されません。

**消去した画像は復元できません。十分に確認してから消去してください。大切な画像は、誤って消去しないようプロテクトをかけてください。なお、RAW+JPEGで撮影した画像は、両方消去されます。**

## 1枚ずつ消去

### 1 消去する画像を選ぶ

- 〈▶〉ボタンを押して画像を再生します。
- 〈◯〉を回して消去する画像を選びます。

### 2 〈🗑〉ボタンを押す

➡ 消去メニューが表示されます。

### 3 消去する

- ［消去］を選び〈(SET)〉を押すと、表示されている画像が消去されます。

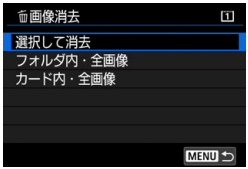
［📷4：画像消去の初期設定］を［**［消去］を選択**］に設定すると、画像を素早く消去することができます（p.492）。

## MENU チェック【✓】を付けてまとめて消去

消去したい画像にチェックを付けて、まとめて消去することができます。

### 1 [画像消去]を選ぶ

- [▶1]タブの[**画像消去**]を選び、〈SET〉を押します。

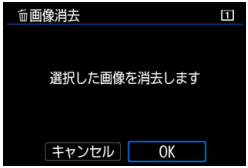



### 2 [選択して消去]を選ぶ

➡ 画像が表示されます。

### 3 消去する画像を選ぶ

- 〈◯〉を回して消去する画像を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 画面の左上に[✓]が表示されます。
- 〈Q〉ボタンを押して〈◯〉を左に回していくと、3画像表示になります。右に回すと1枚表示に戻ります。
- 他に消去したい画像があるときは、手順3を繰り返します。

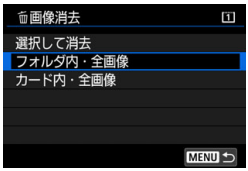



### 4 消去する

- 〈🗑〉ボタンを押して[OK]を選びます。
- ➡ 選択した画像がまとめて消去されます。

## MENU フォルダ内／カード内全画像消去

フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめて消去することができます。




［▶1：**画像消去**］で［**フォルダ内・全画像**］または［**カード内・全画像**］を選ぶと、その中のすべての画像が消去されます。

- プロテクトがかけられた画像も含めてすべて消去するときは、カード初期化を行います（p.73）。
- ［**カード内・全画像**］を選んだときに画像が消去されるカードは、［**1：記録機能とカード・フォルダ選択**］の［**記録・再生**］または［**再生**］で選択しているカードです。

# 再生に関する機能の設定を変更する

## MENU 液晶モニターの明るさを調整する

液晶モニターは、周囲の明るさに応じて見やすい明るさに自動調整されます。なお、自動調整時の明るさ（明るめ／暗め）を設定したり、手動で明るさを調整することもできます。

### 1 ［液晶の明るさ］を選ぶ

- ［2］タブの［**液晶の明るさ**］を選び、〈(SET)〉を押します。

### 2 ［自動］または［手動］を選ぶ

- 〈☁〉を回して選びます。

### 3 明るさを調整する

- グレーチャートを参考にして、〈◎〉を回して調整し〈(SET)〉を押します。
- ［**自動**］は3段階、［**手動**］は7段階に調整することができます。

**自動調整**

**手動調整**

［**自動**］のときは、サブ電子ダイヤルの左下にある丸い部分（外光センサー／p.29）を指などでふさがないようにしてください。

- 撮影した画像の露出を確認するときは、ヒストグラム（p.402）で確認することをおすすめします。
- 画像再生時に〈☼〉ボタンを押すと、手順2の画面が表示されます。
- 画像再生時に最後に再生した画像が、手順2の画面に表示されます。

## MENU 液晶モニターの色あいを設定する

液晶モニターの色調（色あい）を、標準的な色あいから、暖色系、寒色系の色あいに変更することができます。

### 1 [液晶の色調] を選ぶ

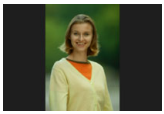
- [2] タブの [**液晶の色調**] を選び、〈(SET)〉を押します。

### 2 色調を選ぶ

- 液晶モニターに表示される画像を見ながら内容（1～4の番号）を選び、〈(SET)〉を押します。
- [**1：暖色**] [**2：標準**] [**3：寒色1**] [**4：寒色2**] から選ぶことができます。

画像再生時に最後に再生した画像が、手順2の画面に表示されます。

## MENU 縦位置で撮影した画像の自動回転表示の設定



縦位置で撮影した画像をカメラで再生したときや、パソコンで表示したときは、被写体が横向きで表示されないように、画像が自動回転して見やすい向きで表示されますが、この設定を変更することができます。

**1 ［縦位置画像回転表示］を選ぶ**

● ［1］タブの［**縦位置画像回転表示**］を選び、〈SET〉を押します。

**2 表示方法を設定する**

● 内容を選び〈SET〉を押します。

● **する**
　カメラで再生するときとパソコン画面で見るときに、自動回転させたいとき

● **する**
　パソコン画面で見るときだけ自動回転させたいとき

● **しない**
　自動回転させたくないとき

［**しない**］で撮影した画像は、［**する**］に設定して再生しても、自動回転表示は行われません。

● 撮影直後に表示される画像は、自動回転表示は行われません。
● カメラを上や下に向けて撮影すると、自動回転表示が正しく行われないことがあります。
● パソコンの画面で自動回転しないときは、使用しているソフトウェアが回転表示に対応していません。EOS用ソフトウェアの使用をおすすめします。

# 11

# 撮影した画像を加工する

この章では、RAW画像の現像、JPEG画像のリサイズ、JPEG画像のトリミングについて説明しています。

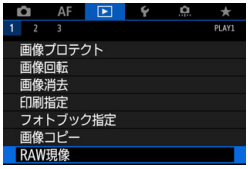
- ページタイトル右の 応用 は、〈**P**〉〈**Tv**〉〈**Av**〉〈**M**〉〈**B**〉モード限定の機能であることを示しています。

- 他のカメラで撮影した画像は、加工できないことがあります。
- カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続しているときは、この章で説明している画像の加工はできません。

# RAW JPEG↓ RAW画像をカメラで現像する 応用

RAWで撮影した画像をカメラで現像処理を行い、JPEG画像として保存することができます。RAW画像そのものは撮影時のまま何も変わりませんので、現像条件を変えたJPEG画像を何枚でも作ることができます。

**なお、M RAW、S RAWで撮影した画像はカメラで現像処理できません。**EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.598）で現像処理を行ってください。




## 1 ［RAW現像］を選ぶ

- ［▶1］タブの［**RAW現像**］を選び、〈(SET)〉を押します。
- ➡ RAWで撮影された画像が表示されます。

## 2 現像する画像を選ぶ

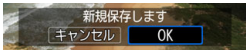
- 〈◯〉を回して現像処理を行う画像を選びます。
- 〈Q〉ボタンを押して〈⌓〉を左に回していくと、インデックス表示にして選ぶことができます。

## 3 現像条件を設定する

- 〈(SET)〉を押してしばらくすると、現像処理の項目（p.449）が表示されます。
- 〈✣〉で項目を選び〈◯〉または〈⌓〉を回すと、設定が切り換わります。
- ➡「明るさ補正」や「ホワイトバランス」などは、その設定が反映された画像が表示されます。
- 〈**INFO.**〉ボタンを押すと、撮影時の設定に戻ります。

### 設定画面について

- 〈SET〉を押すと、選択した項目の設定画面が表示されます。〈◯〉または〈☁〉を回して設定を変更します。〈SET〉を押すと設定され、元の画面に戻ります。




## 4 保存する

- [🖫]（保存）を選び〈SET〉を押します。
- [OK]を選ぶと、現像処理によって生成されたJPEG画像がカードに保存されます。
- 保存先のフォルダと画像番号を確認して[OK]を選びます。
- 他に現像処理を行いたい画像があるときは、手順2～4を繰り返します。

## 拡大表示について

手順3で〈Q〉ボタンを押すと、画像を拡大することができます。拡大率は、[▶1：RAW現像]の画面で設定した[記録画質]の設定により異なります。〈✥〉で拡大表示位置を変えることができます。

もう一度〈Q〉ボタンを押すと、拡大表示が終了します。

## アスペクト比を設定した画像について

[📷5：アスペクト比]（p.310）を[3：2]以外に設定して撮影した画像のときは、撮影範囲を示す線が表示されます。なお、RAW現像を行って生成したJPEG画像は、設定したアスペクト比で保存されます。

## DPRAW画像について

[📷1：DPRAW設定]を[する]に設定して撮影したRAW画像も（p.175）、このカメラでRAW現像を行うことはできますが、デュアルピクセル情報を活用した現像処理を行うことはできません。

RAW画質で撮影した多重露出画像を現像するときは、一部の項目の設定変更はできません。

## 現像処理の項目について

● **明るさ補正**
1/3段ステップ±1段の範囲で明るさを補正することができます。設定内容が反映された画像が表示されます。

● **ホワイトバランス**（p.192）
ホワイトバランスを選ぶことができます。［AWB］を選んだときは、〈**INFO.**〉ボタンを押すと、［**オート（雰囲気優先）**］［**オート（ホワイト優先）**］を選ぶことができます。［K］を選んだときは、〈**INFO.**〉ボタンを押すと、色温度を設定することができます。設定内容が反映された画像が表示されます。

● **ピクチャースタイル**（p.183）
ピクチャースタイルを選ぶことができます。〈**INFO.**〉ボタンを押すと、シャープネス、コントラストなどの調整を行うことができます。設定内容が反映された画像が表示されます。

● **オートライティングオプティマイザ**（p.201）
オートライティングオプティマイザの内容を設定することができます。設定内容が反映された画像が表示されます。

● **高感度撮影時のノイズ低減**（p.202）
ノイズ低減処理の内容を設定することができます。設定内容が反映された画像が表示されます。効果が分かりにくいときは、拡大表示（p.448）で確認してください。

● **L 記録画質**（p.169）
JPEG画像を生成する際の記録画質を設定することができます。

- sRGB **色空間**（p.217）
  sRGBとAdobe RGBが選択できます。カメラの液晶モニターはAdobe RGBに対応していないため、どちらを選んでも画像の見えかたはほとんど変わりません。

- **レンズ光学補正**
  - OFF **周辺光量補正**（p.207）
    レンズの特性によって画像の四隅が暗くなる現象を補正することができます。［**する**］を選ぶと補正された画像が表示されます。効果が分かりにくいときは、拡大表示（p.448）で画面の四隅を確認してください。なお、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.598）で最大補正を行ったときよりも、控えめに補正されます。補正効果が確認できないときは、Digital Photo Professionalで周辺光量補正を行ってください。
  - OFF **歪曲収差補正**（p.209）
    レンズの特性によって起こる画像の「ゆがみ」を補正することができます。［**する**］を選ぶと補正された画像が表示されます。なお、画像処理の都合上、画像の周辺部がカットされます。
    解像感が少し低下することがあるため、必要に応じてピクチャースタイルのシャープネスで調整してください。
  - OFF **デジタルレンズオプティマイザ**（p.210）
    レンズの収差、回折現象、ローパスフィルターに起因した解像劣化を、光学設計値を利用して補正することができます。［**する**］設定時の効果は拡大表示（p.448）で確認してください。画像全体を表示しているときはデジタルレンズオプティマイザの効果は表示されません。なお、［**する**］を選んだときは、色収差補正、回折補正の項目は表示されませんが、ともに［**する**］で現像されます。

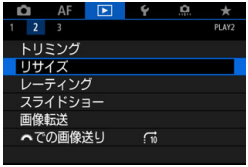
- **色収差補正**（p.211）
  レンズの特性によって起こる色収差（被写体の輪郭部分に現れる色ズレ）を補正することができます。［**する**］を選ぶと補正された画像が表示されます。効果が分かりにくいときは、拡大表示（p.448）で確認してください。
- **回折補正**（p.212）
  レンズの絞りの影響によって画像の先鋭さが低下する現象を補正することができます。［**する**］を選ぶと補正された画像が表示されます。効果が分かりにくいときは、拡大表示（p.448）で確認してください。

- カメラで行うRAW現像の結果と、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalで行うRAW現像の結果は、完全に同じにはなりません。
- ［**明るさ補正**］を行ったときは、補正効果とともにノイズや縞などが強調されることがあります。
- ［**デジタルレンズオプティマイザ**］設定時は、補正効果とともにノイズが強調されることがあります。また、撮影条件により画像に輪郭強調が強くかかることがあります。必要に応じてピクチャースタイルのシャープネスの調整を行ってください。
- ［**歪曲収差補正**］を［**する**］に設定して現像を行ったときは、AFフレーム表示用の情報（p.402）、ダストデリートデータ（p.460）は画像に付加されません。

- レンズ光学補正に対応しているレンズの補正用データは、カメラに登録（保存）されています。
- レンズ光学補正の効果は、使用レンズや撮影条件などにより異なります。また、使用レンズや撮影条件などにより、効果が分かりにくい場合があります。
- デジタルレンズオプティマイザ用の補正データについては、211ページを参照してください。

# JPEG画像をリサイズする

撮影したJPEG画像の画素数を少なくして、別画像として保存することができます。リサイズは、JPEGの**L**/**M**/**S1**/**S2**で撮影した画像で行うことができます。**JPEGのS3とRAWで撮影した画像、4K動画からフレーム切り出しを行い静止画として保存した画像は、リサイズできません。**

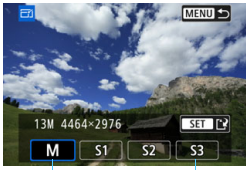



## 1 [リサイズ] を選ぶ

- [▶2] タブの [**リサイズ**] を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 画像が表示されます。

## 2 画像を選ぶ

- 〈◯〉を回してリサイズする画像を選びます。
- 〈Q〉ボタンを押して〈◯〉を左に回していくと、インデックス表示にして選ぶことができます。




リサイズするサイズ

## 3 画像サイズを選ぶ

- 〈SET〉を押すと、画像サイズが表示されます。
- リサイズする画像サイズを選び、〈SET〉を押します。

## 4 保存する

- [OK] を選ぶと、リサイズされた画像が保存されます。
- 保存先のフォルダと画像番号を確認して [OK] を選びます。
- 他にリサイズしたい画像があるときは、手順2～4を繰り返します。

### 撮影時の記録画質とリサイズできるサイズ

| 撮影時の記録画質 | リサイズできるサイズ | | | |
|---|---|---|---|---|
| | M | S1 | S2 | S3 |
| L | ○ | ○ | ○ | ○ |
| M | | ○ | ○ | ○ |
| S1 | | | ○ | ○ |
| S2 | | | | ○ |

## 画像サイズについて

リサイズした画像の画像サイズは下表のとおりです。

（約・画素）

| 記録画質 | フルサイズ（3：2） | 4：3（アスペクト） |
|---|---|---|
| M | 4464×2976（1330万） | 3968×2976（1180万） |
| S1 | 3360×2240（750万） | *2976×2240（670万） |
| S2 | 1920×1280（250万） | *1696×1280（220万） |
| S3 | 720×480（35万） | 640×480（31万） |

| 記録画質 | 16：9（アスペクト） | 1：1（アスペクト） |
|---|---|---|
| M | *4464×2512（1120万） | 2976×2976（890万） |
| S1 | *3360×1888（630万） | 2240×2240（500万） |
| S2 | 1920×1080（210万） | 1280×1280（160万） |
| S3 | *720×408（29万） | 480×480（23万） |

- 「*」印の付いた画像は、正確なアスペクト（縦横）比になりません。
- リサイズ条件により、画像がわずかにトリミングされることがあります。

# JPEG画像をトリミングする

撮影したJPEG画像を部分的に切り抜いて、別画像として保存することができます。トリミングは、JPEGの**L**/**M**/**S1**/**S2**で撮影した画像で行うことができます。**JPEGのS3とRAWで撮影した画像、4K動画からフレーム切り出しを行い静止画として保存した画像は、トリミングできません。**

## 1 ［トリミング］を選ぶ

- ［▶2］タブの［**トリミング**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 画像が表示されます。

## 2 画像を選ぶ

- 〈◎〉を回してトリミングする画像を選びます。
- 〈Q〉ボタンを押して〈⚙〉を左に回していくと、インデックス表示にして選ぶことができます。

## 3 トリミング枠の大きさ、アスペクト比、位置、縦横を設定する

- 〈SET〉を押すとトリミング枠が表示されます。
- 枠で囲まれた範囲が切り抜かれます。

- **枠の大きさを変える**

  〈⚙〉を回すと、枠の大きさが変わります。枠を小さくするほど拡大してトリミングされます。

- **枠のアスペクト比を変える**

  〈◎〉を回すと、枠のアスペクト比が変わります。［3：2］［16：9］［4：3］［1：1］から選ぶことができます。

● **枠を移動する**

〈✣〉を操作すると、枠が上下左右に移動します。好みの構図になるように枠を移動します。

● **枠の縦/横を切り換える**

〈**INFO.**〉ボタンを押すと、枠が縦長、横長に変わります。横位置で撮影した画像を、縦位置で撮影したようにトリミングすることもできます。

## 4 トリミング範囲を確認する

● 〈Q〉ボタンを押します。
➡ 切り抜かれる範囲が表示されます。
● もう一度〈Q〉ボタンを押すと、元の表示に戻ります。

## 5 保存する

● 〈(SET)〉を押して［OK］を選ぶと、トリミングされた画像が保存されます。
● 保存先のフォルダと画像番号を確認して［OK］を選びます。
● 他にトリミングしたい画像があるときは、手順2～5を繰り返します。

● トリミング保存した画像を再度トリミングしたり、リサイズすることはできません。
● トリミングを行った画像には、AFフレーム表示用の情報（p.402）、ダストデリートデータ（p.460）は付加されません。

**MEMO**

# 12

# 撮像素子の清掃

このカメラは、撮像素子の前面（ローパスフィルター）に付いたゴミを自動的に取り除く、セルフクリーニングセンサーユニットを搭載しています。

また、ダストデリートデータ（ゴミ消し情報）を画像に付加する機能により、除去しきれなかったゴミを、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.598）で、自動的に消去することができます。

**撮像素子の前面に付着する汚れについて**

撮像素子の前面には、外部から入り込むゴミの他に、ごくまれにカメラ内部の潤滑剤などが付着することがあります。撮像素子の自動清掃後に汚れが画像に写り込むときは、できるだけ別紙の修理お問合せ専用窓口に撮像素子の清掃をお申し付けください。

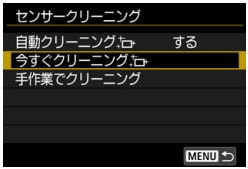
# 撮像素子の自動清掃

このカメラは、電源スイッチを〈**ON**〉にしたときと、〈**OFF**〉にしたときに、撮像素子前面に付いたゴミを自動的に取り除く、セルフクリーニングセンサーユニットが作動するようになっています。通常はこの機能を意識する必要はありませんが、任意に作動させたいときや、このユニットを作動させたくないときは、次のようにします。

## 任意に作動させて清掃する

**1** **［センサークリーニング］を選ぶ**

- ［3］タブの［**センサークリーニング**］を選び、〈(SET)〉を押します。




**2** **［今すぐクリーニング ］を選ぶ**

- ［**今すぐクリーニング** ］を選び〈(SET)〉を押します。
- ［OK］を選びます。

➡ クリーニング中を示す画面が表示され、清掃が行われます（小さな音が鳴ることがあります）。清掃中にシャッターの作動音がしますが、画像はカードに記録されません。

➡ クリーニングが終わると、自動的にカメラが再起動（電源OFF→ON）します。

- 効果的なゴミの除去を行うため、机の上などにカメラを置いて（底面が机に付いた状態で）清掃してください。
- 繰り返し清掃を行っても効果は大きく変わりません。清掃終了直後は、[**今すぐクリーニング**]が一時的に選べなくなります。
- 撮像素子が宇宙線などの影響を受けると、撮影画像に「輝点」が生じることがあります。[**今すぐクリーニング**]を行うと、輝点の発生が改善することがあります（p.571）。

## 自動清掃を行わないようにする

- 手順2で［**自動クリーニング**］を選び、［**しない**］を選びます。
- ➡ 電源スイッチを〈**ON**〉にしたときと〈**OFF**〉にしたときに、清掃が行われなくなります。

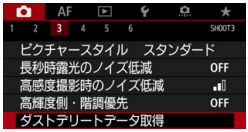
# MENU ゴミ消し情報を画像に付加する 応用

通常はセルフクリーニングセンサーユニットで、画像に写り込む可能性があるほとんどのゴミを除去することができますが、除去できなかったゴミがある場合に備えて、ゴミを消すための情報（ダストデリートデータ）を画像に付加することができます。付加された情報は、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.598）で、自動ゴミ消し処理を行うときに使われます。

## 事前準備

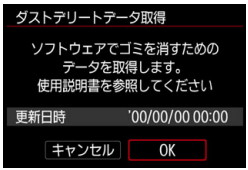
- 白い無地の被写体（白紙など）を用意する。
- レンズの焦点距離を50mm以上にする。
- レンズのフォーカスモードスイッチを〈**MF**〉にして、無限遠（∞）に設定する。距離目盛のないレンズは、正面から見てフォーカスリングを時計方向に突き当たるまで回す。

## ダストデリートデータを取得する



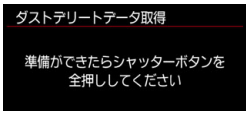

### 1 ［ダストデリートデータ取得］を選ぶ

- ［3］タブの［**ダストデリートデータ取得**］を選び、〈(SET)〉を押します。



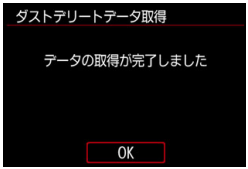

### 2 ［OK］を選ぶ

➡ 撮像素子の自動清掃が行われたあと、説明画面が表示されます。清掃中にシャッターの作動音がしますが、撮影は行われません。



### 3 真っ白な無地の被写体を撮影する

- 20～30cmの距離で、（模様などがない）真っ白な無地の被写体を画面いっぱいに入れて撮影します。
- ➡ 絞り優先AE、絞り数値F22で撮影されます。
- 画像は保存されませんので、カードが入っていなくてもデータを取得することができます。
- ➡ 撮影を行うと、データの取得が始まります。取得が終わると、完了画面が表示されます。
- データが取得できなかったときは、その内容の画面が表示されます。前ページの『事前準備』の内容を確認し、[OK]を選んだあと、もう一度撮影します。



## ダストデリートデータについて

ダストデリートデータを取得すると、そのあとで撮影したすべてのJPEG画像、RAW画像にデータが付加されます。大切な撮影をするときは、撮影の直前にデータの再取得（更新）を行ってください。

なお、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.598）による自動ゴミ消し処理については、Digital Photo Professional使用説明書（p.600）を参照してください。

画像に付加されるダストデリートデータの容量は、ごく小さいため、画像のファイルサイズにはほとんど影響しません。

未使用のコピー用紙など、必ず真っ白な無地の被写体を撮影してください。被写体に模様などがあると、その模様がゴミ情報として記録され、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional使用時に、正常なゴミ消し処理が行われないことがあります。

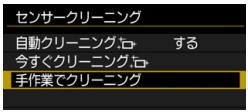
# MENU 手作業で撮像素子を清掃する 応用

撮像素子の自動清掃で取りきれないゴミやほこりがあったときに、市販品のブロアーなどを使用して、自分で清掃することができます。清掃を始める前にレンズを取り外してください。

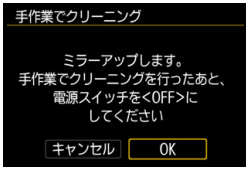
**撮像素子は非常にデリケートな部品です。直接清掃が必要なときは、できるだけ別紙の修理お問合せ専用窓口にお申し付けください。**

**1 [センサークリーニング] を選ぶ**

- [3] タブの [センサークリーニング] を選び、〈SET〉を押します。




**2 [手作業でクリーニング] を選ぶ**




**3 [OK] を選ぶ**

- ➡ 一瞬の間をおいたあと、ミラーが上がりシャッターが開きます。
- 表示パネルに「**CLn**」が点滅します。

**4 撮像素子を清掃する**

**5 清掃を終了する**

- 電源スイッチを〈**OFF**〉にします。

手作業で撮像素子を清掃するときは、必ずフル充電した電池を使用してください。

家庭用電源アクセサリー（別売／p.530）の使用をおすすめします。

- **清掃中は絶対に次のことを行わないでください。電源が切れてシャッターが閉じ、ミラーが下がるため、撮像素子やシャッター幕、ミラーが損傷する恐れがあります。**
  **・電源スイッチを〈OFF〉にする**
  **・電池を取り出す／入れる**
- 撮像素子の表面は非常にデリケートな部分です。細心の注意を払って清掃してください。
- ブロアーはブラシの付いていないものを使用してください。ブラシが撮像素子に触れると、撮像素子の表面に傷が付くことがあります。
- ブロアーはレンズマウント面より内側に入れないでください。電源が切れるとシャッターが閉じ、シャッター幕やミラーを破損する原因になります。
- 高圧の空気やガスを吹き付けて清掃しないでください。圧力により撮像素子が破損したり、吹き付けたガスが凍結することで、撮像素子の表面に傷が付くことがあります。
- 撮像素子の清掃中に電池の残量が少なくなると、警告のため電子音が鳴ります。作業を中止し、清掃を終了してください。
- ブロアーで除去できない汚れがあったときは、別紙の修理お問合せ専用窓口に撮像素子の清掃をお申し付けください。

# 13

# パソコンへの画像転送と印刷指定

- **パソコンに画像を送る**（p.466）
  カメラとパソコンをつないで、カメラを操作するだけで、カードに記録された画像をパソコンに送ることができます。
- **画像を印刷指定する／DPOF**（p.471）
  カードに記録されている画像の中から、印刷したい画像と印刷枚数などを指定することができるDPOF（Digital（デジタル） Print（プリント） Order（オーダー） Format（フォーマット））機能に対応しています。複数の画像を一度に印刷したいときや、写真店に印刷注文する際に使います。
- **フォトブックにする画像を指定する**（p.476）
  カードに記録されている画像の中から、フォトブックにする画像を指定することができます。

# パソコンに画像を送る

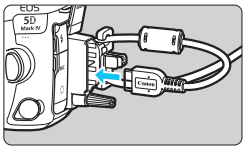
カメラとパソコンをつないで、カードに記録された画像をパソコンに送ることができます。この機能を「ダイレクト画像転送」といいます。

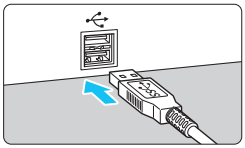
**画像転送の操作は、カメラの液晶モニターに表示される画面を見ながら、カメラ側で行います。**

パソコンに送られた画像は、パソコンの［**ピクチャ**］または［**マイピクチャ**］フォルダに、撮影日ごとのフォルダに分けられて保存されます。

**カメラとパソコンを接続する前に、EOS用ソフトウェアのEOS Utility**（p.598）**をパソコンにインストールしてください**（p.599）。

## 画像転送の準備



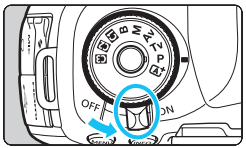


**1 カメラの電源スイッチを〈OFF〉にする**

**2 カメラとパソコンを接続する**

- カメラに付属のインターフェースケーブルを使用します。
- カメラ側を接続するときは、ケーブルプロテクターを使用し（p.38）、プラグの〈SS〉がカメラの背面に向くようにして、デジタル端子に差し込みます。
- パソコンのUSB端子にプラグを差し込みます。

付属または純正のインターフェースケーブルを使用してください（p.525）。なお、インターフェースケーブルを接続するときは、付属のケーブルプロテクターを使用してください（p.38）。




### 3 電源スイッチを〈ON〉にする

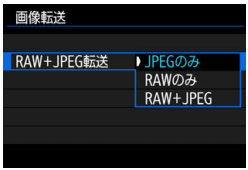
- パソコンに、プログラムを選択する画面が表示されたときは、[**EOS Utility**]を選びます。

➡ パソコンにEOS Utilityの画面が表示されます。

**EOS Utilityの画面が表示されたあと、EOS Utilityを操作しないでください。**
EOS Utilityのメイン画面以外が表示された状態では、469ページの手順5で［**ダイレクト転送**］が表示されません（パソコンへの画像転送ができません）。

- EOS Utilityの画面が表示されないときは、EOS Utility使用説明書（p.600）を参照してください。
- ケーブルを取り外すときは、カメラの電源を切ってからプラグの側面を持って引いてください。

## MENU RAW+JPEGで撮影した画像を転送するとき



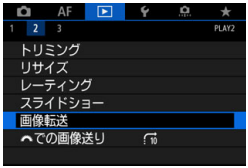

RAW+JPEGで撮影した画像は、どの画像を転送するかを設定することができます。

次ページの手順2で［**RAW+JPEG転送**］を選び、［**JPEGのみ**］［**RAWのみ**］［**RAW+JPEG**］から選びます。

［**RAW+JPEG転送**］の設定は、［**4：通信機能の設定**］→［**FTP転送の設定**］→［**転送画像サイズタイプ**］の［**RAW+JPEG転送**］の設定と連動して切り換わります。

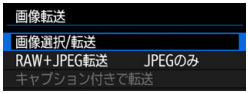
## MENU 転送する画像を選択する

● **画像選択**




**1 [画像転送] を選ぶ**

● [▶2] タブの [**画像転送**] を選び、〈(SET)〉を押します。



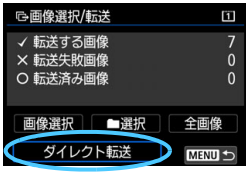

**2 [画像選択/転送] を選ぶ**

**3 [画像選択] を選ぶ**

**4 転送する画像を選ぶ**

● 〈◯〉を回して転送する画像を選び、〈(SET)〉を押します。
● 〈◯〉を回して画面の左上に［✓］を表示させ、〈(SET)〉を押します。
● 〈Q〉ボタンを押して〈▭〉を左に回していくと、3画像表示になります。右に回すと1枚表示に戻ります。
● 他に転送したい画像があるときは、手順4を繰り返します。

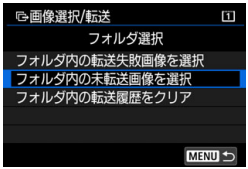
● [**画像選択**] を選んだときに、画面の左上に表示されるマークで転送履歴を確認することができます（マークなし：未選択画像、✓：転送する画像、×：転送失敗画像、○：転送済み画像）。
● 467ページの［**RAW+JPEG転送**］、および上記の手順1～4の操作は、カメラとパソコンが接続されていない状態でも行うことができます。




## 5 画像を転送する

- パソコンの画面にEOS Utilityのメイン画面が表示されていることを確認します。
- [**ダイレクト転送**]を選び〈(SET)〉を押します。
- 確認画面で[OK]を選ぶと、画像がパソコンに転送されます。
- [**選択**][**全画像**]で選択した画像も、この操作で転送します。

### ● 選択

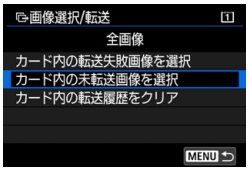



[**選択**]を選び、[**フォルダ内の未転送画像を選択**]を選びます。フォルダを選択すると、そのフォルダに入っている、パソコンに転送していないすべての画像が選択されます。

[**フォルダ内の転送失敗画像を選択**]を選ぶと、選択したフォルダに入っている、転送に失敗した画像が選択されます。

[**フォルダ内の転送履歴をクリア**]を選ぶと、選択したフォルダに入っている画像の転送履歴が消去されます。転送履歴を消去してから、[**フォルダ内の未転送画像を選択**]を選ぶと、フォルダに入っているすべての画像をもう一度転送することができます。

## ● 全画像




［**全画像**］を選び、［**カード内の未転送画像を選択**］を選ぶと、カードに記録されている、パソコンに転送していないすべての画像が選択されます。

［**カード内の転送失敗画像を選択**］［**カード内の転送履歴をクリア**］の内容は、前ページの「■**選択**」を参考にしてください。

- パソコンの画面にEOS Utilityのメイン画面以外が表示されているときは、［**ダイレクト転送**］は表示されません。
- 画像転送中は操作できないメニュー項目があります。

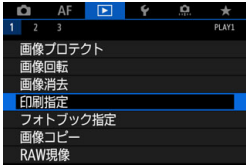
- 動画を転送することもできます。
- 画像転送中も撮影を行うことができます。
- ［**▶2：画像転送**］の［**キャプション付きで転送**］については、「Wi-Fi（無線通信）機能使用説明書」（p.4）を参照してください。

# 画像を印刷指定する／DPOF

カードに記録されている画像の中から、印刷したい画像と印刷枚数などを指定することができるDPOF（Digital Print Order Format）機能に対応しています。複数の画像を一度に印刷したいときや、写真店に印刷注文する際に使います。

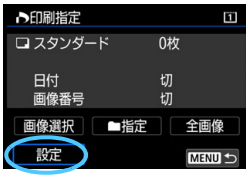
印刷タイプや日付、画像番号の入／切といった印刷内容の設定を行います。この設定は、印刷指定したすべての画像に対して、一律に適用されます（1画像ごとに別々の設定はできません）。

## 印刷内容を設定する




### 1 ［印刷指定］を選ぶ

- ［▶1］タブの［**印刷指定**］を選び、〈(SET)〉を押します。

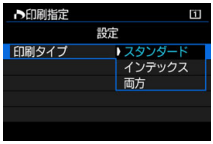



### 2 ［設定］を選ぶ

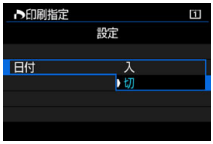
### 3 項目の内容を設定する

- ［**印刷タイプ**］［**日付**］［**画像番号**］の内容を設定します。
- 項目を選び〈(SET)〉を押します。内容を選び〈(SET)〉を押します。

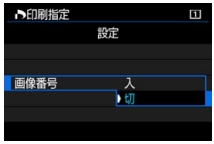
**印刷タイプ**




**日付**




**画像番号**



| | | | |
|---|---|---|---|
| 印刷タイプ | | スタンダード | 用紙1枚に1画像を印刷します。 |
| | | インデックス | 用紙1枚に縮小画像を複数印刷します。 |
| | | 両方 | スタンダードとインデックスの両方を印刷します。 |
| 日付 | 入 | | ［入］にすると、撮影画像に記録されている日付情報を入れて印刷します。 |
| | 切 | | |
| 画像番号 | 入 | | ［入］にすると、画像番号を付けて印刷します。 |
| | 切 | | |

### 4 設定を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押します。
  ➡ 印刷指定画面に戻ります。
- 次に印刷指定画面の［**画像選択**］［**指定**］［**全画像**］で、印刷する画像を指定します。

- RAW画像と動画は印刷指定できません。
- 画像サイズが大きい画像を［**インデックス**］［**両方**］の設定で印刷すると（p.471）、プリンターにより、インデックス印刷が行われないことがあります。そのときは、画像をリサイズしてから（p.452）インデックス印刷を行ってください。
- ［**日付**］［**画像番号**］を［**入**］にしても、印刷タイプの設定やプリンターにより、印刷されないことがあります。
- ［**インデックス**］に設定したときは、［**日付**］と［**画像番号**］を同時に［**入**］にできません。
- 印刷するときは、印刷指定を行ったカードを使用してください。画像データだけをカードから抜き出して印刷すると、指定した内容で印刷できません。
- DPOFに対応したプリンターの機種や、写真店の機器により、指定内容が反映されないことがあります。プリンターの場合は、プリンターの使用説明書を参照してください。写真店の場合は、事前にお店に確認してください。
- 他のカメラで印刷指定した画像を、このカメラに入れて再度印刷指定しないでください。印刷指定されている内容が、意図せずにすべて書き換えられることがあります。また、画像の種類により、印刷指定できないことがあります。

PictBridge（Wireless LAN）に対応したプリンターにWi-Fiで画像を送信して、印刷（ダイレクトプリント）することができます。詳しくは「Wi-Fi（無線通信）機能使用説明書」（p.4）を参照してください。

## 印刷する画像を指定する

### ● 画像選択

画像を1枚ずつ選んで指定します。

〈Q〉ボタンを押して〈◯〉を左に回していくと、3画像表示になります。右に回すと1枚表示に戻ります。

〈MENU〉ボタンを押すと、指定した内容がカードに保存されます。

指定枚数

総指定枚数

チェックマーク

インデックスマーク

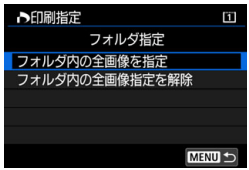
#### ● スタンダード／両方

〈SET〉を押すと、表示されている画像が1枚印刷指定されます。続けて〈◯〉を回すと、枚数を最大99枚に設定することができます。

#### ● インデックス

〈SET〉を押して［✓］を付けた画像が、インデックス印刷用の画像として指定されます。

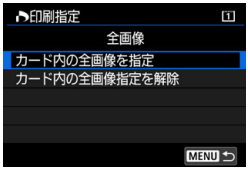
### ● ■指定




［**フォルダ内の全画像を指定**］を選び、フォルダを選択すると、フォルダ内のすべての画像が、1画像1枚で印刷指定されます。

なお、［**フォルダ内の全画像指定を解除**］を選び、フォルダを選択すると、フォルダ内の印刷指定がすべて解除されます。

## ● 全画像




［**カード内の全画像を指定**］を選ぶと、カードに記録されているすべての画像が、1画像1枚で印刷指定されます。

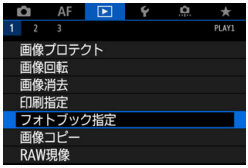
なお、［**カード内の全画像指定を解除**］を選ぶと、カード内の印刷指定がすべて解除されます。

- ■指定、全画像指定を行っても、RAW画像と動画は印刷指定されません。
- PictBridge（Wireless LAN）に対応したプリンターで印刷するときは、一度に印刷指定する画像の数を400画像以下にしてください。それ以上指定すると、すべての画像を印刷できないことがあります。

# フォトブックにする画像を指定する

フォトブックにする画像を指定（最大998枚）することができます。EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使ってパソコンに取り込むと、指定した画像が専用のフォルダにコピーされます。インターネットでフォトブックを注文するときに便利です。

## 画像を選択して1枚ずつ指定




### 1 ［フォトブック指定］を選ぶ

- ［▶1］タブの［**フォトブック指定**］を選び、〈(SET)〉を押します。

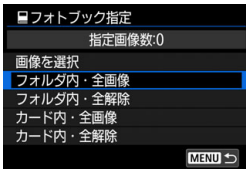
### 2 ［画像を選択］を選ぶ

### 3 指定する画像を選ぶ

- 〈◯〉を回して指定する画像を選び、〈(SET)〉を押します。
- 〈Q〉ボタンを押して〈▭〉を左に回していくと、3画像表示になります。右に回すと1枚表示に戻ります。
- 他に指定したい画像があるときは、手順3を繰り返します。

## フォルダ内／カード内全画像指定

フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめて指定することができます。




［▶1：**フォトブック指定**］で［**フォルダ内・全画像**］または［**カード内・全画像**］を選ぶと、その中のすべての画像が指定されます。

解除するときは［**フォルダ内・全解除**］または［**カード内・全解除**］を選びます。

- RAW画像と動画は指定できません。
- 他のカメラでフォトブック指定した画像を、このカメラに入れて再度フォトブック指定しないでください。フォトブック指定されている内容が、意図せずにすべて書き換えられることがあります。

**MEMO**

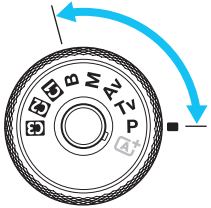
# 14

# カメラをカスタマイズする

撮影スタイルに応じて、カメラの機能を細かく変更したり、カメラのボタンやダイヤルの機能を変更することができます。この機能を「カスタム機能」「操作ボタンカスタマイズ」といいます。

また、カメラに設定されている内容を、〈C1〉〈C2〉〈C3〉モードに登録することができます。

なお、この章で説明する機能は、〈P〉〈Tv〉〈Av〉〈M〉〈B〉モードで設定・機能します。



# MENU カスタム機能一覧 応用

### 1：Exposure（露出）

| | | LV撮影 | 動画撮影 |
|---|---|---|---|
| 露出設定ステップ | p.482 | ○ | ○ |
| ISO感度設定ステップ | | ○ | **M**時 |
| ブラケティング自動解除 | p.483 | ○ | |
| ブラケティング順序 | | ○ | |
| ブラケティング時の撮影枚数 | p.484 | ○ | |
| セイフティシフト | p.485 | ○ | |
| 絞り数値変化時の露出維持 | p.486 | ○ | |

### 2：Exposure（露出）

| | | | |
|---|---|---|---|
| シャッター速度の制御範囲の設定 | p.488 | ○ | ○ |
| 絞り数値の制御範囲の設定 | | ○ | ○ |

▭ が付いたカスタム機能は、ライブビュー（LV）撮影時、または動画撮影時は機能しません（設定が無効になります）。

### 3：Disp/Operation（表示・操作）

| | | LV撮影 | 動画撮影 |
|---|---|---|---|
| ファインダー内警告の項目 | p.489 | | |
| ライブビュー撮影範囲表示 | p.490 | ○ | |
| Tv/Av値設定時のダイヤル回転 | | ○ | ○ |
| 操作ボタンカスタマイズ | | 設定により異なる | |

### 4：Others（その他）

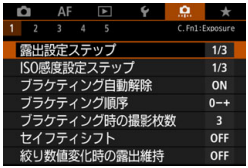
| | | | |
|---|---|---|---|
| トリミング情報の付加 | p.491 | ○ | |
| 画像消去の初期設定 | p.492 | （再生時） | |
| 電源オフ時のレンズ収納 | | ○ | ○ |
| IPTC情報の付加 | p.493 | ○ | |

### 5：Clear（解除）

［5：**カスタム機能（C.Fn）一括解除**］を選ぶと、設定されているカスタム機能がすべて解除されます。

［5：**カスタム機能（C.Fn）一括解除**］を行っても、［3：**操作ボタンカスタマイズ**］の設定内容は解除されません。また、［4：**IPTC情報の付加**］の登録内容も消去されませんが、設定は［**しない**］になります。

# MENU カスタム機能で変更できる内容 応用




撮影スタイルに応じて、[ ]タブでカメラの機能を細かく設定することができます。初期設定から変更した内容は、設定値が青色で表示されます。

## C.Fn1：Exposure（露出）

### 露出設定ステップ C.Fn1

**1/3：1/3段**

**1/2：1/2段**

シャッター速度と絞り数値、および露出補正、AEB、ストロボ調光補正などの設定ステップを1/2段ステップにすることができます。

［**1/2段**］設定時の露出レベル表示は図のようになります。

### ISO感度設定ステップ C.Fn1

**1/3：1/3段**

**1/1：1段**

ISO感度の手動設定ステップを1段ステップに変更することができます。

- ［**1段**］に設定しても、ISOオート設定時は1/3段ステップで自動設定されます。
- ［**1段**］設定時もISO32000に設定することができます。

## ブラケティング自動解除 C.Fn1

**ON：する**

電源スイッチを〈**OFF**〉にすると、AEB、WBブラケティングの設定が解除されます。また、ストロボ充電完了、動画撮影への切り換えでAEBの設定が解除されます。

**OFF：しない**

電源スイッチを〈**OFF**〉にしても、AEB、WBブラケティングの設定が解除されないようになります（ストロボ充電完了、動画撮影への切り換えでAEBは一旦解除されますが、設定したAEBレベルは記憶されています）。

## ブラケティング順序 C.Fn1

AEBの撮影順序と、WBブラケティング撮影時の画像の記録順序を変更することができます。

0−+：0→−→+

−0+：−→0→+

+0−：+→0→−

| AEB | WBブラケティング | |
|---|---|---|
| | B/A方向設定時 | M/G方向設定時 |
| 0：標準露出 | 0：基準ホワイトバランス | 0：基準ホワイトバランス |
| −：マイナス補正 | −：ブルー寄りに補正 | −：マゼンタ寄りに補正 |
| +：プラス補正 | +：アンバー寄りに補正 | +：グリーン寄りに補正 |

## ブラケティング時の撮影枚数 C.Fn1

AEB撮影、WBブラケティング撮影時の撮影枚数を、初期設定の3枚から、2枚/5枚/7枚に変更することができます。

なお、[.1：**ブラケティング順序**]を[**0→−→+**]に設定したときは、下表のように撮影されます。

**3：3枚**　　**5：5枚**

**2：2枚**　　**7：7枚**

（1段ステップ設定時）

| | 1枚目 | 2枚目 | 3枚目 | 4枚目 | 5枚目 | 6枚目 | 7枚目 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3：3枚 | 標準（0） | −1 | +1 | | | | |
| 2：2枚 | 標準（0） | ±1 | | | | | |
| 5：5枚 | 標準（0） | −2 | −1 | +1 | +2 | | |
| 7：7枚 | 標準（0） | −3 | −2 | −1 | +1 | +2 | +3 |

［**2枚**］設定時は、AEB レベルを設定するときに補正方向（＋または−）を選ぶことができます。WB ブラケティング設定時は、B/A 方向、または M/G 方向の補正になります。

## セイフティシフト C.Fn1

OFF：しない

Tv/Av：Tv値/Av値

〈**Tv**〉シャッター優先AE、〈**Av**〉絞り優先AEモードで機能します。被写体の明るさが変化して、自動露出で標準露出が得られる範囲を超えると、手動設定値をカメラが自動的に変更して、標準露出で撮影することができます。

ISO：ISO感度

〈**P**〉プログラムAE、〈**Tv**〉シャッター優先AE、〈**Av**〉絞り優先AEモードで機能します。被写体の明るさが変化して、自動露出で標準露出が得られる範囲を超えると、手動設定したISO感度をカメラが自動的に変更して、標準露出で撮影することができます。

- ［**ISO感度**］設定時は、〈**M**〉モードでAEB撮影を行ったときも機能します。
- ［**2：ISO感度に関する設定**］で、［**静止画撮影の範囲**］［**オートの低速限界**］が初期状態から変更されていても、標準露出が得られないときは、セイフティシフトが優先されます。
- ISO感度でセイフティシフトが行われたときの下限感度、上限感度は、［**オートの範囲**］の設定によります（p.181）。ただし、手動設定されているISO感度が［**オートの範囲**］を超えているときは、手動設定した感度までの範囲でセイフティシフトが行われます。
- ストロボ撮影時も状況に応じてセイフティシフトが行われます。

## 絞り数値変化時の露出維持 C.Fn1

〈**M**〉モード（マニュアル露出撮影）＋ISO感度任意設定時に（ISOオート設定時を除く）、①レンズを交換したとき、②エクステンダーを装着したとき、③開放絞り数値が変化するズームレンズを使用したときは、開放絞り数値が大きい数値（小絞り側）に変化することがあります。絞り開放の設定のまま撮影を行うと、開放絞り数値が暗くなった段数分、露出アンダー（露出不足）になりますが、ISO感度、またはシャッター速度（Tv値）を自動的に変更して、①②③を行う前と同じ露出で撮影することができます。

**OFF：しない**

露出を維持するための自動変更は行われません。設定したISO感度、シャッター速度、絞り数値で撮影されます。①②③を行って開放絞り数値が暗くなったときは、ISO感度、シャッター速度を調整してから撮影してください。

**ISO：ISO感度**

①②③を行うと、開放絞り数値が暗くなった段数分、ISO感度が自動的に高くなり、①②③を行う前と同じ露出で撮影することができます。なお、ISO感度は、［**静止画撮影の範囲**］で設定した範囲内で自動変更されます。

**ISO/Tv：ISO感度/Tv値**

①②③を行うと、開放絞り数値が暗くなった段数分、ISO感度が自動的に高くなります。ISO感度が［**静止画撮影の範囲**］で設定した範囲の上限に達したときは、さらにシャッター速度が自動的に遅くなり、①②③を行う前と同じ露出で撮影することができます。なお、シャッター速度は、［**2：シャッター速度の制御範囲の設定**］で設定した範囲内で自動変更されます。

**Tv：Tv値**

①②③を行うと、開放絞り数値が暗くなった段数分、シャッター速度が自動的に遅くなり、①②③を行う前と同じ露出で撮影することができます。なお、シャッター速度は、［**2：シャッター速度の制御範囲の設定**］で設定した範囲内で自動変更されます。

なお、この機能は、上記とは逆方向の「開放絞り数値が小さい数値（開放側）に変化したとき」も作用します。

- マクロレンズ使用時の（撮影倍率の変更による）実効絞り数値の変化には対応していません。
- 動画撮影時は機能しません。
- [**ISO感度**] 設定時に、[**静止画撮影の範囲**] で設定した範囲内で露出が維持できないときは、①②③を行う前と同じ露出になりません。
- [**Tv値**] 設定時に、[.**2：シャッター速度の制御範囲の設定**] で設定した範囲内で露出が維持できないときは、①②③を行う前と同じ露出になりません。
- ①②③を行い、露出維持が行われている状態で（電源スイッチを〈**OFF**〉にするなど）カメラの電源が切れたときは、基準となる露出が電源が切れた時の値に更新されます。

- この機能は最大絞り数値（最小絞り）の変化にも対応しています。
- [**ISO感度**] [**Tv値**] の設定で①②③を行ったあと、ISO感度、シャッター速度、絞り数値を任意に変更せずに①②③を行う前の状態に戻すと、露出設定が元の状態に戻ります。
- [**ISO感度**] 設定時に、拡張ISO感度に達したときは、露出維持のためシャッター速度が変化することがあります。

## C.Fn2：Exposure（露出）

### シャッター速度の制御範囲の設定 C.Fn2

シャッター速度の制御範囲を設定することができます。〈**Tv**〉〈**M**〉モードのときは、設定した範囲でシャッター速度を手動設定することができます。〈**P**〉〈**Av**〉モードのときは、設定した範囲でシャッター速度が自動設定されます（動画撮影時を除く）。［OK］を選ぶと設定されます。

**高速側**

1/8000～15秒の範囲で設定することができます。

**低速側**

30秒～1/4000秒の範囲で設定することができます。

### 絞り数値の制御範囲の設定 C.Fn2

絞り数値の制御範囲を設定することができます。〈**Av**〉〈**M**〉〈**B**〉モードのときは、設定した範囲で絞り数値を手動設定することができます（〈**B**〉モードは動画撮影時に絞り数値の手動設定不可）。〈**P**〉〈**Tv**〉モードのときは、設定した範囲で絞り数値が自動設定されます（動画撮影時を除く）。［OK］を選ぶと設定されます。

**小絞り側**

F91～F1.4の範囲で設定することができます。

**開放側**

F1.0～F64の範囲で設定することができます。

絞り数値の制御範囲は、使用するレンズの最小絞り数値と開放絞り数値により異なります。

## C.Fn3：Disp/Operation（表示・操作）

### ファインダー内❗警告の項目 C.Fn3

以下の機能が設定されているときに、ファインダー視野内と表示パネルに〈❗〉を表示することができます（p.31）。
警告表示を行う対象を選び、〈SET〉を押して［✓］を付けます。［OK］を選ぶと設定されます。

**モノクロ設定時**
ピクチャースタイルが［**モノクロ**］に設定されているときに（p.185）、警告表示が行われます。

**ホワイトバランス補正時**
ホワイトバランス補正が設定されているときに（p.198）、警告表示が行われます。

**ワンタッチ記録画質切り換え時**
ワンタッチ記録画質切り換え機能（p.507）で、記録画質が変更されているときに、警告表示が行われます。

**設定時**
［**3：高感度撮影時のノイズ低減**］が［**マルチショットノイズ低減機能**］に設定されているときに（p.202）、警告表示が行われます。

**HDR設定時**
［**3：HDRモード**］が設定されているときに（p.263）、警告表示が行われます。

［✓］を付けた機能を設定したときは、クイック設定画面（p.64）、クイック設定カスタマイズ画面（p.510）に表示される各設定項目にも〈❗〉が表示されます。

## ライブビュー撮影範囲表示 C.Fn3

ライブビュー撮影でアスペクト比（p.310）を、[**4:3**]［**16:9**］［**1:1**］に設定したときの、撮影範囲の表示方法を設定することができます。

**：マスクで表示**

**：線で表示**

## Tv/Av値設定時のダイヤル回転 C.Fn3

**：通常**

**：設定方向を反転**

シャッター速度、絞り数値設定時のダイヤルによる設定方向を反転させることができます。

撮影モードが〈**M**〉のときは〈〉〈〉、それ以外の撮影モードでは〈〉の設定方向が反転します。〈**M**〉モード時に〈〉を操作したときの設定方向と、〈**P**〉〈**Tv**〉〈**Av**〉モード時に〈〉を操作して露出補正を行ったときの設定方向が同じになります。

## 操作ボタンカスタマイズ C.Fn3

よく使う機能を、自分が操作しやすいボタンやダイヤルに割り当てることができます。詳しくは495ページを参照してください。

## C.Fn4：Others（その他）

### トリミング情報の付加 C.Fn4

トリミング情報の設定を行うと、ライブビュー撮影時に設定した比率に応じた縦線が画面に表示され、6×6cm、4×5inchなど、中判／大判カメラと同じ構図で撮影することができます。

撮影を行うと、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.598）でトリミングを行うための縦横比の情報が、画像に付加されます（トリミングされた画像が、カードに記録されるわけではありません）。

パソコンに画像を取り込み、Digital Photo Professionalを使用すると、撮影時に設定した縦横比で簡単にトリミングすることができます。

**OFF：しない**
**6:6 ：比率6：6**
**3:4 ：比率3：4**
**4:5 ：比率4：5（六切）**
**6:7：比率6：7**
**5:6：比率5：6（四切）**
**5:7：比率5：7**

- ［**5：アスペクト比**］が［**3：2**］以外に設定されているときは、トリミング情報は設定できません。
- ファインダー撮影時もトリミング情報が付加されますが、トリミング範囲は確認できません。
- トリミング情報が付加されたRAW画像をカメラで現像処理しても（p.446）、JPEG画像はトリミングされた状態では保存されません。RAW現像を行ったときは、トリミング情報が付加されたJPEG画像が保存されます。

## 画像消去の初期設定 C.Fn4

画像再生時や撮影直後の画像表示中に〈🗑〉ボタンを押すと、消去メニューが表示されますが（p.439）、そのときに［**キャンセル**］と［**消去**］のどちらが選択されているかを設定することができます。

［**消去**］に設定したときは、〈(SET)〉を押すだけで画像を素早く消去することができます。

**：［キャンセル］を選択**

**：［消去］を選択**

［**消去**］に設定したときは、画像を誤って消去しないように注意してください。

## 電源オフ時のレンズ収納 C.Fn4

ギアタイプのSTMレンズ（例：EF40mm F2.8 STM）をカメラに取り付けているときの、レンズ収納に関する設定です。カメラの電源スイッチを〈**OFF**〉にしたときに、前方に繰り出しているレンズを自動的に収納するかどうかを設定することができます。

**ON：する**

**OFF：しない**

- オートパワーオフのときは、設定に関わらずレンズは収納されません。
- レンズが収納されたことを確認してからレンズを取り外してください。

［**する**］設定時は、レンズのフォーカスモードスイッチの設定（AF/MF）に関わらず機能します。

## IPTC情報の付加 C.Fn4

EOS用ソフトウェアのEOS Utility（p.598）からカメラにIPTC（International Press Telecommunications Council）情報を登録すると、静止画（JPEG/RAW画像）撮影時に、IPTC情報を画像に記録（付加）することができます。IPTC情報を活用してファイル管理を行うときなどに有効です。

なお、**IPTC情報のカメラへの登録方法や、登録できる内容については、EOS Utility使用説明書**（p.600）**を参照してください。**

**OFF：しない**

画像にIPTC情報は記録されません。

**ON：する**

静止画撮影を行うと、カメラに登録されているIPTC情報が画像に記録されます。

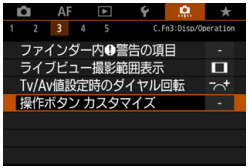
動画撮影時（MOV/MP4形式の動画）にIPTC情報は付加されません。

- 再生時にIPTC情報の有無を確認することができます（p.400）。
- EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.598）を使用すると、画像に記録されたIPTC情報の内容を確認することができます。
- ［**5：カスタム機能（C.Fn）一括解除**］を選んでも（p.481）、カメラに登録されているIPTC情報は消去されませんが、設定は［**しない**］になります。

**MEMO**

# 操作ボタンカスタマイズ 応用

よく使う機能を、自分が操作しやすいボタンやダイヤルに割り当てることができます。

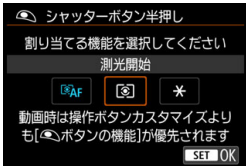



## 1 [操作ボタンカスタマイズ] を選ぶ

- [3] タブの [**操作ボタンカスタマイズ**] を選び、〈(SET)〉を押します。
- ➡ 操作部材の設定画面が表示されます。

## 2 操作部材を選ぶ

- 操作部材を選び〈(SET)〉を押します。
- ➡ 操作部材の名称と、割り当てできる機能が表示されます。
- ➡ 画面左側のイラストで操作部材の位置を確認することができます。




## 3 機能を割り当てる

- 機能を選び〈(SET)〉を押します。
- 画面左下に **INFO.** マークが表示される機能は、〈**INFO.**〉ボタンを押すと、さらに詳細設定を行うことができます。

## 4 設定を終了する

- 〈(SET)〉を押して設定が終了すると、手順2の画面に戻ります。
- 〈**MENU**〉ボタンを押して設定を終了します。

手順2の画面で〈🗑〉ボタンを押すと、設定内容を初期化することができます。なお、[3：**操作ボタンカスタマイズ**] の設定は、[5：**カスタム機能 (C.Fn) 一括解除**] を選んでも解除されません。

## 操作部材に対して割り当てできる機能の一覧

| | | 機能 | 参照頁 | | AF-ON | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| AF | AF | 測光・AF開始 | 500 | ○ | ○*1 | ○*1 |
| | AF-OFF | AF停止 | 501 | | ○ | ○ |
| | AF↔ | 登録AF機能に切り換え | 502 | | | |
| | ONE SHOT SERVO↔ | ワンショット⇄AIサーボ/サーボ | | | ○*3 | ○*3 |
| | □HP | 登録AFフレームに切り換え | 503 | | | |
| | SEL↔HP | 選択⇄中央/登録AFフレーム切り換え | | | | |
| | | AFフレームダイレクト選択 | | | | |
| | | 測距エリアダイレクト選択 | 504 | | | |
| | SERVO AF | 動画サーボAF一時停止 | | | | |
| 露出 | | 測光開始 | 504 | ○ | | |
| | ✳ | AEロック | | | ○ | ○ |
| | ✳ | AEロック（押している間） | | ○ | | |
| | ✳H | AEロック（ホールド） | 505 | | ○ | ○ |
| | ✳AF-OFF | AEロック・AF停止 | | | ○ | ○ |
| | FEL | FEロック | | | ○ | ○ |
| | ISO | ISO感度設定（押しながら） | | | | |
| | ISO | ISO感度設定（押しながら） | | | | |
| | ISO | ISO感度設定（測光中） | 506 | | | |
| | ± | 露出補正（押しながら） | | | | |
| | ± | 露出補正（押しながら） | | | | |
| | Tv | Mモード時、シャッター速度変更 | | | | |
| | Av | Mモード時、絞り数値変更 | | | | |

| | LENS | M-Fn | SET | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | ○ | | | | | | |
| ○ | ○ | | | | | | |
| ○*2 | ○*2 | | | | | | |
| ○*3 | ○*3 | | | | | | |
| ○*4 | ○*4 | | | | | | |
| | | | | | | | ○*5 |
| | | | | | ○*6 | ○*7 | |
| | | | | | | | ○ |
| ○ | | | ○ | | | | |
| | | | | | | | |
| ○ | ○ | ○ | | | | | ○ |
| | | | | | | | |
| ○ | ○ | ○ | | | | | ○ |
| | | | | | | | |
| ○ | | ○ | | | | | |
| | | | ○ | | | | |
| | | | | | | | ○ |
| | | | | | ○ | | |
| | | | ○ | | | | |
| | | | | | | | ○ |
| | | | | ○ | ○ | | |
| | | | | ○ | ○ | | |

〈LENS〉は、手ブレ補正機能付きの超望遠レンズに装備されている「AFストップボタン」を表しています。

| | | 機能 | 参照頁 | | AF-ON | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 画像 | RAW JPEG | ワンタッチ記録画質切換 | 507 | | | |
| | RAW JPEG H | ワンタッチ記録画質切換（ホールド） | | | | |
| | | 記録画質選択 | | | | |
| | | ピクチャースタイル選択 | 508 | | | |
| 操作 | | 絞り込み | 508 | | | |
| | | 手ブレ補正機能作動 | | | | |
| | MENU | メニュー表示 | | | | |
| | | 撮影機能の登録と呼出 | | | ○*9 | ○*9 |
| | UNLOCK | 押している間、ロック解除 | 509 | | | |
| | | 動画撮影開始（設定時有効） | | | | |
| | | 画像の再生 | | | | |
| | | 拡大/縮小（SETボタン+） | | | | |
| | | ・ISO／DRIVE•AF／WB•切換 | | | | |
| | | ストロボ機能設定 | | | | |
| | OFF | 無効 | | | ○ | ○ |

| | LENS | M-Fn | SET | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ○*8 | | ○*8 | | | | | |
| ○*8 | | ○*8 | | | | | |
| | | | ○ | | | | |
| | | | ○ | | | | |
| ○ | | | ○ | | | | |
| ○ | ○ | | | | | | |
| | | | ○ | | | | |
| | | | | | | | |
| ○ | | | | | | | |
| ○ | | ○ | ○ | | | | |
| | | | ○ | | | | |
| | | | ○ | | | | |
| | | ○ | | | | | |
| | | | ○ | | | | |
| ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

〈LENS〉は、手ブレ補正機能付きの超望遠レンズに装備されている「AFストップボタン」を表しています。

## AF

### AF：測光・AF開始

この機能を割り当てたボタンを押すと、測光とAFを行います。

*1：〈AF-ON〉ボタン、〈✱〉ボタンのときは、設定画面で〈**INFO.**〉ボタンを押すと、AF機能の詳細設定を行うことができます。撮影時に〈AF-ON〉ボタン、または〈✱〉ボタンを押すと、設定した内容でAFが行われます。

● **AF開始位置**

［**登録AFフレーム**］に設定したときは、〈**AF-ON**〉ボタンまたは〈✱〉ボタンを押すと、登録したAFフレームに切り換わります。

**【AFフレームの登録方法】**

① 測距エリア選択モードを、スポット1点AF／1点AF／領域拡大AF（任意選択）／領域拡大AF（任意選択周囲）／自動選択AFの中から選びます。ゾーンAF、ラージゾーンAFは登録できません。

② AFフレームを任意選択します。

③〈⊞〉ボタンを押しながら〈☼〉ボタンを押すと、"ピッ"という音がしてAFフレームが登録され、登録したAFフレームが点滅します。

● AFフレーム登録時に表示される内容は次のとおりです。
・自動選択AF：**[ ] HP**（HP: Home Position）
・スポット1点AF、1点AF、領域拡大AF（任意選択）、領域拡大AF（任意選択周囲）：**SEL [ ]**（中央）／**SEL HP**（中央以外）

● 登録したAFフレームを解除するときは、〈⊞〉ボタンを押しながら〈ISO〉ボタンを押します。［**5：カメラ設定初期化**］を選んだときも、登録したAFフレームが解除されます。

- **AIサーボAF特性**（p.127）
  〈AF-ON〉ボタンまたは〈✳〉ボタンを押すと、設定した［**Case1**］～［**Case6**］の特性でAFが行われます。
- **AF動作**（p.100）
  〈AF-ON〉ボタンまたは〈✳〉ボタンを押すと、設定したAF動作でAFが行われます。
- **測距エリア選択モード**（p.104）
  〈AF-ON〉ボタンまたは〈✳〉ボタンを押すと、設定した測距エリア選択モードでAFが行われます。

なお、〈AF-ON〉ボタンまたは〈✳〉ボタンを押したときに、そのとき選択しているAFフレームを使用したいときは［**AF開始位置**］を［**選択AFフレーム**］、そのとき設定されているAIサーボAF特性、AF動作、測距エリア選択モードを維持したいときは［**現在の設定を変更しない**］を選びます。

- ［**AF4：縦位置/横位置のAFフレーム設定**］を［**別々に設定：エリア+フレーム**］［**別々に設定：フレーム**］に設定しているときは、縦位置撮影（グリップ上/下）、横位置撮影に使用するAFフレームを別々に登録することができます。
- ［**AF開始位置**］の［**登録AFフレーム**］と［**測距エリア選択モード**］を同時に設定したときは、［**登録AFフレーム**］の設定が優先されます。

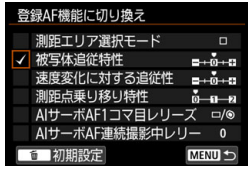
### AF-OFF：AF停止

この機能を割り当てたボタンを押している間、AFを停止します。AIサーボAF中にAFを停止したいときなどに有効です。

### AF↔：登録AF機能に切り換え

「測距エリア選択モード（p.104）」、「被写体追従特性（p.132）」、「速度変化に対する追従性（p.133）」、「測距点乗り移り特性（p.134）」「AIサーボAF1 コマ目レリーズ（p.136）」、「AIサーボAF連続撮影中レリーズ（p.137）」を設定し、絞り込みボタン、またはレンズのAFストップボタンを押している間だけ、その設定内容でAFを行うことができます。AIサーボAF中にAF特性を変えたいときに有効です。

*2：設定画面で〈**INFO.**〉ボタンを押すと、詳細設定画面が表示されます。〈◯〉または〈☆〉を回して項目を選び、〈(SET)〉で［✓］を付けます。項目名を選び〈(SET)〉を押すと、機能の内容を設定することができます。〈🗑〉ボタンを押すと、設定を初期状態にすることができます。




### ONE SHOT SERVO↔：ワンショット⇄AIサーボ/サーボ

AF方式を切り換えることができます。ワンショットAF時に、この機能を割り当てたボタンを押すと、AIサーボAF/サーボAFになり、AIサーボAF/サーボAF時に押すと、ワンショットAFになります。移動／停止を繰り返す被写体で、ワンショットAF、AIサーボAF/サーボAFを交互に切り換えたいときに有効です。

*3：設定画面で〈**INFO.**〉ボタンを押すと、［**押している間だけ切り換え**］［**もう一度押すまで切り換え保持**］を選択することができます。

ライブビュー撮影時にマルチショットノイズ低減機能が設定されているときは、機能しません。

### □+ HP：登録AFフレームに切り換え

測光タイマー作動中に、絞り込みボタン、またはレンズのAFストップボタンを押すと、登録したAFフレームに切り換えることができます。

*4：設定画面で〈**INFO.**〉ボタンを押すと、［**押している間だけ切り換え**］［**もう一度押すまで切り換え保持**］を選択することができます。AFフレームの登録方法については、500ページを参照してください。

### SEL□ HP：選択⇄中央/登録AFフレーム切り換え

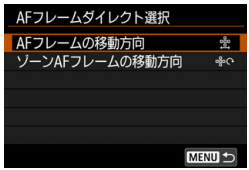
測光タイマー作動中に〈◆〉（測距エリア選択）ボタンを押すと、現在選択されているAFフレームと中央のAFフレーム、または登録したAFフレームに切り換えることができます。

*5：設定画面で〈**INFO.**〉ボタンを押すと、［**中央AFフレームに切り換え**］［**登録AFフレームに切り換え**］を選択することができます。AFフレームの登録方法については、500ページを参照してください。

### ⊞：AFフレームダイレクト選択

測光タイマーが作動中であれば、〈⊞〉ボタンを押さずに、〈◯〉または〈✣〉で直接AFフレームを選択することができます。

*6：サブ電子ダイヤルの設定画面で〈**INFO.**〉を押すと、〈◯〉を操作したときのAFフレームの移動方向を設定することができます。［**AFフレームの移動方向**］の［**横方向**］［**縦方向**］の設定は、スポット1点AF／1点AF／領域拡大AF（任意選択✣）／領域拡大AF（任意選択周囲）時に、［**ゾーンAFフレームの移動方向**］の［**循環**］［**横方向**］［**縦方向**］の設定は、ゾーンAF時に機能します。




*7：マルチコントローラーの設定画面で〈**INFO.**〉ボタンを押すと、〈✣〉の中央を押したときのAFフレームの切り換えを［**中央AFフレームに切り換え**］［**登録AFフレームに切り換え**］から選択することができます。AFフレームの登録方法については、500ページを参照してください。

〈◯〉に［**AFフレームダイレクト選択**］を割り当てたときに、〈**M**〉モードで絞り数値を変更するときは、〈✱〉ボタンを押しながら〈⚙〉を回します。

### ：測距エリアダイレクト選択

測光タイマーが作動中であれば、〈⊞〉ボタンを押さずに〈◈〉（測距エリア選択）ボタンで直接測距エリア選択モードを選ぶことができます。

### SERVO AF：動画サーボAF一時停止

動画サーボAF作動中に絞り込みボタン、または〈(SET)〉を押すと、AFを一時停止することができます。もう一度押すと動画サーボAFが再開します。

## 露出

### ：測光開始

シャッターボタンを半押しすると、測光が行われます（AFは行われません）。

### ✳：AEロック

この機能を割り当てたボタンを押すと、測光タイマーが作動している間、露出が固定されます（AEロック）。ピントと露出を別々に決めたいときに有効です。

### ✳：AEロック（押している間）

シャッターボタンを押している間、露出が固定されます（AEロック）。

［**AEロック（押している間）**］をシャッターボタンに割り当てたときは、［**AEロック**］［**AEロック（ホールド）**］を割り当てたボタンも［**AEロック（押している間）**］で動作します。

### ✳H：AEロック（ホールド）

この機能を割り当てたボタンを押すと、露出が固定されます（AEロック）。もう一度この機能を割り当てたボタンを押すまで、AEロックが継続します。ピントと露出を別々に決めたいときや、同じ露出で何枚も撮影するときに有効です。

### ✳AF-OFF：AEロック・AF停止

この機能を割り当てたボタンを押すと、露出が固定（AEロック）され、AFが停止します。AIサーボAF中にAFの停止と同時にAEロックを行いたいときなどに有効です。

### FEL：FEロック

ストロボ撮影時にこの機能を割り当てたボタンを押すと、ストロボがプリ発光して撮影に必要な発光量を記憶（FEロック）します。

### ISO：ISO感度設定（押しながら）

〈(SET)〉を押しながら〈 〉を回すと、ISO感度を設定することができます（静止画撮影時のみ）。ISOオートのときに操作すると、ISO感度を手動設定することができます。測光タイマー（⏱4）が終了すると、ISOオートに戻ります。なお、〈**M**〉モードのときにこの機能を使用すると、設定したシャッター速度、絞り数値を保持したまま、ISO感度による露出調整を行うことができます。

### ISO：ISO感度設定（押しながら）

〈 〉（測距エリア選択）ボタンを押しながら〈 〉を回すと、ISO感度を設定することができます（静止画撮影時のみ）。設定できる内容は［**ISO：ISO感度設定（押しながら）**］と同じです。

［**ISO：ISO感度設定（押しながら）**］［**ISO：ISO感度設定（押しながら）**］に設定しても、動画撮影時は機能しません。

### ISO：ISO感度設定（測光中）

測光タイマー作動中に〈◎〉を回すと、ISO感度を設定することができます。ISOオートのときに操作すると、ISO感度を手動設定することができます（測光タイマー（⏱4）が終了しても、ISOオートには戻りません）。なお、〈**M**〉モードのときにこの機能を使用すると、設定したシャッター速度、絞り数値を保持したまま、ISO感度による露出調整を行うことができます。

### ：露出補正（押しながら）

〈(SET)〉を押しながら〈◎〉を回すと、露出補正を行うことができます。〈**M**〉マニュアル露出＋ISOオート設定時に露出補正を行いたいときに効果的です。

### ：露出補正（押しながら）

〈◆〉（測距エリア選択）ボタンを押しながら〈◎〉を回すと、露出補正を行うことができます。〈**M**〉マニュアル露出＋ISOオート設定時に露出補正を行いたいときに効果的です。

［ISO：ISO感度設定（押しながら）］（p.505）、［：露出補正（押しながら）］の操作は、〈LOCK▶〉スイッチが右側（マルチ電子ロック／p.62）でも行うことができます。

### Tv：Mモード時、シャッター速度変更

〈**M**〉マニュアル露出時に、〈◎〉または〈◎〉でシャッター速度を設定することができます。

### Av：Mモード時、絞り数値変更

〈**M**〉マニュアル露出時に、〈◎〉または〈◎〉で絞り数値を設定することができます。

## 画像

### RAW JPEG：ワンタッチ記録画質切換

絞り込みボタン、または〈M-Fn〉ボタンを押すと、ここで設定した記録画質に切り換えて撮影することができます。なお、[**ファインダー内表示設定**]で[**記録画質**]に[✓]が付いているときは（p.84）、ファインダー内の記録画質（画像タイプ：JPEG/RAW）が点滅します。撮影が終了すると切り換えが自動解除され、元の記録画質に戻ります。

*8：設定画面で〈**INFO.**〉ボタンを押すと、切り換える記録画質を設定することができます。

### RAW JPEG H：ワンタッチ記録画質切換（ホールド）

絞り込みボタン、または〈M-Fn〉ボタンを押すと、ここで設定した記録画質に切り換えて撮影することができます。なお、[**ファインダー内表示設定**]で[**記録画質**]に[✓]が付いているときは（p.84）、ファインダー内の記録画質（画像タイプ：JPEG/RAW）が点滅します。撮影を行っても、切り換えは自動解除されません。もう一度この機能を割り当てたボタンを押すと、元の記録画質に戻ります。

*8：設定画面で〈**INFO.**〉ボタンを押すと、切り換える記録画質を設定することができます。

[**ワンタッチ記録画質切換**]［**ワンタッチ記録画質切換（ホールド）**]で、切り換える記録画質をRAW、RAW+JPEGに設定したときは、切り換えを行ったときに[**マルチショットノイズ低減機能**]（p.202）は解除されます。[**3：高感度撮影時のノイズ低減**]は[**標準**]の設定で撮影されます。

ワンタッチ記録画質切り換え中に、ファインダー内と表示パネルに〈⚠〉を表示することができます（p.489）。

### ：記録画質選択

〈SET〉を押すと、液晶モニターに記録画質設定画面（p.169）が表示されます。

### : ピクチャースタイル選択

〈(SET)〉を押すと、液晶モニターにピクチャースタイル選択画面（p.183）が表示されます。

## 操作

### : 絞り込み

絞り込みボタン、または〈(SET)〉を押すと絞り込みが行われ、被写界深度を確認することができます（p.250）。

### : 手ブレ補正機能作動

レンズの手ブレ補正スイッチが〈**ON**〉のときに、絞り込みボタン、またはレンズのAFストップボタンを押すと、手ブレ補正機能が作動します。

### MENU : メニュー表示

〈(SET)〉を押すと、液晶モニターにメニュー画面が表示されます。

### : 撮影機能の登録と呼出

シャッター速度、絞り数値、ISO感度、測光モード、測距エリア選択モードなどの主要な撮影機能を任意に設定して、カメラに登録することができます。〈**AF-ON**〉ボタン、または〈✱〉ボタンを押すと、押している間だけ、登録した撮影機能を呼び出して撮影することができます。

*9：設定画面で〈**INFO.**〉ボタンを押すと、詳細設定画面が表示されます。〈◯〉または〈⬭〉を回して項目を選び、〈(SET)〉で［✓］を付けます。項目名を選び〈(SET)〉を押すと、機能の内容を設定することができます。〈🗑〉ボタンを押すと、設定を初期状態にすることができます。
なお、［**現在の設定内容を登録**］を選ぶと、現在カメラに設定されている内容を登録することができます。AFフレームの登録方法については、500ページを参照してください。

**UNLOCK：押している間、ロック解除**

〈LOCK▶〉スイッチが右側の状態でも、絞り込みボタンを押している間だけ、[**5：マルチ電子ロック**]（p.90）で制限した部材を操作することができます。

**：動画撮影開始（設定時有効）**

動画撮影時にこの機能を割り当てたボタンを押すと、動画撮影が始まります。もう一度押すと、動画撮影が終了します。

**：画像の再生**

〈SET〉を押すと、画像が再生されます。

**：拡大/縮小（SETボタン+）**

〈SET〉を押すと、カードに記録されている画像を拡大／縮小表示することができます（p.406）。また、ライブビュー撮影時、動画撮影時に映像を拡大表示することができます（p.325、329）。

**：ISO／DRIVE･AF／WB･切換**

〈M-Fn〉ボタンを押すたびに、ISO→DRIVE･AF→WB･の順で設定できる内容が切り換わります。

**：ストロボ機能設定**

〈SET〉を押すと、ストロボ機能設定（p.291）の画面が表示されます。

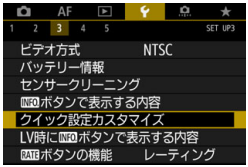
**OFF：無効**

ボタンに機能を割り当てないときに設定します。

# クイック設定カスタマイズ

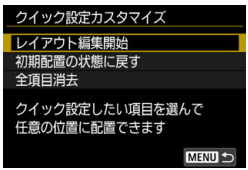
クイック設定画面（p.64）では、あらかじめ決められた撮影機能の項目が表示されますが、画面に表示したい項目を任意に選んでレイアウトすることができます。この機能を「クイック設定カスタマイズ」といいます。

なお、本ページではクイック設定カスタマイズ画面のレイアウト方法を説明しています。クイック設定の操作方法は64ページ、クイック設定カスタマイズ画面の表示方法については86ページを参照してください。

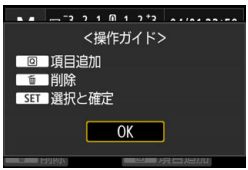



## 1 ［クイック設定カスタマイズ］を選ぶ

● ［3］タブの［**クイック設定カスタマイズ**］を選び、〈(SET)〉を押します。




## 2 ［レイアウト編集開始］を選ぶ




## 3 操作方法を確認して［OK］を選ぶ

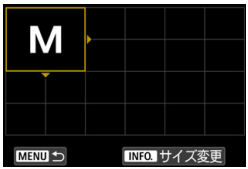
- Q ：項目追加
- 🗑 ：削除
- SET ：選択と確定

● 初期状態では、図に示す項目が配置されています。

## 4 項目を追加する

- 〈Q〉ボタンを押します。
- 〈◯〉または〈✣〉を操作して追加する項目を選び、〈SET〉を押します。
- 不要な項目を削除するときは、項目を選んだ状態で〈🗑〉ボタンを押すか、手順2で［**全項目消去**］を選びます。

- 表示サイズが選べる項目のときは、さらに〈◯〉または〈✣〉を操作してサイズを選び、〈SET〉を押します。
- 配置できる項目とサイズについては、513ページを参照してください。




## 5 項目を配置する

- 〈☜〉〈◯〉または〈✣〉を操作して、追加する項目（辺に三角が付いた枠）を配置したい位置に移動します。
- サイズを変更したいときは、〈**INFO.**〉ボタンを押して変更します。
- 〈SET〉を押すと配置されます。なお、配置する位置に項目があるときは、上書き配置（削除）されます。
- 配置する位置を変更するときは、項目を選び〈SET〉を押すと、移動することができます。

初期状態で配置されている項目をすべて削除してからレイアウトしたいときは、手順2で［**全項目消去**］を選んでから、手順4以降の操作を行います。

**配置例**

**画面例**

- 手順4、5を繰り返して、画面に表示する項目をレイアウトします。
- 配置されている項目を削除するときは、削除する項目を選び、〈🗑〉ボタンを押します。

### 6 設定を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押すと設定が終了し、手順2の画面に戻ります。

### 7 設定画面を確認する

- [🔧3：INFO. ボタンで表示する内容]の[クイック設定カスタマイズ画面]に[✓]が付いていることを確認します（p.86）。
- 〈INFO.〉ボタンを押してクイック設定カスタマイズ画面を表示し（p.86）、レイアウトを確認します。
- 〈🔍〉ボタンを押すと、クイック設定を行うことができます（p.64）。

## クイック設定カスタマイズ画面の初期化／全項目消去

手順2で[**初期配置の状態に戻す**]を選ぶと、設定されている内容が初期化され初期配置の状態に戻ります（p.510）。

[**全項目消去**]を選ぶと、配置されている項目がすべて削除され、画面に項目がない（ブランク／下段のみ表示）状態になります。

## 画面に配置できる項目とサイズ

（マス／縦×横）

| 項目／サイズ | 1×1 | 1×2 | 1×3 | 1×5 | 2×2 | 2×3 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 撮影モード | ○ | | | | ○ | |
| シャッター速度 | ○ | ○ | | | | |
| 絞り数値 | ○ | ○ | | | | |
| ISO感度 | ○ | ○ | | | | |
| 露出補正/AEB設定 | ○ | ○ | ○ | | | |
| 調光補正 | ○ | ○ | ○ | | | |
| ピクチャースタイル | ○ | | ○ | | | |
| ホワイトバランス | ○ | ○ | | | | |
| WB補正/BKT設定 | ○ | ○ | | | | |
| オートライティングオプティマイザ | ○ | | | | | |
| 操作ボタンカスタマイズ | ○ | | | | | |
| AF動作 | ○ | ○ | | | | |
| AFフレーム選択 | ○ | | | | | ○ |
| 測光モード | ○ | | | | | |
| ドライブモード | ○ | | | | | |
| 記録機能とカード選択 | ○ | ○ | | | ○ | |
| 日付/時刻/エリア | ○ | ○ | | ○ | | ○ |
| 外部ストロボ制御 | ○ | | | | | |
| 高輝度側・階調優先 | ○ | | | | | |
| ファインダーグリッド | ○ | | | | | |
| センサークリーニング | ○ | | | | | |
| GPSの設定 | ○ | | | | | |
| フリッカーレス撮影 | ○ | | | | | |
| 長秒時露光のノイズ低減 | ○ | | | | | |
| 高感度撮影時のノイズ低減 | ○ | | | | | |
| フォルダ選択 | | ○ | | | | |

- 項目によっては、表示サイズにより表示される情報量や、クイック設定時に設定できる内容が異なることがあります。
- 同じ項目を複数配置することはできません。
- 〈A+〉モードのときは、一部の項目は表示されません。また、一部の項目はクイック設定できません。

## 〈A+〉モードでの設定・表示について

〈A+〉モードでもクイック設定カスタマイズの設定操作、クイック設定カスタマイズ画面の表示を行うことができます。

ただし、[**露出補正/AEB設定**]など、〈A+〉モードにしたときにメニュー画面に表示されない項目が、クイック設定カスタマイズ画面の表示項目に含まれていても表示されません。また、[**ISO感度**]など〈A+〉モードでクイック設定できない機能は灰色で表示されます。

- **非表示**
  露出補正/AEB設定、調光補正、WB補正/BKT設定、操作ボタンカスタマイズ、外部ストロボ制御、高輝度側・階調優先、フリッカーレス撮影、長秒時露光のノイズ低減、高感度撮影時のノイズ低減
- **灰色表示**（クイック設定不可）
  シャッター速度、絞り数値、ISO感度、ピクチャースタイル、ホワイトバランス、オートライティングオプティマイザ、AF動作、AFフレーム選択、測光モード

# MENU マイメニューを登録する 応用

設定変更の頻度が高いメニュー機能とカスタム機能を選んで、マイメニュータブに登録することができます。また、登録したタブに名前を付けたり、〈MENU〉ボタンを押したときにマイメニュータブから表示することもできます。

## マイメニュータブを追加（作成）する

**1** **［マイメニュータブの追加］を選ぶ**

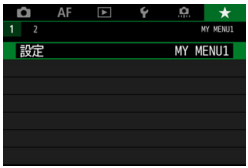
- ［★］タブの［**マイメニュータブの追加**］を選び、〈(SET)〉を押します。

**2** **［OK］を選ぶ**

➡ ［MY MENU1］タブが作成されます。

- 手順1、2を繰り返すと、［MY MENU5］まで作成することができます。

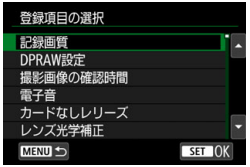
## マイメニュータブに項目を登録する




**1** **［設定：MY MENU*］を選ぶ**

- 〈(dial)〉を回して［**設定**：MY MENU*］（項目を登録するタブ）を選び、〈(SET)〉を押します。

**2** **［登録項目の選択］を選ぶ**




**3** **項目を登録する**

- 項目を選び〈(SET)〉を押します。
- 確認画面で［OK］を選ぶと登録されます。
- 6項目まで登録できます。
- 〈MENU〉ボタンを押すと手順2の画面に戻ります。

## マイメニュータブの設定

タブに登録した項目の並べ替え、項目またはタブの削除、タブの名称の変更を行うことができます。

- **登録項目の並べ替え**

  登録した項目の並び順を変えることができます。［**登録項目の並べ替え**］を選び、並び順を変える項目を選んで〈(SET)〉を押します。［◆］が表示された状態で〈◯〉を回して並び順を変え、〈(SET)〉を押します。

- **選択して削除／タブ内の全項目削除**

  登録した項目を削除することができます。［**選択して削除**］を選ぶと1項目ずつ削除、［**タブ内の全項目削除**］を選ぶと、タブ内に登録されている項目がすべて削除されます。

● **タブの削除**
　現在設定しているタブを削除することができます。［**タブの削除**］を選ぶと、［MY MENU*］のタブが削除されます。

● **タブ名の変更**
　タブの名称を［MY MENU*］から任意の名称に変更することができます。

### 1 ［タブ名の変更］を選ぶ

入力モード

### 2 文字を入力する

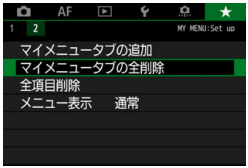
● 〈🗑〉ボタンを押して、不要な文字を消去します。
● 〈◯〉〈⌒〉または〈✥〉を操作して□を移動し、希望する文字を選び、〈(SET)〉を押すと入力されます。
● ［Aa⇄1@］を選ぶと、入力モードが切り換わります。
● 最大16文字入力できます。
● 入力をキャンセルするときは、〈**INFO.**〉ボタンを押して［OK］を選びます。

### 3 設定を終了する

● 文字の入力が終わったら、〈**MENU**〉ボタンを押して［OK］を選びます。
➡ 設定した内容が保存されます。

手順2で文字が入力できないときは、〈🔍〉ボタンを押して、文字パレットに青い枠を付けてから操作します。

## マイメニュータブの全削除／全項目削除




作成したすべてのタブの削除、作成したすべてのタブに登録されている全項目の削除を行うことができます。

- **マイメニュータブの全削除**

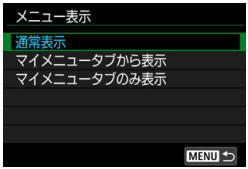
  作成したタブをすべて削除することができます。[**マイメニュータブの全削除**]を選ぶと、[MY MENU1]～[MY MENU5]のタブがすべて削除され、[★]タブが初期状態に戻ります。

- **全項目削除**

  [MY MENU1]～[MY MENU5]タブに登録されている項目だけを、すべて削除することができます。タブ自体は削除されません。[**全項目削除**]を選ぶと、作成したすべてのタブに登録されている全項目が削除されます。

[**タブの削除**][**マイメニュータブの全削除**]を行うと、[**タブ名の変更**]で設定した名前も削除されます。

## メニュー表示の設定

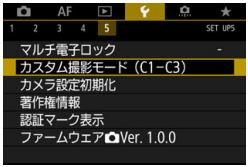



［**メニュー表示**］を選ぶと、〈MENU〉ボタンを押したときに表示する画面を設定することができます。

- **通常表示**
  前回操作を行ったときに、最後に表示していたメニュー画面が表示されます。
- **マイメニュータブから表示**
  ［★］タブの画面から表示されます。
- **マイメニュータブのみ表示**
  ［★］タブの画面だけが表示されます（［📷］［**AF**］［▶］［🔧］［📷］タブは表示されません）。

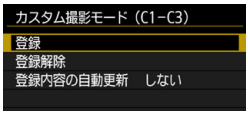
# C1: カスタム撮影モードの登録 応用

撮影機能やメニュー機能、カスタム機能など、現在カメラに設定されている内容を、〈C1〉〈C2〉〈C3〉モードにカスタム撮影モードとして登録することができます。

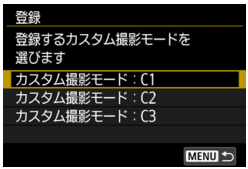



## 1 [カスタム撮影モード (C1-C3) ] を選ぶ

- [5] タブの [**カスタム撮影モード(C1-C3)**] を選び、〈SET〉を押します。




## 2 [登録] を選ぶ




## 3 登録する

- 登録するカスタム撮影モードを選び、〈SET〉を押します。
- 確認画面で [OK] を選びます。

➡ カメラの設定内容 (p.521) がモードダイヤルのC*に登録されます。

### 登録内容の自動更新

〈C1〉〈C2〉〈C3〉モードで撮影しているときに、設定変更した内容を登録内容に自動反映することができます (自動更新)。自動更新するときは、手順2で [**登録内容の自動更新**] を [**する**] に設定します。

### カスタム撮影モードの登録解除

手順2で [**登録解除**] を選ぶと、各モードの設定内容を登録を行う前の初期状態に戻すことができます。

HDR動画撮影、およびマイメニューの設定内容は、カスタム撮影モードには登録されません。

- 〈C1〉〈C2〉〈C3〉モードのときも、撮影機能やメニュー機能などの設定を変更することができます。
- 〈INFO.〉ボタンを押すと、〈C1〉〈C2〉〈C3〉に登録されている撮影モードを確認することができます（p.87）。

## 登録される設定内容

### 撮影機能

撮影モード、シャッター速度、絞り数値、ISO感度、AF動作、測距エリア選択モード、AFフレーム、ドライブモード、測光モード、露出補正量、AEBステップ量、ストロボ調光補正量

### メニュー機能

［📷1］記録画質、撮影画像の確認時間、電子音、カードなしレリーズ、レンズ光学補正、ストロボの発光、E-TTL II調光方式、Avモード時のストロボ同調速度

［📷2］露出補正/AEB 設定、ISO感度に関する設定、オートライティングオプティマイザ、ホワイトバランス、MWB画像選択、WB補正/BKT設定、色空間

［📷3］ピクチャースタイル、長秒時露光のノイズ低減、高感度撮影時のノイズ低減、高輝度側・階調優先、多重露出（設定値）、HDRモード（設定値）

［📷4］インターバルタイマー、バルブタイマー、フリッカーレス撮影、ミラーアップ撮影

［📷5 (ライブビュー撮影)］
ライブビュー撮影、AF方式、タッチシャッター、グリッド、アスペクト比、露出Simulation

［📷6 (ライブビュー撮影)］
LVソフト撮影、測光タイマー

[📷4（動画撮影）]
動画サーボAF、AF方式、グリッド、動画記録画質（24.00pを除く）、録音、動画サーボAF時のAF速度、動画サーボAFの被写体追従特性

[📷5（動画撮影）]
測光タイマー、動画記録カウント、動画再生カウント、👁ボタンの機能、タイムラプス動画（設定値）、リモコン撮影

[AF1] Case 1、Case 2、Case 3、Case 4、Case 5、Case 6

[AF2] AIサーボAF1コマ目レリーズ、AIサーボAF連続撮影中レリーズ

[AF3] レンズの電子式手動フォーカス、AF補助光の投光、ワンショットAF時のレリーズ

[AF4] AF測距不能時のレンズ動作、任意選択可能なAFフレーム、測距エリア選択モードの限定、測距エリア選択モードの切換、縦位置/横位置のAFフレーム設定、◌時のAIサーボAF開始測距点、自動選択：EOS iTR AF

[AF5] AFフレーム選択時の循環、測距時のAFフレーム表示、ファインダー情報の照明、ファインダー内のAF作動表示、AFマイクロアジャストメント（調整値を除く）

[▶2] ⚙での画像送り

[▶3] ハイライト警告表示、AFフレーム表示、再生時のグリッド、ヒストグラム、動画再生カウント、拡大倍率設定（約）

[🔧1] 画像番号、縦位置画像回転表示、Eye-Fi設定

[🔧2] オートパワーオフ、液晶の明るさ、液晶の色調、ファインダー内表示、タッチ操作

[🔧3] 自動クリーニング、INFO.ボタンで表示する内容、RATEボタンの機能

[🔧5] マルチ電子ロック

[📷1] 露出設定ステップ、ISO感度設定ステップ、ブラケティング自動解除、ブラケティング順序、ブラケティング時の撮影枚数、セイフティシフト、絞り数値変化時の露出維持

[📷2] シャッター速度の制御範囲の設定、絞り数値の制御範囲の設定

[📷3] ライブビュー撮影範囲表示、Tv/Av値設定時のダイヤル回転、操作ボタンカスタマイズ

[📷4] トリミング情報の付加、画像消去の初期設定、電源オフ時のレンズ収納、IPTC情報の付加

# 15

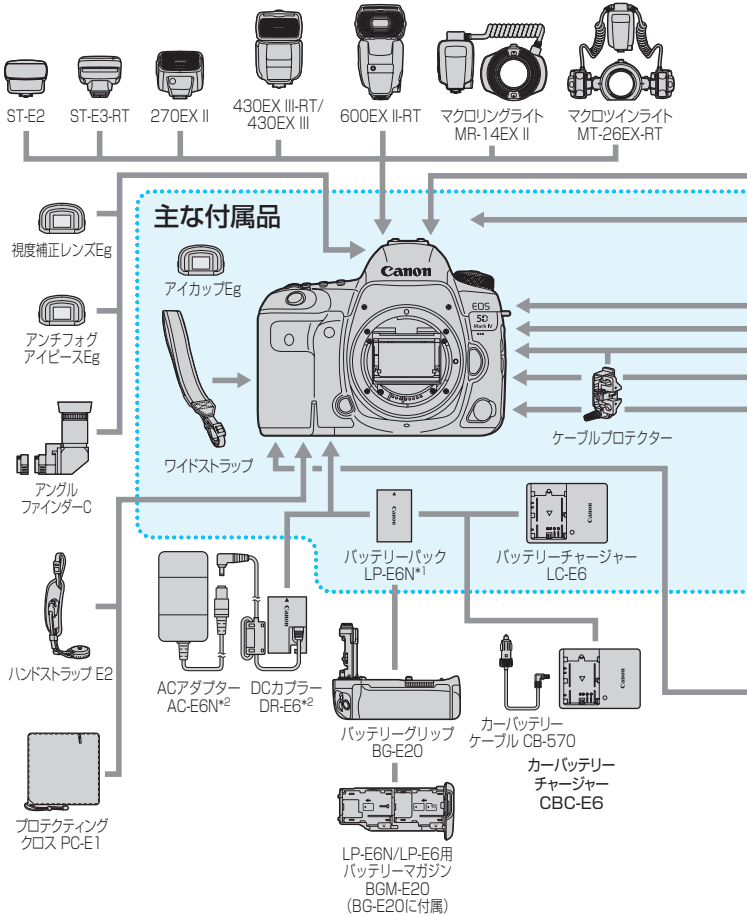
# 資料

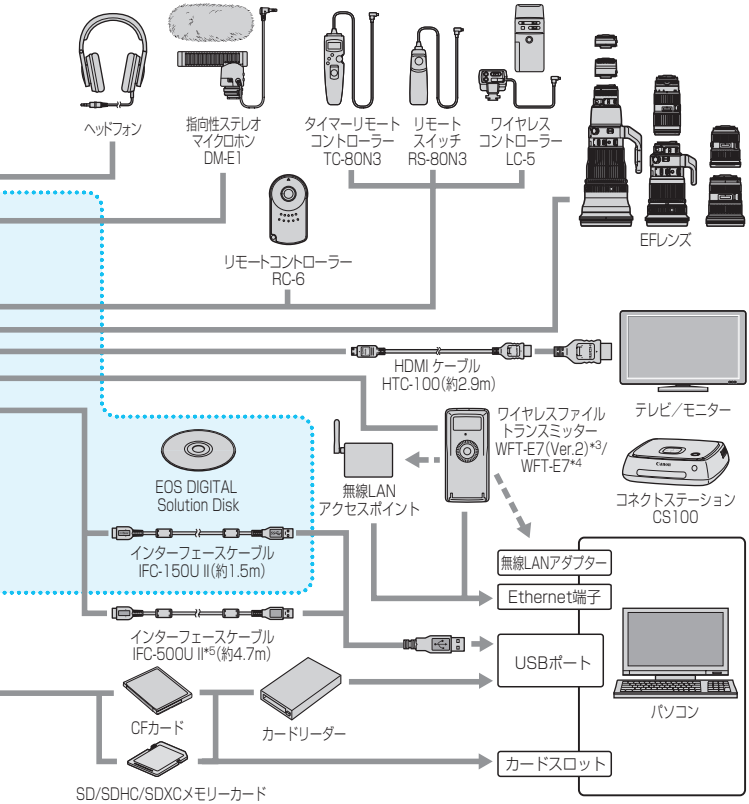
この章では、システムアクセサリーの紹介や、撮影の参考になるカメラの機能情報などの説明を行っています。

**認証マークについて**

［**5：認証マーク表示**］を選び〈SET〉を押すと、このカメラが対応している認証マークの一部を確認できます。また、その他の認証マークは、本書やカメラ本体、カメラが入っていた箱にも表記されています。

# システム図


ST-E2
ST-E3-RT
270EX II
430EX III-RT/
430EX III
600EX II-RT
マクロリングライト
MR-14EX II
マクロツインライト
MT-26EX-RT
主な付属品
視度補正レンズEg
アイカップEg
アンチフォグ
アイピースEg
アングル
ファインダーC
ワイドストラップ
ケーブルプロテクター
バッテリーパック
LP-E6N*1
バッテリーチャージャー
LC-E6
ハンドストラップ E2
ACアダプター
AC-E6N*2
DCカプラー
DR-E6*2
バッテリーグリップ
BG-E20
カーバッテリー
ケーブル CB-570
カーバッテリー
チャージャー
CBC-E6
プロテクティング
クロス PC-E1
LP-E6N/LP-E6用
バッテリーマガジン
BGM-E20
(BG-E20に付属)



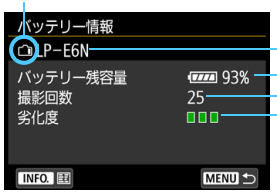

*1: バッテリーパック LP-E6も使用できます。
*2: ACアダプターキット ACK-E6を使用することもできます。
*3: WFT-E7(Ver.2)のファームウェアがVer.1.3.0以上であることを確認してください。
*4: (Ver.2ではない)WFT-E7を使用する場合は、WFT-E7のファームウェアのアップデート、およびインターフェースケーブル IFC-40AB II、またはIFC-150AB IIが必要です。
*5: IFC-500U II使用時は、通信速度がHi-Speed USB(USB2.0)相当になります。

# MENU 電池情報を確認する

使用している電池の状態を画面で確認することができます。また、バッテリーパック LP-E6N/LP-E6には固有の番号（シリアル番号）が記録されているため、複数の電池をカメラに登録することができます。この機能を利用すると、手元にある登録済みの電池のおおよその残量や、使用履歴を確認することができます。

### ［バッテリー情報］を選ぶ

- ［3］タブの［**バッテリー情報**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 電池情報の画面が表示されます。



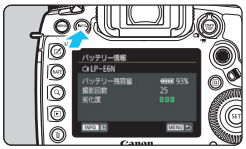

- 使用している電池、または家庭用電源の型式が表示されます。
- 電池残量表示（p.50）とともに、残量が1%単位で表示されます。
- 使用している電池で撮影した回数が表示されます。充電を行うと回数がリセットされます。
- 電池の劣化状態が3段階で表示されます。
  - ■■■（緑）：劣化していません
  - ■■□（緑）：少し劣化しています
  - ■□□（赤）：電池の買い換えをおすすめします

キヤノン純正のバッテリーパック LP-E6N/LP-E6の使用をおすすめします。純正品以外の電池を使用すると、カメラ本来の性能を発揮できない恐れや、故障の原因になることがあります。

- 撮影回数は静止画撮影を行った回数が表示されます（動画撮影は回数に含まれません）。
- バッテリーグリップ BG-E20（別売）使用時も電池情報が表示されます。
- バッテリー通信エラーに関するメッセージが表示されたときは、メッセージに従って操作してください。

## 電池をカメラに登録する

バッテリーパック LP-E6N/LP-E6を最大6個までカメラに登録することができます。複数の電池を登録するときは、電池ごとに以下の操作を行ってください。

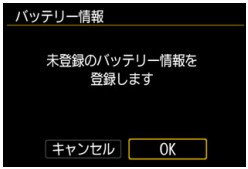



### 1 〈INFO.〉ボタンを押す

- バッテリー情報の画面が表示された状態で、〈INFO.〉ボタンを押します。
- ➡ 使用履歴画面が表示されます。
- ➡ 登録されていない電池は灰色で表示されます。

### 2 [登録]を選ぶ

- ➡ 確認画面が表示されます。



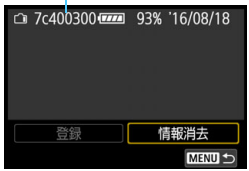

### 3 [OK]を選ぶ

- ➡ 電池が登録され、使用履歴画面に戻ります。
- ➡ 表示が灰色から白色に変わります。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、バッテリー情報の画面に戻ります。

- 家庭用電源アクセサリー（別売／p.530）使用時は、登録できません。
- すでに電池が6個登録されているときは［登録］は選べません。529ページを参照して不要な電池情報を削除してください。

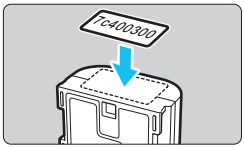
## 電池のシリアル番号が一目でわかるようにする

登録したバッテリーパック LP-E6N/LP-E6のシリアル番号を、市販のシールなどに書き留めて、すべての電池に貼り付けておくと便利です。




### 1 シリアル番号をシールに書き留める

- 使用履歴画面に表示された番号を、横25mm×縦15mm程度のシールに書き留めます。




### 2 電池を取り出しシールを貼り付ける

- 電源スイッチを〈**OFF**〉にします。
- 電池室ふたを開けて、電池を取り出します。
- 図の位置（接点がない面）にシールを貼り付けます。
- この手順を繰り返して、すべての電池のシリアル番号が一目でわかるようにします。

- 手順2の図以外の位置にシールを貼り付けないでください。電池が入れにくくなったり、電源が入らなくなることがあります。
- バッテリーグリップ BG-E20（別売）使用時は、バッテリーマガジンへの電池の取り付け／取り外しを繰り返すと、シールがはがれることがあります。はがれたときは、新しいシールを貼りなおしてください。

## 登録済みで使用していない電池の残量の確認方法

手元にある（現在使用していない）電池の残量や前回使用した日を、画面で確認することができます。

### シリアル番号を照合する

- 使用履歴画面の内容と、電池に貼り付けたシールのシリアル番号を照合します。
- ➡ 手元にある電池のおおよその残量や、前回使用した日を確認することができます。

## 登録した電池情報を消去する

**1** **［情報消去］を選ぶ**

- 527ページの手順2で［**情報消去**］を選び〈(SET)〉を押します。

**2** **消去する電池を選ぶ**

- 消去する電池を選び〈(SET)〉を押します。
- ➡［✓］が表示されます。
- 他に消去したい電池があるときは、繰り返します。

**3** **〈🗑〉ボタンを押す**

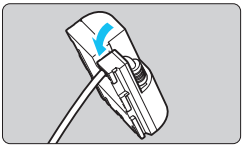
- ➡ 確認画面が表示されます。

**4** **［OK］を選ぶ**

- ➡ 電池情報が消去され、手順1の画面に戻ります。

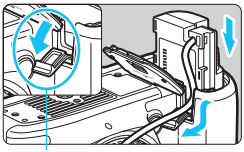
# 家庭用電源を使用する

DCカプラー DR-E6（別売）とACアダプター AC-E6N（別売）を使用すると、家庭用電源をカメラの電源として使うことができます。



## 1 コードを溝にはめ込む

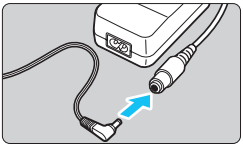
- DCカプラーのコードを傷つけないように、ていねいに溝にはめ込みます。



DCカプラーコード通し部

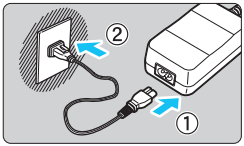
## 2 DCカプラーを入れる

- 電池室ふたを開け、DCカプラーコード通し部のカバーを開きます。
- DCカプラーをロック位置までしっかりと入れ、コードを通し部に入れます。
- ふたを閉じます。



## 3 DCカプラーとACアダプターを接続する

- DCカプラーのプラグをACアダプターのコネクターにしっかりと接続します。




## 4 電源コードを接続する

- 電源コードを AC アダプターに接続し、電源プラグをコンセントに差し込みます。

## 5 カメラの電源スイッチを〈ON〉にする （p.49）

- ACアダプター AC-E6N（別売）以外は使用しないでください。
- カメラの電源が入った状態で、電源コードやコネクターの抜き差し、DCカプラーの取り出しを行わないでください。
- 使い終わったら、電源プラグをコンセントから抜いてください。

ACアダプターキット ACK-E6を使用することもできます。

# Eye-Fiカードを使う

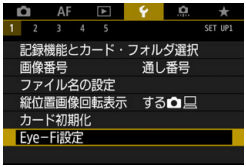
セットアップした市販のEye-Fiカードを使うと、撮影しながら画像を無線LAN経由でパソコンに自動転送したり、オンライン上のサービスにアップロードすることができます。

画像の転送はEye-Fiカードの機能です。カードのセットアップ方法、使用方法、転送時の不具合などについては、カードの使用説明書を参照するか、カードメーカーにお問い合わせください。

**本製品は、Eye-Fiカードの機能（無線送信を含む）を保証するものではありません。カードに関する不具合は、カードメーカーにお問い合わせください。また、Eye-Fiカードの使用には、多くの国や地域で認可が必要であり、認可を取得していないものの使用は認められていません。使用が認められているかご不明の場合は、カードメーカーにご確認ください。**

---

## 1 Eye-Fiカードを入れる （p.45）




## 2 [Eye-Fi設定] を選ぶ

- [1] タブの [**Eye-Fi設定**] を選び、〈(SET)〉を押します。
- このメニューは、Eye-Fiカードを入れたときだけ表示されます。

## 3 通信機能を有効にする

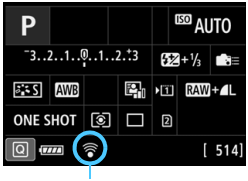
- [**Eye-Fi通信**] を選び〈(SET)〉を押します。
- [**する**] を選び〈(SET)〉を押します。
- [**しない**] のときは、Eye-Fiカードが入っていても、自動転送されません（通信状態マーク）。

## 4 通信情報一覧を表示する

- ［**通信情報一覧**］を選び〈(SET)〉を押します。

## 5 ［接続先のSSID:］を確認する

- ［**接続先のSSID:**］に転送先が表示されているか確認します。
- Eye-FiカードのMACアドレスとファームウェアのバージョンも確認できます。
- 〈**MENU**〉ボタンを押してメニューを終了します。




通信状態

## 6 撮影する

- ➡ 画像が転送され、［(Wi-Fi)］が灰色（未接続）状態から、下記のように切り換わっていきます。
- 転送した画像は、撮影情報表示（p.398）の画面に［(Wi-Fi)］が表示されます。

(Wi-Fi)（灰色）**未接続**　：転送先に接続していません。
(Wi-Fi)（点滅）**接続中**　：転送先に接続しています。
(Wi-Fi)（点灯）**転送待機**：転送先に接続しました。
(Wi-Fi)（↑）**転送中**　　：画像を転送しています。

### Eye-Fiカード使用時の注意事項

- [4：通信機能の設定]の[内蔵無線通信の設定]の[Wi-Fi/NFC]が[使う]に設定されているときは、Eye-Fiカードでの画像転送はできません。
- 「」が表示されたときは、カード情報の取得エラーです。カメラの電源を入れなおしてください。
- [Eye-Fi通信]を[しない]に設定しても、電波が発信されることがあります。病院や航空機内など電波の発信が禁止されている場所では、事前にEye-Fi カードを取り出しておいてください。
- 画像が転送できないときは、カードやパソコンの設定を確認してください。詳細はカードの使用説明書を参照してください。
- 無線LAN の接続状態により、画像の転送に時間がかかったり、転送が中断することがあります。
- Eye-Fi カードは、通信機能があるため、熱くなることがあります。
- 電池の消耗が早くなります。
- 画像の転送中、オートパワーオフは機能しません。
- Eye-Fiカード以外の無線LANカードを入れたときは、[1：Eye-Fi設定]は表示されません。また、通信状態マーク〈〉も表示されません。

## MEMO

# 各撮影モードで設定できる機能一覧

## 静止画撮影時

●：自動設定　○：選択可能　□：選択不可／無効

| 機能 | | A+ | P | Tv | Av | M | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全記録画質の選択 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| DPRAW設定 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| アスペクト比*1 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ISO感度 | 自動設定/オート | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 手動設定 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ピクチャースタイル | 自動設定/オート | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 任意設定 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ホワイトバランス | オート | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | プリセット | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | マニュアル | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 色温度指定 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 補正/ブラケティング | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| オートライティングオプティマイザ | | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 長秒時露光のノイズ低減 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 高感度撮影時のノイズ低減 | | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 高輝度側・階調優先 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| レンズ光学補正 | 周辺光量補正 | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 歪曲収差補正 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | デジタルレンズオプティマイザ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 色収差補正 | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 回折補正 | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| フリッカーレス撮影*2 | | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 色空間 | sRGB | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | Adobe RGB | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| AF | ワンショットAF | ●*3 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | AIサーボAF*2 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | サーボAF*1 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | AIフォーカスAF*2 | ●*4 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 測距エリア選択モード*2 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | AFフレーム選択 | ●*4 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 手動ピント合わせ（MF） | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | AFマイクロアジャストメント*2 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 顔+追尾優先AF*1 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | ライブ多点AF*1 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | ライブ1点AF*1 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

| 機能 | | A+ | P | Tv | Av | M | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ドライブ | 1枚撮影 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 高速連続撮影 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 低速連続撮影 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | ソフト1枚撮影*2 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | ソフト連続撮影*2 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | セルフ：10秒／リモコン | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | セルフ：2秒／リモコン | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 測光 | 評価測光 | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 部分測光 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | スポット測光 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 中央部重点平均測光 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 露出 | プログラムシフト | | ○ | | | | |
| | 露出補正 | | ○ | ○ | ○ | ○*5 | |
| | AEB | | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | AEロック | | ○ | ○ | ○ | *6 | |
| | 被写界深度確認 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | HDR撮影 | | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | 多重露出撮影 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | インターバルタイマー *2 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | バルブタイマー | | | | | | ○ |
| | ミラーアップ撮影*2 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 外部ストロボ | ストロボ調光補正 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | FEロック*2 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | ストロボ機能設定 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | カスタム機能設定 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| GPS機能 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ライブビュー撮影 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| クイック設定 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| タッチ操作 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

*1：ライブビュー撮影時のみ設定できます（機能します）。
*2：ファインダー撮影時のみ設定できます（機能します）。
*3：ライブビュー撮影時に自動設定されます。
*4：ファインダー撮影時に自動設定されます。
*5：ISOオート設定時のみ設定できます。
*6：ISOオート設定時にISO感度を固定することができます。

## 動画撮影時

●：自動設定　○：選択可能　□：選択不可／無効

| 機能 | | 📷+ | P/B | Tv | Av | M |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 📹A+ | 📹 | 📹Tv | 📹Av | 📹M |
| 全動画記録画質の選択 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| HDR動画撮影 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| タイムラプス動画 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ISO感度 | 自動設定/オート | ● | ● | ● | ● | ○ |
| | 手動設定 | | | | | ○ |
| ピクチャースタイル | 自動設定/オート | ● | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 任意設定 | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ホワイトバランス | オート | ● | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | プリセット | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | マニュアル | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 色温度指定 | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 補正 | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| オートライティングオプティマイザ | | ● | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 高感度撮影時のノイズ低減*1*2 | | ● | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 高輝度側・階調優先 | | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| レンズ光学補正 | 周辺光量補正 | ● | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 色収差補正 | ● | ○ | ○ | ○ | ○ |
| AF | 😊+追尾優先AF | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | ライブ多点AF | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | ライブ1点AF | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 手動ピント合わせ（MF） | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 動画サーボAF*3 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

| 機能 | | | P/B | Tv | Av | M |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 測光 | | ● | ● | ● | ● | ● |
| 露出 | プログラムシフト | | | | | |
| | 露出補正 | | ○ | ○ | ○ | ○*4 |
| | AEロック | | ○ | ○ | ○ | *5 |
| 録音*3 | オート | ● | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | マニュアル | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| タイムコード | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| HDMI出力 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| GPS機能 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| クイック設定 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| タッチ操作 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

*1：4K動画撮影時は設定できません。
*2：マルチショットノイズ低減機能は設定できません。
*3：ハイフレームレート動画撮影時は設定できません。
*4：ISOオート設定時のみ設定できます。
*5：ISOオート設定時にISO感度を固定することができます。

# メニュー機能一覧

## ファインダー撮影／ライブビュー撮影時

**📷：撮影1**（赤）

| | | 参照頁 |
|---|---|---|
| **記録画質** | RAW／M RAW／S RAW | 169 |
| | L／L／M／M／S1／S1／S2／S3 | |
| **DPRAW設定*** | しない／する | 175 |
| **撮影画像の確認時間** | 切／2秒／4秒／8秒／ホールド | 77 |
| **電子音** | 入／タッチ音切／切 | 76 |
| **カードなしレリーズ** | する／しない | 46 |
| **レンズ光学補正** | 周辺光量補正：する／しない | 207 |
| | 歪曲収差補正*：しない／する | |
| | デジタルレンズオプティマイザ*：しない／する | |
| | 色収差補正：する／しない | |
| | 回折補正*：する／しない | |
| **外部ストロボ制御** | ストロボの発光／E-TTL II 調光方式／Avモード時のストロボ同調速度／ストロボ機能設定／ストロボカスタム機能設定／設定初期化 | 289 |

* 動画撮影時は表示されません。

- □ の項目は、〈A+〉モードでは表示されません。
- ［**📷1：記録画質**］で表示される内容は、［**⚡1：記録機能とカード・フォルダ選択**］の［**記録機能**］（p.166）の設定により変わります。［**振り分け**］に設定されているときは、カードごとに記録画質を設定します。
- 動画撮影時は一部表示されない項目があります。また［**📷6**］タブは表示されません。

## 📷：撮影2（赤）

| | | 参照頁 |
|---|---|---|
| 露出補正／AEB設定*1 | 1/3段、1/2段ステップ±5段（AEB±3段） | 255<br>257 |
| ISO感度に関する設定 | ISO感度設定／静止画撮影の範囲／オートの範囲／オートの低速限界 | 177<br>180<br>181<br>182 |
| オートライティングオプティマイザ | しない／弱め／標準／強め | 201 |
| | M, Bulb時はOFF | |
| ホワイトバランス | AWB（雰囲気優先）／AWB w（ホワイト優先）／☀／🏠／☁／☀／🌅／⚡／📷／K（約2500～10000） | 192 |
| MWB画像選択 | ホワイトバランスの手動設定 | 195 |
| WB補正/BKT設定*2 | WB補正：B/A/M/G寄り、各色9段 | 198 |
| | WB-BKT：B/A、M/G方向、1段ステップ±3段 | 199 |
| 色空間*3 | sRGB／Adobe RGB | 217 |

*1：動画撮影時、［📷2：露出補正／AEB設定］は［📷2：露出補正］になります。

*2：動画撮影時、［📷2：WB補正/BKT設定］は［📷2：WB補正］になります。

*3：動画撮影時は表示されません。

## 📷：撮影3（赤）

| | | 参照頁 |
|---|---|---|
| **ピクチャースタイル** | オート／スタンダード／ポートレート／風景／ディテール重視／ニュートラル／忠実設定／モノクロ／ユーザー設定1～3 | 183 |
| **長秒時露光のノイズ低減*1** | しない／自動／する | 204 |
| **高感度撮影時のノイズ低減*2** | しない／弱め／標準／強め／マルチショットノイズ低減機能*1 | 202 |
| **高輝度側・階調優先** | しない／する | 206 |
| **ダストデリートデータ取得** | EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalでゴミ消し処理を行うためのデータを取得 | 460 |
| **多重露出*1** | 多重露出撮影／多重露出制御／重ねる枚数／撮影画像の保存／多重露出撮影の継続／重ねる画像を選択 | 268 |
| **HDRモード*1** | Dレンジ調整／仕上がり効果／HDR撮影の継続／画像位置自動調整／撮影画像の保存 | 263 |

*1：動画撮影時は表示されません。
*2：4K動画撮影時は設定できません。

**📷：撮影4*1**（赤）

| | | 参照頁 |
|---|---|---|
| **インターバルタイマー** | しない／する（撮影間隔／撮影回数） | 281 |
| **バルブタイマー *2** | しない／する（露光時間） | 261 |
| **フリッカーレス撮影** | しない／する | 215 |
| **ミラーアップ撮影** | しない／する | 276 |

*1：〈A+〉モードのときは［📷2］タブに表示されます。
*2：〈**B**〉モード時に設定できます。

**📷：撮影5***（赤）

| | | |
|---|---|---|
| **ライブビュー撮影** | する／しない | 299 |
| **AF方式** | 顔+追尾優先AF／ライブ多点AF／ライブ1点AF | 316 |
| **タッチシャッター** | しない／する | 327 |
| **グリッド** | 表示しない／9分割＋／24分割▦／9分割+対角✳ | 309 |
| **アスペクト比** | 3：2／4：3／16：9／1：1 | 310 |
| **露出Simulation** | する／絞り込み中／しない | 311 |

*〈A+〉モードのときは［📷3］タブに表示されます。

**📷：撮影6**（赤）

| | | |
|---|---|---|
| **LVソフト撮影** | モード1／モード2／しない | 312 |
| **測光タイマー** | 4秒／8秒／16秒／30秒／1分／10分／30分 | 313 |

**AF**：AF1（紫）

| | | 参照頁 |
|---|---|---|
| Case 1 | 汎用性の高い基本的な設定 | 128 |
| Case 2 | 障害物が入るときや、被写体がAFフレームから外れやすいとき | 128 |
| Case 3 | 急に現れた被写体に素早くピントを合わせたいとき | 129 |
| Case 4 | 被写体が急加速/急減速するとき | 129 |
| Case 5 | 被写体の上下左右の動きが大きいとき | 130 |
| Case 6 | 被写体の速度変化と上下左右の動きが大きいとき | 131 |

**AF**：AF2（紫）

| | | |
|---|---|---|
| AIサーボAF1コマ目レリーズ | レリーズ優先／バランス重視／ピント優先 | 136 |
| AIサーボAF連続撮影中レリーズ | 連続撮影速度優先：−2/−1／バランス重視：0／ピント優先：+1/+2 | 137 |

**AF**：AF3（紫）

| | | |
|---|---|---|
| レンズの電子式手動フォーカス | ワンショットAF作動後・可能／ワンショットAF作動後・不可／AF時すべて不可 | 138 |
| AF補助光の投光 | する／しない／赤外光方式の補助光のみ投光 | 139 |
| ワンショットAF時のレリーズ | レリーズ優先／ピント優先 | 140 |

**AF：AF4**（紫）

| | | 参照頁 |
|---|---|---|
| AF測距不能時のレンズ動作 | サーチ駆動する／サーチ駆動しない | 141 |
| 任意選択可能なAFフレーム | 全点／クロス測距点のみ／15点／9点 | 142 |
| 測距エリア選択モードの限定 | スポット1点AF（任意選択）／1点AF（任意選択）／領域拡大AF（任意選択）／領域拡大AF（任意選択周囲）／ゾーンAF（ゾーン任意選択）／ラージゾーンAF（ゾーン任意選択）／自動選択AF | 143 |
| 測距エリア選択モードの切換 | →M-Fnボタン／→メイン電子ダイヤル | 144 |
| 縦位置/横位置のAFフレーム設定 | 同じ／別々に設定：エリア+フレーム／別々に設定：フレーム | 144 |
| 時のAIサーボAF開始測距点 | 時に選択した開始測距点／時の任意選択測距点／自動 | 146 |
| 自動選択：EOS iTR AF | する（顔優先）／する／しない | 147 |

**AF：AF5**（紫）

| | | |
|---|---|---|
| AFフレーム選択時の循環 | しない（端で突き当たり）／する | 148 |
| 測距時のAFフレーム表示 | 選択AFフレーム（常時表示）／全AFフレーム（常時表示）／選択フレーム（測距前/合焦時）／選択AFフレーム（合焦時表示）／表示しない | 149 |
| ファインダー情報の照明 | 自動／する／しない | 150 |
| | AIサーボAF時の照明：しない／する | |
| ファインダー内のAF作動表示 | 視野内に表示／視野外に表示 | 151 |
| AFマイクロアジャストメント | しない／全レンズ一律調整／レンズごとに調整 | 151 |

▶：再生1（青）

| | | 参照頁 |
|---|---|---|
| **画像プロテクト** | 画像の保護 | 412 |
| **画像回転** | 画像の縦横回転 | 411 |
| **画像消去** | 画像の消去 | 440 |
| **印刷指定** | 印刷する画像を指定（DPOF） | 471 |
| **フォトブック指定** | フォトブックにする画像を指定 | 476 |
| **画像コピー** | カード間の画像コピー | 435 |
| **RAW現像** | RAW で撮影した画像を現像 | 446 |

▶：再生2（青）

| | | |
|---|---|---|
| **トリミング** | JPEG画像を部分的に切り抜き | 454 |
| **リサイズ** | JPEG画像の画素数を少なく処理 | 452 |
| **レーティング** | [OFF] ／[★1]／[★2]／[★3]／[★4]／[★5] | 416 |
| **スライドショー** | 再生内容／再生間隔／リピート | 429 |
| **画像転送** | 画像選択/転送／RAW+JPEG転送／キャプション付きで転送 | 468 |
| **での画像送り** | 1枚／10枚／100枚／撮影日／フォルダ／動画／静止画／プロテクト／レーティング | 404 |

▶：再生3（青）

| | | 参照頁 |
|---|---|---|
| ハイライト警告表示 | しない／する | 401 |
| AFフレーム表示 | しない／する | 402 |
| 再生時のグリッド | 表示しない／9分割＃／24分割▦／9分割+対角米 | 396 |
| ヒストグラム | 輝度／RGB | 402 |
| 動画再生カウント* | 記録時間／タイムコード | 366 |
| 拡大倍率設定（約） | 1倍（拡大なし）／2倍（中央から）／4倍（中央から）／8倍（中央から）／10倍（中央から）／等倍（任意選択合焦点から）／前回と同じ倍率（中央から） | 407 |
| HDMI機器制御 | 切／入 | 433 |

*［📷5 (動画)］タブの［タイムコード］の［動画再生カウント］と設定が連動します。

：機能設定1（黄）

| | | |
|---|---|---|
| 記録機能とカード・フォルダ選択 | 記録機能：標準／カード自動切り換え／振り分け／同一書き込み | 166 |
| | 記録・再生／再生：[1]／[2] | 168 |
| | フォルダ：フォルダの選択と作成 | 218 |
| 画像番号 | 通し番号／オートリセット／強制リセット | 223 |
| ファイル名の設定 | カメラ固有設定／ユーザー設定1／ユーザー設定2 | 220 |
| 縦位置画像回転表示 | する📷／する／しない | 444 |
| カード初期化 | 記録内容を初期化して消去 | 73 |
| Eye-Fi設定 | Eye-Fiカード（市販品）装填時に表示 | 532 |

**：機能設定2**（黄）

| | | 参照頁 |
|---|---|---|
| **オートパワーオフ** | 1分／2分／4分／8分／15分／30分／しない | 76 |
| **液晶の明るさ** | 自動：3段階の明るさ調整 | 442 |
| | 手動：7段階の明るさ調整 | |
| **液晶の色調** | 1：暖色／2：標準／3：寒色1／4：寒色2 | 443 |
| **日付/時刻/エリア** | 日付（年/月/日・表示順序）／時刻（時/分/秒）／サマータイム／エリア | 51 |
| **言語** | 表示言語を選択 | 54 |
| **ファインダー内表示** | 水準器：表示しない／表示する | 83 |
| | グリッド：表示しない／表示する | 81 |
| | ファインダー内表示設定：<br>バッテリー／撮影モード／ホワイトバランス／ドライブモード／AF動作／測光モード／記録画質（画像タイプ）／デジタルレンズオプティマイザ／DPRAW設定／フリッカー検知 | 84 |
| **タッチ操作** | 標準／敏感／しない | 72 |

🔧：機能設定3（黄）

| | | 参照頁 |
|---|---|---|
| ビデオ方式 | NTSC／PAL | 352<br>432 |
| バッテリー情報 | 電源／電池残量／撮影回数／劣化度 | 526 |
| センサークリーニング | 自動クリーニング：する／しない | 458 |
| | 今すぐクリーニング | |
| | 手作業でクリーニング | 463 |
| INFOボタンで表示する内容 | カメラ設定の内容／水準器／クイック設定画面／クイック設定カスタマイズ画面 | 86 |
| クイック設定カスタマイズ | レイアウト編集開始／初期配置の状態に戻す／全項目消去 | 510 |
| LV時にINFOボタンで表示する内容 | 切り換え設定：1／2／3／4 | 305 |
| | ヒストグラム<br>・輝度/RGB：輝度／RGB<br>・表示サイズ：大きい／小さい | 306 |
| | 初期化 | |
| RATEボタンの機能 | レーティング／プロテクト | 415<br>414 |

🔧：機能設定4（黄）

| | | |
|---|---|---|
| HDMI出力<br>フレームレート*1*2 | 自動／59.94i/50.00i／59.94p/50.00p／23.98p | 390 |
| GPSの設定 | GPS／自動時刻設定／位置情報の更新間隔／GPS情報の表示／ロガー | 227 |
| 通信機能の設定*3 | 内蔵無線通信の設定：<br>Wi-Fi/NFC／Wi-Fi機能／スマートフォンへ画像を送信／ニックネーム／設定初期化 | – |
| | FTP転送の設定：<br>撮影時自動転送／転送画像サイズタイプ／SETボタンで転送／ルート証明書の設定 | |

*1：［**4 (動画)**］タブの［**動画記録画質**］の［**24.00p**］が［**入**］のときは設定できません。
*2：表示される内容は、［**3：ビデオ方式**］の設定により変わります。
*3：詳しくは「Wi-Fi（無線通信）機能使用説明書」(p.4）を参照してください。

GPS機能や内蔵Wi-Fi（無線通信）機能、ワイヤレスファイルトランスミッターWFT-E7（Ver.2／別売）を使用するときは、使用可能な国や地域を確認の上、法令等の規制に従ってください。

**5：機能設定5**（黄）

| | | 参照頁 |
|---|---|---|
| **マルチ電子ロック** | メイン電子ダイヤル／サブ電子ダイヤル／マルチコントローラー／測距エリア選択ボタン／タッチ操作 | 90 |
| **カスタム撮影モード (C1-C3)** | 登録／登録解除／登録内容の自動更新 | 520 |
| **カメラ設定初期化** | カメラの設定を初期状態にする | 77 |
| **著作権情報** | 著作権情報の表示／作成者名入力／著作権者名入力／著作権情報の消去 | 225 |
| **認証マーク表示** | このカメラが対応している認証マークの一部を確認 | 523 |
| **ファームウェア** | カメラ、レンズ、ストロボ、ワイヤレスファイルトランスミッターのファームウェア変更時に選択 | – |

不用意なファームウェアの変更を防止するため、［**5：ファームウェア**］選択時は、途中からタッチ操作ができなくなります。

**：カスタム機能**（橙）

| | | 参照頁 |
|---|---|---|
| **C.Fn1：露出** | カメラの機能を細かく設定 | 482 |
| **C.Fn2：露出** | | 488 |
| **C.Fn3：表示・操作** | | 489 |
| **C.Fn4：その他** | | 491 |
| **C.Fn5：解除** | カスタム機能をすべて解除 | 481 |

**★：マイメニュー**（緑）

| | | |
|---|---|---|
| **マイメニュータブの追加** | マイメニュー 1～5タブを追加 | 515 |
| **マイメニュータブの全削除** | マイメニュータブをすべて削除 | 518 |
| **全項目削除** | マイメニュー 1～5タブに登録されている項目をすべて削除 | 518 |
| **メニュー表示** | 通常表示／マイメニュータブから表示／マイメニュータブのみ表示 | 519 |

## 動画撮影時

**📷：撮影2（動画）**（赤）

| | | 参照頁 |
|---|---|---|
| **ISO感度に関する設定** | ISO感度設定／動画撮影の範囲／4Kの範囲 | 379 |

**📷：撮影4*1（動画）**（赤）

| | | |
|---|---|---|
| **動画サーボAF** | する／しない | 380 |
| **AF方式** | 顔+追尾優先AF／ライブ多点AF／ライブ1点AF | 382 |
| **グリッド** | 表示しない／9分割＃／24分割▦／9分割+対角✳ | 382 |
| **動画記録画質** | MOV／MP4 | 351 |
| | 動画記録サイズ*2<br>・4K（4096×2160）／Full HD（1920×1080）<br>・NTSC：59.94p／29.97p／23.98p<br>PAL：50.00p／25.00p<br>・MJPG（Motion JPEG）／ALL-I（編集用）／IPB（標準）／IPB（軽量） | 352 |
| | 24.00p：切／入 | 357 |
| | ハイフレームレート：切／入*3 | 358 |
| **録音** | 録音：オート／マニュアル／しない | 362 |
| | 録音レベル | |
| | ウィンドカット：切／入 | 363 |
| | アッテネーター：切／入 | |

| | | 参照頁 |
|---|---|---|
| **動画サーボAF時のAF速度**[*4] | 作動条件：常時／撮影中 | 383 |
| | AF速度：遅い（-7/-6/-5/-4/-3/-2/-1）／標準／速い（+1/+2） | |
| **動画サーボAFの被写体追従特性**[*4] | 粘る（-3/-2/-1）／0／敏感（+1/+2/+3） | 384 |

*1：〈A+〉モードのときは［📷2］タブに表示されます。
*2：動画記録サイズの内容は、［**MOV/MP4**］［**24.00p**］［**ハイフレームレート**］、および［**🔧3：ビデオ方式**］の設定により変わります。
*3：ハイフレームレート動画は、ハイビジョン（HD）画質で撮影されます。
*4：［📷**4：AF方式**］が［**+追尾優先AF**］［**ライブ多点AF**］のときは設定できません。

### 📷：撮影5[*1]（動画）（赤）

| | | |
|---|---|---|
| **測光タイマー** | 4秒／8秒／16秒／30秒／1分／10分／30分 | 385 |
| **タイムコード** | カウントアップ／スタート時間設定／動画記録カウント／動画再生カウント[*2]／HDMI／ドロップフレーム[*3] | 365 |
| **ボタンの機能** | AF／－／／－／AF／／／ | 386 |
| **タイムラプス動画** | しない／する（撮影間隔／撮影回数／撮影所要時間／再生時間／カードの残量） | 371 |
| **HDMI接続時の表示** | ／情報表示なし／📷＋ | 387 |
| **リモコン撮影** | しない／する | 389 |

*1：〈A+〉モードのときは［📷3］タブに表示されます。
*2：［▶**3：動画再生カウント**］と設定が連動します。
*3：119.9P（119.9fps）、59.94P（59.94fps）、29.97P（29.97fps）設定時に表示されます。

# 故障かな？と思ったら

「カメラが故障したのかな？」と思ったら、下記の例を参考にしてカメラをチェックしてください。なお、チェックしても状態が改善しないときは、別紙の修理お問合せ専用窓口にご相談ください。

## 電源関連

### 電池が充電できない

- バッテリー残量が94%以上のときは、充電は行われません（p.526）。
- 純正のバッテリーパック LP-E6N/LP-E6を使用してください。

### 充電器のランプが高速点滅する

- (1) 充電器または電池に異常が発生した場合や、(2) 電池と通信できない場合（純正以外の電池使用時）は、保護回路が働き充電が中止され、オレンジ色のランプが等間隔で高速点滅します。(1) の場合は、充電器のプラグをコンセントから抜き、電池の取り外し／取り付けを行ってから、2～3分後にもう一度コンセントに差し込んでください。改善しない場合は、別紙の修理お問合せ専用窓口にご相談ください。

### 充電器のランプが点滅しない

- 充電器に取り付けた電池の内部温度が高い場合は、安全のため充電を行いません（消灯）。また、充電中何らかの原因により、電池が高温になった場合は、自動的に充電を停止します（点滅継続）。なお、電池の温度が下がると自動的に充電が始まります。

### 電源スイッチを〈ON〉にしてもカメラが作動しない

- 電池室ふたが閉まっているか確認してください（p.44）。
- 電池がカメラにきちんと入っているか確認してください（p.44）。
- 電池を充電してください（p.42）。
- カードスロットカバーが閉じているか確認してください（p.45）。

### 電源スイッチを〈OFF〉にしてもアクセスランプが点灯／点滅する

- カードへの画像記録中に電源を切ると、アクセスランプが数秒間点灯／点滅します。画像記録が終了すると、自動的に電源が切れます。

### [ご使用のバッテリーにCanonのロゴはありますか？]と表示される

- 純正のバッテリーパック LP-E6N/LP-E6を使用してください。
- 電池の出し入れを行ってください（p.44）。
- 電池の接点が汚れているときは、やわらかい布などでふいてください。

### 電池の消耗が早い

- フル充電した電池を使用してください（p.42）。
- 電池の性能が劣化している可能性があります。[**3：バッテリー情報**]で電池の劣化状態を確認してください（p.526）。劣化している場合は、新しい電池をお買い求めください。
- 以下の操作を行うと、撮影可能枚数が少なくなります。
  - ・シャッターボタン半押しの状態を長く続ける
  - ・AFのみを行って撮影しない操作を頻繁に行う
  - ・レンズの手ブレ補正機能を使う
  - ・GPS機能を使用する
  - ・液晶モニターを頻繁に使用する
  - ・ライブビュー撮影や動画撮影を長時間行う
  - ・Wi-Fi/NFC（無線通信）機能を頻繁に使用する
  - ・Eye-Fiカードの通信機能を有効にしているとき

### 電源が勝手に切れる

- オートパワーオフ機能が働いています。自動的に電源が切れないようにしたいときは、［**2：オートパワーオフ**］を［**しない**］にしてください（p.76）。
- ［**2：オートパワーオフ**］を［**しない**］に設定していても、カメラを約30分放置すると、節電のため液晶モニターの表示が消えます（カメラの電源は切れません）。

## 撮影関連

### レンズが装着できない

- EF-S、EF-Mレンズは使用できません（p.55）。

### ファインダーが暗い

- 充電した電池をカメラに入れてください（p.42）。

### 撮影・記録ができない

- カードが正しくセットされているか確認してください（p.45）。
- SDカード使用時は、カードの書き込み禁止スイッチを、書き込み・消去可能な位置にしてください（p.45）。
- カードの空き容量がない場合は、空き容量のあるカードに交換するか、不要な画像を消去してください（p.45、439）。
- ワンショットAFでピントを合わせたときに、ファインダー内の合焦マーク〈●〉が点滅するときや、ライブビュー撮影／動画撮影時にAFフレームがオレンジ色のときは撮影できません。もう一度シャッターボタンを半押ししてピントを合わせなおすか、手動でピントを合わせてください（p.58、159）。

## カードが使えない

- カードのトラブルに関するメッセージが表示されたときは、48、573ページを参照してください。

## カードを他のカメラに入れるとエラーになる

- 容量が128GBを超えるCFカード、およびSDXCカードはexFAT形式でフォーマットされるため、このカメラで初期化したカードを他のカメラに入れると、エラーが表示され使用できないことがあります。

## シャッターボタンを2回押さないと撮影できない

- ［**4：ミラーアップ撮影**］を［**しない**］に設定してください。

## 画像がボケている／ブレている

- レンズのフォーカスモードスイッチを〈**AF**〉にしてください（p.55）。
- 手ブレを起こさないように、シャッターボタンを静かに押してください（p.57、58）。
- 手ブレ補正機能を搭載したレンズのときは、手ブレ補正スイッチを〈**ON**〉にしてください。
- 暗い場所では、シャッター速度が遅くなることがあります。シャッター速度を速くする（p.246）、ISO感度を上げる（p.177）、ストロボを使用する（p.286）、三脚を使用するなどの方法で撮影してください。
- 96ページの『ブレの少ない画像を撮影するには』を参照してください。

## AFフレーム（測距点）が少ない／エリアAFフレームの形が異なる

- 使用するレンズにより、使用可能な測距点の数や、測距パターン、エリアAFフレームの形などが異なり、A～Kの11グループに分類されます（p.115）。使用するレンズがどのグループに属しているか確認してください。なお、G～Kグループのレンズを使用したときは、測距点が少なくなります（p.118～121）。

## AFフレームが点滅している／2つ表示される

- 〈⊡〉ボタンを押したときのAFフレームの点灯／点滅については、108ページを参照してください。
- 登録した位置のAFフレームが点滅しています（p.108、500）。
- 任意選択しているAFフレーム（またはゾーン）と、登録AFフレームが表示されています（p.107、500）。

## ピントを固定したまま構図を変えて撮影できない

- AF動作をワンショットAFにしてください（p.100、101、314）。AIサーボAF/サーボAF（p.102、315）およびAIフォーカスAF（p.102）でサーボ状態のときは、フォーカスロック撮影（p.97、101）はできません。

## AFフレームが赤く照明されない

- AFフレームは、暗い場所や、暗い被写体にピントが合ったときに、赤く照明されます。
- 〈**P**〉〈**Tv**〉〈**Av**〉〈**M**〉〈**B**〉モードのときは、ピントが合ったときに、AFフレームを赤く照明するかどうかを設定することができます（p.150）。

## 連続撮影速度が遅い

- 高速連続撮影時の連続撮影速度は、電源の種類、電池残量、温度、フリッカー低減処理、DPRAW撮影、デジタルレンズオプティマイザ、シャッター速度、絞り数値、被写体条件、明るさ、AF動作、レンズの種類、ストロボ使用、撮影機能の設定などの条件により低下することがあります。詳しくは160～162ページを参照してください。

## 連続撮影可能枚数が少なくなる

- 芝生など細かいパターンの被写体を撮影すると、1 枚あたりのファイルサイズが大きくなり、実際に連続撮影できる枚数が、171ページに目安として示した連続撮影可能枚数より少なくなることがあります。
- [**振り分け**] 設定時に、CFカード（カード1）とSDカード（カード2）の記録画質の設定が異なるときは、連続撮影可能枚数が少なくなります。
- [**📷1：レンズ光学補正**] の [**デジタルレンズオプティマイザ**] を [**する**] に設定したときは、連続撮影可能枚数が大幅に少なくなります。
- [**📷1：DPRAW設定**] を [**する**] に設定し、記録画質を RAW に設定したときは、連続撮影可能枚数が少なくなります。

## カードを変えても連続撮影可能枚数の表示が変わらない

- 別のカードに変えても（例：高速タイプのカードを使用しても）、ファインダー内に表示される連続撮影可能枚数は変わりません。また、171ページの表に記載している連続撮影可能枚数は、その試験条件のカードで実際に連続撮影できる枚数を示しています（書き込み速度が高速なカードなほど、実際に連続撮影できる枚数が多くなります）。そのため、ファインダー内に表示される連続撮影可能枚数と、実際に連続撮影できる枚数は異なることがあります。

## DPRAW撮影ができない

- ［📷1：DPRAW設定］を［する］に設定し、［📷1：記録画質］をRAW、またはRAW＋JPEGに設定してください。

## ISO100に設定できない／拡張ISO感度が選択できない

- ［📷3：高輝度側・階調優先］が［する］に設定されているときは、ISO 感度の設定範囲がISO200～32000になります。［静止画撮影の範囲］で設定範囲を拡張しても、L（ISO50相当）、H1（ISO51200相当）、H2（ISO102400相当）は選択できません。［📷3：高輝度側・階調優先］を［しない］に設定すると（p.206）、ISO100/125/160、およびL、H1/H2 が設定できるようになります。

## 露出を暗めに補正したのに明るく撮影される

- ［📷2：オートライティングオプティマイザ］を［しない］に設定してください（p.201）。［弱め］［標準］［強め］に設定されているときは、露出補正、ストロボ調光補正で露出を暗めに補正しても、明るく撮影されることがあります。

## マニュアル露出＋ISOオート時に露出補正ができない

- 252ページを参照して露出補正を行ってください。
- ストロボ撮影時に露出補正は行われません。

## レンズ光学補正設定時に一部の項目が表示されない

- ［📷1：レンズ光学補正］設定時に［デジタルレンズオプティマイザ］を［する］に設定したときは、［色収差補正］［回折補正］は表示されませんが、ともに［する］の設定で撮影されます。
- 動画撮影時に［歪曲収差補正］［デジタルレンズオプティマイザ］［回折補正］の項目は表示されません。

### 多重露出撮影時に撮影画像が表示されない

- ［**連続撮影優先**］設定時は、撮影途中に「撮影直後の画像確認」「画像再生」はできません（p.268）。

### 多重露出画像がRAWで撮影される

- 記録画質の設定が**M** RAW、**S** RAWのときは、多重露出画像はRAWで記録されます（p.275）。

### 〈Av〉モードでストロボ撮影するとシャッター速度が遅くなる

- 夜景などを背景にした暗い場所で撮影すると、主被写体も背景も適正露出になるように、自動的にシャッター速度が遅くなります（スローシンクロ撮影）。シャッター速度が遅くならないようにするときは、［**📷1：外部ストロボ制御**］の［**Avモード時のストロボ同調速度**］を、［**1/200-1/60秒自動**］または［**1/200秒固定**］に設定してください（p.290）。

### ストロボが発光しない

- カメラにストロボ（またはシンクロコード）がしっかり取り付けられているかどうか確認してください。
- 汎用ストロボを使用してライブビュー撮影を行うときは、［**📷6：LVソフト撮影**］を［**しない**］に設定してください（p.312）。

### ストロボがいつもフル発光する

- EXシリーズスピードライト以外のストロボを使用すると、常時フル発光します（p.287）。
- ストロボカスタム機能の［**調光方式**］が［**TTL**］（自動調光）に設定されていると、常時フル発光します（p.294）。

### ストロボ調光補正ができない

- ストロボ側で調光補正量が設定されているときは、カメラで補正量の設定はできません。ストロボ側の設定を解除（ゼロに設定）すると、カメラで設定できるようになります。

### 〈Av〉モードでハイスピードシンクロができない

- ［**1：外部ストロボ制御**］の［**Av モード時のストロボ同調速度**］を［**自動**］に設定してください（p.290）。

### ライブビュー撮影時にシャッター音が2回する

- ストロボ使用時は、1回の撮影でシャッター音が2回します（p.300）。

### ライブビュー撮影時に白い🌡と赤い🌡が表示される

- カメラ内部の温度が上昇していることを示しています。白い〈🌡〉が表示されたときは、静止画の画質が低下することがあります。赤い〈🌡〉が表示されたときは、もうすぐライブビュー撮影が自動的に終了することを示しています（p.331）。

### ライブビュー撮影時の連続撮影中に撮影画像が表示されない

- 記録画質がM RAW、S RAWに設定されているときは、連続撮影中に撮影画像は表示されません（p.299）。

### 動画撮影時に赤い🌡が表示される

- カメラ内部の温度が上昇していることを示しています。赤い〈🌡〉が表示されたときは、もうすぐ動画撮影が自動的に終了することを示しています（p.391）。

### 動画撮影が勝手に終了する

- 書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画撮影が自動的に終了することがあります。動画が記録できるカードについては、356ページを参照してください。なお、書き込み速度については、カードメーカーのホームページなどで確認してください。
- 動画撮影を開始してから29分59秒（ハイフレームレート動画撮影時は7分29秒）経過すると、動画撮影が自動的に終了します。

### 動画撮影時にISO感度が設定できない

- 撮影モードが〈📷〉〈**P**〉〈**Tv**〉〈**Av**〉〈**B**〉のときはISO感度が自動設定されます。〈**M**〉モードのときはISO感度を任意に設定することができます（p.341）。

### 動画撮影時にISO100に設定できない／拡張ISO感度が選択できない

- ［📷3：**高輝度側・階調優先**］が［**する**］に設定されているときは、ISO 感度の設定範囲がISO200～になります。［**動画撮影の範囲**］［**4K の範囲**］で設定範囲を拡張しても、H、H1、H2は選択できません。［📷3：**高輝度側・階調優先**］を［**しない**］に設定すると（p.206）、ISO100/125/160、および拡張ISO感度が設定できるようになります。
- HDR動画撮影時は拡張ISO感度は選択できません。

### 動画撮影にすると手動設定したISO感度が変わる

- ファインダー撮影時、ライブビュー撮影時は［**2：ISO感度に関する設定**］の［**静止画撮影の範囲**］（p.180）、動画撮影時は［**2：ISO感度に関する設定**］の［**動画撮影の範囲**］［**4K の範囲**］（p.379）の設定内容でISO感度が設定されます。

### 動画撮影時に露出が変化する

- 動画撮影中にシャッター速度や絞り数値の変更を行うと、露出変化が記録されることがあります。
- 動画撮影中にズーム操作を行うときは、テスト撮影をおすすめします。ズーム操作を行うと、露出変化やレンズの作動音が記録されたり、ピントがズレることがあります。

### 動画撮影時に画面がちらつく／横縞が写る

- 蛍光灯やLED照明などの光源下で動画撮影を行うと、画面のちらつきや、横縞（ノイズ）や露出ムラが記録されることがあります。また、露出（明るさ）や色あいの変化が記録されることがあります。〈**Tv**〉〈**M**〉モードのときは、シャッター速度を遅くすると、現象が緩和されることがあります。なお、タイムラプス動画を撮影したときは、現象がより強く発生することがあります。

### 動画撮影時に被写体がゆがむ

- 動画撮影中にカメラを左右に動かしたり（パンニング）、動きのある被写体を撮影すると、像がゆがんで写ることがあります。なお、タイムラプス動画を撮影したときは、現象がより強く発生することがあります。

### 動画に音声が記録されない

- ハイフレームレート動画撮影時は、音声は記録されません。

### タイムコードが付加されない

- ハイフレームレート動画撮影時に、［**5：タイムコード**］の［**カウントアップ**］が［**フリーラン**］に設定されているときは（p.365）、タイムコードは付加されません。また、HDMI出力を行ったときも、HDMI出力映像にタイムコードは付加されません（p.367）。

### タイムコードのカウントが早い

- ハイフレームレート動画撮影時は、実時間1秒で4秒分カウントアップします（p.358）。

### 動画撮影時に静止画が撮影できない

- 動画撮影時に静止画は撮影できません。静止画を撮影するときは、動画撮影を終了して、ファインダー撮影、またはライブビュー撮影を行ってください。

## 操作関連

### 〈〉〈〉〈〉〈〉〈〉で設定を変更できない

- 〈LOCK▶〉スイッチを左側（ロック解除）にしてください（p.62）。
- ［5：マルチ電子ロック］の設定内容を確認してください（p.90）。

### タッチ操作ができない

- ［2：タッチ操作］が［標準］または［敏感］に設定されているか確認してください（p.72）。

### ボタンやスイッチなどが思ったとおりに動かない

- ［3：操作ボタンカスタマイズ］の設定内容を確認してください（p.495）。

## 表示関連

### メニュー画面に表示されるタブや項目が少ない

- 〈〉モードのときは一部のタブや項目は表示されません。撮影モードを〈P〉〈Tv〉〈Av〉〈M〉〈B〉にしてください（p.67）。

### ［★］マイメニュータブから表示される／［★］タブしか表示されない

- ［★］タブの［メニュー表示］が［マイメニュータブから表示］または［マイメニュータブのみ表示］に設定されています。［通常表示］に設定してください（p.519）。

### ファイル名の先頭文字がアンダーバー（「_」）になる

- ［**2：色空間**］を［sRGB］に設定してください。［Adobe RGB］に設定されているときは、先頭文字がアンダーバーになります（p.217）。

### ファイル名の4文字目が変化する

- ［**1：ファイル名の設定**］が［*****+画像サイズ**］に設定されています。カメラ固有のファイル名、またはユーザー設定1に登録したファイル名を選択してください（p.220）。

### 画像番号が0001から始まらない

- 画像が記録されているカードを使用すると、撮影した画像の番号が0001から始まらないことがあります（p.223）。

### 撮影年月日／時刻が正しく表示されない

- 日付/時刻が正しく設定されているか確認してください（p.51）。
- エリア、サマータイムの設定を確認してください（p.52、53）。

### 画像に日付／時刻が写し込まれない

- 撮影した画像に日付/時刻は写し込まれません。画像データに撮影情報として記録されます。写真を印刷するときに、その情報を利用して用紙に日付/時刻を入れることができます（p.471）。

### ［###］が表示される

- カードに記録されている画像数が、カメラで表示できる桁数を超えると［###］と表示されます。

### ファインダー内のAFフレームの表示速度が遅い

- 低温下では、AFフレーム表示装置（液晶）の特性上、表示速度が遅くなることがあります。常温に戻れば表示速度が速くなります。

### 液晶モニターの表示が不鮮明になる

- 液晶モニターが汚れているときは、やわらかい布などでふいてください。
- 液晶の特性で低温下での表示反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されます。

### ［Eye-Fi設定］が表示されない

- ［**1：Eye-Fi設定**］は、Eye-Fiカードを入れているときにだけ表示されます。カードの書き込み禁止スイッチがあるEye-Fiカードでは、スイッチが「LOCK」側になっていると、通信状態を確認したり、Eye-Fi通信をしない設定にする機能が使えません（p.532）。

## 再生関連

### 画像の一部が黒く点滅する

- ［▶3：ハイライト警告表示］が［する］に設定されています（p.401）。

### 画像に赤い枠が表示される

- ［▶3：AFフレーム表示］が［する］に設定されています（p.402）。

### 画像再生時にAFフレームが表示されない

- 歪曲収差補正（p.209）が行われた画像を再生したときは、AFフレームは表示されません。

### 画像が消去できない

- プロテクトされている画像は消去できません（p.412）。

### 動画がコピーできない

- ファイルサイズが4GBを超える動画ファイルはコピーできないことがあります。詳しくは435ページを参照してください。

### 画像（静止画／動画）が再生できない

- 他のカメラで撮影した画像は再生できないことがあります。
- パソコンで編集した動画はカメラで再生できません。

### 動画を再生すると操作音や作動音がする

- 動画撮影中にダイヤル操作やレンズ操作を行うと、その操作音も録音されます。指向性ステレオマイクロホン DM-E1（別売）の使用をおすすめします（p.363）。

### 動画が一瞬止まって見える

- 自動露出撮影時に、大きな露出変化が生じると、明るさが安定するまでの一瞬の間、記録を止める仕様になっています。このようなときは、〈**M**〉モードで撮影してください（p.340）。

### 動画がスローモーションで再生される

- ハイフレームレート動画は、29.97fps/25.00fpsの動画として記録されるため、再生時は1/4倍速のスローモーションで再生されます。

### テレビに映像が表示されない

- ［**3：ビデオ方式**］の［**NTSC**］［**PAL**］の設定を確認してください（テレビが対応している方式に合わせてください）。
- HDMIケーブルのプラグが根元までしっかりと差し込まれているか確認してください（p.432）。

### 動画ファイルが複数作成される

- 1回の撮影でファイルサイズが4GBを超えるときは、動画ファイルが複数作成されます（p.360）。ただし、128GBを超えるCFカード、またはSDXCカードをこのカメラで初期化してから撮影したときは、1回の撮影でファイルサイズが4GBを超えても1つのファイルに記録されます。

### 動画からフレーム切り出しができない

- 4K画質で撮影した動画からのみフレーム切り出しを行うことができます。フルHD画質で撮影した動画や、ハイフレームレート動画（HD画質）、他のカメラで撮影した4K動画からは、フレーム切り出しはできません。

## カードリーダーでカードを認識できない

- 大容量のCFカード、またはSDXCカードは、お使いのカードリーダーやパソコンのOSにより、カードリーダーに差しても正しく認識されないことがあります。そのときは、カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続し、EOS用ソフトウェアのEOS Utility（p.598）を使って画像を取り込んでください。

## RAW画像が現像できない

- **M** RAW、**S** RAW画像はカメラで現像処理を行うことはできません。EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.598）で現像処理を行ってください。

## 画像をリサイズ／トリミングできない

- JPEGの**S3**とRAW/**M** RAW/**S** RAW画像、4K動画からフレーム切り出しを行い静止画として保存した画像は、カメラでリサイズ、トリミングできません（p.452、454）。

## 画像に輝点が発生する

- 撮像素子が宇宙線などの影響を受けると、撮影画像に「輝点（白、赤、青など）」が生じることがあります。[**3：センサークリーニング**]の[**今すぐクリーニング**]を行うと（p.458）、輝点の発生が改善することがあります。

## デュアルピクセル情報を活用したRAW現像ができない

- DPRAW画像を[**1：RAW現像**]で現像処理することはできますが、このカメラでデュアルピクセル情報を活用した現像処理を行うことはできません。EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.598）で現像処理を行ってください。

## センサークリーニング関連

### センサークリーニング中にシャッター音がする

- [**今すぐクリーニング**] を選んだときは、清掃中にシャッターの作動音がしますが、画像はカードに記録されません（p.458）。

### 撮像素子の自動清掃が行われない

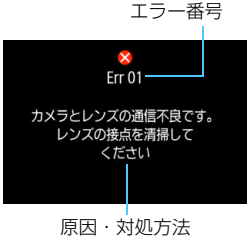
- 電源スイッチの〈**ON**〉〈**OFF**〉を短い時間で繰り返すと、〈〉が表示されないことがあります（p.49）。

## パソコン接続関連

### パソコンに画像が取り込めない

- EOS DIGITAL Solution Disk（CD-ROM／p.4）をパソコンに入れ、EOS用ソフトウェアのEOS Utility（p.598）をパソコンにインストールしてください（p.599）。
- Wi-Fi接続中は、インターフェースケーブルを使用してパソコンと通信を行うことはできません。
- [**2：画像転送**] でパソコンに画像を転送するときは、EOS Utilityのメイン画面が表示されていることを確認してください。

# エラー表示




カメラに異常が発生すると、エラー画面が表示されます。表示される内容に従って対応してください。

| 番号 | メッセージ／対処方法 |
|---|---|
| 01 | カメラとレンズの通信不良です。レンズの接点を清掃してください |
| | ➔カメラ/レンズの接点清掃、純正レンズを使用、電池の出し入れ（p.27、28、44） |
| 02 | カード＊にアクセスできません。カード＊を入れなおすか、交換するか、このカメラで初期化してください |
| | ➔カード抜き差し、カード交換、カード初期化（p.45、73） |
| 04 | カード＊がいっぱいになったため、記録できませんでした。カード＊を交換してください |
| | ➔カード交換、不要画像の消去、カード初期化（p.45、439、73） |
| 06 | センサークリーニングができませんでした。電源を入れなおしてください |
| | ➔電源スイッチ操作（p.49） |
| 10, 20<br>30, 40<br>50, 60<br>70, 80<br>99 | エラーが発生したため撮影できません。電源を入れなおすか、電池を入れなおしてください |
| | ➔電源スイッチ操作、電池の出し入れ、純正レンズを使用（p.49、44） |

**＊ 上記の対処を行ってもエラーが表示されるときは、EOS・サポートナビ(canon.jp/eos-navi)から修理をお申し込みいただくか、エラー番号を控えて別紙の修理お問合せ専用窓口にご相談ください。**

# 主な仕様

**■型式**

型式..... デジタル一眼レフレックスAF・AEカメラ
記録媒体..... CFカード（タイプI準拠、UDMAモード7対応）
SD/SDHC*/SDXC*メモリーカード
* UHS-Iカード対応
撮像画面サイズ..... 約36.0×24.0mm
使用レンズ..... キヤノンEFレンズ群
* EF-S、EF-Mレンズを除く
（有効撮影画角は表記焦点距離の約等倍に相当）
レンズマウント..... キヤノンEFマウント

**■撮像素子**

形式..... CMOSセンサー
カメラ部有効画素..... 約3040万画素
* 1万の位を四捨五入
アスペクト比..... 3：2
ダスト除去..... 自動/手動、ダストデリートデータ付加

**■記録形式**

記録フォーマット..... DCF2.0
画像タイプ..... JPEG、RAW（14bit、キヤノン独自）
RAW+JPEG同時記録可能
記録画素数..... L（ラージ）：約3010万（6720×4480）画素
M（ミドル）：約1330万（4464×2976）画素
S1（スモール1）：約750万（3360×2240）画素
S2（スモール2）：約250万（1920×1280）画素
S3（スモール3）：約35万（720×480）画素
RAW（ロウ）：約3010万（6720×4480）画素
M-RAW：約1690万（5040×3360）画素
S-RAW：約750万（3360×2240）画素
DPRAW設定..... 可能
記録機能..... 標準、カード自動切り換え、振り分け、同一書き込み
フォルダ作成／選択..... 可能
ファイル名..... カメラ固有設定、ユーザー設定1、ユーザー設定2
画像番号..... 通し番号、オートリセット、強制リセット

**■撮影時の画像処理**

ピクチャースタイル……オート、スタンダード、ポートレート、風景、ディテール重視、ニュートラル、忠実設定、モノクロ、ユーザー設定1～3
ホワイトバランス……オート（雰囲気優先）、オート（ホワイト優先）、プリセット（太陽光、日陰、くもり、白熱電球、白色蛍光灯、ストロボ）、マニュアル、色温度指定（約2500～10000K）
ホワイトバランス補正、ホワイトバランスブラケティング可能
* ストロボ色温度情報通信対応
画像の明るさ自動補正……オートライティングオプティマイザ機能搭載
ノイズ低減……高感度撮影、長秒時露光に対応
高輝度側・階調優先……可能
レンズ光学補正……周辺光量補正、歪曲収差補正、デジタルレンズオプティマイザ、色収差補正、回折補正

**■ファインダー**

方式……ペンタプリズム使用、アイレベル式
視野率……上下/左右とも約100%（アイポイント約21mm時）
倍率……約0.71倍（50mmレンズ・∞・－1$m^{-1}$）
アイポイント……約21mm（－1$m^{-1}$時、接眼レンズ中心から）
視度調整範囲……約－3.0～+1.0$m^{-1}$（dpt）
フォーカシング
スクリーン……固定式
グリッド表示……可能
水準器表示……可能
機能設定表示……バッテリー（電池残量）、撮影モード、ホワイトバランス、ドライブモード、AF動作、測光モード、画像タイプ：JPEG/RAW、デジタルレンズオプティマイザ、DPRAW設定、フリッカー検知、警告！表示、AF作動表示
ミラー……クイックリターン式
被写界深度確認……可能

**■オートフォーカス**（ファインダー撮影時）

方式.....専用AFセンサーによるTTL二次結像位相差検出方式
測距点.....最大61点（クロス測距点：最大41点）
* 使用レンズにより、測距点数、デュアルクロス測距点数、クロス測距点数が変動する
* 中央部縦5測距点はF2.8対応デュアルクロス測距（AFグループ属性：Aグループレンズ使用時）
測距輝度範囲.....EV -3～18（中央F2.8対応測距点・ワンショットAF・常温・ISO100）
フォーカス動作.....ワンショットAF、AIサーボAF、AIフォーカスAF、手動（MF）
測距エリア選択モード.....スポット1 点AF（任意選択）、1 点AF（任意選択）、領域拡大AF（任意選択上下左右）、領域拡大AF（任意選択周囲）、ゾーンAF（ゾーン任意選択）、ラージゾーンAF（ゾーン任意選択）、自動選択AF
測距点自動選択条件.....EOS iTR AFの設定による（顔情報、色情報を使用したAFが可能）
* iTR：Intelligent Tracking and Recognition
AFカスタム設定
ガイド機能.....Case1～6
AIサーボAF特性.....被写体追従特性、速度変化に対する追従性、測距点乗り移り特性
AF機能のカスタマイズ.....17種
AF微調整.....AFマイクロアジャストメントにより対応（全レンズ一律調整、レンズごとに調整）
AF補助光.....EOS用外部ストロボのAF補助光による

**■露出制御**

測光方式.....約15万画素RGB＋IR測光センサー使用、252分割TTL開放測光
EOS iSA（Intelligent Subject Analysis）システム
・評価測光（すべてのAFフレームに対応）
・部分測光（中央部・ファインダー画面の約6.1%）
・スポット測光（中央部・ファインダー画面の約1.3%）
・中央部重点平均測光
測光輝度範囲.....EV 0～20（常温・ISO100）
撮影モード.....シーンインテリジェントオート、プログラムAE、シャッター優先AE、絞り優先AE、マニュアル露出、バルブ、カスタム撮影モード（C1/C2/C3）

ISO感度（推奨露光指数）……シーンインテリジェントオート：ISO 100～12800自動設定
P, Tv, Av, M, B：ISOオート、ISO 100～32000手動設定（1/3、1段ステップ）、および L（ISO 50相当）、H1（ISO51200相当）、H2（ISO102400）の感度拡張が可能
* 高輝度側・階調優先設定時はISO200～32000
ISO感度関連設定……静止画撮影の範囲、オートの範囲、オートの低速限界設定可能
露出補正……手動：1/3、1/2段ステップ±5段
AEB：1/3、1/2段ステップ±3段（手動露出補正との併用可能）
AEロック……自動：ワンショットAF・評価測光時、合焦と同時にAEロック
手動：AEロックボタンによる
フリッカー低減……可能
インターバルタイマー……撮影間隔、撮影回数を設定可能
バルブタイマー……露光時間を設定可能

**■HDR撮影**
ダイナミックレンジ調整……自動、±1、±2、±3
仕上がり効果……ナチュラル、絵画調標準、グラフィック調、油彩調、ビンテージ調
画像位置自動調整……可能

**■多重露出撮影**
撮影方法……機能・操作優先、連続撮影優先
多重枚数……2～9枚
多重露出制御……加算、加算平均、比較（明）、比較（暗）

**■シャッター**
形式……電子制御式、フォーカルプレーンシャッター
シャッター速度……1/8000～30秒（すべての撮影モードを合わせて）、バルブ、ストロボ同調最高シャッター速度＝1/200秒

■ドライブ関係

ドライブモード ..... 1枚撮影、高速連続撮影、低速連続撮影、ソフト1枚撮影、ソフト連続撮影、セルフタイマー：10秒/リモコン、セルフタイマー：2秒/リモコン

連続撮影速度 ..... 高速連続撮影：最高約7.0コマ/秒

* フリッカー低減撮影時、DPRAW撮影時、ライブビュー撮影+サーボAF時、デジタルレンズオプティマイザ設定時は連続撮影速度が低下する
* 高速連続撮影時の連続撮影速度は、電源の種類、電池残量、温度、フリッカー低減処理、DPRAW撮影、デジタルレンズオプティマイザ、シャッター速度、絞り数値、被写体条件、明るさ、AF動作、レンズの種類、ストロボ使用、撮影機能の設定などの条件により低下することがある

低速連続撮影：最高約3.0コマ/秒

ソフト連続撮影：最高約3.0コマ/秒

連続撮影可能枚数 ..... JPEGラージ/ファイン：約110枚（Card Full）

RAW：約17枚（約21枚）

RAW+JPEGラージ/ファイン：約13枚（約16枚）

* 当社試験基準CFカード（標準：8GB／高速：UDMAモード7対応 64GB）を使用し、当社試験基準（高速連続撮影、ISO100、ピクチャースタイル：スタンダード、IPTC情報の付加：しない）で測定
* （ ）内の数値は、当社試験基準UDMAモード7対応、CFカード使用時の枚数
* 「Card Full」は、カードの空き容量がなくなるまで撮影可能

**■外部ストロボ**

対応ストロボ ..... EXシリーズスピードライト
調光方式 ..... E-TTL II 自動調光
ストロボ調光補正 ..... 1/3、1/2段ステップ±3段
FEロック ..... 可能
シンクロ端子 ..... あり
ストロボ制御 ..... ストロボ機能設定、ストロボカスタム機能設定

**■ライブビュー撮影機能**

フォーカス方式 ..... デュアルピクセル CMOS AF方式
AF方式 ..... 顔+追尾優先AF、ライブ多点AF、ライブ1点AF
手動ピント合わせ（約5倍/10倍拡大確認可能）
測距輝度範囲 ..... EV -4～18（常温・ISO100・ワンショットAF）
測光方式 ..... 評価測光（315分割）、部分測光（ライブビュー画面の約6.3%）、スポット測光（ライブビュー画面の約2.7%）、中央部重点平均測光
測光輝度範囲 ..... EV 0～20（常温・ISO100）
露出補正 ..... 1/3、1/2段ステップ±3段
LVソフト撮影 ..... 可能（モード1、2）
タッチシャッター ..... 可能
グリッド表示 ..... 3種類

**■動画撮影機能**

記録形式 ..... MOV、MP4
映像 ..... 4K：Motion JPEG
Full HD/HD：MPEG-4 AVC/H.264 可変（平均）ビットレート方式
音声 ..... MOV：リニアPCM、MP4：AAC
動画記録サイズ ..... 4K（4096×2160）、Full HD（1920×1080）、HD（1280×720：ハイフレームレート動画）
フレームレート ..... 119.9p/59.94p/29.97p/24.00p/23.98p（NTSC設定時）
100.0p/50.00p/25.00p/24.00p（PAL設定時）
* 119.9p/100.0pはハイフレームレート動画
映像記録方式／
圧縮方式 ..... Motion JPEG
ALL-I（編集用／I-only）、IPB（標準）、IPB（軽量）
* Motion JPEG、ALL-IはMOV設定時のみ
* IPB（軽量）はMP4設定時のみ

ビットレート ..... [MOV]
4K（29.97p/25.00p/24.00p/23.98p）
：約500Mbps
Full HD（59.94p/50.00p）/ALL-I ：約180Mbps
Full HD（59.94p/50.00p）/IPB ：約60Mbps
Full HD（29.97p/25.00p/24.00p/23.98p）/ALL-I
：約90Mbps
Full HD（29.97p/25.00p/24.00p/23.98p）/IPB（標準）
：約30Mbps
HD（119.9p/100.0p）/ALL-I ：約160Mbps
[MP4]
Full HD（59.94p/50.00p）/IPB（標準） ：約60Mbps
Full HD（29.97p/25.00p/24.00p/23.98p）/IPB（標準）
：約30Mbps
Full HD（29.97p/25.00p）/IPB（軽量） ：約12Mbps
要求カード性能 ..... 4K（29.97p/25.00p/24.00p/23.98p）
（書き込み/読み取り速度） ：CF UDMA 7：100MB/秒以上
：SD UHS-I 90MB/秒以上
Full HD（59.94p/50.00p）/ALL-I
：CF UDMA 7：60MB/秒以上
：SD UHS-I スピードクラス3以上
Full HD（59.94p/50.00p）/IPB ：CF 30MB/秒以上
：SDスピードクラス10以上
Full HD（29.97p/25.00p/24.00p/23.98p）/ALL-I
：CF 30MB/秒以上
：SD UHS-I スピードクラス3以上
Full HD（29.97p/25.00p/24.00p/23.98p）/IPB（標準）
：CF 10MB/秒以上
：SDスピードクラス6以上
Full HD（29.97p/25.00p）/IPB（軽量）
：CF 10MB/秒以上
：SDスピードクラス4以上
HD（119.9p/100.0p）：CF UDMA 7：60MB/秒以上
：SD UHS-I スピードクラス3以上
フォーカス方式 ..... デュアルピクセル CMOS AF方式
AF方式 ..... 顔+追尾優先AF、ライブ多点AF、ライブ1点AF
手動ピント合わせ（約5倍/10倍拡大確認可能）
動画サーボAF ..... 可能
* 動画サーボAFのカスタマイズ可能

| | |
|---|---|
| 測距輝度範囲 | EV -4～18（常温・ISO100・ワンショットAF） |
| 測光方式 | 撮像素子による中央部重点平均測光、および評価測光<br>* AF方式により自動設定 |
| 測光輝度範囲 | EV 0～20（常温・ISO100・中央部重点平均測光） |
| 露出制御 | 自動露出撮影（動画撮影用プログラムAE）、シャッター優先AE、絞り優先AE、マニュアル露出 |
| 露出補正 | 1/3、1/2段ステップ±3段 |
| ISO感度 | [Full HD] |
| （推奨露光指数） | シーンインテリジェントオート：ISO100～25600自動設定<br>P/Tv/Av/B：ISO100～25600自動設定、H（ISO32000相当）、H1（ISO51200相当）、H2（ISO102400相当）の感度拡張が可能<br>M：ISOオート（ISO100～25600自動設定）、ISO100～25600手動設定（1/3、1段ステップ）、H（ISO32000相当）、H1（ISO51200相当）、H2（ISO102400相当）の感度拡張が可能<br>* HDR動画撮影、タイムラプス動画撮影時は設定範囲が異なる<br>[4K]<br>シーンインテリジェントオート：ISO100～12800自動設定<br>P/Tv/Av/B：ISO100～12800自動設定、H（ISO16000/20000/25600/32000相当）、H1（ISO51200相当）、H2（ISO102400相当）の感度拡張が可能<br>M：ISOオート（ISO100～12800自動設定）、ISO100～12800手動設定（1/3、1段ステップ）、H（ISO16000/20000/25600/32000相当）、H1（ISO51200相当）、H2（ISO102400相当）の感度拡張が可能 |
| ISO感度関連設定 | 動画撮影の範囲、4Kの範囲設定可能 |
| タイムコード | 付加可能 |
| ドロップフレーム | 119.9p/59.94p/29.97p対応 |
| 録音 | モノラルマイク内蔵、外部ステレオマイク端子装備<br>録音レベル調整可能、ウィンドカット機能／アッテネーター機能搭載 |

ヘッドフォン ..... ヘッドフォン端子装備、音量調整可能
グリッド表示 ..... 3種類
HDR動画撮影 ..... 可能
タイムラプス動画 ..... 撮影間隔、撮影回数を設定可能
撮影所要時間、再生時間、カード残量を確認可能
2画面表示 ..... 液晶モニターとHDMI出力映像の同時表示可能
HDMI出力 ..... 情報表示なし映像を出力可能
* 自動／59.94i/50.00i／59.94p/50.00p／23.98pから選択可能
* [24.00p: 入] 設定時は24.00pでHDMI出力
* タイムコード付加可能
リモコン撮影 ..... 可能
アクセサリー取り付け ..... 底面に回転防止用の位置決め穴を装備
静止画撮影 ..... 動画撮影時不可

**■液晶モニター**
形式 ..... TFT式カラー液晶モニター
画面サイズ/ドット数 ..... ワイド3.2型（3：2）／約162万ドット
明るさ調整 ..... 自動（暗め/標準/明るめ）、手動（7段階）
色あい調整 ..... 暖色／標準／寒色1／寒色2
水準器表示 ..... 可能
メニュー表示言語 ..... 日本語、英語
タッチパネル ..... 静電容量方式
ヘルプ表示 ..... 可能

**■再生機能**
画像表示形式 ..... 1枚表示（情報表示なし）、1枚表示（簡易情報）、1枚表示（撮影情報表示：詳細情報、レンズ/ヒストグラム情報、ホワイトバランス情報、ピクチャースタイル情報1、ピクチャースタイル情報2、色空間/ノイズ低減情報、レンズ光学補正情報1、レンズ光学補正情報2、GPS情報、IPTC情報）、インデックス表示（4枚/9枚/36枚/100枚）、2枚表示
ハイライト警告 ..... ハイライト部分点滅表示
AFフレーム表示 ..... 可能（撮影条件により表示できない場合がある）
グリッド表示 ..... 3種類
拡大表示 ..... 約1.5～10倍、拡大開始倍率／開始位置設定可能
画像送り ..... 1枚/10枚/100枚/撮影日/フォルダ/動画/静止画/プロテクト/レーティング

画像回転 ..... 可能
画像プロテクト..... 可能
レーティング ..... 可能
動画再生 ..... 可能（液晶モニター／HDMI）
動画前後カット..... 可能
4K動画フレーム
切り出し ..... 任意のフレームを切り出しJPEG画像として保存可能
スライドショー..... 全画像/日付/フォルダ/動画/静止画/プロテクト/レーティング
画像コピー ..... 可能

**■撮影後の画像処理**
カメラ内RAW現像..... 明るさ補正、ホワイトバランス、ピクチャースタイル、オートライティングオプティマイザ、高感度撮影時のノイズ低減、JPEG記録画質、色空間、レンズ光学補正（周辺光量補正、歪曲収差補正、デジタルレンズオプティマイザ、色収差補正、回折補正）
リサイズ ..... 可能
トリミング ..... 可能

**■画像転送機能**
転送対応画像 ..... 静止画（JPEG画像、RAW画像、RAW＋JPEG画像）、動画

**■印刷指定**
DPOF..... バージョン1.1準拠

**■GPS機能**

対応衛星 ..... GPS衛星（アメリカ）、GLONASS衛星（ロシア）、準天頂衛星みちびき（日本）
GPS信号受信モード ..... モード1、モード2
画像への位置情報付加 ..... 緯度、経度、標高、協定世界時（UTC）、衛星捕捉状態
位置情報の更新間隔 ..... 1／5／10／15／30秒間隔、1／2／5分間隔
時刻合わせ ..... GPS の時刻データをカメラに設定
ログデータ ..... NMEAフォーマット、1日1ファイル生成
* エリアを変えると別ファイル生成
* 内蔵メモリーに保存されたログデータを、ログファイルとしてカードに移動／パソコンに取り込み可能
ログデータの消去 ..... 可能

**■カスタマイズ機能**

カスタム機能 ..... 17種
クイック設定
カスタマイズ ..... 可能
カスタム撮影モード ..... C1/C2/C3モードに登録
マイメニュー ..... 5画面登録可能
著作権情報 ..... 設定/付加可能
IPTC情報 ..... 付加可能

**■インターフェース**

デジタル端子 ..... SuperSpeed USB（USB3.0）
パソコン通信、ワイヤレスファイルトランスミッター WFT-E7（Ver.2）、コネクトステーションCS100接続
HDMIミニ出力端子 ..... タイプC（解像度自動切り換え）、CEC対応
外部マイク入力端子 ..... Φ3.5mmステレオミニジャック
指向性ステレオマイクロホン DM-E1接続
ヘッドフォン端子 ..... Φ3.5mmステレオミニジャック
リモコン端子 ..... N3タイプのリモコンに対応
ワイヤレスリモコン ..... リモートコントローラー RC-6に対応
Eye-Fiカード ..... 対応

**■電源**

使用電池 ..... バッテリーパック LP-E6N/LP-E6、1個
* 家庭用電源アクセサリー使用によりAC駆動可能

電池情報 ..... 使用電源、電池残量、撮影回数、劣化度確認可能、電池登録可能

撮影可能枚数の目安..... ファインダー撮影：
常温（＋23℃）約900枚/低温（0℃）約850枚
ライブビュー撮影：
常温（＋23℃）約300枚/低温（0℃）約280枚
* フル充電のバッテリーパックLP-E6N使用時

動画撮影可能時間..... 常温（＋23℃）合計約1時間30分
低温（0℃）合計約1時間20分
* フル充電のバッテリーパックLP-E6N使用、動画サーボAF：しない、Full HD 29.97p/25.00p/24.00p/23.98p IPB（標準）設定時

**■大きさ・質量**

大きさ ..... 約150.7（幅）×116.4（高さ）×75.9（奥行）mm

質量..... 約890g（バッテリー、CFカード、SDメモリーカードを含む）／約800g（本体のみ）

**■動作環境**

使用可能温度 ..... 0℃～＋40℃

使用可能湿度 ..... 85%以下

- 記載データはすべて当社試験基準、またはCIPA試験基準/ガイドラインによります。
- 大きさ、質量はCIPAガイドラインによります（カメラ本体のみの質量を除く）。
- 製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。
- 他社製のレンズを使用して不具合が生じた場合は、そのレンズメーカーへお問い合わせください。

## 商標について

- Adobeは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。
- Microsoft、Windowsは、Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Macintosh、Mac OSは、米国およびその他の国で登録されているApple Inc.の商標です。
- CompactFlash（コンパクトフラッシュ）は、SanDisk Corporationの商標です。
- SDXCロゴは、SD-3C, LLC.の商標です。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。
- DCF*は、（社）電子情報技術産業協会の団体商標で、日本国内における登録商標です。DCFロゴマークは、（社）電子情報技術産業協会の「Design rule for Camera File System」の規格を表す団体商標です。
- Google™ 、Google マップ™ および Google Earth™ は Google Inc. の商標です。
- Map Utilityは、Google マップ™ 地図サービスを使用して地図上に画像や軌跡を表示しています。
- その他の社名、商品名などは、各社の商標または登録商標です。

＊ DCF は、主としてデジタルカメラの画像を関連機器間で簡便に利用しあうことを目的として制定された（社）電子情報技術産業協会（JEITA）の規格の「Design rule for Camera File System」の略称です。

## 妨害電波自主規制について

この装置（カメラ）は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書（本書）に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

## MPEG-4使用許諾について

"This product is licensed under AT&T patents for the MPEG-4 standard and may be used for encoding MPEG-4 compliant video and/or decoding MPEG-4 compliant video that was encoded only (1) for a personal and non-commercial purpose or (2) by a video provider licensed under the AT&T patents to provide MPEG-4 compliant video. No license is granted or implied for any other use for MPEG-4 standard."

* 規定により英語で表記しています。

## 第三者のソフトウェアについて

本製品には、以下に示す第三者のソフトウェアが含まれています。

●expat.h

Copyright (c) 1998, 1999, 2000 Thai Open Source Software Center Ltd

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

**アクセサリーはキヤノン純正品のご使用をおすすめします**

本製品は、キヤノン純正の専用アクセサリーと組み合わせて使用した場合に最適な性能を発揮するように設計されておりますので、キヤノン純正アクセサリーのご使用をおすすめいたします。
なお、純正品以外のアクセサリーの不具合（例えばバッテリーパックの液漏れ、破裂など）に起因することが明らかな、故障や発火などの事故による損害については、弊社では一切責任を負いかねます。また、この場合のキヤノン製品の修理につきましては、保証の対象外となり、有償とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

バッテリーパック LP-E6N/LP-E6は、キヤノン製品専用です。指定外の充電器、および製品と組み合わせて使用した場合の故障、事故に関しては一切保証できません。

## 修理対応について

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりは、お客様にてご負担願います。
2. 本製品の修理対応期間は、製品製造打切り後7年間です。なお、弊社の判断により、修理対応として同一機種または同程度の仕様製品への本体交換を実施させていただく場合があります。同程度の機種との交換の場合、ご使用の消耗品や付属品をご使用いただけないことや、対応OSが変更になることがあります。
3. 修理品をご送付の場合は、見本の撮影データやプリントを添付するなど、修理箇所を明確にご指示の上、十分な梱包でお送りください。

**MEMO**

**MEMO**

**MEMO**

**MEMO**

**MEMO**

# 16

# パソコンに画像を取り込む／ソフトウェアについて

この章では、パソコンに画像を取り込む方法、EOS DIGITAL Solution Disk（CD-ROM）に収録されている各ソフトウェアの概要、パソコンへのインストール方法、ソフトウェア使用説明書CD-ROMに収録されているPDFファイルの見かたについて説明しています。

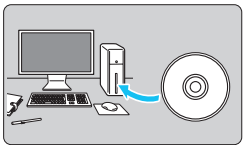
EOS DIGITAL
Solution Disk
（ソフトウェア）

ソフトウェア
使用説明書

# パソコンに画像を取り込む

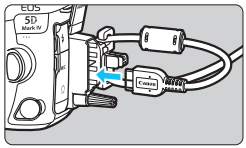
EOS用ソフトウェアを使って、カメラで撮影した画像をパソコンに取り込むことができます。パソコンに取り込む方法は2通りあります。

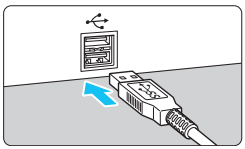
## カメラとパソコンを接続して画像を取り込む



### 1 ソフトウェアをインストールする

（p.599）



### 2 付属のインターフェースケーブルでカメラとパソコンを接続する

- カメラに付属のインターフェースケーブルを使用します。
- カメラ側を接続するときは、ケーブルプロテクターを使用し（p.38）、プラグの〈SS⇐▭〉がカメラの背面に向くようにして、デジタル端子に差し込みます。
- パソコンのUSB端子にプラグを差し込みます。

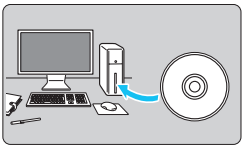
### 3 EOS Utility を使って画像を取り込む

- EOS Utility使用説明書（p.600）を参照してください。

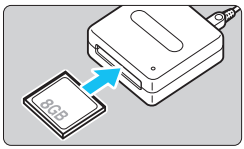
付属または純正のインターフェースケーブルを使用してください（p.525）。なお、インターフェースケーブルを接続するときは、付属のケーブルプロテクターを使用してください（p.38）。

## カードリーダーで画像を取り込む

カードリーダーを使って画像をパソコンに取り込むことができます。



**1** ソフトウェアをインストールする
（p.599）



**2** カードリーダーにカードを差し込む

**3** Digital Photo Professionalを使って画像を取り込む

- Digital Photo Professional使用説明書（p.600）を参照してください。

EOS用ソフトウェアを使わずに、カードリーダーを使って画像を取り込むときは、カード内の「DCIM」フォルダをパソコンにコピーしてください。

# ソフトウェアの概要

## EOS DIGITAL Solution Disk

EOS DIGITAL用の各種ソフトウェアは、EOS DIGITAL Solution Diskに収録されています。
（EOS DIGITAL Solution Diskに「ソフトウェア使用説明書」は収録されていません。600ページを参照してください。）

## EOS Utility

カメラとパソコンを接続し、撮影画像（静止画／動画）のパソコンへの取り込み、カメラの各種設定、パソコン操作によるリモート撮影などを行うソフトウェアです。

## Digital Photo Professional

RAW画像を撮影される方におすすめのソフトウェアです。RAW画像、JPEG画像の閲覧・編集・印刷などができます。

* OSが64bit版のパソコンにインストールされるバージョンと、32bit版のパソコンにインストールされるバージョンでは、一部機能が異なります。

## Picture Style Editor

ピクチャースタイルを編集し、オリジナルピクチャースタイルファイルの作成・保存ができます。画像処理上級者向けのソフトウェアです。

### ● キヤノンホームページからダウンロード

以下のソフトウェアとソフトウェア使用説明書は、キヤノンのホームページからダウンロードすることができます。

**Map（マップ） Utility（ユーティリティー）**

GPS機能で記録した位置情報を使用して、パソコンの地図に、画像の撮影場所を表示できます。なお、Map Utilityの使用には、インターネット接続環境が必要です。

**EOS（イオス） MOVIE（ムービー） Utility（ユーティリティー）**

撮影した動画の再生や、分割された動画ファイルの連続再生・結合保存を行うことができます。また、動画のフレームを選んで、静止画として保存することもできます（フレーム切り出し）。

# ソフトウェアのインストール

- **ソフトウェアをインストールする前に、カメラとパソコンを接続しないでください。ソフトウェアを正しくインストールできません。**
- 旧バージョンのソフトウェアがインストールされている場合は、下記の手順に従ってインストールしてください（上書きインストールされます）。

**1 パソコンにEOS DIGITAL Solution Diskを入れる**

- Macintoshでは、デスクトップ上に表示されたCD-ROMアイコンをダブルクリックして開き、［setup］をダブルクリックしてください。

**2 ［おまかせインストール］をクリックし、画面の指示に従って操作する**

**3 インストールが終了したらCD-ROMを取り出す**

# ソフトウェア使用説明書

ソフトウェアの使用説明書が収録されています。ソフトウェア使用説明書（PDFファイル）のコピー方法と見かたは、以下のとおりです。

なお、ソフトウェア使用説明書（PDFファイル）は、キヤノンのホームページからダウンロードすることもできます。

http://cweb.canon.jp/manual/eosd/soft.html

---

## 1 パソコンに「ソフトウェア使用説明書」のCD-ROMを入れる

## 2 CD-ROMのアイコンをダブルクリックする

## 3 [Japanese] フォルダをパソコンにコピーする

- 以下のソフトウェア説明書（PDFファイル）がコピーされます。

| | Windows | Macintosh |
|---|---|---|
| EOS Utility | EUx.xW_J_xx | EUx.xM_J_xx |
| Digital Photo Professional | DPPx.xW_J_xx | DPPx.xM_J_xx |
| Picture Style Editor | PSEx.xW_J_xx | PSEx.xM_J_xx |

## 4 コピーしたPDFファイルをダブルクリックする

- ソフトウェア使用説明書（PDFファイル）を見るためには、パソコンにAdobe Acrobat Reader DCなどのAdobe社製PDF閲覧用ソフトウェア（最新版推奨）がインストールされている必要があります。
- Adobe Acrobat Reader DCはインターネット上から無料でダウンロードできます。
- PDF閲覧用ソフトウェアの使い方については、そのソフトウェアのヘルプなどを参照してください。

# 索 引

## 英数字


10秒後/2秒後撮影.....163
1点AF ..... 104, 109, 321
1枚撮影.....160, 161
1枚表示.....394
2枚表示.....408
4K 4096×2160（動画）.....352
4Kフレームキャプチャー.....427
4枚/9枚/36枚/100枚.....403
(シーンインテリジェント
オート).....94
ACアダプター.....530
Adobe RGB.....217
AEB.....257, 483
AEロック.....259
AF.....99
AFカスタム設定ガイド機能.....127
AF機能カスタマイズ.....136
AFグループ.....115
AF作動表示.....103
AFセンサー.....113
AF動作.....100, 314
AFの苦手な被写体.....158, 324
AFフレーム赤色照明.....103, 150
AFフレーム数.....115
AFフレーム選択.....107, 503
AFフレーム登録.....500
AF方式.....316, 382
AF補助光.....139
AFマイクロアジャストメント.....152
F8 AF.....113, 114
色情報.....147
エリアAFフレーム.....105, 111
顔情報.....147
クロス測距.....113
構図変更.....97, 101, 259
手動ピント合わせ.....159, 329
スポットAFフレーム.....31, 109
測距エリア選択
モード.....104, 106, 109
ダイレクト選択.....503
デュアルクロス測距.....113
電子音.....76
ピンボケ.....57, 58, 557
AF-ON（スタート）
ボタン.....58, 496, 498
AI FOCUS（AIフォーカスAF）.....102
AI SERVO（AIサーボAF）.....97, 102
AFフレーム照明.....103, 150
開始位置.....146
速度変化に対する追従性.....133
測距点乗り移り特性.....134
被写体追従特性.....132
ALL-I (編集用／I-only).....355
Av（絞り優先AE）.....248, 336
Avモード時ストロボ同調速度.....290
B/W.....185, 189
buSY（BUSY）.....174, 205
B（バルブ）.....260, 334
（カスタム撮影）.....520
Case.....127
CFカード →カード
CLn.....463
D+.....206
DCカプラー.....530

DIGITAL端子 .....29, 38, 466, 596
DPOF.....471
DPRAW.....175
Err.....573
exFAT.....74, 360
Eye-Fiカード.....532
FHD 1920×1080（動画）.....352
FAT32.....74, 360
FEB .....293
FEロック.....286
Full HD（動画）.....333, 352
GPS .....227
H/H1/H2/H3
（拡張感度）.....177, 180, 379
HD 1280×720（動画）.....352
HDMI .....38, 420, 432
記録コマンド.....367
出力.....387, 390
接続時の表示.....387
タイムコード.....367
HDMI CEC.....433
HDR撮影 .....263
HDR動画 .....369
HD（ハイフレームレート動画）.....358
ICCプロファイル .....217
INFO.ボタン
..... 63, 86, 301, 305, 344, 394
IPB（軽量）.....355
IPB（標準）.....355
IPTC情報 .....493
ISO感度.....177, 337, 341
4K の範囲.....379
オートの低速限界 .....182
オートの範囲.....181
感度拡張.....180
自動設定（オート）.....179
手動設定範囲.....180
静止画撮影の範囲 .....180
設定ステップ.....482
動画撮影の範囲.....379
iTR AF.....147
JPEG（ジェイペグ）.....169, 171
LOCK.....62, 90
LOG（ログ）.....238
LV →ライブビュー撮影
M（マニュアル露出）.....251, 340
MENU マーク.....8
MF（手動ピント合わせ）.....159, 329
M-Fn .....62, 106, 144, 497, 499
Motion JPEG（MJPG）.....355
MOV .....351
MP4.....351
M-RAW
（ミドルロウ）....169, 171, 172, 173
MWB.....195
NTSC .....352, 432, 549
ONE SHOT
（ワンショットAF）.....101, 314
P（プログラムAE）.....244, 334
PAL.....352, 432, 549
Q（クイック
設定）.....64, 308, 350, 418
RAW（ロウ）.....169, 171, 173
RAW+JPEG .....169, 171

RAW現像 ..... 446
SD、SDHC、SDXCカード →カード
SERVO AF（サーボAF） ..... 315
S-RAW
（スモールロウ） 169, 171, 172, 173
sRGB ..... 217
Tv（シャッター優先AE） ..... 246, 335
Ultra DMA（UDMA） ..... 46, 171
USB（デジタル）
端子 ..... 29, 38, 466, 596
UTC ..... 228
WB（ホワイトバランス） ..... 192

## あ

アイカップ ..... 278
アイコン（絵文字） ..... 8
アイピースカバー ..... 37, 278
アクセサリーシュー ..... 28, 286
アクセスランプ ..... 47, 48
アスペクト比 ..... 310
アッテネーター ..... 363
後幕シンクロ ..... 293
安全上のご注意 ..... 22
アンダーバー「_」 ..... 217, 222
位置決め穴 ..... 30
位置情報の更新間隔（GPS） ..... 236
色あい ..... 188
色温度 ..... 192, 197
色空間 ..... 217
色収差補正 ..... 211
色の濃さ ..... 188
印刷
　印刷指定（DPOF） ..... 471
　フォトブック指定 ..... 476
インターバルタイマー ..... 281
インデックス表示 ..... 403
ウィンドカット ..... 363
液晶モニター ..... 27
　明るさ ..... 442
　色あい ..... 443
　画像の再生 ..... 393
　クイック設定 ..... 64, 88
　水準器 ..... 82, 86
　メニュー機能 ..... 67, 540
絵文字 ..... 8
エラー表示 ..... 573
エリアAFフレーム ..... 105, 111
エリア（地域） ..... 51
応用 マーク ..... 8
オートパワーオフ ..... 49, 76
オートフォーカス →AF
オートライティング
オプティマイザ ..... 93, 201
オートリセット ..... 224
オート（📷A） ..... 184
お気に入りマーク ..... 415
主な仕様 ..... 574
温度警告 ..... 331, 391
音量（動画再生） ..... 423

## か

カード ..... 5, 27, 45, 73, 356
　入れ忘れ防止 ..... 46
　書込み禁止 ..... 45
　初期化（フォーマット） ..... 73

トラブル.....48, 74
物理フォーマット.....74
カード自動切り換え.....167
カードなしレリーズ.....46
外光センサー.....29, 442
開始測距点.....146
回折補正.....212
階調優先.....206
回転（画像）.....411, 444
外部ストロボ →ストロボ
外部マイク.....363
拡大開始倍率／開始位置.....407
拡大表示.....325, 329, 406
拡張ISO感度.....177, 180, 379
拡張子.....222
各部名称.....28
カスタム機能.....480, 482
カスタム撮影モード.....520
画像
2枚表示.....408
AFフレーム表示.....402
インデックス表示.....403
オートリセット.....224
拡大表示.....406
画像番号.....223
強制リセット.....224
コピー.....435
サイズ.....171, 352, 398
再生.....393
撮影情報.....398
自動回転.....444
自動再生.....429
ジャンプ表示（画像送り）.....404
手動回転.....411
消去.....439
スライドショー.....429
テレビで見る.....420, 432
転送.....466
通し番号.....223
取り込み（パソコン）.....596
ハイライト警告.....401
ヒストグラム.....402
プロテクト（保護）.....412
レーティング.....415
画素数.....169, 171
家庭用電源.....530
カメラ
構え方.....57
カメラブレ.....96, 276
設定初期化.....77
設定内容表示.....87
簡易情報表示.....397
感度 →ISO感度
機能ガイド.....91
強制リセット.....224
記録画質.....169, 351
画像サイズ.....169, 352
記録機能.....166
クイック設定.....64, 308, 350, 418
クイック設定カスタマイズ.....510
クリーニング.....457
クリエイティブ
フォト.....183, 263, 268
グリッド.....81, 309, 382, 396
クロス測距.....113
警告表示.....489

軽量（IPB）.....355
ケーブルプロテクター.....38
言語.....54
高感度撮影時のノイズ低減.....202
高輝度側・階調優先.....206
合焦マーク.....94, 101
高速連続撮影.....160
故障.....554
コピー.....435
細かさ（シャープネス）.....188
ゴミの写り込み防止.....457
コントラスト.....188, 201

## さ

サーボAF
AI SERVO AF.....102
SERVO（LV）.....315
動画サーボAF.....380, 383, 384
再生.....393
先幕シンクロ.....293
撮影画像の確認時間.....77
撮影可能時間（動画）.....347, 359
撮影可能枚数.....50, 171, 299
撮影情報表示.....398
撮影モード.....35
Av（絞り優先AE）.....248, 336
B（バルブ）.....260, 334
C1（カスタム撮影）.....520
P（プログラムAE）.....244, 334
Tv
（シャッター優先AE）.....246, 335
A+（シーンインテリジェント
オート）.....94
M（マニュアル露出）.....251, 340
撮影モードで設定できる機能.....536
撮像素子の清掃.....457
サブ電子ダイヤル.....60
サマータイム.....53
三脚ねじ穴.....30
シーンインテリジェントオート.....94
シーン判別アイコン.....303, 339
しきい値（シャープネス）.....188
システム図.....524
自動再生.....429
自動時刻設定（GPS）.....237
自動選択AF.....105, 111
視度調整.....57
絞り込み.....250
絞り優先AE.....248, 336
シャープネス.....188
シャッターボタン.....58
シャッター優先AE.....246, 335
ジャンプ表示.....404
充電.....42
周辺光量補正.....207
縮小表示.....403
手動ピント合わせ.....159, 329
消去（画像）.....439
照明（AFフレーム）.....150
照明（表示パネル）.....63
初期化（フォーマット）.....73
初期設定一覧.....77
シリアル番号.....30, 155, 526
白黒写真.....185, 189

白とび ..... 401
シンクロ設定 ..... 293
シンクロ接点 ..... 28
シンクロ端子 ..... 29, 288
水準器 ..... 82, 83
スタンダード（ ） ..... 184
ストラップ ..... 37
ストロボ（スピードライト） ..... 285
FEB ..... 293
FEロック ..... 286
外部ストロボ ..... 286
カスタム機能 ..... 294
シンクロ（先幕／後幕） ..... 293
ストロボ制御（機能設定） ..... 289
調光補正 ..... 286, 293
同調速度 ..... 288, 290
マニュアル発光 ..... 291
ワイヤレス ..... 292
スピーカー ..... 29, 422
スポット1点AF ..... 104, 109
スポットAFフレーム ..... 31, 109
スポット測光 ..... 254
スモール（記録画質） ..... 171
スライドショー ..... 429
清掃 ..... 457
セイフティシフト ..... 485
設定初期化 ..... 77
AIサーボAF特性 ..... 135
カスタム機能 ..... 481
カメラ設定 ..... 77
クイック設定カスタマイズ ..... 512
ストロボ機能設定 ..... 295
操作ボタンカスタマイズ ..... 495
マイメニュー ..... 518
セピア調（モノクロ） ..... 189
セルフタイマー ..... 163
全押し ..... 58
センサークリーニング ..... 457
全自動モード ..... 94
全レンズ一律調整（AF） ..... 152
操作ボタンカスタマイズ ..... 495
ゾーンAF ..... 105, 110
速度変化に対する追従性 ..... 133
測距エリア選択
モード ..... 104, 106, 109
測距点自動選択 ..... 105, 111
測距点乗り移り特性 ..... 134
測距点
（AFフレーム） .. 104, 107, 109, 113
測光タイマー ..... 58, 313, 385
測光モード ..... 253
ソフト1枚撮影 ..... 161
ソフト撮影
LVソフト撮影 ..... 312
ソフト1枚撮影 ..... 161
ソフト連続撮影 ..... 161
ソフトウェア
使用説明書 ..... 600

## た

タイムコード ..... 365
タイムラプス動画 ..... 371
ダイレクト選択（AFフレーム） ..... 503
多重露出 ..... 268
ダストデリートデータ ..... 460

タッチ音 ..... 76
タッチシャッター ..... 327
タッチ操作 ..... 70, 409
縦位置画像回転表示 ..... 444
縦位置/横位置AFフレーム ..... 144
チャージャー ..... 36, 42
中央部重点平均測光 ..... 254
忠実設定（FE） ..... 185
調光補正 ..... 286, 293
長時間露光 ..... 260
調色（モノクロ） ..... 189
長秒時露光のノイズ低減 ..... 204
著作権情報 ..... 225
強さ（シャープネス） ..... 188
低速連続撮影 ..... 161
ディテール重視（FE） ..... 184
デジタル端子 ..... 29, 38, 466, 596
デジタルレンズ
オプティマイザ ..... 210, 450
手ブレ ..... 57, 96
デュアルクロス測距 ..... 113
テレビで見る ..... 420, 432
電源 ..... 49
　オートパワーオフ ..... 49, 76
　家庭用電源 ..... 530
　撮影可能枚数 ..... 50, 171, 299
　充電 ..... 42
　電池残量 ..... 50, 526
　電池情報 ..... 526
　劣化度 ..... 526
電子音 ..... 76
電子ダイヤル
　サブ電子ダイヤル ..... 60
　メイン電子ダイヤル ..... 59
電池 →電源
同一書き込み ..... 167
動画 ..... 333
　24.00p ..... 357
　AEロック ..... 338
　AF方式 ..... 316, 382
　HDMI出力 ..... 387, 390
　HDR動画撮影 ..... 369
　MOV/MP4 ..... 351
　圧縮方式 ..... 355
　アッテネーター ..... 363
　ウィンドカット ..... 363
　映像記録方式 ..... 355
　外部マイク ..... 363
　記録カウント ..... 366
　記録コマンド ..... 367
　記録時間 ..... 359
　クイック設定 ..... 350
　グリッド ..... 382
　サーボAF ..... 380
　サーボAF時のAF速度 ..... 383
　サーボAFの被写体追従特性 ..... 384
　再生 ..... 420, 422
　再生カウント ..... 366
　自動露出撮影 ..... 334
　絞り優先AE撮影 ..... 336
　シャッター速度 ..... 335, 340, 343
　シャッター優先AE撮影 ..... 335
　情報表示 ..... 344
　前後カット ..... 425
　測光タイマー ..... 385
　タイムコード ..... 365

タイムラプス動画 ..... 371
楽しみ方 ..... 420
テレビで見る ..... 420, 432
動画記録画質（サイズ） ..... 352
動画撮影ボタン ..... 334, 386
ドロップフレーム ..... 368
ハイフレームレート ..... 358
ファイルサイズ ..... 359, 360
フリーラン ..... 365
フレーム切り出し ..... 427
フレームレート ..... 352, 390
ヘッドフォン ..... 363
編集 ..... 425
マイク ..... 334, 363
マニュアル露出撮影 ..... 340
レックラン ..... 365
録音／録音レベル ..... 362
ワンショットAF ..... 314
通し番号 ..... 223
ドライブモード ..... 160
ドラッグ ..... 71
トラブル ..... 554
トリミング（画像） ..... 454
トリミング情報 ..... 491

## な

内蔵マイク ..... 334
ニュートラル（ ） ..... 184
任意選択（AF） ..... 104, 107, 109
ノイズ低減
高感度撮影時 ..... 202
長秒時露光 ..... 204
ノーマル（記録画質） ..... 169

## は

バースト枚数 ..... 171, 174
ハイビジョン ..... 352, 358
ハイフレームレート ..... 358
ハイライト警告 ..... 401
パソコンへの画像取り込み ..... 596
発光モード ..... 291
バッテリーグリップ ..... 526
バッテリー（電池） →電源
バルブ撮影 ..... 260
バルブタイマー ..... 261
半押し ..... 58
汎用ストロボ ..... 288
ピクチャー
スタイル ..... 183, 187, 190
被写界深度確認 ..... 250
被写体追従特性 ..... 132
ヒストグラム ..... 301, 344, 402
日付／時刻 ..... 51
ビットレート ..... 580
ビデオ方式 ..... 351, 432, 549
評価測光 ..... 253
表示パネル
照明 ..... 63
標準（IPB） ..... 355
ピント合わせ →AF
ファームウェア ..... 550
ファイナルイメージ
シミュレーション ..... 304, 348
ファイルサイズ ..... 171, 359, 398
ファイル名 ..... 220

アンダーバー「_」.....217, 222
ファインダー
グリッド.....81
視度調整.....57
情報表示.....84
水準器.....83
ファイン（記録画質）.....169
フィルター効果（モノクロ）.....189
風景（SCN）.....184
フォーカスモード
スイッチ.....6, 55, 159, 329
フォーカスロック.....97, 101
フォーマット（カード初期化）.....73
フォトブック指定.....476
フォルダ作成／選択.....218, 219
付属品.....3
部分測光.....253
ブラケティング
AEB.....257, 483
FEB.....293
WB-BKT.....199, 483
フリーラン.....365
フリッカーレス.....215
振り分け.....167
フルハイビジョン
(Full HD).....333, 352
フレーム切り出し.....427
フレームレート.....352, 390
プログラムAE.....244, 334
プログラムシフト.....245
プロテクト（保護）.....412
雰囲気優先（AWB）.....194
ヘッドフォン.....363
ヘルプ.....91
編集用（ALL-I）.....355
ポートレート（SCN）.....184
ホワイトバランス.....192
色温度指定.....197
オート.....194
ブラケティング.....199
補正.....198
マニュアル.....195
ホワイト優先（AWB）.....194

## ま

マイク.....334, 363
外部.....363
内蔵.....334
マイクロアジャストメント.....152
マイメニュー.....515
マニュアルフォーカス.....159, 329
マニュアル露出.....251, 340
マルチコントローラー.....61
マルチショットノイズ低減.....202
マルチ電子ロック.....62, 90
マルチファンクション
.....62, 106, 144, 497, 499
ミドル（記録画質）.....171
ミラーアップ撮影.....276
メイン電子ダイヤル.....59
メニュー.....67
機能一覧.....540
設定操作.....68
灰色（グレー）表示.....69
マイメニュー.....515

メモリーカード →カード
モードダイヤル ..... 35, 59
モノクロ（M） ..... 185

## や

ユーザー設定（C） ..... 185
要求カード性能 ..... 356

## ら

ラージ（記録画質） ..... 171
ラージゾーンAF ..... 105, 111
ライブビュー撮影 ..... 98, 297
AF動作 ..... 314
LVソフト撮影 ..... 312
アスペクト比 ..... 310
顔+追尾優先AF ..... 317
クイック設定 ..... 308
グリッド ..... 309
撮影可能枚数 ..... 299
手動ピント合わせ ..... 329
情報表示 ..... 301
測光タイマー ..... 313
ライブ1点AF ..... 321
ライブ多点AF ..... 319
露出シミュレーション ..... 311
リサイズ ..... 452
リモートスイッチ ..... 279
リモコン端子 ..... 279
領域拡大AF
任意選択 ..... 104, 109
任意選択周囲 ..... 105, 110
レーティング ..... 415
レックラン ..... 365
レンズ ..... 27, 55
AFグループ属性 ..... 115
色収差補正 ..... 211
回折補正 ..... 212
光学補正 ..... 207
周辺光量補正 ..... 207
デジタルレンズ
オプティマイザ ..... 210, 450
フォーカスモード
スイッチ ..... 6, 55, 159, 329
ロック解除 ..... 56
歪曲収差補正 ..... 209
連続撮影可能枚数 ..... 171, 174
連続撮影（連写） ..... 160
ロウ ..... 169, 171, 173
ロウ現像 ..... 446
ロガー ..... 238
ログデータ ..... 239
録音／録音レベル ..... 362
露出維持 ..... 486
露出シミュレーション ..... 311
露出設定ステップ ..... 482
露出補正 ..... 255
露出補正（M+ISOオート） ..... 252
露出レベル表示 ..... 32, 34, 301, 344

## わ

歪曲収差補正 ..... 209
ワンショットAF ..... 101, 314
ワンタッチ記録画質
切り換え ..... 174, 507

**MEMO**

**MEMO**

Canon

# EOS 5D Mark IV

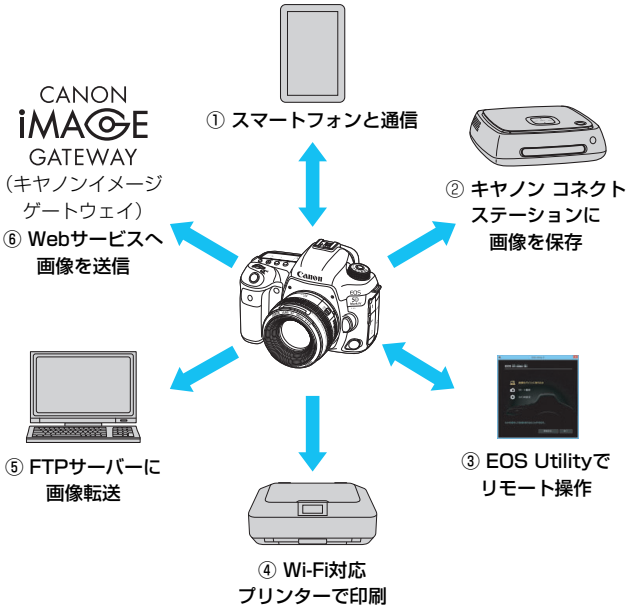
## EOS 5D Mark IV (WG)

## Wi-Fi(無線通信)機能 使用説明書(基本編)

Wi-Fi（無線通信）機能 使用説明書（基本編）では、簡単に使うことができる「スマートフォンと通信」、「コネクトステーションに画像を保存」の基本的な使い方を説明しています。

# はじめに

## Wi-Fi®（無線通信）機能でできること



① **スマートフォンと通信**

スマートフォンやタブレットに無線で接続して、専用アプリケーション「Camera Connect（カメラコネクト）」を使ってカメラをリモート操作したり、カメラ内の画像を見ることができます。

なお、本書およびカメラの液晶モニターに表示される画面では、スマートフォンとタブレットをあわせて「スマートフォン」と記載しています。

NFC*に対応したスマートフォンはカメラとのタッチで接続できます。

* Near Field Communication：近距離無線通信

② **コネクトステーションに画像を保存**

コネクトステーション（別売）にカメラをかざして接続し、画像を保存することができます。

③ **EOS Utilityでリモート操作**

パソコンに無線で接続して、EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使ってカメラをリモート操作することができます。

④ **Wi-Fi対応プリンターで印刷**

無線で使えるPictBridge（Wireless LAN）に対応したプリンターに無線で接続して、画像を印刷することができます。

⑤ **FTPサーバーに画像転送**

FTPサーバーに無線で接続して、撮影した画像を転送することができます。

⑥ **Webサービスへ画像を送信**

キヤノンユーザーのためのオンラインフォトサービス CANON iMAGE GATEWAY（登録無料）を通じて、家族や友人との画像共有や、さまざまなWebサービスを利用した画像共有を行うことができます。

- コネクトステーションは、最新のファームウェアにバージョンアップしてください。
- CANON iMAGE GATEWAYのWebサービスは、国/地域によっては対応していない場合があります。対応している国/地域の情報は、キヤノンのWebサイト（www.canon.com/cig）でご確認ください。

## NFC機能を使用した簡単接続

このカメラはNFC機能を使用して、NFC対応スマートフォンやコネクトステーション（別売）と簡単に接続できます。詳しくは、W-16ページを参照してください。

## 使用説明書について

［**EOS Utilityでリモート操作**］、［**Wi-Fi対応プリンターで印刷**］、［**FTPサーバーに画像転送**］、［**Webサービスへ画像を送信**］の使い方や、さらに詳しい使い方については、PDFの「Wi-Fi（無線通信）機能 使用説明書」を参照してください。PDFの「Wi-Fi（無線通信）機能 使用説明書」はキヤノンのホームページからダウンロードすることができます。

- 本機を使用するために、誤った無線通信機能の設定を行った結果生じた損害に対して、弊社では補償できませんので、あらかじめご了承ください。また、本機を使用した結果生じた損害に対しても、弊社では補償できませんので、併せてご了承ください。
- 無線通信機能を使用する際には、お客様の責任と判断で必要なセキュリティーを設定してご使用ください。不正侵入等によって生じた損害に対して、弊社では補償できませんので、あらかじめご了承ください。

# 目　次


はじめに W-2

Wi-Fi（無線通信）機能でできること....W-2
本使用説明書の表記について....W-6

1 準備と基本的な操作 W-7

ニックネームを登録する....W-8
基本的な操作と設定....W-11
NFC 機能について....W-16
スマートフォンの事前準備....W-18

2 スマートフォンと簡単接続 W-19

接続方法について....W-20
NFC 対応のスマートフォンと接続する場合....W-21
［簡単接続］で接続する場合....W-24
スマートフォンでカメラを操作する....W-28
スマートフォンへ画像を送信する....W-31
公開する画像を設定する....W-38
再接続する....W-42

3 コネクトステーションと簡単接続 W-43

画像を保存する....W-44
無線 LAN（Wi-Fi）について....W-46
索　引....W-48

# 本使用説明書の表記について

本書は、Wi-Fiとキヤノン独自の無線通信機能を総称して「無線」または「無線LAN」と表記しています。
また、無線LANの接続を中継する無線LAN端末（無線LANアクセスポイントまたは無線LANルーターなど）を、「アクセスポイント」と表記しています。

## 本文中の絵文字について

〈 〉　：メイン電子ダイヤルを示しています。

〈 〉　：サブ電子ダイヤルを示しています。

〈 〉　：マルチコントローラーを示しています。

〈 〉　：設定ボタンを示しています。

* その他、本文中の操作ボタンや設定位置の説明には、ボタンや液晶モニターの表示など、カメラで使われている絵文字を使用しています。

（p.＊＊）：参照ページを示しています。

：使用する際に不都合が生じる恐れのある注意事項を記載しています。

：補足説明や補足事項を記載しています。

# 1

# 準備と基本的な操作

この章では、カメラの無線機能を使用するときに必要なニックネーム（識別用の名称）の登録と、基本的な操作について説明しています。

# ニックネームを登録する

まずはじめに、カメラにニックネーム（識別用の名称）を付けます。

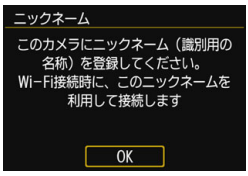
このニックネームは、無線で他の機器と接続するときに、接続先の機器で表示されます。**ニックネームを設定しないと無線機能の設定ができませんので、必ず設定してください。**

**1** **［通信機能の設定］を選ぶ**

● 〈MENU〉ボタンを押して、［4］タブの［**通信機能の設定**］を選び、〈(SET)〉を押します。

**2** **［内蔵無線通信の設定］を選ぶ**

**3** **［ニックネーム］を選ぶ**




➡ 初めて設定するときは、ニックネームの登録を促す画面が表示されます。〈(SET)〉を押して手順4に進んでください。

## 4 ニックネームを入力する

- 入力方法は、次ページを参照してください。
- 初期設定のニックネーム（カメラ名）を使用するときは手順5に進みます。
- 1～10字以内で、好きな文字を入力することもできます。

## 5 設定を終了する

- 入力が終わったら〈MENU〉ボタンを押します。
- 確認画面で［OK］を選んで〈(SET)〉を押すと、メニュー画面に戻ります。

ニックネームは、無線設定に必須な情報であるため、すべての文字を削除することはできません。

## 仮想キーボードの操作方法について

**●入力エリアの切り換え**
〈Q〉ボタンを押すと、上下の入力エリアが交互に切り換わります。

**●カーソルの移動**
上側のエリアで〈◎〉または〈✣〉を操作すると、カーソルが移動します。

**●文字の入力**
下側のエリアで〈◎〉または〈✣〉を操作して文字を選び、〈(SET)〉を押して文字を入力します。
画面右上の「*/*」で、入力した文字数と入力できる文字数を確認することができます。

**●入力モードの切り換え***
下側のエリアの一番右下の［**Aa=1@**］を選びます。〈(SET)〉を押すたびに、小文字→数字/記号1→数字/記号2→大文字に切り換わります。
* ［**タッチ操作：しない**］設定時は、1画面ですべての文字入力ができます。

**●文字の削除**
〈🗑〉ボタンを押すと1文字消去されます。

**●入力の終了**
〈**MENU**〉ボタンを押すと、入力を確定して終了します。確認画面が表示されたときは、［**OK**］を選んで終了します。

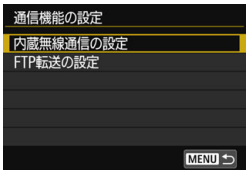
**●入力のキャンセル**
〈**INFO.**〉ボタンを押すと、入力をキャンセルして終了します。確認画面が表示されたときは、［**OK**］を選んで終了します。

# 基本的な操作と設定

カメラの無線機能を使うときの基本的な操作について説明します。以下の手順で操作を行ってください。

## 1 [通信機能の設定] を選ぶ

- 〈MENU〉ボタンを押して、[4] タブの [**通信機能の設定**] を選び、〈(SET)〉を押します。




## 2 [内蔵無線通信の設定] を選ぶ

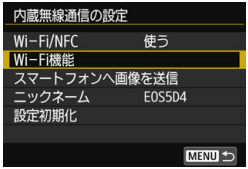
## 3 [Wi-Fi/NFC] を選ぶ

## 4 [使う] を選ぶ

- **ニックネーム（識別用の名称）を登録していないときは、登録画面が表示されます。**W-8ページを参照してニックネームを登録してください。

➡ [Wi-Fi機能] が選択できるようになります。

無線機能に関する操作も、カメラの画面にタッチして行うことができます。




## 5 [Wi-Fi機能] を選ぶ

## 6 接続するWi-Fi機能を選ぶ

- 〈◎〉または〈✣〉を操作して項目を選び、〈(SET)〉を押します。
- ➡ 接続設定が登録されていないときは、設定画面が表示されます。
- ➡ 接続設定が登録されているときは、再接続の画面が表示されます（p.W-42）。

- NFC機能を使用するときは、W-16ページを参照してください。

## [内蔵無線通信の設定] 画面について

手順5で表示される［**内蔵無線通信の設定**］画面は、無線機能の設定を行うときの入り口になる画面です。

- 項目を選んで〈(SET)〉を押し、設定画面を表示して設定します。
- ［**内蔵無線通信の設定**］画面では、次の項目が設定できます。

**[Wi-Fi/NFC]**

無線機能を［**使う**］／［**使わない**］の設定を行います。また、NFC機能の有効／無効を設定することができます。

- ［**使う**］に設定すると、［**Wi-Fi機能**］、［**スマートフォンへ画像を送信**］、［**設定初期化**］が選択できるようになります。
- 飛行機内や病院内などで、電子機器や無線機器の使用が禁止されているときは、［**使わない**］に設定してください。

**[Wi-Fi機能]**

以下のWi-Fi機能が選択できます。

- スマートフォンと通信
- EOS Utilityでリモート操作
- Wi-Fi対応プリンターで印刷
- FTPサーバーに画像転送
- Webサービスへ画像を送信

**[スマートフォンへ画像を送信]**

スマートフォンと接続中に、カメラ内の画像をスマートフォンへ送信するときに使用します。

**[ニックネーム]**

ニックネームの登録や変更を行います。

**[設定初期化]**

内蔵無線通信の設定をすべて削除して初期化を行います。

- 多重露出撮影、タイムラプス動画設定時は、［**4：通信機能の設定**］を選択できません。

**インターフェースケーブル接続時の注意事項**

- 無線LAN接続中は、カメラとコネクトステーション、パソコン、ワイヤレスファイルトランスミッターなどを、ケーブルで接続して使用することはできません。接続を終了してからケーブルで接続してください。
- ケーブルでカメラとコネクトステーション、パソコン、ワイヤレスファイルトランスミッターなどを接続しているときは、［**内蔵無線通信の設定**］を選択できません。ケーブルを取り外してから設定してください。

**カードについて**

- ［凸］［⊕］では、画像が記録されたカードがカメラに入っていないときは、無線で接続できません。

**無線接続中の操作について**

- 無線接続を優先するときは、電源スイッチやカードスロットカバー、電池室ふたなどを操作しないでください。無線接続が終了することがあります。

**Eye-Fiカードの使用について**

- ［**Wi-Fi/NFC**］を［**使う**］に設定しているときは、Eye-Fiカードでの画像転送はできません。

## 無線機能の接続状態について

カメラの液晶モニターと表示パネルで、無線機能の接続状態を確認することができます。

| 通信状態 | | 液晶モニター | | 表示パネル |
|---|---|---|---|---|
| | | Wi-Fi機能 | 電波強度 | Wi-Fi機能 |
| 未接続 | Wi-Fi/NFC：使わない | OFF | 消灯 | Wi-Fi OFF |
| | Wi-Fi/NFC：使う | OFF | | |
| 接続開始 | | （点滅） | | Wi-Fi ON（点滅） |
| 接続中 | | | | Wi-Fi ON |
| 送信中 | | （←→） | | Wi-Fi ON |
| 接続エラー | | （点滅） | | Wi-Fi ON（点滅） |
| FTPサーバーとの接続を休止しているとき | | | 消灯 | Wi-Fi ON |

* 画像の送信画面でも が表示されます。
* ［**簡単接続**］、［**カメラアクセスポイントモード**］で接続しているときは、 は表示されません。
* ライブビュー時の表示画面については、カメラ使用説明書を参照してください。

# NFC機能について

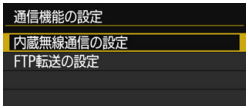
NFC対応のスマートフォンやコネクトステーションを使用すると、以下のことができます。

- スマートフォンをカメラに接するようにタッチすると、簡単に無線で接続することができます（p.W-21）。
- カメラで画像を再生しているときに、スマートフォンをカメラに接するようにタッチすると、撮影した画像をスマートフォンへ送信することができます（p.W-31）。
- コネクトステーション（別売）にカメラをかざすと、簡単に無線で接続することができます（p.W-44）。

NFC機能を使用するときは、以下の手順でカメラのNFC設定を行ってください。

**1** **［通信機能の設定］を選ぶ**

- ［4］タブの［**通信機能の設定**］を選び、〈(SET)〉を押します。




**2** **［内蔵無線通信の設定］を選ぶ**

**3** **［Wi-Fi/NFC］を選ぶ**

**NFCとは**

NFC（Near Field Communication：近距離無線通信）は、対応する機器同士を近づけるだけで、情報のやり取りができる機能です。このカメラではNFC機能を使用して、無線の接続に関する情報をやり取りしています。

## 4 [NFCでの接続を許可] の [✓] を付ける

- [**Wi-Fi/NFC**] で [**使う**] を選んでいるときに表示されます。
- 〈**INFO.**〉ボタンを押すと、[✓]のオン／オフが交互に切り換わります。[✓]を付けて〈(SET)〉を押します。
- ➡ ニックネーム（識別用の名称）を登録していないときは、登録画面が表示されます（p.W-8）。

NFC機能を使用して無線通信を行うときは、以下のページを参照してください。

スマートフォンと無線接続　：W-21ページ*
スマートフォンへ画像を送信：W-31ページ*
コネクトステーションと接続：W-44ページ
* スマートフォンと接続するときは、W-18、W-20ページも参照してください。

**NFC機能全般の注意事項**

- このカメラは、NFC対応のプリンターなどと、NFC機能を使用して接続することはできません。
- カメラで撮影中のときや、カードが入っていないとき、インターフェースケーブルで他の機器と接続中のときは、NFC機能を使用して接続することはできません。
- NFC対応のスマートフォンと接続するためには、スマートフォンのWi-Fi機能とNFC機能を有効にする必要があります。

カメラの電源がオートパワーオフ状態でも接続することができますが、接続できないときは、オートパワーオフを解除してから接続を行ってください。

# スマートフォンの事前準備

［📱］（スマートフォンと通信）を使用するためには、iOSまたはAndroidがインストールされたスマートフォンが必要です。また、スマートフォンに専用アプリケーションのCamera Connect（無料）をインストールする必要があります。

- Camera Connectは、App StoreまたはGoogle Playからダウンロードすることができます。
- Camera Connectが対応しているOSのバージョンについては、Camera Connectのダウンロードサイトでご確認ください。
- Camera Connectをインストールする前に、NFC対応のスマートフォンをカメラにタッチすると、スマートフォンにCamera Connectのダウンロード画面が表示されます。
- カメラやCamera Connectの画面表示と機能は、カメラのファームウェアアップデートやCamera Connect、iOS、Androidなどのバージョンアップにより変更される可能性があります。そのため、本書に記載している画面例や操作説明と異なる可能性があります。

# 2

# スマートフォンと簡単接続

スマートフォンと通信して、以下のことができます。

- スマートフォンでカメラ内の画像を閲覧したり、閲覧した画像をスマートフォンに保存する
- スマートフォンでカメラを操作して撮影したり、カメラの設定を変更する
- カメラからスマートフォンに画像を送信する

ここでは、カメラとスマートフォンをWi-Fiで直接接続する方法について説明しています。

- あらかじめ、スマートフォンにCamera Connectをインストールしてから接続設定を行ってください（p.W-18）。
- NFC対応のスマートフォンに画像を送信するときは、W-31ページを参照してください。

# 接続方法について

- **NFC対応のスマートフォンの場合：p.W-21を参照してください**
  NFC機能を使用して簡単に接続設定を行うことができます。
- **NFCに対応していないスマートフォンの場合：p.W-24を参照してください**
  ［**簡単接続**］を選んで接続設定を行います。

Ⓝマークが付いているスマートフォンはNFCに対応しています。また、一部のおサイフケータイ対応のスマートフォンもNFCに対応しています。なお、NFC対応のスマートフォンでも、Ⓝマークがないものもありますので、お使いのスマートフォンがNFCに対応しているか分からないときは、お使いのスマートフォンのメーカーへお問い合わせください。

NFC対応のスマートフォンでも、NFC機能で接続できないことがあります。

NFC対応のスマートフォンは、［**簡単接続**］や［**ネットワークを選択**］を選んで接続することもできます。

# NFC対応のスマートフォンと接続する場合

NFC対応のスマートフォンはカメラとタッチして接続することができます。

操作の流れは以下のとおりです。

**①カメラとスマートフォンの電源を入れる**

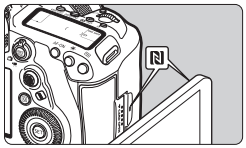
**②カメラとスマートフォンのNFC機能を有効にする**

**③カメラとスマートフォンが接するようにタッチする**

- カメラのNFC設定についてはW-16ページを参照してください。
- スマートフォンのWi-Fi設定やNFC設定、NFCのアンテナの位置については、スマートフォンの使用説明書を参照してください。

---

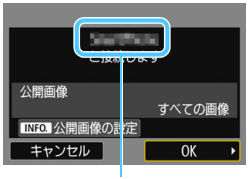
## 1 カメラとスマートフォンのNFC機能を有効にする（p.W-16）



## 2 カメラにスマートフォンをタッチする

- スマートフォンにCamera Connectのダウンロードサイトが表示されたときは、Camera Connectをインストールしてください（p.W-18）。
- カメラで画像を再生中のときは、〈▶〉ボタンを押して再生を終了してください。
- カメラとスマートフォンの N マーク同士が接するようにタッチします。
- **カメラの液晶モニターに接続中を表すメッセージが表示されたら**、カメラからスマートフォンを離してください。

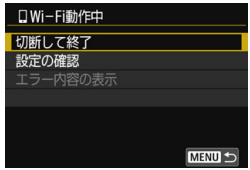
➡ スマートフォンのCamera Connectが起動し、接続を開始します。




Camera Connectで設定しているデバイスの名前

## 3 カメラを接続する

- 接続すると、カメラの液晶モニターに左の画面が表示されます。なお、同じスマートフォンと接続するときは、次回以降はこの画面は表示されません。
- 公開する画像を設定するときは、〈**INFO.**〉ボタンを押します。W-40ページの手順7を参照して設定してください。
- [**OK**]を選んで〈(SET)〉を押すと、メッセージが表示されたあとに、[**Wi-Fi動作中**]画面が表示されます。




➡ スマートフォンに、Camera Connectのメイン画面が表示されます。

- 〈**MENU**〉ボタンを押すと、メニューに戻ります。

これでスマートフォンとの接続設定は完了です。
接続したあとの操作については、W-28ページを参照してください。

デバイスの名前は、Camera Connectの設定画面で確認、変更できます。

- **必要に応じて、『NFC機能全般の注意事項』（p.W-17）もお読みください。**
- カメラにスマートフォンをタッチするときは、カメラやスマートフォンを落とさないように注意してください。
- カメラにスマートフォンを強く当てないでください。カメラやスマートフォンに傷が付くことがあります。
- スマートフォンをかざしただけでは接続できないことがあります。必ず接するようにタッチしてください。
- スマートフォンによっては、認識されにくいことがあります。位置をずらしたり、水平方向に回転させるなどしてゆっくりタッチしてください。
- タッチのしかたによっては、スマートフォンの他のアプリケーションが起動することがあります。Ⓝマークの位置を確認して、再度タッチしてください。
- タッチするときは、カメラとスマートフォンの間にものを置かないでください。また、カメラやスマートフォンにケースなどをつけていると、NFC機能で接続できないことがあります。

- 2台以上のスマートフォンと同時に接続することはできません。
- NFC機能で接続した設定は、初期設定では［**SET4(NFC)**］の名称で、4番目の設定（NFC接続専用の設定）として保存されます。また、違うスマートフォンとNFC接続したときは、［**SET4(NFC)**］が上書きされます。
- 接続中は、カメラのオートパワーオフ機能は働きません。

# [簡単接続] で接続する場合

カメラとスマートフォンをWi-Fiで直接接続します。

なお、接続するためにはスマートフォンの操作が必要です。詳しくは、スマートフォンの使用説明書を参照してください。

## スマートフォン側の操作-1

**1** スマートフォンにCamera Connectをインストールする（p.W-18）

## カメラ側の操作-1

**2** [通信機能の設定] を選ぶ

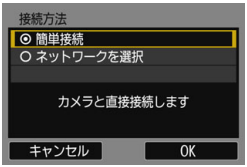
- [4] タブの [**通信機能の設定**] を選び、〈(SET)〉を押します。

**3** [内蔵無線通信の設定] を選ぶ

**4** [Wi-Fi機能] を選ぶ

- [**Wi-Fi/NFC**] を [**使う**] に設定したあとで、[**Wi-Fi機能**] を選びます（p.W-12）。
- ニックネーム（識別用の名称）の設定画面が表示されたときは、ニックネームを登録してください（p.W-8）。

**5** [📱]（スマートフォンと通信）を選ぶ

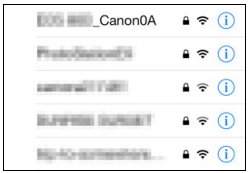



## 6 ［簡単接続］を選ぶ

- ［OK］を選んで〈(SET)〉を押すと、次の画面に進みます。

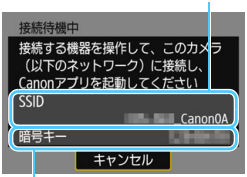
## スマートフォン側の操作-2

スマートフォンの画面例




カメラの画面

SSID（ネットワーク名）




暗号キー（パスワード）

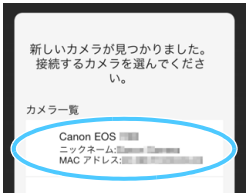
## 7 スマートフォンを操作してカメラに接続する

- スマートフォンのWi-Fi機能をONにして、カメラの液晶モニターに表示されているSSID（ネットワーク名）を選びます。
- パスワード欄には、カメラの液晶モニターに表示されている暗号キーを入力します。

［簡単接続］を選んで接続するときのSSIDは、末尾に「_Canon0A」と表示されます。

## 8 スマートフォンのCamera Connectを起動する

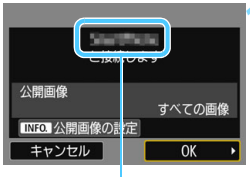
- カメラの液晶モニターに［**接続待機中**］の画面が表示されたら、スマートフォンのCamera Connectを起動します。




## 9 スマートフォンで接続するカメラを選ぶ

- Camera Connectの［**カメラ一覧**］から、接続するカメラを選んでタッチします。

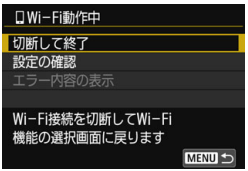
## カメラ側の操作-2




Camera Connectで設定しているデバイスの名前

### 10 カメラを接続する

- 接続すると、カメラの液晶モニターに左の画面が表示されます。
- 公開する画像を設定するときは、〈**INFO.**〉ボタンを押します。W-40ページの手順7を参照して設定してください。
- ［**OK**］を選んで〈(SET)〉を押すと、メッセージが表示されたあとに、［**Wi-Fi動作中**］画面が表示されます。




➡ スマートフォンに、Camera Connectのメイン画面が表示されます。

- 〈**MENU**〉ボタンを押すと、メニューに戻ります。

これでスマートフォンとの接続設定は完了です。

- デバイスの名前は、Camera Connectの設定画面で確認、変更できます。
- 接続中は、カメラのオートパワーオフ機能は働きません。

# スマートフォンでカメラを操作する

スマートフォンにインストールしたCamera Connectを使用して、カメラ内の画像を閲覧したり、リモート撮影などを行うことができます。

## Camera Connectのメイン画面

Camera Connectでは、主に下記の操作を行うことができます。操作方法は、Camera Connectの画面に触れながら覚えてください。

**［カメラ内の画像一覧］**

- カメラ内の画像を閲覧することができます。
- スマートフォンにカメラ内の画像を保存することができます。
- カメラ内の画像に対し、消去などの操作を行うことができます。

**［リモート撮影］**

- カメラのライブビュー映像を、スマートフォンで見ることができます。
- リモート操作で撮影することができます。

**［カメラ設定］**

- カメラの設定を変更することができます。

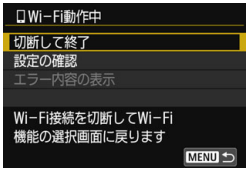
**⚙（設定ボタン）**

- Camera Connectの各種設定を行うことができます。

## 接続を終了する

接続を終了するときは、下記のいずれかの操作を行ってください。

### スマートフォンのCamera Connect画面で［((ᵂ))］をタッチする




### カメラの［Wi-Fi動作中］画面で［切断して終了］を選ぶ

- ［Wi-Fi動作中］画面が表示されていないときは、［4］タブ→［通信機能の設定］→［内蔵無線通信の設定］→［Wi-Fi機能］の順に選びます。
- ［切断して終了］を選び、確認画面で［OK］を選ぶと、接続を終了します。

- リモート撮影で動画を記録中に、無線接続が切断されたときの動作は、以下のようになります。
  - ・ライブビュー撮影／動画撮影スイッチが〈🎥〉のときは、動画撮影が継続します。
  - ・ライブビュー撮影／動画撮影スイッチが〈📷〉のときは、動画撮影が終了します。
- ライブビュー撮影／動画撮影スイッチが〈📷〉のときに、Camera Connectの操作で動画モードにしたときは、カメラを操作して撮影することはできません。
- 接続中は操作できないメニュー項目があります。
- リモート撮影では、AF速度が遅くなることがあります。
- 通信状態によっては、映像の表示が遅れたり、レリーズのタイミングが遅れることがあります。
- スマートフォンへの画像保存中は、カメラのシャッターボタンを押しても撮影できません。また、カメラの液晶モニターが消灯することがあります。
- MOV形式の動画は一覧に表示されますが、スマートフォンに保存することはできません。

- カメラの電源を〈**OFF**〉にしたときや、カードスロットカバーや電池室ふたを開けたときは、無線接続を休止します。
- RAW画像をスマートフォンに保存するときは、JPEG画像が保存されます。
- 接続中は、カメラのオートパワーオフ機能は働きません。
- 接続中は、スマートフォンの節電機能をオフにしておくことをおすすめします。

# スマートフォンへ画像を送信する

カメラを操作してスマートフォンへ画像を送信します。送信方法には以下の3つがあります。

（1）画像の再生中に、NFC機能を使用して接続する
（2）無線接続中に、カメラのメニューで［**スマートフォンへ画像を送信**］を選ぶ（p.W-32）
（3）無線接続中に、再生時のクイック設定画面から送信する（p.W-34）

## （1）NFC機能で接続

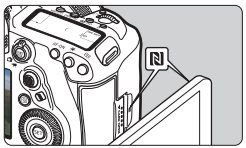
カメラで画像を再生しているときに、NFC対応のスマートフォンをカメラにタッチして送信します。

- すでに無線で接続しているときは、接続を終了してからカメラで画像を再生してください。
- あらかじめ、カメラでNFC機能が使えるように設定しておいてください（p.W-16）。
- スマートフォンのWi-Fi設定やNFC設定、NFCのアンテナの位置については、スマートフォンの使用説明書を参照してください。

**1** **カメラとスマートフォンのNFC機能を有効にする**（p.W-16）

**2** **画像を再生する**

- 〈▶〉ボタンを押して画像を再生します。



### 3 カメラにスマートフォンをタッチする

- カメラとスマートフォンの N マーク同士が接するようにタッチします。
- スマートフォンにCamera Connectのダウンロードサイトが表示されたときは、Camera Connectをインストールしてください（p.W-18）。
- カメラの液晶モニターに接続中を表すメッセージが表示されたら、スマートフォンを離してください。

### 4 送信する画像を選ぶ

➡ 画像を選んで送信します。送信方法はW-35ページを参照してください。

- 手順2でインデックス表示にしているときは、複数画像の選択画面が表示されます。W-36ページの手順3を参照してください。

## （2）［スマートフォンへ画像を送信］を選ぶ

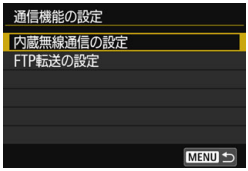
スマートフォンと無線接続中に、［**スマートフォンへ画像を送信**］を選んで送信します。

### 1 カメラとスマートフォンを無線で接続する

- 接続方法はW-19ページを参照してください。

### 2 ［通信機能の設定］を選ぶ

- ［4］タブの［**通信機能の設定**］を選び、〈SET〉を押します。




## 3 ［内蔵無線通信の設定］を選ぶ

## 4 ［スマートフォンへ画像を送信］を選ぶ

- ［**内蔵無線通信の設定**］画面で［**スマートフォンへ画像を送信**］を選び、〈(SET)〉を押します。

## 5 送信する画像を選ぶ

➡ 画像を選んで送信します。送信方法は W-35ページを参照してください。

## （3）再生時のクイック設定

スマートフォンと無線接続中に、再生時のクイック設定画面から画像を送信します。

**1 カメラとスマートフォンを無線で接続する**

- 接続方法はW-19ページを参照してください。

**2 画像を再生して〈Q〉ボタンを押す**

**3 [📱] を選ぶ**

**4 送信する画像を選ぶ**

➡ 画像を選んで送信します。送信方法はW-35ページを参照してください。

## 1枚ずつ送信する場合

画像を選んで1枚ずつ送信します。

### 1 送信する画像を選ぶ

- 〈◯〉を回して送信する画像を選び、〈(SET)〉を押します。
- 〈Q〉ボタンを押して〈☞〉を左に回していくと、インデックス表示にして選ぶことができます。

### 2 [この画像を送信] を選ぶ

- [**画像サイズ縮小**] を選んで〈(SET)〉を押すと、送信する画像サイズを選択できます。
- [**この画像を送信**] を選んで〈(SET)〉を押すと、表示している画像が送信されます。
- ➡ 送信が終了すると手順1の画面に戻ります。
- 続けて送信するときは、手順1、2を繰り返します。

## 複数の画像を送信する場合

複数の画像を選んで一度に送信します。

複数画像の選択画面が表示されているときは、手順3から操作してください。

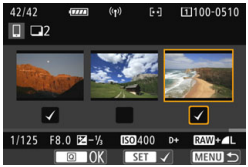
### 1 〈(SET)〉を押す

### 2 [選んで送信] を選ぶ

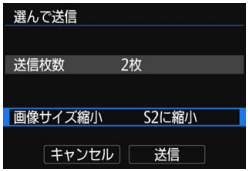
- [**画像サイズ縮小**] を選んで〈(SET)〉を押すと、送信する画像サイズを選択できます。

## 3 送信する画像を選ぶ

- 〈◎〉を回して送信する画像を選び、[✓]を付けます。〈(SET)〉を押すと、[✓]のオン／オフが交互に切り換わります。

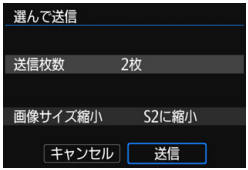



- 〈Q〉ボタンを押して〈◎〉を左に回していくと、3画像表示にして選ぶことができます。
- 送信する画像の選択が終わったら、〈Q〉ボタンを押します。




## 4 [画像サイズ縮小] を選ぶ

- 必要に応じて設定します。
- 表示される画面で画像サイズを選び、〈(SET)〉を押します。

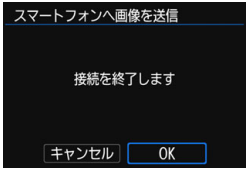



## 5 [送信] を選ぶ

➡ 選んだ画像が送信されます。送信が終了すると手順1の画面に戻ります。

- 続けて送信するときは、手順1～5を繰り返します。

## 画像の送信を終了する




画像の送信を終了するときは、画像の送信画面で〈MENU〉ボタンを押します。

- 画像の再生中に、NFC機能で接続したときは、接続の終了画面が表示されます。［OK］を選ぶと、接続を終了します。
- メニューやクイック設定から送信したときは、元の画面に戻ります。接続は終了しません。

- **必要に応じて、『NFC機能全般の注意事項』（p.W-17）もお読みください。**
- 画像送信の操作中は、カメラのシャッターボタンを押しても撮影できません。
- 他の機器と無線接続中は、NFC 機能を使用して画像を送信することができません。また、一度に複数のスマートフォンと接続することもできません。
- MOV形式の動画は一覧に表示されますが、スマートフォンに保存することはできません。

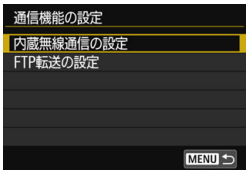
- 画像の送信中に［**キャンセル**］を選ぶと、送信をキャンセルすることができます。
- 一度に50ファイルまで選択できます。
- 接続中は、スマートフォンの節電機能をオフにしておくことをおすすめします。
- NFC機能を使用した画像送信の設定は、カメラに保存されません。
- 画像を縮小するときは、同時に送信する画像がすべて縮小されます。なお、動画や**S2**サイズよりも小さい静止画は縮小されません。
- カメラの電源に電池を使用するときは、フル充電してから使用してください。
- 接続中は、カメラのオートパワーオフ機能は働きません。

# 公開する画像を設定する

カメラ側の操作で、スマートフォンに公開する画像を設定することができます。**接続設定中、または接続を終了してから設定します。**

## 1 ［通信機能の設定］を選ぶ

- ［4］タブの［**通信機能の設定**］を選び、〈(SET)〉を押します。




## 2 ［内蔵無線通信の設定］を選ぶ

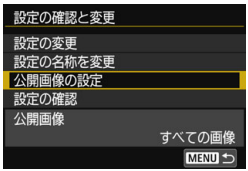
## 3 ［Wi-Fi機能］を選ぶ

- ［**Wi-Fi/NFC**］を［**使う**］に設定したあとで、［**Wi-Fi機能**］を選びます（p.W-12）。

## 4 [□] を選ぶ

- [□Wi-Fi動作中] 画面が表示されたときは、[切断して終了] を選びます。

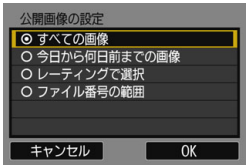
## 5 [設定の確認と変更] を選ぶ




## 6 [公開画像の設定] を選ぶ

[**公開画像の設定**] で [**すべての画像**] 以外を設定しているときは、リモート撮影はできません。

再接続するときは、接続する前に公開画像の設定を確認してください。



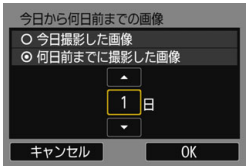

## 7 項目を選ぶ

- [OK] を選んで〈(SET)〉を押すと、設定画面が表示されます。

**[すべての画像]**

カード内のすべての画像を公開します。

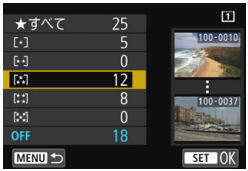
**[今日から何日前までの画像]**




撮影日で公開する画像を指定します。最大で9日前までの画像を指定できます。

- 項目を選び、〈(SET)〉を押します。
- [**何日前までに撮影した画像**] のときは、今日から何日前までに撮影した画像を公開するかを指定します。日数が〈☝〉の状態で〈◯〉を回して日数を指定し、〈(SET)〉を押して確定します。
- [OK] を選んで〈(SET)〉を押すと、公開する画像が設定されます。

**[レーティングで選択]**




レーティングを付加した画像（または付加していない画像）やレーティングの種類で公開する画像を指定します。

- レーティングの種類を選んで〈(SET)〉を押すと、公開する画像が設定されます。

**[ファイル番号の範囲]**（範囲で指定）

ファイル番号順に並んだ画像の開始と終了の画像を選んで、公開する画像を指定します。

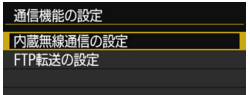
1 〈◎〉または〈✣〉を操作してファイルの始点を選びます。
2 〈(SET)〉を押して、画像の選択画面を表示します。
〈◎〉を回して画像を選びます。
〈Q〉ボタンを押して〈▭〉を左に回していくと、インデックス表示にして選ぶことができます。
3 画像を選び、〈(SET)〉を押して決定します。
4 同様の操作で、ファイルの終点を設定します。
始点に選んだ画像よりも、あとに撮影した画像を選びます。
5 始点と終点の設定が終わったら［OK］を選び、〈(SET)〉を押します。

# 再接続する

接続設定を登録したWi-Fi機能に再度接続します。

## 1 [通信機能の設定] を選ぶ

- [4] タブの [**通信機能の設定**] を選び〈(SET)〉を押します。




## 2 [内蔵無線通信の設定] を選ぶ

## 3 [Wi-Fi機能] を選ぶ

- [**Wi-Fi/NFC**] を [**使う**] に設定したあとで、[**Wi-Fi機能**] を選びます（p.W-12）。

## 4 接続するWi-Fi機能を選ぶ

- 〈◯〉または〈⁂〉を操作して項目を選び、〈(SET)〉を押します。
- [🌐] を選んだときはWebサービスの選択画面が表示されます。また、選んだWebサービスによっては、[**送信先**] 画面が表示されます。接続するWebサービスと送信先を選びます。

## 5 [接続] を選ぶ

- 接続先の設定が複数登録されているときは、[**設定の選択**] を選び、接続先を選んでから接続します。
- 確認画面で [**OK**] を選びます。

# 3

# コネクトステーションと簡単接続

コネクトステーション（別売）は、撮影した静止画や動画を取り込んで、テレビやスマートフォンなどでの閲覧や、ネットワークを利用した静止画や動画の共有などを行う機器です。

このカメラをコネクトステーションにかざすと、コネクトステーションへ簡単に静止画や動画を保存することができます。

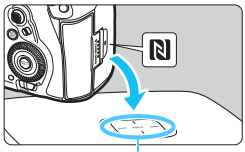
# 画像を保存する

ここでは、カメラとコネクトステーション（別売）を無線で接続する方法を説明します。そのほかの方法で画像を保存するときは、コネクトステーションの使用説明書を参照してください。

- あらかじめ、カメラでNFC機能が使えるように設定しておいてください（p.W-16）。

## 1 カメラのNFC 機能を有効にする

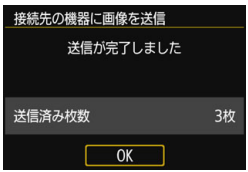
（p.W-16）



NFC接続ポイント

## 2 カメラをコネクトステーションにかざす

- カメラとコネクトステーションの電源を入れ、カメラのNマークをコネクトステーションのNFC接続ポイントにかざします。
- ➡ カメラの液晶モニターに接続中を表すメッセージが表示され、コネクトステーションが応答したら、カメラをコネクトステーションから離してください。
- 接続すると、コネクトステーションがカード内の画像を確認し、保存されていない画像だけを保存します。




## 3 接続を終了する

- 画像の保存が終了すると、カメラの液晶モニターに左の画面が表示されます。〈SET〉を押して接続を終了します。

- **必要に応じて、『NFC機能全般の注意事項』（p.W-17）もお読みください。**
- 画像の保存中は、カメラのシャッターボタンを押しても撮影できません。
- コネクトステーションの上にカメラを落としたり、カメラを強く当てたりしないでください。コネクトステーションの内蔵ハードディスクが損傷する恐れがあります。
- カメラが認識されにくいことがありますので、位置をずらしたり、水平方向に回転させるなどして、ゆっくりかざしてください。
- カメラをかざしても接続できないときは、軽く触れてください。
- かざすときは、カメラとコネクトステーションの間にものを置かないでください。また、カメラにケースなどをつけていると、NFC機能で接続できないことがあります。
- 画像の保存中に、カメラとコネクトステーションの距離が離れすぎると、保存に時間がかかったり、接続が終了することがあります。
- 画像の保存中にカメラが電池切れになったときは、保存を中止します。充電してから、もう一度操作を行ってください。
- 4K動画はコネクトステーションで再生できません。

- すべての画像が保存済みのときは、保存は行いません。そのときは、［OK］を選んで接続を終了してください。
- カード内の画像が多いときは、画像の確認や保存に時間がかかることがあります。
- 画像の保存中は、カメラのオートパワーオフ機能は働きません。

# 無線LAN（Wi-Fi）について

**■ 無線LANが使える国や地域について**

無線LAN機能の使用は、国や地域ごとの法令等により規制されていることがあるため、違反すると罰せられることがあります。そのため、無線LAN機能が使用できる国や地域については、キヤノンのWebサイトで確認してください。

なお、それ以外の国や地域で無線LAN機能を使用した際のトラブル等については、弊社は一切責任を負いかねます。

**■ モデルナンバー**

EOS 5D Mark IV (WG)：DS126601（無線モジュールモデル：ES200）

- 次の事項を行うと、法律で罰せられることがあります。「本製品を分解、改造すること」、「本製品上の証明ラベルをはがすこと」。
- 医療用の装置や、電子機器の近くで本製品を使用しないでください。医療用の装置や、電子機器の動作に影響を及ぼす恐れがあります。
- EOS 5D Mark IV (WG)には、電波法に基づく認証を受けた無線装置が内蔵されており、証明ラベルは無線設備に添付されています。

**■ 電波干渉に関するご注意**

この機器の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）、および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）並びにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

① この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局、および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認して下さい。

② 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するか、または電波の発射を停止した上、お客様相談センターにご連絡いただき、混信回避のための処置等（例えば、パーティションの設置など）についてご相談下さい。

③ その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局、あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、お客様相談センターへお問い合わせ下さい。

この表示は、2.4GHz帯を使用している無線機器であることを意味します。

- 本製品は、他の電波を発する機器から、電波干渉を受ける場合があります。これらの機器からできるだけ遠く離すか、ご利用時間を分けるなどして、電波干渉を避けて使用してください。

## 商標について

- Microsoft、Windowsは、Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Macintosh、Mac OSは、米国およびその他の国で登録されているApple Inc.の商標です。
- Wi-Fi CERTIFIEDロゴおよびWi-Fi Protected SetupマークはWi-Fi Allianceの商標です。
- カメラの設定画面と本書内で使用されている「WPS」は、Wi-Fi Protected Setupを意味しています。
- UPnPは、UPnP Implementers Corporationの商標です。
- N-Markは米国およびその他の国におけるNFC Forum, Inc.の商標または登録商標です。
- おサイフケータイは株式会社NTTドコモの登録商標です。
- その他の社名、商品名などは、各社の商標または登録商標です。

# 索　引


## 英数字

Android ..... W-18
Camera Connect ..... W-18, W-28
Eye-Fiカード ..... W-14
iOS ..... W-18
NFC ..... W-16, W-20, W-21, W-44
　画像送信 ..... W-31

## か

画像閲覧 ..... W-28
画像サイズを縮小 ..... W-36
画像を送信 ..... W-31
キーボード ..... W-10
クイック設定 ..... W-34
ケーブル ..... W-14
公開画像の設定 ..... W-39
コネクトステーション ..... W-43

## さ

再接続 ..... W-42
スマートフォンと通信 ..... W-19

## た

タッチ操作 ..... W-11

## な

ニックネーム ..... W-8

## ら

リモート操作 ..... W-28

キヤノン株式会社
キヤノンマーケティングジャパン株式会社
〒 108-8011 東京都港区港南 2-16-6

## 製品情報や取り扱い方法に関するご相談窓口

製品に関する情報や、よくあるお問い合わせなどのサポート情報を掲載しています。
インターネットをご利用の方は、お気軽にお立ち寄りください。

**EOSホームページ：canon.jp/eos**
**EOS・サポートナビ：canon.jp/eos-navi**

電話でのお問い合わせは、以下へお願いします。

お客様相談センター（全国共通番号）
050-555-90002

受付時間：9：00 ～ 18：00
（1 月1 日～ 1 月3 日は休ませていただきます）

※ おかけ間違いのないようにご注意ください。
※ 上記番号をご利用いただけない方は、043-211-9556 をご利用ください。
※ IP 電話をご利用の場合、プロバイダーのサービスによりつながらない場合があります。
※ 受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

## 修理受付窓口

別紙の弊社修理お問合せ専用窓口にお問い合わせください。

本書の記載内容は2018年2月現在のものです。それ以降に発売された製品との組み合わせにつきましては、上記のお客様相談センターにお問い合わせください。なお、最新の使用説明書については、キヤノンのホームページをご覧ください。

Li-ion リチウムイオン電池のリサイクルにご協力ください。

CPH-J326-001
© CANON INC. 2018